滿洲產業調查資料

（林　業）

廣袤三十六萬方哩群山東ニ聳ヘ遼水西ニ流レ曠漠タル原野其間ニ横ハリ農産ニ礦物ニ滿洲ノ富源ハ由來無盡藏ト稱ス然レトモ地東亞ノ一隅ニ僻在シ氣候寒烈交通開ケス時ニ或ハ草賊出沒スルアルヲ以テ其眞相久シク世人視聽ノ外ニ逸シ偶觀光ノ客アルモ遂ニ能ク其目的ヲ達スル者罕ナリ今ヤ國際貿易ノ發達ハ漸ク曙光ヲ東亞ノ一天ニ放チ復タ滿洲ヲシテ昔日ノ狀態ニ在ルヲ容サザルニ至レリ

明治三十八年九月日露ノ媾和將ニ成ラントスルヤ以爲ラク我駐屯軍隊ノ未タ撤退セサルニ當リ滿洲富源ヲ調查シ戰後列國ト相駢ヒテ其富源ヲ開發シ以テ貿易ノ增進ヲ圖ルト共ニ滿洲千有餘萬ノ蒼生ヲシテ文明ノ福音ニ接セシムルノ資ニ充ツルハ最モ時宜ニ適スルモノナリト此ニ於テ案ヲ具シテ上司ニ請フ所アリ滿洲產業調查會ヲ組織シ不肖之カ委員長トナリ委員及補助委員トシテ當署員各省官吏及適當ノ實業家ヲ指名シ更ニ滿洲軍ヨリ通譯ノ配屬ヲ請ヒ左ノ如ク班ヲ分チ區ヲ劃シ十月乃至十二月ノ三ケ月ニ於テ盛京全省北淸ノ一部

及蒙古ノ一部ニ渉ル調査ヲ決行スルコトトセリ

農　業　班

甲　班（農業一班　奉天、鐵嶺、昌圖、通江口、新民屯方面）

乙　班（同　遼東半島及營口、新民屯、錦州方面）

丙　班（同　撫順以東、鴨綠江ニ至ル一帶及山城子、安東縣、大孤山方面）

丁　班（同　法庫門、康平、新民屯、廣甯、義州、錦州、山海關、昌黎方面）

戊　班（畜産　昌圖、法庫門、康平、博王府、賓國王府、新民屯、彰武縣、小康倫、錦州方面）

己　班（蠶業　遼陽、鳳凰城、安東縣、寬甸、岫巖、盖平、營口及天津、芝罘方面）

別　班（畜産　遼東半島、遼陽、奉天、新民屯、山海關、天津、北京、保定、芝罘方面）

釀造班　牛莊、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、昌圖、新民屯、營口、盖平方面

林　業　班

甲　班（奉天方面）

乙　班（遼陽方面）

丙　班（鳳凰城方面）

丁　班（懷仁方面）

商　工　班

甲　班（商業一般　鐵道沿線各地及通江口、法庫門、新民屯、營口方面）

乙　班（染織商工業　安東縣、奉天、鐵嶺、遼陽、營口方面）

丙　班（工業一般　鐵道沿線各地及通江口、法庫門、新民屯、營口方面）

丁　班（運輸交通　遼河沿岸及奉天、鐵嶺、開原、通江口、秦皇島、營口方面）

別　班（滿蒙貿易　蒙古ノ一部）

水　産　班（滿州沿海ノ一帶及奉天、鐵嶺方面）

鑛山班

甲班（興京方面）
乙班（奉天方面）
丙班（懷仁方面）
丁班（通化方面）
戊班（遼西方面）

此擧ヤ素ヨリ各般ノ事項力メテ其正鵠ヲ得ルヲ以テ主眼トシ殊ニ滿洲ノ通商貿易殖產興業ニ從ハントト欲スル者ニ對シ的確ナル筌蹄ヲ留メンコトヲ期シタリト雖モ其實行ニ方リテヤ幾多ノ障碍ニ遭遇シ事志ト違フモノ誠ニ鮮シトセス亦タ已ムヲ得サルノ事情ニ屬ス

顧フニ盛京ノ一省廣袤尙ホ約六萬方哩更ニ北淸ノ一部ト蒙古ノ一部トヲ包括スル本調査ノ區域ハ蓋シ十萬方哩ニ近キモノアラン凡ソ農商工業ヨリ礦山交

通山林水産釀造等ニ關スル諸調査ハ少クトモ一年ヲ通シテ各季特殊ノ狀勢ヲ査察スルニアラサレハ其眞相ヲ穿ツコト難シ況ンヤ僅僅三ケ月ノ日子ヲ以テ此廣大茫漠タル地域ヲ跋涉踏査セントスルニ於テオヤ各班ノ諸員克ク勉メ克ク勵ミ日ヲ節シ時ヲ約シ程ヲ兼ネテ査察ニ加ヘ努力遺ス所ナシト雖モ尙ホ且一地ノ滯留長キモ旬日ヲ出ツル能ハス調査ノ困難ニシテ事項ノ錯雜ナル調査諸員ノ苦心多勞深ク諒トスヘキ者アリ

調査ハ日露媾和條約發表ノ前ニ於テ始メ我撤兵行動ノ央ニ在リテ終ヲ告ケタリ唯タ戰役ノ餘響ハ多大ノ變動ヲ與ヘ滿洲百般ノ事情ハ當時尙ホ戰時ノ狀態ニ在リ調査上至緊ノ事項タル商況交通勞銀物價等一モ其常態ヲ存スル者ナシ此時ニ當リ平時ノ情況ヲ查シ以テ戰後ノ變遷ニ應セントスル蓋シ容易ノ業ニアラサルナリ

夫レ晚秋初冬ヨリシテ而シテ後ハ滿洲旅行ノ最好季節ナリ然レトモ農耕採鹽水運搾油釀酒等產業ノ多クハ已ニ一年ノ操業ヲ終ヘ林地礦床悉ク堅氷嚴雪ノ

鎖スル所ト爲リ探險掘鑿殊ニ其不便ヲ極ム蓋シ調査ノ目的ヨリシテ而シテ之ヲ言ヘハ此時季ハ寧ロ最モ不適當ナリシヲ思ハスンハアラス
淸國ノ事情ヲ究メント欲スル者其最モ困難ヲ感スルハ參考ニ資スヘキ書類ノ不備ト統計ノ缺乏トニ在リ風化文物ノ度遠ク南淸ニ及ハサル滿洲ニ在テハ殊ニ然リトナス加之淸人ノ習性タル談シテ詳ナラス語テ眞ナラス殊ニ算數ノ迂遠空漠ナル屢屢人ヲシテ捕風捉影ノ感アラシム其說ク所往往一事兩言彼此相違最モ信ヲ措キ難シ習俗ノ同シカラサル言語ノ通セサル僅ニ通譯ヲ介シテ這等複雜ノ事項ヲ探明セント欲ス素ヨリ已ニ一大難事ニ屬ス況且前述ノ諸因ハ互ニ相聯關シテ益此擧ヲ困難ナラシメ各員ノ勵精ト努力トヲ以テスト雖モ其獲ル所ハ實ニ所期ノ十分一ニ充タス遺憾タル誠ニ尠トセス
故ヲ以テ本書載スル所固ヨリ多少ノ遺漏ナキヲ免レサルモノアルヘシト雖モ今之ヲ他日ノ增補訂正ニ俟チ集メテ以テ卷ト做シ以テ脚下ノ急需ニ應セント欲ス且ツ各班ノ歸期一ナラス互ニ相獨立シテ編輯ニ從事シタルヲ以テ廣袤里

程戸口等各班往往其記スル所ヲ異ニシ商況金融等ノ事項亦タ其觀察ヲ同ウセサルモノアリト雖モ今悉ク之ヲ起稿者ノ見ニ任セ敢テ訂正統一ヲ試ミス編纂ノ體裁自カラ失當ノ點多カルヘキハ茲ニ深ク大方ニ謝スル所ナリ唯タ從來ノ調査ニ比スレハ聊其撰ヲ異ニスルモノアリ此次事業ノ果シテ徒勞タラサリシハ敢テ信シテ疑ハサル所ナリ

又今回ノ目的ハ汎ク專門家及實業家ヲシテ其研究ヲ盡サシメント欲スルニ在リ故ヲ以テ如上ノ調査ヲ遂行スルノ傍我實業家ニシテ視察ヲ希望スル者ニ對シテハ特ニ便宜ヲ與フルノ方針ヲ執リ已ニ若干ノ當業者ハ其希望スル所ニ任セ之ヲ各班中ニ配屬セシメタリ其他尙ホ陸軍農商務兩省ニ托スルニ各府縣ニ於ケル適當ナル實業者ノ推薦ヲ以テシ其數全國ヲ通シテ無慮一千餘名ノ多キニ上レリ憾ムラクハ當時在滿ノ各軍ハ正ニ撤兵行動ヲ開始シ各地兵站司令部モ亦到底如此多數ニ對シ十分ナル便宜ヲ與フルノ餘地ヲ有セス且ツ季節漸ク嚴冬ニ入リ調査ノ困難益少カラサルヘキヲ思惟シ其志望者中特殊ノ事情ア

ル者ヲ除クノ外翌春融氷ノ期ヲ俟チ更ニ法ヲ講スルコトトセリ今ヤ此等ノ實業家ニシテ滿洲ニ來游スル者旁午踵ヲ接ス顧フニ其賫ス所亦タ必ス見ルヘキモノアラン

茲ニ調査報告ノ上梓ニ臨ミ聊本調査ノ因由情態ヲ叙シ以テ卷端ニ誌スト云爾

明治三十九年　　月　　日

關東洲民政署民政長官　石　塚　英　藏

滿洲產業調查資料（林業）（第一班）

林務官補　長義連
營林技師兼林務官　中牟田五郎


奉天
開原
昌圖
鐵嶺
新民府
法庫門
彰武台門
老爺嶺
英額門
山城子
沙河
梅河
興京
新兵堡

滿洲產業調查資料（林業）（第一班）

目次

凡例

本復命書ヲ劉覽セラルルニ當テハ左ノ諸點ニ注意アランコトヲ希望ス

（一）尺度　清國尺度ハ其地方其種類ニ依テ長短一定セス數樣ノモノアルコトハ普ク知悉セラルル所ナルカ本書ニ於テハ左ノ如ク用ヒタリ

清尺一尺ハ我曲尺一尺〇三分五厘

（二）材積　（イ）材積一方寸、一百寸又ハ一千寸ト稱スルハ長サ八尺ニシテ面一寸平方ノモノ夫夫一、百又ハ一千ヲ云フモノナリ之ヲ我曲尺ニ改算シテ現ハストキハ

一百寸ハ我カ八立方尺八七

（ロ）料ヲ以テ現ハスニ一料ヲ六十寸又ハ七十寸トスルコトアリ

一料六十寸ノ場合　我五立方尺三二

一料七十寸ノ場合　我六立方尺二一

（三）貨幣　價格ヲ現ハスニ兩、弗、元、圓等ノ稱アリ且ツ清國通貨ハ日日其相場ヲ異ニスルノミナラス地方ニヨリテ價ヲ異ニス今本書ニ揭クル價格ノ如キ年度及地方ニヨリテ左ノ如ク差異アルヲ見ル

（イ）年　度

明治三十五年頃

一　兩　　邦貨金一圓十五錢四厘三毛

一　弗　　邦貨金八十四錢

一　兩　　一弗三十六仙

明治三十六七年頃

一　兩　　邦貨金一圓二十七錢九厘二毛

一　弗　　邦貨金九十一錢三厘二毛

一　兩　　一弗四十仙

明治三十八年十二月頃

軍用手票ノ關係ノミナラス世界ノ銀相場騰貴セル爲メ

同　十二月二十日頃

一　兩　　邦貨金一圓五十七錢

一　弗　　邦貨金一圓〇四錢七厘

同　十二月三十一日頃

一両　邦貨金一圓五十五錢
一弗　邦貨金一圓〇三錢一厘
明治三十九年一月頃
一両　邦貨金一圓五十錢
一弗　邦貨金一圓〇〇一厘
一両　一弗五十仙
僅カノ日子間ニ其高低此ノ如シ然レトモ是レ稀有ノコトナルカ故ニ平年ノ價格ト見ルヘカラス大概平均價格一両ハ我一圓三十五錢乃至一圓四十錢ナルカ如シ

(ロ)地方

奉天
一元ハ七吊二百文　一吊ハ銀十三錢九厘

開原
一元ハ七吊二百文　一吊ハ銀十三錢九厘

昌圖
一元ハ七吊四百文　一吊ハ銀十三錢五厘

通江口

一元ハ七吊二百文（邊內）、七吊四百文（邊外）

一吊ハ銀十三錢九厘乃至十三錢五厘

法庫門

一元ハ六吊六百文　一吊ハ銀十五錢一厘

新賓堡

一元ハ八吊六百文　一吊ハ銀十一錢七厘

永　陵

一元ハ十吊　一吊ハ銀十錢

撫　順

一元ハ七吊　一吊ハ銀十四錢三厘

孤家子

一元ハ八吊　一吊ハ銀十二錢五厘

（四）海關兩

海關兩ト市中兩トノ價ヲ異ニセリ

天　津

一海關兩ハ市中兩ノ一兩〇六五

營口

一海關兩ハ市中兩ノ一兩〇八五

滿洲產業調査資料（林業）（第一班）

第一章　行程

明治三十八年七月二十四日小官等滿洲利源調査ノ爲メ關東州民政署附兼勤ヲ命セラレ同十月四日東京出發同九日大連ニ上陸シ諸般協議ノ結果當班ノ調査區域ヲ左ノ如ク定メタリ

南、奉天　北、昌圖　東、興京　西、新民府

蓋シ滿洲ニ於ケル大森林ハ鴨綠江上流、松花流域及ヒ吉林方面ニアルヲ以テ主トシテ力ヲ此等ノ方面ニ致サンコトヲ欲シタリシモ當時休戰條約上彼我軍人軍屬各其境ヲ踰ユル能ハサリシハ今回調査上ニ於テ大ニ遺憾トスル所ナリ今旅行ノ大要ヲ述フルトキハ九月十四日大連出發翌十五日奉天ニ到着滿洲軍總司令部ニ就キテ我軍隊及兵站線ノ配置ヲ聽取シ他班トノ打合セヲ了ヘ陸軍通譯野崎福太郎民政署雇員福島元太郎ヲ伴ヒ同十九日奉天出發同夜鐵嶺ニ到着是レヨリ東北方馬家塞、馬蘭火洛、沙寧堡ヲ經テ八棵樹ニ出ツ時ニ鴨綠江軍ノ兵站線漸次撤退セントスルノ報ニ接シタルヲ以テ急ニ我軍ノ最前線ナル新邊、孤家子、大金廠ヲ經テ八家子兵站司令部ニ投セリ此間兵站線ヲ缺キ加フルニ馬賊出沒セルカ爲メ第十二師團參謀部ヨリ兵十五名ヲ藉リテ護衛ニ充テタルモ幸ニ無事ナルヲ得タリ十一月五日輕便鐵道ニヨリテ英額城ニ赴キ其附近ヲ調査即夜八家子ニ戻リ次ニ二道河子、官木山、王家大堡ヲ經テ永陵

ニ至リ更ニ興京ニ進ミ西行シテ木齋、尙家河、營盤ヲ通過シテ撫順ニ至リ炭坑ヲ視察シ後再ヒ奉天ニ還レリ時ニ十一月二十三日ナリ既ニ森林地ノ踏査ヲ了ヘタルヲ以テ是ヨリ木材商况及地形視察ノ爲メ開原、昌圖、通江口、法庫門等ノ遼河流域ニ沿ヒテ新民府ニ至リシニ御用有之淸國北京及天津ヘ出張命セラル因テ十二月二十日新民府出發山海關ヲ經テ天津北京ニ入リ具ニ內外ノ商况ヲ視察シ營口ヲ經テ明治三十九年一月十九日大連ニ歸着後中牟田技師ハ東淸鐵道沿線造林計畫ノ爲メ長林務官補ハ遼東半島造林計畫、苗圃設計ノ爲メ夫夫遼陽及旅順ニ出張シ同二月一日歸朝ノ命ヲ受ケ四日大連出發十二日歸京セリ

第二章　林　况

當班調査區域內ニ於ケル森林ノ狀況ハ頗ル單簡ニシテ多クハ無立木地ニアラサレハ則チ其樹種數個ニ限レル濶葉樹林ナリトス而シテ別紙森林位置圖ニ示スカ如ク其森林ノ大部ハ東淸鐵道ヨリ平均十里以東ニ存在シ是レヨリ以西ニ至リテハ間間人家、路傍、墓地及廟陵ニ在ルノミニシテ擧クルニ足ルヘキモノナシ唯奉天ノ北陵及東陵(一名福陵)ノ森林ハ、平地林、丘陵林、ニ於ケル松陵樹生長ノ比較參考ノ資トナルヘキヲ以テ後ニ少シク說ク所アルヘシ其他ノ狀況ヲ其所在ニ就キテ述ヘンニ

一　馬蘭火洛附近

區　　　域　馬家塞ヨリ馬蘭火洛ヲ經テ沙寧堡ニ至ル附近一帶
樹種及部合　「カシハ」五分、「ニレ」三分、「ヤナギ」類其他二分
面積及現在材積　約五千町歩　約八萬尺〆
林　　　況　此附近森林ノ多クハ林齡二三十年生ナル所ノ「カシハ」及「ニレ」ノ混淆林ニシテ往往「カシハ」ノ純林ヲ見ル而シテ萌芽後一二年ナル檞林少ナカラス秋季其葉紅色トナリ恰モ我カ内地ノ紅葉ノ如キ美觀ヲ呈セルモノハ主トシテ檞ノ幼林ナリトス「ヤナギ」類ハ主ニ平地ニアリテ盛ニ生長セリ聞ク所ニ依レハ此地都會（鐵嶺ノ如キ）ヲ去ル遠カラサルモ日露戰役前ニアリテハ欝蒼タル森林ニ乏シカラサリシト云フ其伐痕新タナルモノ多キヨリ見レハ信ナルカ如シ

二　下肥地附近

區　　　域　老爺嶺下肥地ヨリ張塞子ニ至ル附近一帶
樹種及部合　「カシハ」二分、「ニレ」三分、「白楊」二分、「櫟」及「ヤナギ」類其他三分
面積及現在材積　約一萬町歩　約二十萬尺〆
林　　　況　森林ノ大ナルモノハ老爺嶺ニアリ此處「ニレ」「カシハ」ノ三四十年乃至五六

十年生以上ノモノ多ク土民之ヲ建築用ニ供ス其地ニ於テハ所所ニ散在セルニ過キス然レトモ萠芽セル幼林ニシテ成立ノ見込アルモノ少ナカラス

三　大金廠附近

區　　域　新邊、孤家子ヨリ大金廠ヲ經テ大林子ニ至ル附近一帶

樹種及部合　「白楊」四分、「カシハ」、「ナラ」類四分、「ニレ」其他二分

面積及現在材積　約二萬五千町步　約百萬尺〆

林　　況　此地方頗ル森林ニ富ミ彼我軍隊ノ斧ヲ入レシモノアルモ一見其跡ヲ發見スルニ苦ム程ナリ特ニ記スヘキハ白楊ノ純林多ク大金廠、大林子間ニハ約二百町步材積約十二萬尺〆ノ一團林アリテ附近ニアル槲ノ純林ト相並ンテ頗ル美觀ヲ呈セルコト是ナリ蓋シ地勢漸ク嶮峻、道路坂多クシテ運搬不便ナルト日露軍ノ永ク駐屯セサリシトハ此美林ヲ保チシ原因ナリト信ス

四　英額城附近

區　　域　八家子ヨリ英額城、南山城子ニ至ル附近一帶

樹種及部合　「槲」、「ナラ」、「白楊」各二分、松類其他二分

面積及現在材積　約一萬町步　約二十萬尺〆

林　況　八家子ヨリ英額城ニ至ル三里、架スルニ輕便鐵道ヲ以テス此間森林頗ル少ナシ英額邊門ニ至ルニ及ンテハ附近森林ニ富ミ他ニ罕ニ見ル所ノ赤松ノ岩ヲ飾レルヲ見ル英額城ノ東北方三道背嶺ヨリ南山城子ニ至ル線ヨリ以北、年魚嶺。分水嶺ニハ「ナラ」類「槲」及「白楊」林其直徑八九寸乃至一尺一二寸高サ七八間ニ餘レルモノ互ニ其勢ヲ競ヘリ此地方ノ土民ハ東南ノ陽光ヲ受クル多キ土地ハ山頂迄之ヲ耕シ他ノ部分ハ自然森林ノ成立スルニ委スルカ如シ

五　官木山、王家大堡附近

區　域　八家子二道河子ヨリ官木山王家大堡ヲ經テ永陵ニ至ル附近一帶

樹種及部合　「ナラ」、「クヌギ」四分、「槲」三分、「白楊」、「ニレ」、「ヤナギ」類三分、「シホジ」、「サハシバ」、「クルミ」類、「朝鮮五鬚松」一分

面積及現在材積　約五千町歩　約十五萬尺〆

林　況　八家子附近ハ人口稠密ナル都會、村落比較的多キカ為メ森林ノ伐盡サレシモノ多シ八家子ヨリ二道河子ニ至ルニ屈曲十數回セル渾河ヲ横リテ進ム間、河ノ右岸ニハ「ナラ」、「クヌギ」、「カシハ」ノ森林繁茂シ林齡平均二三

十年ニ達スルヲ見ル其他各處ニ散在シテ園林ヲナス王家大堡ニ於テ朝鮮五鬚松約十五町歩、林齡八十年乃至百年、此材積約一萬五千尺〆ヲ見タルハ頗ル珍トスル所ナリ

六 永陵、營盤附近

區　域　永陵ヨリ木齋、尙家河ヲ經テ營盤ニ至ル附近一帶

樹種及部合　「ニレ」四分、「カシハ」三分、「白楊」其他「ヤナギ」類二分、「クヌギ」一分

面積及現在材積　約八千町歩　約十八萬尺〆

林　況　此區域ニ於テ主ナル森林ハ永陵、木齋間ノ道ノ左右ニ存在スル所謂龍崗封禁ナルモノ是ナリ面積約五百町歩「ニレ」、「カシハ」、「クヌギ」ヲ主トシ十萬尺〆ヲ算シ得ヘシ平均林齡四五十年乃至七八十年平均直徑一尺高サ平均十間ニ至ル他ハ特ニ記スルニ足ルヘキモノナシ

因是概括スルニ森林面積約六萬三千町歩材積約百九十萬尺〆

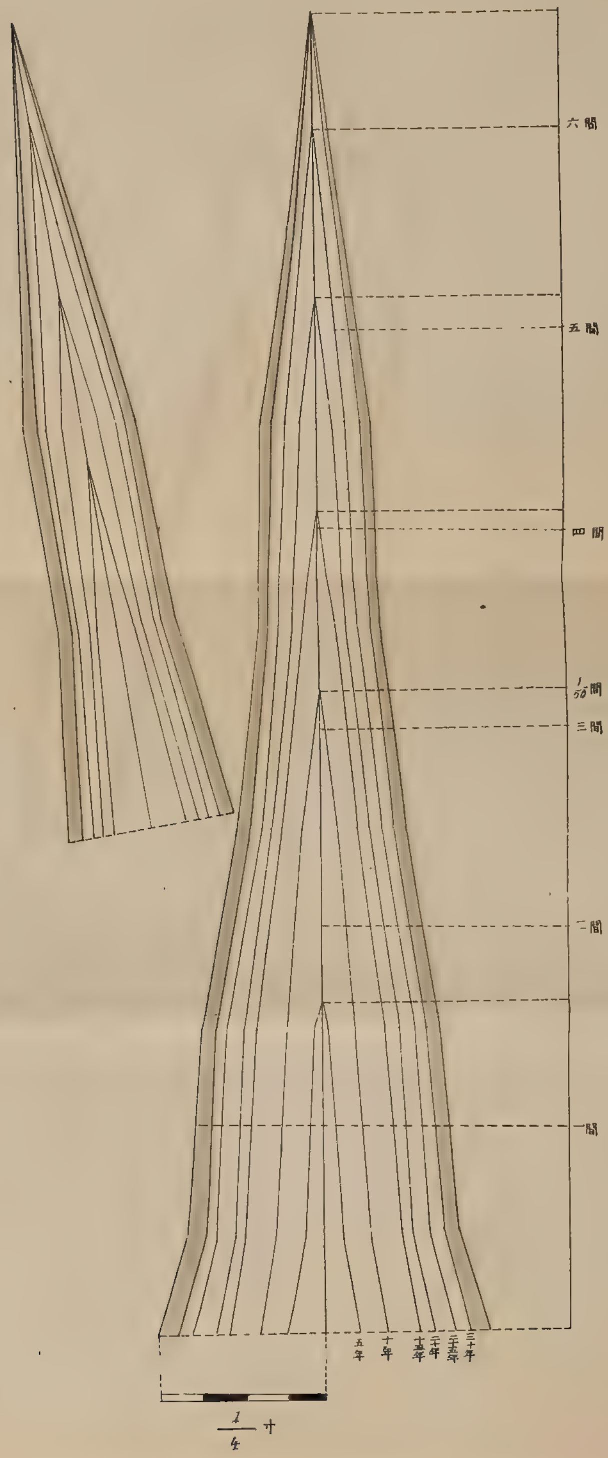
樹種ハ「ニレ」、「カシハ」、「白楊」ヲ主トシ「ナラ」、「クヌギ」、「ヤナギ」類之ニ次キ殆ント全ク濶葉樹林ニシテ針葉樹ハ「赤松」、「朝鮮五鬚松」ノ存在セル所アルモ僅少ニシテ之ニ比スヘクモアラス而シテ現在蓄積ノ分布ヨリ推スニ繁榮ナル村落、都會ニ近キ程無立木地多シ是レ何レノ國ニアリテモ其軌ヲ

同ウスル・モノナレトモ一ハ日露戰役ニ於テ特ニ森林上ニ一大打擊ヲ受ケタルニ因ラズンハアラス次ニ樹木生長ノ狀態ヲ見ルニ別表樹幹解析圖ニ示セルカ如ク其量決シテ少ナシト謂フヘカラス且ツ又樹種頗ル少數ノ濶葉樹ニ限レルモ造林方法宜シキヲ得ハ針葉樹モ亦成立ノ見込十分ナリ即チ大林子、八家子、英額城附近ノ地質ハ我秩父古生層ニ酷似セルヲ以テ幼時霜害ヲ防クニ注意セハ扁柏ハ生育スルコトヲ得ヘキカ殊ニ赤松朝鮮五鬚松ノ如キハ何レノ地ニモ造林スルヲ得ヘシ夫ノ奉天北陵及東陵ニアル亭亭タル松樹林ヲ見ル者誰レカ何レノ地ニカ松ノ生育ニ適セストナスモノアランヤ造林上ノ參考上ニ資センカ爲メ北陵及東陵ニ於ケル松樹林生長ノ狀態ヲ述ヘンカ北陵ノ森林ハ茫漠ナル平原ヲ以テ圍メル平地林ナルカ爲メ風ノ侵入多キヲ以テ直徑生長ハ上長生育ニ比シ頗ル大ニ枝條從テ多シ反之東陵ハ丘陵起伏セル所ナルヲ以テ其谿間ニアルモノハ其上長生育頗ル多ク枝條少ナキ美林ヲナセルヲ見ルナリ而シテ兩者孰レニアリテモ其材積ハ我國ニ於ケル松樹林ノ夫レニ比シテ些ノ遜色アルヲ認メス

槲樹幹解析圖

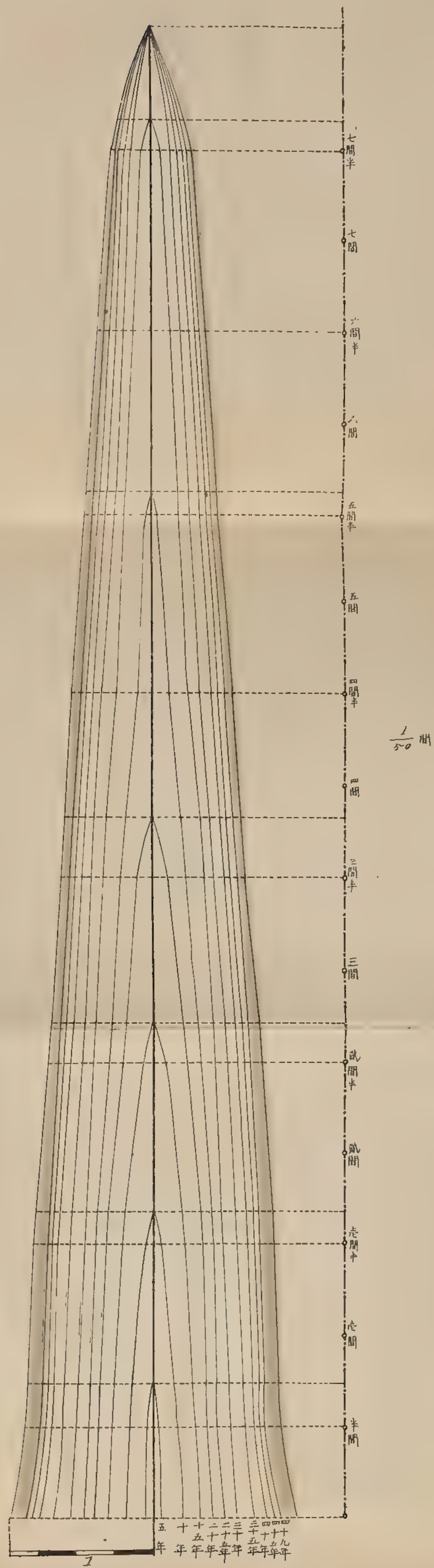
三十年生（枝條率 0.3）

（清國盛京省八家子ニ於テ採取）



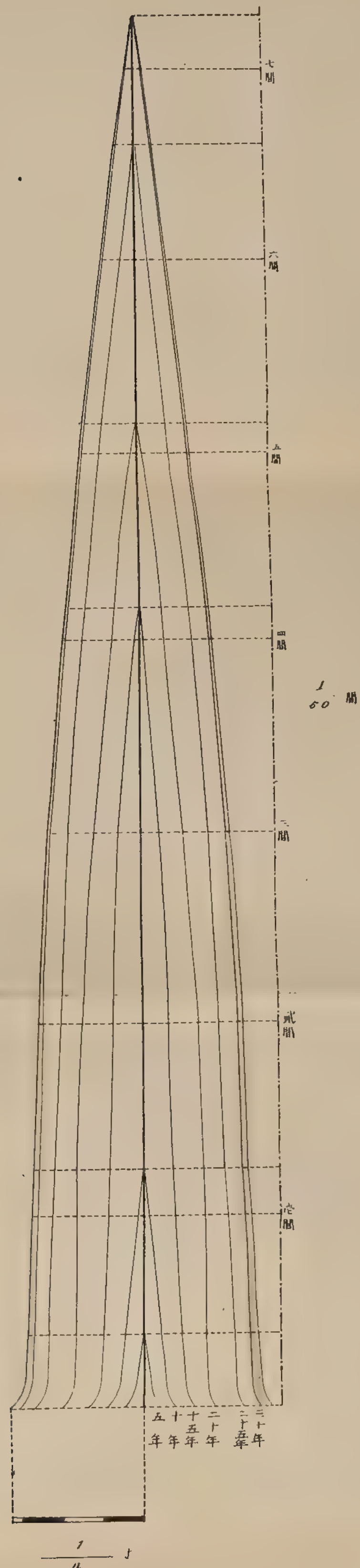
樹幹解析圖

楡四十九年生（枝條率0.1）
（於清國盛京省八家子採收）



樹幹解析圖

白楊三十年生（枝條率0.1）
（於清國盛京省八家子採收）



第三章　植樹

南部滿洲殊ニ小官等ノ分擔セル地域ニ於テハ前章ニ說述シタルカ如ク森林其物ノ利源トシテ直ニ官營又ハ民營ニ依テ森林ノ作業ヲ執ルヘキ森林アルヲ認メス蓋シ他班ニ於テ調查セシ地域モ同一ノ狀態ナルカ如シ偶以テ良好ノ林相ヲナスモノニ接觸スレトモ之レ實ニ圍場ト稱スル淸朝ノ御獵場ナル封禁林ナルカ或ハ陵林ト稱スル皇陵ノ風致林ナルカ乃至ハ一定ノ所有主ヲ有スル民有林ニ外ナラス其官有山林ノ如キハ森林ノ管理取締ナキニ乘シテ勝手ニ所在人民ノ伐採ニ放任シアル故ニ多クハ荒廢ニ歸スルモノタリ之ヲ要スルニ滿洲ノ森林トシテ世人ニ喧傳セラルルモノハ北部滿洲ノ地域ニ屬スル鴨綠江右岸ノ森林ニ非ラサレハ直チニ企業ヲ爲スヘキ森林ナシト云フコトヲ今回視察ノ結果トシテ確認スルコトヲ得タリ之ヲ以テ小官等ハ遠ク掏鹿ヲ通過シテ吉林ヨリ寧古塔、哈爾賓方面ニ深入シテ視察ヲ遂ンコトヲ希望シタルモ當時(三十八年十月)吾軍情ノ許ササル理由ニ依テ止ムヲ得ス他日ヲ期シ斷念スルニ至リタルハ實ニ遺憾トスル所ナリ

唯タ今回ノ調查ニ依テ南部滿洲ノ地域內ニ於テ邦人カ或ル企業假令ハ鑛山、農業、牧畜等ヲ營マントスル場合ニ於テ之ニ要スル日常ノ薪炭材料又ハ建築用材ハ如何ナル地點ヨリ供給シ得ルカ乃至若干ノ程度迄之ヲ供給シ得ルカト云フ疑問ニ對シ答フルコトヲ得ヘキナリ則チ普蘭店以北、東淸鐵道線ヲ距

ル東方約平均十邦里乃至二十邦里ノ地點ヨリ東北方ノ地域ニ在リテハ少クトモ滿洲定在樹種タル柳、白楊、楡、槲等ノ群生又ハ叢生スルカ故ニ或ル程度マテハ充分ニ材料ヲ供給シ得ヘキモノト認ム其普蘭店以南所謂關東州全部及ヒ東清鐵道線以西及遼河ノ沿岸一帶ノ地域ハ荒漠タル平野ニシテ稀ニ墳墓地、村落附近等ニ楊、柳、楡樹ノ所所ニ散點スルヲ見ルノミ

北清一帶殊ニ滿洲ニ於テ平地ハ勿論其山岳丘陵ト雖トモ斯ノ如ク荒廢ノ極ニ達シタル原因ヲ探索スルハ暫ラク問題外トシ苟モ一タヒ足ヲ滿洲ニ入レタルモノハ植樹ノ必要アルヲ感セサルモノナカル可シ森林荒廢カ農業及牧畜、水利及ヒ人身生活上ニ及ホス影響ハ蓋シ尺度乃至金錢ヲ以テ之ヲ積算スヘクモアラス況ンヤ戰後經營トシテ各種ノ施設ヲ滿洲ニ於テ企劃セントスルニ於テオヤ露國カ滿州經營ヲナスニ當テヤ大ニ玆ニ視ル所アリシカ一面ニハ支那人民ヲ勸誘シテ消極的ニハ樹木ノ伐採ヲ禁シ積極的ニハ植樹ヲ奬勵シテ或ル報酬ヲ惠與セルヲ聞ク又一面ニハ自ラ旅順、大連、金洲ニハ約十町歩程ノ苗圃ヲ設ケテ盛ニ苗木ノ養生ヲナシ其旅順ノ苗圃ノ如キハ創設費六萬留年年ノ經常費一萬二千留ヲ支出シ以テ模範ヲ示セリ彼レカ雄大ナル企劃大ニ鑑ムヘキカナ戰勝後調査スル所ニ因レハ露治時代ノ苗木ニシテ現存スルモノ左ノ如クナリシト云フ

（一）大連苗圃内（三十八年五月調）

槭　　樹	六萬七千五百本

松		二萬二千四百五十本
白楊		一萬七千五百五十本
朴樹		六千一百本
合歡		二萬一千八百本
檜		三千三百五十本
漆樹		一千本
桐		二百本
梨		一千三百本
アカシヤ		四萬四千九百本
溲疏	ウツヤ	二萬二千三百本
皂莢	サイカチ	一萬八千五百本
厚朴	ホホノキ	四千八百本
桃葉衞矛	マユミ	三千四百五十本
山椒	サンシヤウ	一千一百本
山樝子	サニザシ	五百本

梛	一百五十本
李	一千九百本
葡萄	九百本
薔薇	三百五十本
合計	二十四萬百本

（二）旅順ノ楊樹溝苗圃

アカシヤ	十三萬四千本
楡	一萬一千八百本
神樹	四萬五千本
皂莢	二萬五千五百本
槭樹	二萬一千一百本
桃	八十三本
杏	六百五十本
ズミ	一千八百六十本
李	二百五十本

梨		三千七十本
グミ		一百五十本
榎		五千二百二十本
槐		一萬四千三百五十本
欟		四萬〇四百本
楊		九百七十本
檉柳		二千五百本
柳		七百六十本
鹽地		二萬二千三百二十本
黄・櫱	キワダ	一千二百五十本
桑		四千九百本
ミツデカヘデ		七千六百本
樒	ト子ハコ	五百十本
枹		三百本
赤楊		四百本

槲	二十三萬六千八百本
楡	一千四百本
萩	二千五十本
ムレスズメ	六百本
合歡	七千一百五十本
ツルウメモトギ	四千四百本
薔薇	三萬一千本
葡萄	一萬四百六十本
キササゲ	一千五百五十二本
林檎	二千二百本
栗	五百四十本
一葉	四千本
櫸	八百本
メギ	五百本
榲桲 マルメコ	一百八十本

側柏（コノデカシワ）	五千本
赤松	五萬本
五葉松	二萬本
合計	七十二萬三千五百七十五本

（三）金州東花園苗圃

杏	一萬一千本
梨	一千五百本
林檎	一百本
桃	五百本
槭樹	八千本
ヤマナラシ	二千本
アカシヤ	二萬一千本
萩	一千五百本
楊	一千五百本
梧桐（トウキリ）	一千本

合　　計　　　　四萬八千一百本

夫レ斯ノ如シ或ハ山地ニ植付クヘキモノ或ハ公園又ハ庭園ニ植栽シテ美觀ヲ添ヘ以テ人心衞生上ノ快感ヲ得ンコトヲ企劃セルモノノ如シ

思フニ戰捷ノ結果トシテ帝國ノ利權内ニ屬シタル長春以南ハ如何特ニ最モ早急ニ經營スヘキ東清鐵道ノ沿線及ヒ之ニ件フ鐵嶺、奉天、遼陽等ノ如キ地點ノ租借地ハ如何實ニ近キ將來ニ於テ新市街トナルヘキ所ハ悉ク之レ荒漠タル平野ニ設ケラレタル地域ナリ樹陰ノ以テ暑ヲ避クルニ由ナク夏ハ炎熱ニ苦メラル樹梢ノ以テ寒ヲ防クニ由ナク冬ハ以テ零下三十度以下ノ寒氣ニ苦メラレ花ノ艶麗ナルヲ觀ル能ハス翠綠滴タラントスル景致ニ接スルヲ得ス現在唯之レ殺風景ナリ何ヲ以テカ居留民ノ精神的快樂ト慰藉トヲ得ヘキ歟故ニ滿洲ノ經營ヲ念トスルモノハ第一着ニ植林ノ必要ナルヲ感セサルモノナシ之レ實ニ永久的滿洲經營策トシテ邦人ノ來住ヲ促シ以テ諸般ノ企業ヲナスニ於テ少クトモ望鄕ノ念ヲ去ラシムルニ必要ナルノミナラス又以テ樹林ノ繁殖ト共ニ農耕、牧畜、水利ニ及ホス影響多大ニシテ永遠ニ滿洲ノ利源ヲ涵養スルモノタレハナリ

三十八年二月頃遼東守備軍軍政部ニ於テ占領地ニ造林ノ必要ヲ感セラレ之ヲ農商務省ニ知照シテ苗木ノ供給ヲ依囑セラレ同省ハ之ニ應シテ直ニ廣島、大阪、東京、長野、大林區署養成ノ官苗「クロマツ」、「アカマツ」、「ヒノキ」、「ハゲシバリ」、「オホナラ」、「クヌギ」、「クリ」等合シテ三百萬本ヲ寄贈セラ

レタルカ故ニ軍政部ハ夫夫手配ヲナシテ金州ニ百五十萬一千本大連ニ七十九萬六千五百本、旅順ニ七十萬二千五百本ヲ配布シ各主任者ハ其時期及經費ノ關係ヨリ其幾分ヲ山地ニ植付ケ幾分ヲ一旦苗圃ニ假植スル等適當ノ方法ニ依テ之レカ好成績ヲ得ンコトヲ勉メタリ小官ハ親シク其植付ラレタル金州ニ於ケル南山、肖金山、旅順ノ白玉山、大連ヲ巡檢スルニ目下(三十九年一月)ノ狀況ニテハ植付總數ノ五割ハ完全ニ成育スルコトヲ得ヘキモノト認メラル蓋シ内地ノ温暖ナル氣候ニ養成セラレタル苗木ニシテ而カモ堀取ヨリ目的地ニ着州迄約三十餘日ヲ費ヤシ且ツハ軍事多忙ノ際手配等ノ充分ニ行屆サル爲メ苗木ハ大ニ衰弱ヲ來シタル等ノ事情ノ下ニ行ハレタル造林ノ結果トシテハ先ツ比較的良好ナル成績ト云ハサル可ラス況ンヤ氣候地質ノ異ナルニ於テオヤ

又單ニ自己ノ利益ヲ目的トスル一個人民ニ於テモ滿洲植林ノ有望ナルヲ觀取シ大連灣、東北老龍島及柳樹屯半島一帶ノ山地約三千町歩ノ貸下ヲ受ケ以テ用材林及薪炭林ノ植栽ヲ出願シタルモノアリト云フ

吾關東州民政署ハ昨三十八年軍政時代ノ造林方針ヲ是認シ且ツ當三十九年ニ於テハ經費ノ許ス範圍内ニ於テ之ヲ擴張シ之カ實行ヲ計畫セラレタルハ實ニ激賞スヘキ事ナリトス然リト雖トモ小官ハ猶隴蜀ノ望ヲ抱キ且ツハ前陳ノ理由及所信ヨリシテ可及的滿洲全部ノ禿山ニ向テ植林ノ必要ヲ認メ一ハ吾日本官廳ニ於テ卒先之カ實行ヲセラレ一ハ清國官廳ヲ促シテ植林ノ方法ヲ講セシムルハ刻下ノ急務ナリ

ト感スルノ時我關東總督府ニ植林計畫ノ意志アルヲ聞キタルカ故ニ以テ別紙甲號ノ提案ヲナシタリ幸ニシテ總督府ノ高級部ニ於テ小官ノ提案ヲ採用セラレ經費ノ許ス範圍内ニ於テ別紙乙號ノ如ク決定ヲセラレ直ニ當年ヨリ實行ノコトニ確定セラレタルハ深ク小官ノ喜フ所ナリ庶幾クハ此計畫ハ或ル時期迄之ヲ永續スルモノナルヘケレハ滿洲ノ禿山遠カラスシテ翠綠美觀ヲ呈スヘク從テ帝國ノ威力ハ森林ノ繁殖ト共ニ益益伸暢セラレ以テ深ク良根ヲ扶植セラルヘキナリ加之總督府ニ於テハ一面清國官廳（奉天將軍）ニ知照シテ造林ノ勸誘ヲセラレタルニ聞ク若シ清國官憲之ヲ採用シテ滿洲官民山地ニ植林セラルルモノトセハ大ニ賀スヘク之カ爲メニ邦人ヲシテ一大事業ヲ爲サシムヘキ動機ヲ得ルモノニシテ帝國ノ利益多大ナリト認ム

今ヤ日本帝國カ世界ニ對スル位地トシテ其内地タルト外國タルトヲ問ハス須ラク言論ヲ避ケテ着着實行ヲ期スヘキ時機タルコトハ小官ノ堅ク信スル所ナリ希クハ滿洲ノ植林年年歲歲連續シテ以テ良好ナル成果ヲ得ンコト切ニ望ム所ナリ

甲號

植樹計畫案

一　總說

南部滿洲殊ニ諸人ノ最モ來往スル鐵道沿線ノ各地點ハ茫漠タル平野若シクハ禿赭ナル丘陵ニシテ之カ爲ニ直接又ハ間接ニ人身生活上及精神的衞生ニ影響ヲ及ホスコト多大ナルモノト認メラル依テ一刻モ速カニ清國官府ト交渉シテ植林計畫ト之カ實行ヲ爲スハ實ニ滿洲經營ノ第一着手段タラサル可カラサルモノト認ム何トナレハ樹林ノ存立ト不存立トハ啻ニ衞生的關係ノミナラス直接ニハ薪炭建築ノ材料ヲ得ヘク間接ニハ之カ爲メニ風雨寒暑ノ調和ヲ爲シ水流沼池ノ源泉トナリ以テ農耕牧畜ノ豐饒蕃殖ヲ促スヘキト然ラサルトノ分界點ナレハナリ

然リト雖トモ刻下戰後經營トシテ滿洲ニ對スル諸種ノ施設ヲ要スヘキモノ多キヲ以テ彼是權衡ヲ相失ハサル程度ニ於テ左ノ地點ニ第一着トシテ植樹ノ實行ヲナサントス

第一　昌圖以南普蘭店ニ至ル鐵道線ニ沿フテ並樹ノ植栽

第二　左記ノ租借地（所謂新市街地）内ニ於テ防風林及公園地内ノ植栽

昌圖、開原、鐵嶺、奉天、蘇家屯、烟臺、遼陽、鞍山店、海城、大石橋、蓋平、熊岳城、萬家嶺、得利寺、瓦房店、普蘭店、金州ノ十七個地點

（注意）　租借地ノ眞面積ハ尙ホ軍事上秘密ニ屬スルノ理由ニ依テ之ヲ明記スル能ハス蓋シ大地點ハ約六百町步小地點ハ約三百町步トシテ計算ニ用ヒタリ前示地點ニ―――線ヲ附スルモノハ小地點ナリ

二　樹種

植栽ニ適スヘキ樹種ハ大約左ノ如シ

一　針葉樹

赤松、黒松、落葉松、朝鮮五葉松、羅漢柏、側柏、柏心、扁柏、花柏、杉、栂、裏白樅、唐檜

二　濶葉樹

白楊、ヤマナラシ、柳、楡、アカシヤ、櫟、アベマキ、楢、槲、神樹、樫、赤楊、栗、胡桃、七葉樹、槭樹類

三　植栽

第一　鐵道ニ沿フテ前示ノ樹種ヲ相混シテ約列間二米突株間二米突ノ間隔ヲ以テ左右二列宛即チ合シテ四列ヲ植栽スヘシ昌圖ヨリ普蘭店ニ至ル鐵道哩數ハ二百八十三哩一哩ニ付約九百本ノ苗木ヲ要スルヲ以テ一列トシテノ全數ハ約二十五萬五千本ナルカ故ニ四列トシテノ總數ハ約百二萬本ヲ要ス

第二　前示ノ十七個地點ノ新市街地ニシテ大地點ハ約三十町歩小地點ハ約十町歩ノ地區ヲ圓形又ハ方形ニ其地點ノ中央ニ區劃シテ公園地ヲ設クヘシ而シテ其公園地内ニハ道路、休憩場、腰掛、池、涼

臺等ノ設備ヲ要スト認ムルカ故ニ之等ノ地積ノ植栽地積ヨリ控除スルノ要アレトモ之ハ後日ノ設計確定ノ時ニアラサレハ不明ナルヲ以テ今ハ大體ニ於テ公園地ニハ一坪約二本位ヲ植栽スルモノトシテ大小ノ地點ニ要スル樹木又ハ苗木數ヲ計算スレハ左ノ如シ

則チ十七個地點ニ於テ大地點ハ十二個所、一個所三十町歩ノ公園地トシテ三百六十町歩小地點五個所、一個所十町歩トシテ五十町歩依テ公園總面積ハ四百十町歩ナリ之ニ要スル樹木又ハ苗木ハ約二百五十萬本ナリ而シテ公園地内ノ植栽ハ前示ノ針葉樹、濶葉樹ヲ最モ美觀的ニ適法ニ相混合シテ植栽スルヲ要ス

又新市街ノ防風及衞生且ツ他日有事ノ時ニ於ケル薪炭建築土木用ノ材料供給ノ目的ヲ以テ租借地域ノ境界線内外適當ノ地點ニ於テ主ナル寒風ノ襲來スル方向ニ幅一千米突以上(長サハ適宜)ノ樹林ヲ植栽スルヲ要ス蓋シ此目的ニ於ケル樹種ハ左ノ六種ヲ混用スルヲ可ト認ム

赤松、楡、楔、槲、楢、朝鮮五葉松

四　苗木ノ供給

昨三十八年春民政署(當時ハ軍政署時代ナリシ由)ノ設計ニ基キ東京、信州、廣島地方ヨリ苗木ヲ取寄セ之ヲ金州ノ南山、肖金山、旅順ノ白玉山等ニ植栽セラレタル結果ヲ見ルニ其内地ヨリ荷造リ輸送等

ハ比較的良好ナリシニ拘ラス植栽後ノ狀況ハ善良ナリト稱スル能ハス之レ暖地ニ生育シタル苗木ハ寒氣ニ移植セラレテ枯損ヲ來スノ例少ナシトセス故ニ滿州ニ於テ林木ノ植栽ヲ爲サント欲セハ滿洲ニ於テ養成シタル苗木ヲ用ユルヲ安全トス露國時代ニ於テ金州旅順等ニ苗圃ヲ設置シタルハ蓋シ此意義ニ外ナラサルヘシ露國ノ旅順苗圃ハ創設費六萬留每年ノ經常費一萬二千留ヲ投スル計劃ナリシ由大ニ參照スヘキコトナリ

然レ共本年即チ三十九年度ヨリシテ植栽ヲ爲サントスルニハ之ヲ內地ノ苗木商ヨリ購買スルノ外途ナカルヘシ而シテ內地ヨリ來リシ苗木ハ直ニ之ヲ植栽スルハ少シク危險ナルカ故ニ適當ノ地點ニ假苗圃ヲ設ケテ一旦悉ク此假苗圃ニ植込ミ一冬ヲ經過セシメテ而シテ根付ノ宜シキモノノミヲ翌年植込ムト云フコトニセハ蓋シ枯損ノ割合少ナカルヘキナリ

五　苗木ノ價格

近年內地ニ於テハ植林事業盛ニ行ハレ殊ニ戰役後ニ於テハ一層植林ノ事業奬勵セラレ或ハ征露紀念林ト稱シ或ハ學校林ト稱シ或ハ町村ノ基本林ト稱シテ數萬町步ノ植林ヲ實行セルヲ聞ク從テ苗木ノ價格ノ如キモ平年ニ比スレハ大ニ昇高セルヤ必セリ今前示ノ樹種ヲ名古屋、東京、長野、千葉、地方ヨリ購買シ之ヲ滊車ニテ宇品迄約平均七百哩有料ニテ運ヒ宇品ヨリハ御用船ニテ大連マテ大連ヨリ官設鐵

道ニテ無代價ニテ運フモノトスルモ蓋シ大約左ノ價格トナルヘシ

	一萬本ニ付元價		運賃	宇品着
杉苗		一〇〇円	二〇円	一二〇円
松苗	同	七〇	二〇	九〇
扁柏苗	同	一〇〇	二〇	一二〇
櫟苗	同	九〇	二〇	一一〇
落葉松苗	同	七〇	二〇	九〇
合計				五三〇
此平均一萬本ニ付				一〇六

柳、楡、白楊、樅、栂等ノ如キ苗木ハ未タ内地ニ於テモ販賣用トシテ養成スルモノアルヲ聞カス従テ苗木ノ價ハ若干ナルヤ今茲ニ不明ナレトモ極大體ニ於テ各樹種ノ苗木共一萬本百六圓ニ見積ルトキハ宇品着ニテ購買スルコトヲ得ヘシ且ツ柳、楡、白楊ノ如キハ滿洲各地ニ於テ支那人ニ命スルトキハ之亦百圓内外ノ價ヲ以テ一萬ノ稚苗ヲ集ムルコトヲ得ヘシ

故ニ今前述シタル鐵道線ノ並樹用公園用ノ苗木ヲ合計スレハ總所要苗木數ハ三百五十二萬トナル此價格三萬八千圓ナリトス

六　苗圃ノ設置

苗圃ハ旅順、金州、大石橋、遼陽、開原、大連ノ六個所ニ之ヲ設クヘシ旅順、金州ハ既ニ有ル所ノモノヲ充用シ其他ノ四個ニ新設ヲ要ス一個所ノ面積約十町歩ニシテ此費用即チ開墾、藩籬、道路、井戸番小屋、諸器械器具等ノ設備トシテ創設費約二萬圓ト見ハ差支ヘナカルヘシ故ニ四個所ノ新設費合計八萬圓ヲ要ス其外年年ノ經常費トシテ種子ノ購買、播種、除草、床替、灌水、雜費等ノ費用一個所ニ付約一萬圓ヲ要スヘシ合シテ六萬圓トナル

七　人員ノ配置

植林事業ハ宍勝チ専門家ニ非サレハ不可能ト稱スヘカラサレトモ兎ニ角永遠ノ事業ヲ爲スモノナレハ固ヨリ無經驗無能力者ニシテハ事業ノ操縱ト其結果ノ善良ナラサルヘシ依テ各苗圃所定地ニハ少クモ林學者一名ヲ配置シ之レニ助手トシテ内地ニ於ケル植林上ノ經驗アルモノ又ハ地方山林學校出身者ヲ配屬スルヲ要ス而シテ總督府ニハ一名以上ノ高級技師ヲ置クヲ要ス

苗圃主任者ハ平常ハ其苗圃ノ經營ヲ擔任シ植栽時期ニアリテハ其植栽ノ指揮及監督ヲナスモノトス故ニ人員及ヒ俸給等左ノ如クシテ然ルヘシト認ム

高級森林技師	一名	
苗圃主任	六名	
助手	九名	
但内三名ハ森林技師ニ配属セシム		
計	十六名	給料一萬三千四百圓

八　經費

臨時費			
苗圃創設費	四個所	八萬圓	
苗木購買費	三百五十二萬本	三萬八千圓	
苗木假植費		八千八百圓	一人一日二百本植 日當金五十錢
苗木植付費		一萬七千六百圓	一人一日百本植 日當金五十錢
計		十四萬四千四百圓	
經常費			
俸給及諸給	十六人分	一萬三千四百圓	

傭員	若干	五千圓	
苗圃事業費	六個所	六萬圓	
補植苗木購買費	百七十六萬本	一萬九千圓	五割枯ト見做シ
此假植費	同	四千四百圓	
補植費	同	八千八百圓	
雜費		五千圓	
計		十一萬五千六百圓	

此經費ヲ巨細ニ示サントスルニハ年度別割ヲ要スルモ今ハ極大體ノミヲ示ス

乙號

決定

一　植樹ノ必要ト本計畫案モ亦大體ニ於テ可ナリト認ムルモ費用ノ支途ナキヲ以テ先ツ以下述フル如ク實行セントス

二　銀三萬圓ヲ限リ地方收入ヨリ支辨シ左ノ如ク實行スルモノトス

（一）高級技師　一名　苗圃主任　一名　助手　一名雇入

（二） 遼陽ニ苗圃ヲ取設ク
（三） 遼陽ニ植樹
右（一）ハ經常費トシ（二）（三）ハ臨時費ヲ主トシ内若干經常費ヲ含ム
三 苗圃及植樹ハ該金額内ニ於テ實施シ得ヘキ程度ニ止ム
四 以上ノ外左ノ如ク實行セントス
（一） 清國官廳ヲ介シテ地方人民ニ勸誘シテ植樹セシムルコト
（二） 營口軍政部ヲシテ其能フ度ニ於テ買收地附近ニ植樹セシムルコト
五 以上ノ如クシテ苗圃五町歩一個所植樹五十萬本ヲ得ル見込
但地方勸誘及營口ノ分ハ此外ナリ

第四章 利用

今回ノ調査區域ニ於テハ前述セルカ如ク現ニ存在スル樹木其モノヲ利用シテ直ニ邦人ノ企業ヲ促スヘキモノノ材量甚タ少キヲ認メタリ唯滿洲現在ノ樹種中白楊ハ燐寸軸木又ハ經木原料トシテ或ハ適當スヘキヤト認メラルレトモ其材量寡少ニシテ彼處ニ二三千本此處ニ數反歩ト云フ有樣ニ群生又ハ散生ヲナスカ故ニ或一地點ニ工場ヲ設ケントスルモ現今ノ如ク運搬ノ不便ナル滿洲地域ニ於テハ材料ノ蒐集

ニ多大ノ出費ヲ要シ企業利益ヲ見ル能ハサルヘシ又清國民カ柞蠶飼育ニ用ユル槲樹アルヲ以テ之ヲ轉用シテ單寧製造業ヲ起サハ如何トノ觀念ヲ有スレトモ其含有分量ノ多少等ノ試驗ヲナス遑ナカリシカ故ニ今直ニ明解ヲ與フルノ資料ヲ有セス蓋シ清國民ハ獸皮ヲ使用スルコト多キ割合ニ其製革術實ニ拙劣ナルカ故ニ其改良ト同時ニ單寧原料ノ產出ハ大ニ有望ナル事業ナリト信スルナリ而シテ槲ノ材量ハ他ノ樹種ヨリ多キカ如シ

小官等視察ノ結果ニ基キ之ヲ綜觀スルニ北清地方ニ於テ現在及將來ニ於テ大ニ缺乏ヲ感シ從テ其需要ヲ增スヘキモノハ木材ニシテ建築器具及車輛等ノ材料ヲ要スルノミナラス殊ニ土木用ノ木材ハ大ニ用途ヲ擴張スヘキモノト認メタリ故ニ日本木材ヲ可成的多量ニ北清地方ニ輸出シ以テ清國人ニ之ヲ使用セシムルコト實ニ國家ノ一大利益ナリト思惟セシカ故ニ此點ニ向テ多大ノ注意ヲ拂ヘリ由來北清一帶殊ニ南部滿洲ニ於ケル木材ハ主トシテ清國木材即チ鴨綠江木材及吉林木材（即チ松花江流域ニテ伐採セルモノ）ヲ以テ供給セラレタリ今其分配ノ有樣ヲ查察スルニ大連、旅順口、天津、芝罘及營口等ハ民船又ハ汽船ニヨリテ之ヲ搬致シ鴨綠江材ノ主ナル市場トナリ又奉天、遼陽及鐵嶺方面ニ在リテ東山（トンサン）ノ木材ト稱シ懷仁、通化方面ヨリ陸路興京、永陵ヲ經テ渾河ノ上流ニ出テ雨期ニ當リ水運ニヨリ之ヲ奉天ニ致シ又一面ハ清河ヲ利用シテ鐵嶺又ハ開原ニ致ス其吉林木材ハ船廠（チヨアンチヤン）產ト稱シ陸路寬城子（長春）ヲ經テ昌圖、通江口及法庫門等ニ致セリ故ニ之ヲ概括スレハ遼河沿岸ノ地方ハ吉林木材ヲ利用シ其他

ハ鴨綠江材ヲ需用スルヲ見ル其材種ハ矢張杉、松、楡木、椴木及柞木等ニシテ相異ルモノナシ日露開戰ノ結果鴨綠江材及吉林材ノ供給俄然杜絕シタルカ爲メ淸國人ハ大ニ木材ノ缺乏ヲ感シ從テ材價ノ暴騰ヲ來セリ今ヤ平和克復シ庶民其堵ニ安ンスルノ時期ニ際會シタレトモ依然トシテ木材ノ缺乏ヲ訴フルハ固ヨリ其處ナリ此商機ヲ利用シテ吾在淸ノ商賈大ニ日本木材ヲ輸入シ一ハ以テ其缺乏ヲ補ヒ一ハ以テ利益ヲ獲得センコトヲ企劃スルモノアリト雖トモ多クハ規模小ニシテ其造林ノ寸尺等ノ相異ル點アルカ爲メニ大部分ハ日本居留民ノ用途ニ供セラレ未タ淸國人ニ向テ多大ノ供給ヲナシタルモノアルヲ聞カス於是吾人ハ一ノ疑問ヲ起セリ卽チ近キ將來又ハ遠キ未來ニ於テ北淸一帶ノ地域ニ向テ日本木材ノ供給ハ絕望ニ終ルヘキカ又鴨綠江木材ハ如何ナル程度マテ供給ヲナシ得ヘキカ北淸ニ於ケル木材ノ需用關係ハ如何ニ變遷スヘキカ且ツ又米國材ト日本材トカ北淸市場ニ於テ如何ナル經濟上ノ關係ヲ保ツヘキ乎請フ少ク之ヲ述ヘン

南部滿洲ノ人口約一千七百萬ニシテ戶數約二百四十五萬ト稱セラル此淸國民カ年年需用スル所ノ薪炭木材ハ若干ナルカ固ヨリ文献及統計ノ徵スヘキモノナク之ヲ明言スルニ由ナシト雖トモ彼等ノ常用タル高粱稈ノ外木材ヲ要スルコト蓋シ尠少ナラサルヘシ彼等ハ數年以前ヨリ日本木材ヲ需要シ殊ニ開戰以前ヨリ開戰中日本木材ノ需要頓ニ增加シ其賣買頗ル好況ヲ呈シタルヲ以テ營口ニ於ケル雜貨商ノ如キハ忽チ木材商ニ轉業シタルカ如キモノ多カリキ然レトモ又他面ヨリ見ルトキハ目下大連、旅順、營

口ニ於テ日本人ノ木材業ヲ營ムモノアリト雖トモ多クハ試賣時代ニシテ未タ大規模ヲ以テ永遠ヲ期スルモノアルヲ見ス其奉天ノ如キ遼陽ノ如キニ於テハ蓋シ論スルニ足ラサルナリ

北淸地方ニ於テ日本木材、淸國木材及米國木材カ如何ナル商況ニアルカヲ視察スルニ日本木材ハ數年前多クハ枕木ノミノ輸入ニシテ其他ノ良材ノ輸入ナカリシカ近年殊ニ開戰中ハ其需要大ニ好況ヲ呈シ現今大ニ聲價ヲ博シツツアリ今之等ノ例證トシテ北淸地方ノ物資ヲ呑吐スル天津、營口等ニ就キ記述セントス

甲、天津

天津ニ於ケル重ナル需要木材ハ多クハ輸入ニ係ハルモノニシテ

(一) 福州產杉材及樟木

(二) 鴨綠江各種松材、楡木及雜木

(三) 北海道產松材、桂、楢等ノ堅木材

(四) 北米產松材及「チーク」類ニシテ明治三十七年(一九〇四年)ニ輸入セラレタルモノハ

支那各港ヨリノ輸入	角材	三萬三千三百十八兩
	丸太	八萬九千百五十四兩
	板材	三萬六千〇九十一兩

計	十五萬八千五百六十三兩

外國ヨリノ直接輸入

角材	九萬八千百五十六兩
貫	三千二百四十兩
丸太	三千九百二十五兩
板材	十二萬五千九百十五兩
計	二十三萬一千二百三十六兩

又天津總領事館ノ調査ニ依レハ日露開戰中即チ明治三十七年ニ於ケル木材ノ天津ヘノ輸入高ハ十三萬本餘此價額五十四萬兩ナリ而シテ福建木材輸入高ハ板材ニ於テ六千四百兩餘角材ニ於テ四千四百兩合計一萬八百兩ニ過キス依テ清國材ノ供給不足ハ外國材ノ輸入ニヨリテ之カ補足ヲナシ來リタルモノニシテ主トシテ本邦材ノ枕木、米國産ノ「オレゴン」松ナリトス清國向ノ家屋建築材タル角材、板材ノ供給ハ殆ント全ク自國産ノ木材ヲ以テ市場ヲ獨占シツツアリシカ日本産鐵道枕木ハ二三年前天津地方ニ於ケル鐵道企業勃興ノ爲メ試用セラレタルモノニシテ其實用上ノ結果日本材ノ聲價ヲ高ムル端緒ヲ開ケルナリ去ル三十五年中二十一萬兩三十六年中八十二萬兩ノ米國「オレゴン」松材ヲ輸入シ橋梁、大建築、埠頭、護岸其他土木工事用ニ使用シタレトモ家屋ノ棟梁、柱材、家具、車輛材ハ多年慣行ノ結果專ラ自國産ノ木材ヲ使用シ日本材ハ到底販路ヲ擴張スル能ハサルカ如キ形勢ヲ示シタリキ然ルニ日露

開戰後ニ至リテハ鴨綠江材ノ輸入全ク杜絶シタル爲メ北清地方ニ於テ大ニ木材ノ缺乏ヲ感シ在荷益拂底、價格頻リニ騰貴シテ前年來試賣ノ爲メ輸入シタル日本木材ハ急ニ清國人ノ需要ヲ增シ清國材ノ地步ヲ奪ヒ破竹ノ勢ヲ以テ將來大ニ囑望スヘキ好地位ヲ占ムルニ至レリ然レトモ此輸入木材ハ主トシテ北海道ノ栓、栎、桂、トド松類ニシテ其價格ノ底廉ナルカ爲メ多ク需要セラレツヽアリト雖トモ又一面ニハ日本材ハ狂ヒヲ生スルコト多シト稱シテ不評判ヲ受クルコトアルカ故ニ大ニ注意ヲ要スヘキコトタリ例ヘハ東清鐵道(露治時代)ニ於テハ枕木トシテ栎、栓ヲ賞用スレトモ桂ハ之ヲ忌ムニ反シテ北清鐵道ニ於テハ桂ヲ好ムカ如キコトアリ

然レトモ日本材好況ノ大勢ハ回スヘカラス明治三十七年中關内鐵道ニテ十二萬本京漢鐵道ニテ三萬本ノ需要アリシニ過キサリシニ實際枕木ノ天津ニ輸入セラレシモノ甚タ多カリシハ畢竟鴨綠江材ノ輸入杜絶シタル爲メ日本產枕木ヲ以テ普通ノ器具材、車輛材、棺材ニ代用セラレタルカ故ナリ

今明治三十七年中日本材ノ天津輸入ヲ見ルニ

角材及厚板	四萬三千兩餘
丸太及杭木	四千兩餘
枕　　木	三十三萬五千兩餘

ニシテ其價格ノ如キモ

松角材	一立方尺	五十仙乃至五十五仙
同板材	同	六十五仙
同丸太	同	四十仙乃至五十仙
栓、櫟角材	同	六十仙乃至七十仙
同　同枕木	一挺	一弗三十仙乃至一弗四十仙

ナルニ松材ト對比スヘキ清國材杉松、紅松ノ如キハ一立方尺六十仙乃至六十五仙ノ高價ヲ示セリ

此駸駸乎タル日本木材ノ好商機ハ本邦在清商ノ直チニ利用スル所トナリ昨明治三十八年ニ於テ三井物産會社、大倉組及新松昌洋行等ニ於テ販賣シタル高ハ枕木百四五十萬挺、松角十五六萬立方尺ニシテ其三井物産會社ノミノ販賣高ハ百二十萬圓ノ多額ニ達セリト云フ

枕木	一百萬挺
松角	百三十萬乃至百四十萬立方尺
堅材	六十萬乃至七十萬立方尺
松板	二萬乃至三萬立方尺

新松昌洋行ノ分

枕木	四十萬挺

松角　二萬立方尺
松丸太　一萬四千立方尺
羅漢柏丸太　六萬六千立方尺

如斯一躍シテ北清地方木材ノ本塲タル天津ニ於テ日本木材ハ盛況ヲ呈シタルヲ以テ之ヲ逸スヘカラサル好機トシ我在清商ハ鋭意斯業ノ發展ヲ期シ孜孜トシテ準備中ナリト聞ク蓋シ國家ノ爲メ斯業ノ爲メ大ニ賀スヘキナリ

乙、營口

營口ニ於ケル木材ノ狀況ヲ查察スルニ正確ナル數量ヲ得難シト雖トモ日本材ハ二三年前ヨリ枕木、板材ノ二種僅ニ輸入セラレタルノミニシテ未タ多大ノ供給ヲナシタルヲ見ス現今本邦木材商ノ販賣スルモノハ多クハ日本人向又ハ軍用倉庫等ノ建築材ニ使用スルモノナルカ如シ今其一般ヲ綜說スレハ外國產ノ堅木、軟木合シテ約十二萬立方尺此價額四千兩及自國產丸太、角材、板材等約六萬本此價額約十萬兩ニ過キス而シテ日本材ノ輸入シタルモノ僅ニ六萬五千立方尺此價額千五百兩位ナリトス然ルニ矢張吾軍ニ於テ營口ノ占領後俄ニ木材ノ需要ヲ增加シ意外ノ利益ヲ獲得シタルモノアリト聞ク乃チ知ル日本木材販賣ノ時日尙ホ淺キカ故ニ正確ナル數字ヲ以テ明示スル能ハスト雖トモ矢張天津ト同樣ニ近キ未來ニ於テ木材ノ一大盛況ヲ呈スヘキ氣運ハ明ニ認ムルコトヲ得タリ

唯茲ニ注意スヘキハ我外征軍ノ全部凱旋ノ後東清鐵道ノ經營ト共ニ其咽喉タル大連カ如何ナル經濟關係ニ遭逢スヘキカ清國人カ滿洲ノ物資ヲ輸送スルニハ矢張從前ノ如ク遼河ノ水運ニヨルカ將タ一轉シテ東清鐵道ニヨルニ至ルカハ一ニ滿洲經營方針カ直チニ及ホスヘキ大影響ニシテ此大問題ニ就テハ今ハ少シク憚ル所アルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

日露開戰中清國木材ノ缺乏セル機會ニ乘シ將來ニ於ケル日本木材カ如何ナル形勢ニ趨クカヲト知センカ爲メ營口ナル平岡組ニ於テ日本木材ヲ新民府ニ搬致シ主トシテ清國人ニ販賣シタル試驗的ノ結果ヲ聞クニ左ノ如シ

材種	單位	營口ニ於ケル元價	營口新民府間運賃	新民府ノ賣價
杉四分板	一坪	円 一、二〇〇	円 〇、五三三	円 二、〇〇〇
同六分板	同	二、二〇〇	〇、五三三	三、〇〇〇
同八分板	同	二、六〇〇	〇、五三三	三、〇〇〇
栂六分板	同	一、五〇〇	〇、五三三	二、二〇〇
樅八分板	同	二、三〇〇	〇、五三三	三、三〇〇乃至三、五〇〇
松八分板	同	二、三〇〇	〇、五三三	三、五〇〇
同一寸板	同	二、六〇〇	〇、五三三	四、〇〇〇

杉垂木	二寸角 長二間	一本	〇、四〇〇	一才ニ付	〇、〇三五	〇、六〇〇
松大角	尺角尺五 角尺八角	一才	〇、〇六五	同	〇、〇三五	〇、一二〇
杉丸太	末口三寸乃至八寸 長八尺乃至九尺		〇、〇五〇	同	〇、〇三五	〇、一〇〇

如斯好結果ヲ得タルカ故ニ更ニ規模ヲ大ニシ以テ斯業ノ發展ヲ謀ル計畫ナリト云フ因ニ前示ノ木材ハ山形地方ヨリ取寄セタルモノナリト

丙、材價

今小官等カ視察通過セシ各地方ニ於ケル清國材、日本材及米國材等ノ相場表ヲ掲クレハ左ノ如シ尚ホ參考ノ爲メ薪炭ノ價格ヲ附記ス

(一)天津地方

樹種	材種	寸法	單位	明治三十五年價格	明治卅六七年價格	明治三十八年價格
(イ)清國材						
紅松	料板	長八尺方一寸		四分—四分五厘	三分五厘	五分五厘
杉松	同	同		三分六厘—四分	三分五厘	四分九厘
檪木	丸太	—	一料	二兩五分	三兩	—
楸木	同	—	同	二兩五分	三兩三分	—
山楡	同	—	同	二兩五分	二兩八分	—

楚楡	同	車軸	一本	二弗―四弗	一兩五分―二兩	―
樫木（福州杉）		長一丈四尺 徑六七寸	同	二兩五分	二兩五分	一弗五十仙
(ロ)米國材						
オレゴン松	角材	長十八呎―三十呎 徑一呎以內	一千「スーパーフイシアルフイート」	四十八兩	四十五兩―五十七兩	四十兩
(ハ)日本材						
トドマツ エゾマツ	角材	長サ一丈三四尺 徑一尺內外	八十三立方尺	四十一兩乃至四十八兩	―	―
同上	丸太	―	同	三十三兩	―	―
栓、桂、槲等	枕木	長八尺―九尺巾七寸五分厚サ五寸	一挺	一弗十仙	七十五仙	一弗二三十仙

又明治三十八年十二月頃ノ相場ヲ見ルニ

福州杉	丸太	口徑八寸一連物	一本	―	―	五兩二分
同	同	同　二連物	同	―	―	十二兩
同	同（根付）	一尺徑一連物	同	―	―	七兩七分
同	三寸角材	一連物	同	―	―	四分三厘
同	四寸角材	同	同	―	―	七分
同	五寸角材	同	同	―	―	九分五厘

楠木	―	―	百斤	―	―	二兩五分
白皮槁	―	―	一本	―	―	二兩五分
東溝松木	―	長八尺	方一寸	―	―	三分九厘
同楸木	―	同	同	―	―	三分三厘
同柞木	―	同	同	―	―	三分一厘
日本松木	―	同	同	―	―	二分九厘
同枕木	―	長九尺	一本	―	―	一弗二十五仙
同同	―	長八尺	同	―	―	一弗二十仙
米國松	―	幅一呎厚一吋	毎一千呎	―	―	三十二兩

(二)營口地方

(イ)清國材

紅松	角材	長八尺	一料	三元五角	四元五角	七元三角
杉松	同	同	同	三元	三元五角	五元三角
黄花松	同	同	同	―	五元	―
檞木	同	同	同	―	四元五角	―

楡木	同　同	同　四元	四元二角	―　六元五角
同	丸太	―　同　三元		―　四元五角
柞木	角材　長八尺	同　四元	四元二角	七元
同	丸太	―　同　四元		―　五元五角
楸木	角材　長八尺	同　三元八角	四元五角	五元五角
同	丸太	―　同　三元		―　四元五角

(ロ)日本材　明治三十八年十二月頃

杉	押角長二間五寸角	一挺	銀二圓二十錢
同	八分板長一間	一坪	同二圓五十錢
同	一寸板長一間	同	同三圓二十錢
同	並八分板長二間	同	同六圓五十錢
同	並一寸長二間	同	同七圓五十錢
同	正一寸同	同	銀十圓
松	八分板長一間	同	同二圓十錢
同	並一寸	同	同二圓四十錢

松　正一寸	一坪	銀三圓二十錢
同　角物	一才	同十錢
北海道松角物	同	同十錢
津輕檜同	同	同十錢
同　上丸太	同	同九錢

（三）鐵嶺

（イ）棺材一組分（五百五十四寸）	二十元
（ロ）薪　百　斤	一元乃至一元五十錢

（四）馬　蘭　火　洛

薪　百　斤	七十錢

（五）孤　家　子

薪　百　斤	三十錢

（六）永　　陵

薪　百　斤	五十錢

（七）新賓堡（又興京）

（イ）椴木一付（三十六寸）　三十六錢

（ロ）杉松一付（四十寸）　四十二錢

（ハ）紅松一付（四十寸）　四十四錢

（八）上夾河（尙家河）

（イ）薪　百斤　七十錢

（ロ）炭　百斤　二圓四十錢

（九）撫順

（イ）松丸太　大　一本　十七錢

中　同　十二錢

小　同　八錢

（ロ）薪　百斤　一圓

（十）奉天

（イ）角材

杉松　長八尺　方一寸　十二錢－二十錢（平年ハ四錢位）

紅松　同　同　十七錢－廿一錢（平年ハ五錢－六錢）

椴木	長八尺	方一寸	十四錢
(ロ)丸太			
檁子	長一丈三尺 徑六七寸	一本	二十吊
梁材	長二丈二尺 徑一尺－一尺五寸	方一寸	十五吊
同	長二丈四尺 徑同上	同	
同	長二丈六尺 徑同上	同	
(十一)開原			
(イ)椏木	長八尺－一丈二尺 末口三寸	一本	三十錢
(ロ)梁材	長七八尺 徑一尺－一尺五寸	同	十五圓二十錢
(十二)昌圖			
(イ)棺材一組分		杉松	十二圓
同		紅松	十二圓
同		黄花松	六十圓乃至七十圓
(ロ)車材一車分		大	百八十圓
		小	百二十圓

（梁材三項ニ付）本年ハ品拂底シ三十吊ニテモ得難キコト多シト云フ

(十三)通江口

(イ)角材

紅松	長八尺	方一寸	六吊
杉松	同	同	四吊

(ロ)板材

杉松	長七尺五寸	巾一尺五寸 厚一寸五分	厚一寸ニ付 二吊
同	同	巾一尺七八寸 厚二寸三分	二吊五百文
同	同	巾二尺四寸 厚四寸	二吊八百文
同	同	巾二尺五寸 厚四寸	三吊二百文
同	同	巾二尺六寸 厚六寸	三吊二百文

(十四)法庫門

(イ)車材一車分	大	二百五十元	(内七十六元ハ鐵具代)
	中	二百元	(同)
	小	百八十元	(同)
(ロ)棺材一組分	大	四十八元	

中				三十元
小				二十元

(ハ)板

紅松	長七尺五寸	巾二尺厚六寸二分	一枚	十四元四角
同	同	巾一尺七寸五分厚一寸	一枚	三元五角
同	長五尺五寸	巾一尺内外厚五分	一枚	七角
椵木	長七尺五寸	巾七寸厚二寸	一枚	一元六角
茨楸	長五尺五寸	巾五寸厚一寸	一枚	一元一角

(十五)新民府

(イ)角材

紅松	長八尺	方一寸	四分二厘五
杉松	同	同	三分八厘三

(ロ)板材

椵木	一寸板 長七尺巾一尺	一枚	七十五錢
楸木	五分板 長二尺巾八寸	同	四十錢

楊木	一寸板長八尺巾一尺二寸	同	二圓十一錢

(八)九　太

楊木	長一丈末口一寸二三分	一本	九十五錢
同	長一丈元口二寸	同	三十錢
梁木(楊)	長一丈二尺徑一尺内外	同	十圓

以上説述シタル各地木材ノ商況ヲ能ク考フルトキハ北清一帶ノ地ハ日本材ノ現在及將來ニ於ケル好需要地タルコトヲ認メ得ヘキナリ且ツ近キ將來ニ於テ滿洲ノ經營及ヒ清國カ我誘道啓發ニ伴フテ木材ヲ要スル各種ノ事業勃興スルニ至ルヘキ氣運ヲ有スルニ於テヲヤ現ニ撫順炭坑ノ如キハ昨年十一月下旬ニ於テ一日ノ採炭五百噸ニ及ヘリ今後外征軍ノ全部凱旋ト共ニ益其事業モ擴張シテ一日ノ採炭量三千噸以上ニ達セシムヘキ計畫ナリト云ヘハ獨リ此一炭坑ノ事業ニ於テモ杭木ノ需要多大ナルヘシ其他鑛山、農業、工業、土木、新市街ノ建築之ニ伴フ清國人ノ設營等想來ラハ滿洲否北清一帶ノ地域ニ對シ木材ノ需要ヲ増スヘキコト其幾何ナルヲ知ル能ハサルヘシ今ヤ談論理想ノ時ニアラス宜シク適當ノ方法ノ下ニ之ヲ實行スヘキ好機會ナリト信ス

小官等視察ノ結果ヨリ得タル種種ナル材料ニヨリテ之ヲ計ルニ清國木材ノ平年相場ハ十立方尺ニ付約金五圓五十錢乃至六圓五六十錢ニシテ之ト同品位ト認ムヘキ日本木材ハ彼地ニ搬致シテ金四圓五十錢

乃至五圓五六十錢ニ販賣スルモ尙ホ數割ノ利益アルヲ見ル然ルニ開戰中淸國木材大ニ騰貴シテ金七圓乃至十圓內外ニ達シタルカ故ニ邦商カ不時ノ利潤ヲ得タル固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ
昨年十二月頃ノ大阪方面ニ於ケル松材、樅材等ノ相場ハ十立方尺ニ付樅ハ約二圓三四十錢乃至三圓內外、松ハ四圓乃至五圓位ナリ而シテ戰時中運賃ノ高キ時ニアリテモ大阪營口間ハ十立方尺ニ付諸雜費共ニ運賃一圓四五十錢ニ過キサリシ故ニ大ニ利益アリシナリ故ニ今後可及的運賃ヲ低廉ニスル方法ヲ採ルトキハ其利益モ亦從テ多大ナルヘシ

天津木材商况

三井物産會社ニテ調査

木材取調事項要領

一天津ニ於ケル重ナル需用材

　福州産杉材及樟木

　鴨緑江産各種松材、楡木及雜木

　北海道産松材、桂楢等ノ堅木材

　米國産松材、チーク材

一輸入木材及造材ノ種類

當地ノ木材ハ殆ント輸入ニ係ルモノノミニシテ其重ナルモノハ前項ニ揭ケタリ造材ノ種類ハ大約左ノ如クナルヘシ

　福州産杉材　（太九）　（長キモノモアレトモ多クハ短シ）

同	角材
鴨綠江產松材	角材 丸太（非常ニ長キモノアリ）
鴨綠江產堅木	角材
北海道產松材	角材 丸太 板材 貫キ
同　雜木	角材
米國產松材	角材 板材
同　チーク材	角材 板材

一輸入材ノ數量ニ就テハ天津稅關ノ表以外ニ據ルヘキモノナシ今左ニ一千九百〇四年（明治三十七年）ニ於ケル輸入高ヲ示スヘシ

支那各港ヨリ輸入セラレタルモノ

角材	三三、三一八兩	
丸太	八九、一五四兩	
板材	三六、〇九一兩	

外國ヨリ直接輸入セラレタルモノ

角材	九八、一五六圓	
貫キ	三、二四〇圓	
丸太	三、九二五圓	
板材	一二五、九一五圓	

合計　三九八、三四九兩

右表ノ中ニハ枕木ヲ含有セス枕木ハ稅關ノ表中鐵道材料中ニ包含セラルルヲ以テ其數ヲ詳ニスルコトヲ得サレトモ少クモ四五十萬本ヲ下ラサルヘシ

一前項ノ輸入木材ヲ國分ニスルコトハ統計ノ據ルモノナキカ爲メニ之ヲ示スコトヲ得サルハ遺憾ナリ

一當地ノ需用木材ノ造材及寸法

當地ノ需用木材ノ造材ニ付テハ第二項ニ述ヘタルカ如ク角、丸太、板等何レモ需用アリ寸法ニ至リテハ建築用トシテハ悉ク八尺ヲ土臺トスルヲ以テ八尺ヲ單位トシタル十六尺、二十四尺モノ等最モ

需用アリ之レ建築上無駄木ヲ生セサルカ爲ナリ又板材モ長サハ同シク八尺ヲ單位トシタルモノニテ巾七八寸ノモノ最モ需用多シ、松丸太ノ需用多キモ八尺ニシテ直徑（小口徑）五六吋ノモノナリ而シテ普通ノ家屋ニアリテハ木材ノ仕上ケ極メテ粗末ニシテ戸板、天井、床板ノ如キモ殆ント荒削ノ儘ヲ用キラル

一木材ニ附屬スル天然物ノ需用

一燐寸抽木

當地ニ於テハ未タ大ナル燐寸製造所ナキヲ以テ未タ一ノ商品トシテ取扱フニ値スル程ノ需用ヲ見ス他日必ス大ナル需用ヲ喚起スヘキコトアルヲ信ス

一薪炭材トシテハ附近ノ雜木、楊等ヲ使用ス然レトモ石炭ノ直段比較的廉ニシテ厨房又ハ暖室ノ裝置石炭ヲ用ユルニ便ナルカ故ニ其需用極メテ少シ日露開戰後我軍隊ノ需用ニ應スルカ爲メ輸入ヲ試ミタルモノアレトモ其以外ニ於テハ皆無トイフテ可ナリ

一茸類ノ需用ハ極メテ多シ我國ヨリ年年輸入セラルル高モ又少カラス昨年度ニ於ケル輸入高ハ一萬兩ヲ超ヘタリ

一木材商ノ問屋、仲買、小賣

當地ニテ木材ヲ取扱ヘルモノハ皆問屋ニシテ小賣ヲ兼ヌル者ノミナリ而シテ仲買ニ至リテハ他ノ棉

糸、又ハ羊毛ノ仲買ノ如ク之ヲ專業トセルモノナシ多クハ片手間仕事トシテ營ムノミ從テ問屋ト仲賣及小賣商ト仲買トノ間ニ口錢其他ニ付キ一定ノ關係ナシ

一木材商ニハ個人ニテ營業ヲナスモノト合資ニテ業ヲ營ムモノトアリ合資ニテ業ヲ營ム場合ニ於テハ利益分配ノ割合ハ出資ノ多寡ニヨルヲ普通トシ而シテ多クノ場合ニ於テハ出資者ノ一人カ業務ヲ擔當ス業務擔當者ハ利益ノ多少ニヨリ特別ノ報酬アリト雖モ之等ハ出資者間ノ合意ニヨルモノニシテ各秘シテ云ハサレハ之ヲ知ルコトヲ得ス

一木材商モ普通ノ商人ト同シク支配人即チ掌櫃以下ニ左ノ雇人アルヲ普通トス然レトモ他ノ商人ノ如ク雇人ノ數多キヲ要セサルカ故ニ一人ニシテ數役ヲ兼勤スルモノ多シ

- 掌櫃的
  - 先生—管帳的（計算方）
  - 同事
    - 管櫃的
    - 賣貨的
    - 買貨的—學買賣的
    - 砲街的
    - 管銀櫃的（出納方）

掌櫃的ノ給料ハ店ニヨリテ相違アレトモ大ナル店ニテ月ニ三十弗位ナリ管帳的ハ同事ノ内ニ入ルヘ

キモノナレトモ特ニ先生ト稱ス同事ハ最大ナルモノニテ月十七八弗小ナルモノハ三弗位ナリ學買賣的ハ二三年ノ年期奉行ヲナシタル後月ニ四五十仙ヲ給セラル學買賣ノ衣服等ハ父兄ヨリ支給スヘキモノナリ利益ノ多少ニヨリ掌櫃的以下同事ハ利益ノ配當ヲ受ケ勿論同事ノ内ニモ配當ニ預ラサルモノアリ其割合ハ普通掌櫃ハ純利益ノ一割ヨリ一厘位迄ノ配當ヲ受ク配當ヲ受クル資格アル同事ヲ股分同事ト稱ス

學買賣、同事等ハ多クハ他ノ推薦ニヨル我國ノ如クロ入宿ノ如キモノナシ

一木材商間ノ組合及規約其他ノ事項

當地木材商間ニハ木商公所ト稱スル一ノ組合アリ鴨綠江ヨリ來ル木材ニ關シ起リタル一ノ組合ニシテ其役員ハ木材商ノ撰ム所ナリ時トシテハ木材商人中ヨリ時トシテハ木材商以外ノモノヨリ撰ムコトアリ此組合ノ司ル所ハ商人對政府ノ事項其他鴨綠江材全般ニ涉ルコト鴨綠江ヨリ木材ヲ積來ル船舶ニ關スル件等ナリ但組合ニハ別ニ組合規約ナルモノアリ事件ノ起リタル每ニ決議ノ上之ヲ執行スル之カ維持法トシテハ各商人取扱ノ材木一千料ニ付十兩ヲ支拂フモノトス（一料トハ長八尺巾一尺厚七寸ヲイフ）

諸經費ヲ支拂ヒテ剩リタル殘金ハ積立テテ木材運搬中ノ船舶カ不幸ニ遭遇シタル塲合ノ救助費用ニ充ツ

右ノ組合ニハ鴨緑江材ヲ取扱フ凡ソノ商人悉ク加入シ一人ノ組合外ニ在ルモノナシ而シテ鴨緑江材以外ノ木材ノミヲ取扱フ商人ニハ更ラニ組合ノ如キモノナシ

一木材商ト政府トノ關係

木材商ヲ開始スルニ付テハ別段政府ノ許認ヲ得ルノ要ナシ何人ト雖モ隨意ニ營業ヲナスコトヲ得但シ營業ヲナス時ハ其街ノ紳薫ノ定ムル所ニヨリ所定ノ税金ヲ工部局ニ納ムルコトヲ要ス紳薫トハ街ニテ撰擧セラレタル委員ノ如キモノニシテ營業税ヲ定メ其街ニ關スル諸般ノ事項ニ參與ス營業税ハ營業ノ種類ニヨラス一等ヨリ六等ニ區分シ各等級ニヨリ納税セシム木材商ハ大抵三等乃至四等税ヲ納ム三等ハ十二圓四等ハ十圓ノ月税ナリ一等ニ屬スルモノハ重ニ銀行兩替屋等ノ如シ

一木材業ニ關スル政府ノ法令、又ハ天津市ノ干渉等

政府ノ法令ニシテ殊ニ木材商ノミニ關シ發布セラレタルモノナシ只木材ニ關シテハ政府ハ特ニ工部關ナルモノヲ置キ釐金以外ニ支那人ノ取扱フ木材ニ對シ通過税ヲ徵集ス其割合ハ枕木一本三分普通木材八尺(長)十四寸角ニ付キ六分六厘トス

一天津ヨリ輸出スル木材ノ數量及額價格種類及地方別之等ノ詳細ヲ知ルノ材料ナキハ大ニ遺憾トスル所ナリ只昨年海關ヲ通シテ各地ヘ輸出セラレタルモノハ總額三萬一千二百四十二兩ニシテ其多額ハ所謂 Sof-t-wood 各地ノ地方別ニシタル輸出高ハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ天津ヨリ輸送ヲ仰ク地方

ハ關ノ内外、北方、通州附近、保定府、北京、下西河、上西河、甸河、御河地方ニシテ直隷及山東ヲ重ナル得意トス

一天津ヨリ木材輸送ノ方法

天津ヨリ内地ニ入ルニ從ヒ河幅漸ク狹ク筏ヲ用ユルコト能ハス從テ輸送ハ悉ク艀ニ由ラサルヲ得ス運賃ハ普通何處マテ何程トイフ定メ多シ而シテ運賃ハ多クハ半額ヲ先渡シ殘部ハ荷物引渡後支拂フヲ普通トス荷揚及荷卸ノ人足賃ハ處ニヨリ率ヲ異ニシ支拂フヘキ金ヲ異ニス（例令ヘハ或ル處ニテハ文錢ヲ以テ或塲處ニ於テハ外ヲ以テス）レトモ平均枕木一本一仙木材一立方尺一仙位ノ割合ナリ荷馬車ヲ用ユルハ天津附近ニ限ラレ他ハ交運不便ノ爲メ使用セラレス

一運送中ノ費用

一船賃　前項ノ如シ

一稅金 ｛鈔　關　稅　三兩七錢五分
釐　金　稅　一兩八七五
工　部　關　｛道木（枕木）　三分
木材八尺　十四寸角　六分六厘

其他酒代、心付等ハ時ト塲所ト人トニヨリ異リ一定シタル高ナシ

一木材ニ關スル荷爲替、擔保及保險ノ事

木材ヲ内地ニ送付スル場合ニ荷爲替ヲ組ムコトナリ又海上保險ヲ附スルコトナシ荷爲替ヲ附セサル理由ハ田舍ノ買手ハ多クハ百性片手間ナルカ故ニ大高ヲ一尺ニテ引キ取ルモノナリ從テ爲替ヲ附スルモ支拂ニ差支ヲ來スカ故ナリ又舊來ノ習慣ニヨリ更ニ海上保險ヲ附スルコトナシ又陸上ニ在リテモ火災保險ヲ附スルモノ稀ナリ

一木材置場ノ借料又ハ使用料

木材商ハ各自置場ヲ所有シ借料ヲ支拂フテ他ノ地所ヲ賃借リスルモノナシ假リニ他ノ地所（河岸ノ木材置場ニ適當ナル場所）ヲ賃借リセントスレハ一耗ニ付キ月　　位ノ賃錢ヲ支拂ハサルヘカラス

一木材賣買ニ付キ代金支拂ノ慣習

外人ヨリ木材ヲ買入ルル場合ハ或ハ現金ナル事アリ或ハ十五日ヨリ九十日位ノ掛賣ナルコトアリ時トシテハ九九掛又八八掛ニテ支拂フ事アリ小賣ハ多クハ現金賣ニシテ九九掛ニテ支拂フヲ普通トス田舍ニ賣ル場合ニハ代金ハ大抵荷物ノ受渡後五六ケ月目ニシテ次回ノ注文ヲナス際前回ノ代金ヲ支拂フヲ普通トス時トシテハ田舍ヨリ天津ニ爲替ニテ代金ヲ送附スルモノ無キニ非サレトモ極メテ稀ナリ東溝（鴨綠江）材ニ在リテハ先約定ヲナササルヲ普通トシ代金ハ大抵受渡後三ケ月位ナリ

一木材受渡ニ關スル慣習

普通木材ヲ指スニハ壹百方寸ヲ土臺トス一百方寸トハ長サ八尺巾一寸即チ八十立方尺ヲ百方寸ト稱スルナリ而シテ長サハ八尺ヲ以テ土臺トシ八尺ヲ一連トイヒ十六尺ヲ二連ト稱ス又丸太ヲ指ス場合ニ於テハ最小徑ノ自乘ニ長サヲ懸ケタルモノヲ以テ其積トス角材ノ厚巾ニ付テハ一定ノモノナシト雖トモ一尺二寸以上ノモノ多シ板材ハ巾七八寸モノヲヨシトス受渡ノ際ハ長サハ尺以下ヲ計算セス巾厚サハ以下ヲ計算セス

一福州木材ノ事

福州ヨリハ昔ハ所謂民船ニヨリテ木材ヲ運搬シタリシカ滊船ノ運賃比較的低廉ニシテ速達スルノ便アルヲ以テ今ハ民船ニヨルモノナシ悉ク太沽洋行ノ滊船ニヨルモノナリ

一木材ニ對スル銀行ノ貸出部合

對物主義ヨリ對人主義ノ盛ニ行ハルル北清地方ナルカ故ニ抵當ニヨリ金圓ヲ借リ入ルル如キハ極メテ信用ナキ人ニ於テ始メテ見ル所ニシテ苟モ名ヲ有スル商賈ハ其商品ヲ以テ他ヨリ金ヲ借出スコトヲナサス從テ貸出金ノ部合等ハ人ニヨリテ異レリ利子ハ大抵年一割ナルカ多シ期限ニ限リナケレトモ短期ナルカ多シ

一福州丸太ニ長キモノ少キ理由

福州丸太ト雖モ電柱ニ使用シ得ル位ノ長丸太ナキニ非スト雖モ直段不廉ナルヲ以テ需用少ク從テ市

中ニ餘リ多キヲ見受ケサルナリ

一福州ヨリ角材ノ來ラサル所以

福州ヨリ來ルモノハ概シテ細キ杉丸太ニシテ角物少シ全クナキニ非サルナリ所謂板料トシテ輸入セラルルモノハ其角大ナラスト雖モ角材ト稱シテ差支ナキモノナリ蓋シ福州材ハ丸太ノ儘使用セラルルカ故ニ需用多ク大ナル角ヲ要スル場合ニハ福州以外ノ木材ヲ使用スル方割合ナルカ故ニ福州ノ角材ハ需用ナク從テ輸入ヲ見サルナリ

一角ト丸太トノ運賃ノ差

北清地方ニ在リテハ民船ハ悉ク借リ切リナルヲ以テ積込ム人ノ隨意ニ丸太又ハ角物ヲ積込ムコトヲ得從テ兩者ノ間ニ凡ソ何程ノ運賃ノ相違アルカハ明ナラス

一福州材ノ丸太ニ斧伐リト鋸挽キトアリ

斧ヲ用ユル場合ハ必ス根ヨリ伐リタル場合ニテ根ノ一部ヲ附着セシム故ニ之ヲ根結ト稱ス二間乃至三間物ニ始メテ鋸ヲ以テ要スル所ノ尺ニ切ルナリ鋸挽ト斧伐トノ間ニ樹種其他伐リ出シ場所ニヨリテ異ルニ非ス立木ヲ伐リ倒ス場合ニ斧ヲ用ヰ伐リ倒シタル立木ヲ切ル際ニ鋸ヲ用ユルナリ而シテ根ノ近キ方木質宜キカ故ニ根結ハ鋸挽ノモノヨリ其價貴シ

一福州丸太記號ナキトノ事

福州丸太ト雖モ總テ記號アルヘキ筈ナリ

一木材ノ車挽並ニ荷馬車積之事

當地ニ在リテハ木材ハ車及荷馬車ノ兩様ノモノニ積ミ敢テ車挽ノミトイフコトナシ車挽ニ多數ノ人間ヲ要スル理由ハ明白ナラサレトモ生活ノ低度當地ニ在リテハ賃銀ハ安クトモ勞力ヲ減セントスルノ主意ニ出ツルナルヘシト信ス

一日本産木材ノ樹種及木材ノ好惡

日本産トシテ當地ニテ知ラルルモノハ北海道松及堅木材殊ニセン、ナラ、タモ、桂等ニシテ材種全ク上等ナラサルヲ以テ日本産木材ハ質ノ良キヨリハ寧ロ價ノ廉ナルヲ以テ知ラル

一日本材ノ缺點

一概ニ説クコト能ハサレトモ當地方ニ於テハ赤味材大ニ尊ハルルニ北海道産松ハ白味ナルモノ多シ之レ缺點ノ一ナリ又使用後割裂收縮ヲ生スルハ使用ノ各方面ニ於テ不評判ヲ來スノ一ナリ又角材ノ長短モ大ニ注意ヲスヘキ點ナリ北海道ニ在リテハ木材ノ長三尺上リナルカ如シ然ルニ當地ハ八尺上リナルヲ以テ使用上大ニ不經濟ヲ來スコトアリ之當地向日本材ノ缺點ノ一ナリ其他棺材及器具材トシテ用ヰラルル枕木材ニ付テハ全ク苦情ヲ聞キタルコトナシト雖モ使用後大ニ狂ヲ生スルノ批難ハ免レ難シ要スルニ日本材カ當地ニ廣ク用ヰラルルニ至リテヨリ未タ日淺キカ故ニ比較的永キ時日ヲ

要シテ始メテ知ルヲ得ル耐久力等ニ付テハ未タ何等ノ聞ク所ナシト雖モ北清一帶ノ家屋ハ多クハ粗造ニシテ良造ノ必要ヲ見サルカ故ニ腐蝕及寸法ニ注意シ出來得ル限リ低廉ナル直段ヲ維持スルニ於テハ賣捌上差支ヲ見サルヘシ

一當地ニ於ケル木材商ノ種類

木材ヲ取扱フ商人ヲ分類スレハ重ナル者ハ

一、木材問屋　建築材、棺材、船材、車材、箱材等ノ卸賣並ニ小賣ヲナス

一、器具商
- 一、棺材商、所謂棺桶ヲ作ル商人ニシテ多クハ專門ナリ
- 一、器具商ハ椅子其他ノ家具ヲ作ルノ商人ナリ

一當地ニ於ケル木材ノ商況ハ近年漸ク發達シ來リ殊ニ器具商ノ如キハ常ニ繁忙ヲ極メツツアリ蓋シ西洋的風潮漸ク侵入シ來リタル結果ナランカ泰西文明ノ進入ハ程度ニ著シキ變化ヲ與ヘ家屋ノ建築ノ如キモ日ヲ逐フテ華美ニ移リツツアルヲ以テ木材商賣ハ益益發達ノ見込アルモノト信ス

一木挽賃ハ八尺四方五十仙ノ割合ナリ一日二人能ク一丈五尺（八尺巾）ヲ挽キ得ヘシ

一器械挽

人力以外ノ動力ヲ應用シタル木挽工場ノ如キモノナシ

又天津領事館ノ調査セラルル所ニヨレハ左ノ如シ

一天津ニ於ケル木材其材產物需給ノ狀況

北淸一帶ノ地ハ由來些ノ林地ヲ有セス從テ其要スル所ノ木材其他一切ノ林產物ハ悉ク供給ヲ他ニ仰ケルナリ今此地方ニ於ケル林產物需給ノ狀況ヲ記述スルニ當リテ看過シ得ヘカラサル事實アリ他ナシ日露開戰ノ結果鴨綠江材ノ輸入杜絕卽チ是ナリ故ニ開戰以前ト開戰以後トノ二期ニ分ツテ之ヲ別記スルノ要アリ

(甲)日露開戰前ノ狀況

天津ハ北淸ニ於ケル木材ノ中心市塲ニシテ當港ニ輸入シ來レル木材ハ其一部ヲ割キテ白河及ヒ數多ノ水運ニ由リテ更ニ北淸內地一帶ニ配分セラルルナリ

日露開戰以前ニ在リテハ當地輸入ノ木材ノ大部分ハ鴨綠江材ニシテ大東溝東大孤山ヨリ支那民船ニ積載シテ鹹水沽下廊庄白河沿岸天津ノ下流約三十哩ニ於テ之ヲ陸揚ケセリ此外尙ホ南淸材(福建ヲ主トシ漢口蕪湖九江杭州等ノ材ヲ指ス)ノ供給尠カラス瀛船ニテ輸入スル木材ニシテ稅關報告ニ淸國產トアルハ卽チ此ノ福建材ナリ而シテ其數額ハ鴨綠江材ノ輸入高ニ比スレハ遙カニ些額ナリ

三十七年ニ於ケル天津輸入高ハ開戰中ニ屬スルヲ以テ例年ノ標準トナストスト雖モ此兩種木材ノ供給力ヲ比較スルニ足ルナリ

支那民船ニテ輸入シ來リ鹹水沽下廊庄ニ陸揚ケシタル木材數ハ一四〇、一八〇本ニシテ就中天津ニ輸入シタル數ハ一二九、六五一本ナリ而シテ此額ハ約五三五、一二四、海關兩ナリ而シテ昨年中ノ福建材輸入高ハ板材ニ於テ六千四百兩角材ニ於テ四千四百兩合計一萬八百海關兩ニ過キサルナリ而シテ此等清國内國材ノ供給不足ハ外國材ノ輸入ニ由リテ補充シ來リタルモノニシテ本邦材主トシテ枕木、米國材、オレゴン松ノ角材ヲ主ナルモノトシ此外建築材ヲ海峽殖民地暹羅等ヨリ又器具材ヲ南洋諸島ヨリ輸入シ居リタルモ共ニ極メテ些額タルニ過キス當地方ノ需要ノ大宗タル家屋建築用材タル角材、板材ノ供給ハ前述ノ如ク殆ント全ク内地産ノ爲メニ市場ヲ獨占セラレ居タルモ本邦産鐵道枕木ハ輓近當地方ニ於ケル鐵道起業勃興ノ爲メニ試用サレタルモノニシテ爾來之レカ爲メニ本邦材ヲ當地ニ誘致スルノ端緒ヲ開ケルナリ

又米國オレゴン松材ハ橋梁大建築埠頭護岸其他土木工事用ノ材トシテ亦尠カラサル販路ヲ開キ居タルモノニシテ兩種木材合シテ

三十五年中	三二〇、二〇七兩
三十六年中	八一二、一九七兩

ヲ輸入シタリ

然レトモ家屋ノ棟梁、柱材、板材、家具車輛、棺材等ニ要スル木材ハ多年慣行ノ結果專ラ當國内國

材ノ獨點ニ歸セシモノニシテ本邦材等ノ到底販路ヲ拓クヲ允サヽリシモノナリ

(乙)開戰後ノ狀況

然ルニ開戰後ニ至リテハ鴨綠江材ノ輸入全ク杜絶シ北淸地方ニ於テハ痛ク木材ノ缺乏ヲ感シ在荷益拂底シテ價格益益騰貴セリ前年試ニ當地方ニ輸入セラレタル本邦木材ハ是ニ於テ急ニ頭ヲ擡ケ來リテ鴨綠江材ノ曩キニ占據シタル地步ヲ奪取シ今日ニ至リテハ最早ヤ容易ニ拔キ得ヘカラサル勢力トナレリ

本邦產輸入林產物

當地ニ輸入セラルル本邦木材ハ北海道產ノ松材ニシテ白味ヲ有スルモノニ限レルカ如シ其赤味ヲ有スルモノハ直段高ク從テ賣口尠ナシ又栓、櫧、楢、栗、桂等ノ硬材ハ角材トシテハ價格ノ高キカ爲メ需用少シ當地方ニ於テハ需用スル木材ノ種ハ殆ント角材ニ限レリト謂フモ過言ニアラス其寸法ハ一切、二切三切、ト稱スルモノニシテ一切ハ長サ八尺物(但シ支那尺ナリ)ヲ謂ヒ二切トハ其ノ二倍長十六尺ノモノニシテ三切トハ三倍長二十四尺ヲ謂フナリ即チ一切八尺ハ常ニ角材ノ單位トシテ用ヒラルルナリ直材ヲ計ルニハ八尺ヲ單位トシテ二切ハ一切ノ二倍三切ハ一切ノ三倍ノ如ク一ニ一切ヲ單位トシテ價格ヲ定ムルナリ

本邦ニ於テ價格ヲ定ムルニ當リテ長物ハ短物ニ比シテ多少ノ增率ヲ爲スヲ常トス之レ當地方ノ慣

行ト相反スルモノニシテ此點ハ殊ニ注意ヲ値スル端尺物ノ直段計上方ハ八尺以上ハ其長サ偶數尺ヲ加フル毎ニ其價格ヲ單位價格ノ四分ノ一宛高カメ偶數尺ニ滿タサル端尺ハ棄テテ價格ノ計算ニ加ヘス例ヘハ九尺五寸ノモノハ其價格單位價即チ八尺物ト同價ニシテ一丈モノナルニ至リテハ始メテ單位價格ノ四分ノ一ヲ加フルナリ此點亦注意ヲ値ヒス

二十四尺物ノ如キ長物ハ米國材競爭アリテ本邦材ハ之ニ打克ツコト能ハス蓋シ米國材ハ材價計上方總テ一定シ其長短ニ由リテ才ノ價率ニ差異ナキモ本邦材ハ長物トナルニ從ヒ才ノ價率高價トナルヲ以テ長物ハ自然高價トナルヲ免カレサレハナリ角材ノ幅員ハ長サニ從テ差等アリ即チ八尺物及ヒ十六尺物ハ十二吋乃至十八吋ノ幅員ヲ要シ二十四尺物ハ幅二呎以上ナルヲ要ス

以上ノ如ク當地輸入ノ材種ハ主トシテ角材ニシテ板材ノ輸入少キハ一見奇ナルカ如シ當地方ト雖モ決シテ板材ノ需用ナキニ非ス否最モ多大ナル板材ヲ要スルニ相違ナシト雖モ一ハ多年ノ慣行ト一ハ氣候ノ關係トヨリシテ角材トシテ輸入シ陸揚ノ後挽木トシテ板トナスナリ多年ノ慣行トハ鴨綠江地方ヨリ輸入スルニ當リテハ先ツ山元ヨリ筏ニ組ミテ長途ノ水上ヲ流下シ更ニ之ヲ大東溝大孤山ニ於テ支那民船ニ積載スルモノナルヲ以テ其間ニ於テ板材ハ破損シ易キヲ以テ鴨綠江材ハ專ラ角材トシテ來リシモノナリ

又當地方ハ氣候著シク乾燥セルヲ以テ板材トシテ輸入スルニ於テハ破目ヲ生ス若シクハ反リ返リ

テ用ヲ爲サヽルニ至ルヘキナリ故ニ板材ハ厚キ一寸物ヲ以テスルニ非ラサレハ適當ニ輸入スル能ハス

尤モ板ノ狹キモノ反リ返リ又ハ破損少ナキヲ以テ需用ナキニ非スト雖モ價値ノ安價ナラサル爲メ實際ニ於テハ輸入少ナシ

角材ノ九分通リ迄ハ實ニ板材ニ變造セラルルモノニシテ其法ハ低廉ナル木挽夫ニヨリテ角材ヲ十枚ニ挽キ落トシ若シクハ角材ノ周圍ヨリ順次板ヲ挽キ取リ挽キ殘シタル材ノ中身ハ適當ナル太味ヲ有セル角材トシ柱材棟梁ノ用ヲナスモノナリ

丸太材

丸太材ハ從來柱材若シクハ屋根裏ノ横木トシテ福州杉ヲ用ヒ來リシモ輓近同地方ニ於ケル山元漸ク供給力ノ手薄ヲ感シ來レルヲ以テ本邦杉丸太ノ入リ込ミ得ヘキ餘地尠ナシトセス之ノ外當地方ニ於ケル丸太材ノ使途ハ主トシテ工事ノ足場用及ヒ夏時ノ天棚用ノ外ニ出テス天棚ヲ要セサル冬期、工事ヲ休止スヘキ結氷期間ニ於テハ丸太材ノ需用全ク之ナキナリ

且ツ此等ノ用途ニ供スヘキ木材ハ畢竟一時ノ使用ニ止ヤリ消耗シ盡スモノニアラサルヲ以テ用途了レハ又轉轉シテ他ニ用ユルヲ得ルモノナリ但シ當地方ニ於テハ之ヲ賣買セスシテ賃貸借スルノ習慣アリ故ニ已ニ一定量ノ丸太材存在スル以上ハ自然ノ作用ニ依リテ朽敗ニ歸スルモノノ外絕エ

ス之ヲ補充スルノ要ナシ

鐵道枕木

鐵道枕木ハ鐵道用トシテハ實際其額ヲ減少セリ現ニ三十七年中關内外鐵道ニ於テ十二萬本京漢鐵道ニ於テ三萬本合計十五萬本ノ外北清地方ニ於テ鐵道用トシテ枕木ヲ需用セサリシモノナリ然然ルニ實際枕木ノ當港ニ輸入セラルルモノ右ノ要需ニ對比シテ甚タ過大ナルハ畢竟スルニ鴨緑江材ノ輸入昨春以降杜絶シタル爲メ本邦產枕木ヲ以テ普通用材（家具什器其他指物用ノ材）ニ代用スレハナリ

是レヨリ當地方ニ於テ指物用材トシテハ上等品ハ紫檀、楡木ヲ用ヒタルモノナルカ方今ハ之ニ代フル本邦產枕木ヲ以テス其材種ハ主トシテ栓、槲ノ兩種ニシテ桂楢等ハ多ク用ヒス

又從來棺材ハ福州產ノ杉ヲ以テ之ニ充テタリシカ近來同材ノ供給ハ不足勝ナルヲ以テ槲栓ノ枕木ヲ以テ之ニ代用スルニ至レリ

此ノ如クナルヲ以テ鐵道枕木ハ必スシモ之ヲ鐵道局ニ賣込マスシテ普通材ト同樣直ニ之ヲ木材商ニ賣込ムナリ

以上ノ用途ニ使用セラルル枕木ノ數量ハ實ニ鐵道用ト正ニ相半セルナリ以テ其用途ノ甚タ多大ナルヲ察スルニ足ル

又鐵道用ノ枕木ハ方今新工事未タ起ラサルヲ以テ其用途漸ク減少シ現今ニテハ單ニ線路ノ維持用トシテ需要アルニ過キサルナリ而シテ漸ク品質ノ良好ナルヲ選フノ傾向ヲ生セリ現ニ關内外鐵道ノ如キハ枕木ノ材種ハ栓櫟若シクハ桂ニアラサレハ之ヲ買入レス上等品ハ高價ニ關ラス之ヲ需用スルナリ一昨年本邦ヨリ當港ニ輸入セル木材價左記ノ如シ

角材、厚材	四三、一二〇兩
丸太材、杭	三、九二五兩
鐵道枕木	三三五、四六〇兩

價格

松角材	一立方尺	五十仙—五十五仙
松板材	同	六十五仙
松丸太	同	四十仙—五十仙
栓、櫟角材	同	六十仙—七十仙
同上枕木	一本ニ付	一弗三四十仙

以上ハ當地現今ノ市價ニシテ其概要ヲ示セルモノナレドモ當國人間ニ在リテハ現金拂、延拂（一ヶ月二ヶ月三ヶ月延）ニ由リテ差等アリ

需用上ノ趨勢並ニ將來ニ對スル見込

兩三年前迄鴨綠江材ハ專ラ當地市場ヲ獨占セルモノニシテ多年之カ使用ニ慣レタル當地木材市場ニ於テハ從來本邦材ノ入リ込ミ得ヘキ餘地ナク漸ク一昨年末ニ輸入サレシモ專ラ本邦人ノ需要ニ應スルニ過キサリシモノナリ然ルニ日露開戰後鴨綠江材ノ輸入杜絶シタル結果本邦松材ヲ續續輸入シ來リテ之ヲ試用シタル處其價格低廉ニシテ而カモ尤モ善ク用途ニ適合セルヲ發見シ日ニ增シ其需要ヲ增シ今日ニ至リテハ市場每ニ品切レヲ訴ヘ幾何量ノ松材アリト雖モ容易ニ引足ラサルノ盛況ヲ呈セリ

想フニ今後兩三年後ニ至リテ例ヘ鴨綠江材再ヒ當地市場ニ立現ハルルニ至ルモ到底北海道松材ノ敵タルヲ得サルヘシ其理由ハ主トシテ値段ノ相懸絶セルニ在リ本邦松材ハ前述ノ如ク當地ノ市價一立方尺銀五十仙ニ過キサルニ鴨綠江材ハ常ニ六十乃至六十五仙ノ高値ヲ示シ居レリ今他ノ實例ニ據リテ之ヲ立證センニ本邦材中ノ栓槲ハ鴨綠江材ニ比シテ其樹稍粗末ナルヲ免レスト雖モ實用上ヨリ視テ多ク遜色アルコトナシ即チ實用上殆ント鴨綠江材ト同位ニ在ル本邦產栓槲ノ如キモ枕木トシテハ多大ナル需用ヲ要スルモ木材トシテハ當地ニ輸入シ來ルモ松材ニ比シテ高値ナルヲ以テ更ニ其賣行少カラサルヲ視ル他日鴨綠江材ノ當地再現ノ結果ヲ想像スルニ難カラサルナリ

當地方家屋建築ニハ主トシテ磚瓦ヲ使用シ木材ヲ使用スルコト比較的少キト又木材ニハ必ス塗料

ヲ使用スルノ習慣アルヲ以テ家屋建築ノ用材トシテハ必ズシモ樹質堅硬ナルモノヲ使用スルノ要ナク本邦產松材ニテ充分ナリ故ニ木材トシテハ本邦產松材ノ前途極メテ多望ナルヲ確信スルモノナリ

又枕木ハ前ニ述ヘタルガ如ク普通指物材トシテ多量ニ使用セラルルヲ以テ其價格大ニ騰貴スルニ非サレハ尚ホ多量ノ輸入增加アルヘシ蓋シ枕木ヲ以テ普通用材ニ供用スルハ尚ホ天津地方ニ限リ居レリ北京其他ノ地方ニ在リテハ未タ之ガ利用法ヲ知ラサルカ故ニ北清一帶ノ地方ニ於テ之ヲ普通用材ニ使用スルニ至レハ之カ需用額ノ增倍スヘキハ多ク說クヲ要セサルヘキナリ

其他ノ林產物中經木ハ全ク輸入ナク樟腦椎茸ハ左シテ重要ナル輸入品トシ視ルニ足ラザルガ如シ昨年中ニ於ケル輸入高ハ

椎茸	外國ヨリ	七八〇兩
	清國他港ヨリ	九、六五五兩

ニシテ

樟腦	本邦ヨリ	一一、九六八兩
	香港ヨリ	四、二八二兩
	上海ヨリ	八、三九一兩

ナリ但シ上海ヨリノ輸入ニ係ルモノハ其國別不明ナリ

燐寸

北清向キノ燐寸ハ專ラ危險燐寸ニシテ安全燐寸ノ如キハ到底當國人ノ需用ニ適スル能ハス僅カニ本邦人並ヒニ諸外國人ノ間ニ使用セラルルニ過キサルナリ蓋シ當地方ノ民度甚タ低ク燐寸ノ小賣ハ小箱ヲ單位トシテ賣買スルニ非ラスシテ小箱中ノ摺木一本ヲ單位トシテ賣買スルモノナレハ安全燐寸ハ一箱ヲ買入ルニ非ラサレハ點火スルニ由ナキニ反シ危險燐寸ハ何物ニ之ヲ摩擦スルモ容易ニ點火スルカ故ニ當地方大多數ノ要請ニ適應スルヲ得ザルナリ

昨年ノ總輸入高ニ就テ兩種燐寸ノ概數ヲ求ムレハ

危險燐寸	三九、一三〇箱
安全燐寸	一、八〇〇箱

ナリ

燐寸ハ殆ント本邦產ノ獨占ニ歸セルモノニシテ他ニ競爭品アルコトナシ僅カニ印度產ノ競爭アリタレトモ軸木粗惡ニシテ値段格高ク且ツ安全燐寸ノ外產出セサルヲ以テ到底我カ敵ト爲スニ足ラス

明治三十七年中ノ燐寸純輸入數量額左ノ如シ

本邦産　四、〇九三、〇二〇擔
　　　　八八四、三九七兩
外國産　九、四七六擔
　　　　八、五二八兩

ナリ

戰時ニ際シ原料品（パラピン）ノ價格騰貴ノ爲メ燐寸ノ價格一箱ニ付キ二四弗方ノ騰貴ヲ告ケタルニ關ラス在荷毎ニ拂底ニシテ已ニ來春マデノ注文調ヒ居レル現況ニ徵シテ之ヲ察スルモ今後本貨物ニ對スル需要ハ多多益益增倍スヘク前途ノ見込極メテ多望ナリト思料ス

燐寸ニ關シテハ本邦產ヲ以テ殆ント市場ヲ獨占セルニ關ラス當業者間ニ在リテハ徒ラニ競爭スルノ結果品質粗惡トナレルノ苦情尠カラズ誠ニ有害無益ノ競爭ナルガ故ニ此點ニ關シテハ充分省慮改良スルヲ要ス

外國產木材輸入ノ概況之カ需要上ノ趨勢當地ニ販路ヲ有スル外國材トシテハ僅カニ少額ノオレゴン松及チーク材ノ兩種アルニ過キス

チーク材ハ船舶竝ヒニ鐵道材料以外ニハ殆ント其需要ヲ見ス又オレゴン松ハ棧橋、護岸、其他土木工事大建築用トシテ長物ノ必要ナル場合ニ於テ多ク之ヲ使用スルモ其需用限リアルヲ以テ將來

多額ノ輸入ヲ見ルコトナカルヘシ尤モ昨春來鴨綠江材ノ輸入杜絶ノ爲メ一時此種ノ材ヲ需要シタリシモ其價格一立方尺實ニ七十仙ヲ超ユルヲ以テ遂ニ我カ北海道松材ノ爲メニ厭倒セラレタリ想フニ今後極メテ甚ダシキ木材ノ窮乏ヲ訴フルニ非サレハ當國人ノ間ニ此種ノ外國材ヲ需要スルコト無カルベキナリ

三十七年中當港輸入オレゴン松チーク材ノ價格左ノ如シ

オレゴン松（木材厚板）	一一八、一五一兩
チーク材	二二、九三三兩

ニシテ本年上半季ノ輸入高左ノ如シ

オレゴン松（木材厚板）	一七八、三五八兩
チーク材	八、七五〇兩

以上

營口木材情況一班

今當地ニ於ケル主ナル清國木材商店名及其資力ヲ示セハ大略左ノ如シ

店名	資本金	所在地
怡豐	一萬兩	東營子
永豐泰	一萬兩	同
豐利成	五千兩	同
協和興	六千兩	同
益盛長	六千兩	同
興順隆	五千兩	同
永和公	八千兩	同
東盛公	四千兩	同
東福增德	四千兩	同
永泰興	三千五百兩	西營子
宏興順	四千兩	同
西福增德	五千兩	同
成記	四千兩	同
聚盛厚	六千兩	同

義興盛	四千兩	同
德發順	五千五百兩	同

又左ニ各種清國材木ノ用途及原料ノ寸法清尺幷ニ其相場ヲ掲ケ聊カ當業者ノ參考ニ資セントス

名稱	用途	直徑	長	價格		產地
杉松	家屋建築材料	角 丸 一尺乃至二尺	角 八尺乃至二丈三四尺 丸 三丈五尺乃至四丈	料	角 三元五角 丸 二元五角	大孤山、大東溝
赤柏松	富豪家ノ棺材	同 一尺內外 同 ナシ	同 八尺內外	付	同 五十五元	同上
黃花松	皇室ノ建築用又ハ富豪家ノ棺材	同 同 一尺乃至二尺	同 同 一丈乃至二丈四五尺	料	同 五元	同上
核桃楸	上等家具用ナレトモ需用少ナシ	同 同 一尺乃至二尺	同 同 一丈六尺乃至三丈四尺	同	同 四元 同 三元	同上
椰松 一名紅松	家具建築用ナレトモ杉松ニ比シ稍上等ナリ	同 同 一尺乃至二尺	同 同 一丈六尺乃至三丈二尺	同	同 四元五角 同 三元	同上
椵木	彫刻ヲ要スル建築材料	同 同 一尺乃至二尺	同 同 一丈六尺乃至二丈四尺	同	同 四元五角 同 三元	同上
莿楸	菓子其他家具用	同 同 一尺乃至二尺	同 同 一丈六尺乃至二丈四尺	同	同 四元五角 同 三元	同上
柞木	小ナルハ木炭ヲ製シ大ナル者ハ船材又ハ車輪ニ用フ	同 同 一尺內外	同 同 一丈乃至二丈一二尺	同	同 四元三角 同 三元	各地ヨリ產出スレ共遼陽產最モ多シ
榆木	船材及馬車及房用	同 少シ 同 一尺三四寸	同 同 一丈乃至二丈一二尺	同	同 四元三角	同上
色木	鐵道枕木又ハ櫂及油坊ノ柞油棒並ニ天秤等ニ用ユ	同 同 一尺內外	同 同 七尺乃至一丈七八尺	同	同 四元三角 同 三元	大東溝及遼陽
楚榆	車軸及舵及舵幹等ニ用ユ	同 ナシ 同 七寸乃至一尺	同 同 六尺乃至一丈七八尺	本	長六尺徑七寸 同 四元	大東溝及遼陽
杏木	富豪家ノ棺材及車輪	同 一尺一二寸 同 八九寸乃至一尺餘	同 同 八尺內外	料	同 六元 同 四元	同上
黃榆	車轅及小舟ノ舵幹等ニ用ユ	同 同 五寸乃至九寸	同 同 一丈八尺乃至二丈	本	長一丈八尺徑五寸ノモノ約五元五角	同上

黄蘗檬	各種家具用	角二三寸乃至二尺 丸八九寸乃至一尺	角八尺乃至一丈四尺 丸八尺乃至二丈四尺	料	同四元	同上
水曲檬	大小船舶ノ舵板及船體ノ修繕用	同二尺乃至二尺五寸 同一尺乃至三尺	同八尺乃至一丈 同一丈三尺乃至三丈四尺	料	同四元五角	大東溝
椰木	下等社會ノ棺材及車輪ノ一部ニ用ユ	同ナシ 同八九寸乃至一尺三四寸	同 同八尺乃至一丈	本	長一丈徑一尺ノモノ約四元五角	大東溝大孤山及遼陽
[illegible]木	富豪家ノ棺材又ハボート及檣並ニ三般船材ニ用ユ	同 同八九寸乃至一尺二三寸	同 同八尺乃至五六丈	同	長一丈六尺徑一尺ノモノ一本ニ付約廿二元	南清江西南地方
廣枝	權衡用ナレトモ棺木ニ比シ需用少ナシ	同二三寸 同ナシ	同六七尺	本	長七尺徑三寸ノモノ二元半	同上
楊木	鐵道枕木及家屋建築材料	同ナシ 同七寸乃至一尺三四寸	同一丈乃至二丈二尺	本	長七尺徑三寸ノモノ二元半	大東溝遼陽其他各地ニ産ス
櫚木（一名女兒木）	各種器具用銃身掌	同 同七八寸乃至一尺二三寸	同一丈乃至一丈七尺	本	長二丈六七尺徑二尺二三寸ノモノ一本ニ付約十元	大東溝
槐木	家屋建築材料	同 同五寸乃至一尺四寸	同一丈乃至一丈五尺	本	長一丈五尺徑二尺二三寸ノモノ一本ニ付七元	大東溝及遼陽
油木	家屋建築材料ニシテ専ラ棟梁ニ用ユ	同ナシ 同七八寸乃至一丈二三尺	同一丈乃至二丈	本	長一丈徑七八寸ノモノ約一元	各地ニ産出スレトモ遼陽産最モ多シ
樺木	一般船材	同 同七寸乃至一尺二三寸	同一丈乃至二丈	料	同三元九角 同	遼陽
カーラミ木（文字石桑）	舵幹舵柄用	同七寸 同八九寸	同一丈	本	同四十元 同四十五元	江南江西
南楸	各種家具用	同巾一尺厚七八寸 同ナシ	八尺乃至一丈四尺	料	同四元半	同上
樟木	専ラ衣櫃ニ用ユ	同巾一尺二寸 同厚二寸	同八尺	枝	同 同十一元	同上
南柞	舵及舵幹舵柄等ニ用ユ	同巾一尺 同厚八九寸	同一丈	料	同 同七元半	同上
赤榆	車輪車軸及舵舵幹舵柄等ニ用ユ	同ナシ 同六寸乃至一尺三寸	同ナシ 同二丈乃至三丈	本	長三丈徑二尺二寸ノモノ約四十五元	大東溝
蘇木	綸布類ノ染料及權衡等ニ用ユ	同一寸乃至四寸	同五六尺	斤	同 同八分	江南江西地方

以上ハ三井物産會社ニシテ曾テ調査セラレタル一節ヲ錄シタルモノナリ

今又明治三十九年一月小官ノ調査スル所ニヨレハ左ノ如シ

營口ノ木材商況ハ前年ト比スルニ大ニ狀況ヲ異ニシ殊ニ日露開戰ノ結果俄然其價騰貴セリ且鴨綠江材ノ輸出ヲ禁セラレタルカ爲メ木材ノ營口ニ來ルモノ寥寥トシテ昨年來殆ント賣買ナキカ如シ今在營ノ淸商十八軒ニ付キ調査スルモ價格區區ニシテ一樣ナラスト雖トモ參考ノ爲メ左ニ錄ス

但營口ニ於テハ七十寸ヲ一料トス

杉松（白松）	一料ニ付	平年三元	今年五元三
紅松（菓松）	同	平年三元五	今年七元三
黃花松	稀少ニシテ相場立タス		
楡木丸太	一料ニ付	平年三元	今年四元五
同角材	同	平年四元	今年六元五
柞木丸太	同	平年四元	今年五六元
同角材	同	――	今年七元
茨楸丸太	同	平年三元	今年四元五
同角材	同	平年三元八	今年五元六
大標	長一丈五尺（連二）徑二尺五寸以下		七兩五錢
同前	徑一尺五寸以上三尺以下		十五兩

大杆子　長四丈二尺徑二尺二三寸ノモノニシテ紅松ナラハ

二十三兩

同前　杉松　十八兩

中杆子　長三丈六尺徑一尺七寸　紅松（四丈二尺）十三兩

同前　杉松（四丈二尺）九兩

小杆子　長二丈六尺徑一尺以下ノモノ名ケテ大六八寸小六八寸ト云フ

大六八寸　二兩

小六八寸　一兩二——一兩八三

大東溝ニ於ケル昨年ノ相場

料板一付	八百寸ノモノ	十六兩
同	一千寸ノモノ	二十兩
同	一千五百寸ノモノ	三十兩
同	二千寸ノモノ	四十兩
同	二千五百寸ノモノ	五十兩

以上ハ大東溝ニ於テ取引スル價格ナリ營口ニテハ近年商賣ナキカ故ニ確タル相場ナシ

車軸ハ毎一根ニ付昨年　二元五　今年ハ三元五內外ナリ
目下木材缺之ノ場合ナル故ニ紅松一料ノ價ハ大ナルモノ十二元ノ高價ニ達セリ
當時營口ニ於ケル清商（木材）ノ主ナルモノ左ノ如シト云フ

永和公	豐利成	福增德	永豐東	同興順	普和祥	怡豐號	榮春興
永成號	德　記	聚誠厚	義成號	東森茂	成　記	義盛長	興順隆
德成公	德發順						

通江口ノ記

一、造船費

遼河水運ニ用ユル船舶ノ建造費大約下記ノ如シ

船名	
牛船(十年以上ノ新造費)	約四百元内外
槽船(十年以前ノ新造費)	五百元以上六百元以内
牛船(四五年前ノ新造費)	五百元以上六百元以内
槽船(四五年前ノ新造費)	七百元以上八百元以内
牛船(現今ノ新造費)	六百元内外
槽船(現今ノ新造費)	七百元以上八百元以内

牛船ノ新造ニ要スル材料費ノ梗概ハ左表ノ如シ

材料	産地	用途	寸法	數量	十年以前ノ價格		四五年前ノ價格		現今ノ價格	
					單價	總額	單價	總額	單價	總額
松材	吉林 長春	船體	長二丈三尺乃至二丈四尺 直徑一尺五寸乃至一尺八寸	三	円 三〇、〇〇〇	円 九〇、〇〇〇	円 四五、〇〇〇	円 一三五、〇〇〇	円 六〇、〇〇〇	円 一八〇、〇〇〇

同	同	舵	長七尺五寸厚三寸 幅五六尺	一	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
同	同	甲板	長七尺五寸厚四寸 幅二尺四寸	四	八,〇〇〇	三二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一二,〇〇〇	四八,〇〇〇
同	海龍城	檣	長四丈上部直徑五寸乃至六寸 下部直徑九寸乃至一尺	一	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
同	海龍城	桅	長一丈六尺 直徑六寸	一	五,〇〇〇	五,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
楡材	當地附近	船底内部横木	長一丈二尺 方三寸	七	二,〇〇〇	一四,〇〇〇	三,〇〇〇	二一,〇〇〇	四,〇〇〇	二八,〇〇〇
同	同	同	長四尺乃至六尺 方三寸	七	一,〇〇〇	七,〇〇〇	一,五〇〇	一〇,五〇〇	二,〇〇〇	一四,〇〇〇
同	同	上部船腹	長二丈四尺 直徑一尺二三寸	一	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
桐油	一	一	一	一桶	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇
豆油	一	一	一	五十斤	〇,〇六〇	三,〇〇〇	〇,〇八〇	四,〇〇〇	〇,一〇〇	五,〇〇〇
釘	一	一	一	七百斤	〇,一〇〇	七〇,〇〇〇	〇,一二〇	八四,〇〇〇	〇,一五〇	一〇五,〇〇〇
合計	一	一	一	一	一	三七三,〇〇〇	一	三七〇,五〇〇	一	四八八,〇〇〇

寸法欄内記載ノ尺度ハ不匠尺ト稱シテ一尺ハ我ガ曲尺ノ一尺〇二分ニ相當ス

清暦十一月乃至十二月ノ間ニ於テ吉林、寛城子及海龍城方面ヨリ普通車輛ヲ以テ松材ヲ運搬シ來リ當地河岸ニ在テ造船ニ着手ス而テ運搬費ハ松材ノ價格中ニ含蓄ス又タ桐油ハ悉ク營口ヨリ毎日載シ來ルモノヲ用ヒ豆油ハ當地附近ノ産出ノモノヲ使用シ釘ハ營口輸入ノモノト當地鍛工ノ製作ニ係ルモノトヲ併セ用ユト云フ而テ牛船新造ニ要スル工賃ハ大略下記ノ如シ(宿料雜費等ヲ併算)

工費	延數	十年以前ノ賃額 單價	十年以前ノ賃額 總額	四五年前ノ賃額 單價	四五年前ノ賃額 總額	現今ノ賃額 單價	現今ノ賃額 總額
船大工賃金	一四四人	〇、三〇〇	四三、二〇〇	〇、六〇〇	八六、四〇〇	〇、九〇〇	一二九、六〇〇
雜役夫賃金	一六〇	〇、一五〇	二四、〇〇〇	〇、三〇〇	四八、〇〇〇	〇、五〇〇	八〇、〇〇〇
食料	三〇四	〇、一〇〇	三〇、四〇〇	〇、一五〇	四五、六〇〇	〇、二〇〇	六〇、八〇〇
木挽賃	三〇枚	〇、六〇〇	一八、〇〇〇	〇、八〇〇	二四 〇〇〇	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇
合計		一	一一五、六〇〇	一	二〇四、〇〇〇	一	三〇〇、四〇〇
總計		一	三八八、六〇〇	一	五七四、五〇〇	一	七八八、四〇〇

一日船大工十八人雜役夫二十八人ヲ使用セハ克ク八日間ニ一隻ノ牛船ヲ建造シ完ルト云フ當地方一帶ニ於ケル船主ノ新ニ船隻ヲ建造スルニ際シテ必ス一回ニ五隻乃至十隻ヲ共造スルカ故ニ材料工賃其他雜費等總テ前掲ノ計表ニ比シテ多少ノ低廉ニ支辨シ能フ乃チ前記二個ノ計表ハ畢竟一隻分ヲ抽象セシモノニ過キサルカタメ數隻共造ノ實際ニ對照セハ自然高貴ヲ不免且ツ該計表ニ掲クルモノト牛船建造ノ工料ナルヲ以テ槽船新造ニ際シテハ尚ホ二、三割以上多額ノ工料ヲ要ス而テ槽船ヲ建造スルノ船大工ハ悉ク山海關裏若クハ天津方面ヨリ出稼シ來ルモノニシテ當方面一帶ノ船大工ハ單ニ牛船ヲ建造シ得ルニ過キス

槽船建造ノ技術ニ至リテハ未タ彼等ノ企及シ得ル處ニアラス乃チ當年新ニ數隻ノ船舶ヲ建造セント

欲スルノ船主ハ氣節冬季ニ入ルト同時ニ材料蒐集ノ準備ニ着手シ年内ニ該準備ヲ終結シ翌春早早船匠、役夫ヲ募集シテ以テ新造ニ着手シ優ニ解氷期以前ニ於テ該數隻ノ建造ヲ完了ス而テ船材トシテノ檜樹ハ多ク吉林、寛城子方面產出ノモノハ單ニ檣桅ヲ造ルニ不過即チ後者ハ前者ニ比シテ建造後多ク罅裂ヲ生スルカ爲メナリ又タ船主ハ年年開河以前ニ於テ所有ノ船隻ニ對シ必ス一回ノ定期修理ヲ加ヘサルヘカラス該修覆ニ要スルノ工費ハ一隻六十圓乃至八十圓ヲ下ラス而テ牛船ハ十年後槽船ハ十四五年後充分ノ修繕ヲナスニアラサレハ再ヒ用ヒ難シト云フ

二、船舶ノ容積

遼河ノ水量ハ時季ニ由テ著ク增減ス隨テ船舶ノ裝載ノ容積モ亦タ差アリ乃チ雨期以降水量增大セル際ニ於ケル積載量ハ左ノ如シ

牛船	大豆	五六十石
槽船	大豆	八九十石

春秋ノ二季即チ河水少量ノ際ニ於ケル積載量ハ左ノ如シ

牛船	大豆	二三十石
槽船	大豆	三四十石

當通江口ニ於ケル大豆ノ斤量ハ三百八十斤ヲ以テ一石トシ營口ニ於テハ三百八十斤ヲ以テ一石トス

三、船頭以下船夫ノ人員

牛船ノ乘員ハ三個或ハ四個槽船ノ乘員ハ五個或ハ六個ニシテ每船各一個ノ船頭(家長ト云フ)アリ航走ノ際操帆ヲ掌リ居常船中諸般ノ監督ニ任ス爾餘ノ船夫モ亦タ其司掌ニ因テ階級ニ等差アリ而シテ一船主ノ所有ニ係ル牛槽船四隻乃至五六隻ヲ一組トシ(之ヲ邦船ト云フ)

船主自ラ彼等カ船頭ノ中ヨリ才識卓越ノモノヲ拔擢シ彼ヲシテ船頭ノ殘務ヲ執ルノ傍該邦船ニ於ケル貨物ノ積載揚陸ヲ受理シ納稅ヲ代辨シ運賃ヲ保管シ食料燃料其他必要品ヲ購求支辨スル任ニ當ラシム之ヲ把頭ト云フ把頭ハ即チ適宜ノ帳簿ヲ備ヘテ收入支出ヲ明記シ秋末ノ決算季ニ到テ夫夫勘定ノ分配ヲ終結シ玆ニ責務ヲ完了ス而テ一人ノ把頭ニシテ尙ホ克ク二組三組ノ邦船ヲ管スルモノアリ又所有ノ船隻少數ニシテ一邦船ヲ組織シ能ハサルノ船主アランカ該船主則チ知己ノ船主ニ托シテ彼ノ邦船中ニ自己ノ船隻ヲ組入ルヽコトアリト云フ

四、當地ト營口間トノ往復日數及ヒ一年間ノ平均航回數

河水少量ノ際ハ當地ヨリ營口ニ到ルニ尙且ツ二十日乃至三十日ヲ算ス故ニ此ノ日數ヲ往復ニ倍大ノ日數ヲ要ストセハ一ケ年間ノ回航數モ亦タ兩三回ニ過キス然レトモ水量ニシテ一タヒ增大センカ克ク六七日ニシテ到達シ能フ故ニ此ノ日子ヲ標準トセハ往復二週日ヲ不逾元來河身瘦セ河床淺ク且ツ年年雨期ニ際シテ必ス流域ヲ變更スルカ如キノ河流ニ帆走ノ小舟ヲ泛フルナレハ風位ノ順逆水量ノ

多少ニ依テ遲速一定セス到底的確ノ往復日數ヲ知得シ難シ唯タ早クシテ二週日以内晩クシテ四五十日前後ト云フヲ知ルニ不過乃チ此等ノ日數ヲ平均シテ一回往復ニ要スル日子ヲ約三十日内外ト看ハ一年ノ回航數六回乃至八回ト見積ルヲ得而シテ從來一ヶ年ノ平均往復航行數七八回ヲ超ヘストハ當地船店其他當事者ノ言明スル所ナリ則チ兩兩對照シテ一回往復ノ日子大約三十日一ヶ年ノ回航數大略七八回ト積算セハ恐ラクハ大差ナキニ近カランカ

五、歸航ノ載貨

邦船歸航ノ際ハ雜貨或ハ鹽ヲ裝載シ來ル其容積亦水量ノ增減ニ依テ差異アルヲ不免則チ河水少量ノ時ハ雜貨七八十件或ハ鹽十石水量多大ノ際ハ雜貨百二三十件或ハ鹽十五石而シテ雜貨幷ヒニ鹽ノ重量及ヒ運賃ハ下記ノ如シ

品名	數量	斤量	十年前ノ運賃	四五年前ノ運賃	現今ノ運賃
雜貨	一件	一二〇斤 一三〇	約半元	約一元	約三元
鹹鹽	一石	六〇〇營口 四八〇通江口	約一元半	約二三元	客年當地ノ市價營口ニ比シテ廉ナリ故ニ輸入ナシ今年軍糧輸送ノタメ輸入ナシ

何レノ船隻ヲ不論必ス歸航ニ際シテ雜貨若シクハ鹽ヲ積載シ得ルモノト假定スル不能蓋シ鹹鹽ノ如キハ當地一帶ニ於ケル各商家ノ購買セシモノヲ載運スルニ過キスシテ一般需用ニ對シテ供給スヘキ

性質ヲ帶フルモノニアラス隨テ載運ノ數モ自ラ限リアリ又雜貨ノ如キ往往品切レノタメ其他種種ノ理由ニ依テ裝載スヘキ貨物ナキ時アリ如此場合ニ際シテハ船主自ラ資ヲ投シテ（或ハ把頭代辨シ保管ノ運賃ヲ流用シテ支辨スルコトアリ）鹽ヲ買收シ更ニ當地ニ船載シ來リテ轉賣ス以テ遠ク北方一帶ノ地ニ供給セルモノノ如シ而シテ鹽一石ノ賣買價格ハ畧右ニ記スルカ如シ

地名	價目	數量	十年以前ノ價格	四五年前ノ價格	現今ノ價格
營口	買價	一斗	拾五錢（一串）	參拾錢（二吊七八百）	六拾錢（四吊）
通江口	賣價	一百斤	半元	一元	三元

鹽ノ賣買單位ハ則チ營口ニ於テハ一斗當通江口ニテハ一百斤トス而シテ鹽一石ノ斤量ハ營口ニテ六百斤當地ニ於テ四百八十斤乃至五百斤ヲ算ス其相異ハ畢竟枡ノ大小ニ基因スルニ過キス一斤ノ重量ニ至テハ彼此同樣ナリト云フ

六、官衙ニ納ムル諸掛金

毎年解氷期ニ先チ奉天將軍特ニ吏員ヲ簡派シテ各船主ノ所有ニ係ル船舶ノ全數ヲ檢査シ毎一隻ニ對シ各一個ノ船票ヲ給與以テ一面ニ航運ヲ許可シ一面ニハ河水多大ノ際ニ於ケル積載量即チ最高度ノ容積ヲ登記シ該額ヲ標準トシテ夫夫稅額ヲ徵收ス今船主ノ負擔ニ屬スル捐稅及運賃內ヨリ支辨シ納

付スル捐税ヲ略記セハ即チ左表ノ如シ

負擔者船主荷主運賃

税目	税額	大豆 標準額	大豆 税額	雜貨 標準額	雜貨 税額	鹹盬 標準額	鹹盬 税額	大豆 標準額	大豆 税額
船票税	大 七、八元 小 五、六元	同	同	同	同	同	同	同	同
河税	同	同	同	毎一件	六百文（約八錢一厘）	一百吊（約十三元半）	三吊（約四十錢）	毎一斗	四成（約五厘四〇）
斗捐	同	毎一斗	一成三厘五毛（約一厘六八）	同	同	同	同	同	同
補門捐	同	毎一斗	一成（約一厘三五）	三千件	二吊（約二十七錢）	三千斤	二吊（約二十七錢）	同	同
河防捐	同	同	同	毎一件	四百文（約五錢四厘）	百斤	一百文（約一錢三厘五毛）	毎一斗	二成五（三厘三七）
船隻河防捐	同	同	同	同	同	同	同	毎一隻	八吊（一圓八錢）
釐金税	同	同	同	一百吊（約十三元半）	八百六成八（約十一錢七厘三毛）	同上	同上	同上	同上

原來河税、河防捐ハ總テ運賃中ヨリ支辨納付スヘキモノナレトモ方今規約行ハレス雜貨鹹盬共ニ全然荷主ノ負擔ニ屬ス而シテ大豆ニ於ケル河税河防捐ノ如キモ目下往往荷主ニシテ負擔セサルヲ得サル場合アリト云ヒ或ハ規約全然改正セラレテ本年ヨリ荷主ノ負擔ニ歸スト云ヒ所說區區ニシテ定ラス雖然是レ畢竟戰亂流離ノ餘波ヲ受ケ未タ平素ノ秩序ヲ恢復セサルノ結果ニ過キス今後諸事逐次舊

態ニ復スルト共ニ河税河防捐ノ如キモ亦必ス舊規ニ依ルニ至ルヘシトハ當事者輩ノ等シク確信スル處ナリ

又鹹鹽ノ如キ船主自ラ資ヲ投シテ購買シ來ルトキノ捐税ハ勿論總テ船主ノ負擔ニ歸ス而シテ河税、補門捐（邊門ヲ通過スルノ税）斗捐（度量衡税ノ類）ノ三種ハ往航復航共ニ在當地ノ河税局ニ於テ徵収ス又河防捐、船隻河防捐ノ二種ハ開河以前ニ於テ奉天將軍當地其他ノ各碼頭ニ當該官吏ヲ特派シ河防局ニ駐在セシメ以テ往航ノ船隻ヨリ徵收セシムルモノニシテ復航ノモノニ賦課セス且ツ該吏員ハ結氷ト同時ニ局ヲ閉鎖シテ奉天ニ歸任ス而シテ釐金税ハ全然當地ニ於テ關與セス在營口ノ釐金局ニ於テ徵收ス其賦課法ハ賣買相場ノ百吊ヲ標準單位トス又鹽ニ課スル河税ノ如キモ當地河税局ニ於テ賣價百吊ヲ標準單位トシテ賦課スルモノナリ

七、船頭ト船主トノ關係及運賃ノ分配比例

船主ト船員ノ關係ハ定額ノ給料ヲ與ヘテ雇用スルモノニアラス一定ノ利益分配法ニ準據シテ雇聘スルモノナリ乃チ當初船主ノ船頭ヲ需ムルニ際シテハ多ク知己ノ推擧ニ依テ適當ノモノヲ雇聘シ該船頭ヲシテ船夫ヲ募ラシメ以テ一團ノ船員ヲ組織シテ水運ニ從事ス而シテ秋末ノ決算季ニ至テ夫夫分配ヲ了シテ後成績ノ良否ヲ考察シ船主船員兩者希望ノ如何ヲ斟酌シ以テ翌年ノ聘否ヲ定ム倘シ夫レ船主船頭ニシテ兩兩意氣ノ投合セシ者ニ至テハ克ク長年月間ノ關係ヲ持續シ得ルモノアリト云フ而

シテ船主ハ自己ノ所有船四五隻ヲ以テ一ノ邦船ヲ組織シテ各船頭中ヨリ一ノ把頭ヲ選拔シ邦船全般ノ事ヲ管理セシムルハ已ニ前項ニ縷述シタリ且ツ當地ヨリ營口ニ向テ大豆其他ノ雜穀ヲ輸出スルニ際シテハ其積載ヲ了ルト同時ニ當業者先ツ一手ノ運賃ヲ把頭ニ交附シ營口着後更ニ殘餘ノ一半ヲ交附スルノ習慣ナルカ故ニ把頭ハ自己ノ管スル諸般ノ事務ヲ處理シツツ剩餘ノ運賃ヲ保管シテ以テ秋末ノ決算季ニ至リ總勘定ヲ完結シ配賦ヲ終了ス又往年多クハ船主自身乘船シテ諸般ヲ管理セシモノナリト雖モ近來馬賊ノ出沒甚敷船主等其ノ襲擊ヲ恐愼シテ乘船ヲ敢テセス營口、通江口乃至其ノ碼頭ニ居住シ全般ヲ擧ケテ把頭ニ一任シ自己ハ只決算ニ參與シテ一切ノ事故ヲ處理スルニ止マルト云フ而シテ收益分配方法ハ稅額食資燃料其他ノ雜費ヲ控除セシ純益ヲ配賦スルモノニシテ其比例略下ノ如シ

船名	船主	把頭	船頭	船夫(甲)	船夫(乙)二人又ハ三人	厨夫	合計額
牛船	三分	三厘乃至四厘	一分	○	八厘ツツ	○	甲五分九厘乃至六分 乙六分七厘乃至六分八厘
槽船	四分五厘	三厘乃至四厘	一分二厘	九厘	八厘ツツ	五厘乃至六厘	甲九分八厘乃至九分二厘 乙九分八厘乃至十分

船夫(甲)ハ水路諳熟ノモノニシテ水先案內ヲ兼ヌル者ナリ故ニ配當多シ又厨夫ハ十五六歲前後ノモノ多シ

牛船ニシテ船頭以下三名ナレハ合計甲ニ船頭以下六名ナレハ乙ニ該當ス即チ合計額ヲ以テ純益金ヲ

除シ夫レニ自己ノ割合ヲ乘セシモノ則チ各自一個ノ配賦額ナリ（例ヘハ純益金ノ五十九分ノ三十ハ船主五十九分ノ八ハ船夫(乙)ノ配當比例ナリ以下同シ）船主ト船員トノ關係ハ概略前記ノ如シ雖然由來放縱ノ船員輩ナレハ或ハ當地解纜後營口ニ着シテ直ニ解雇ヲ請フモノアリ或ハ往復一回ノ後解雇ヲ請フモノアリ或ハ二三回或ハ四五回ニシテ解雇ヲ請フモノアリ到底一定ノ規矩繩墨ヲ以テ律スル能ス故ニ往復航行一回毎ニ決算分配ヲ了スルモノハ亦多シ必スシモ一年一回ト限定セシモノニアラス而シテ把頭ノ配當額ハ邦船中ノ一隻ヨリ三厘乃至四厘ヲ配賦スルモノナレハ邦船全體ヲ合算スレハ一分五厘乃至二分以上ヲ得ルノ外船頭トシテノ配當ヲモ併得ス故ニ其ノ收益モ亦不尠而シテ二三組ノ邦船ヲ併テ管スルモノニ到テハ收益更ニ多大ナリ彼等把頭ニシテ往往船主ニ化スルヲ見ル亦怪ムニ足ラスト云フ

八、三十六年度大豆ノ普通運賃及前十年間ノ最低運賃光緒二十年（明治二十七年）以前及同年以降ニ於ケル大豆一石ノ運賃高低ノ差大略左表ノ如シ

年號		運賃	
光緒	明治	高	低
二十年以前	二十七年以前	一元乃至一元半	五角乃至七角

二十年	二十七年	一元半	七角
二十一年	二十八年	一元半	七角
二十二年	二十九年	一元半	八角
二十三年	三十年	一元半	八角
二十四年	三十一年	二元	一元
二十五年	三十二年	二元	一元
二十六年	三十三年	二元半	一元半
二十七年	三十四年	二元半	一元半
二十八年	三十五年	二元半	一元半
二十九年	三十六年	三元	一元八角
三十年	三十七年	三元	一元八角
三十一年	三十八年	三元半	三元

河水少量ノ時ハ船隻ノ裝載量モ亦少ナルカタメ運賃從テ騰貴シ水量增大ニ際シテハ船舶ノ容積モ亦多大ナルカタメ運賃從テ低下ス而シテ前記表中ノ運賃ハ高低共ニ大體ニ於テ平均額ヲ登載セシニ過キス特殊ノ場合ニ際シテハ運賃亦特殊ノ騰貴ヲ免レス彼二十六年拳匪ノ亂ニ於ケルカ如キ官兵團匪互ニ奪掠ヲ擅ニシ馬賊亦機ニ乘シテ跳梁ヲ逞フセシカハ皆其襲擊槍奪ヲ怖レテ大豆一石ノ運賃ヲ四元半ヲ給スルニ非レハ船員等亦積載輸送ヲ肯セサリシト云フ

九、通江口ノ沿革ノ概略

通江口ヲ距ル南方約二里強ノ三臺子（邊門ニシテ損局アリ）ニ沿フテ一通ノ邊柵アリ壕ヲ穿チ堤ヲ築キ植ユルニ楊柳楡柞ヲ以テス樹ハ欝蒼トシテ繁茂シ堤ハ蜿蜒トシテ遙ニ法庫門（邊門ニシテ損局アリ）ヲ經テ西蒙界ニ走リ東ハ馬千總臺（邊門ニシテ損局アリ）ヲ過キテ遠ク圍園堡門（邊門ニシテ損局アリ）ニ至ル邦人之ヲ長柵ト稱シ清人之ヲ邊界或ハ邊壕ト呼フ則チ曩昔ノ滿蒙境界線ニシテ亦歷史的一遺迹ナリ乃チ其北方ハ古來悉ク蒙古王族ノ管領スル所ニシテ旗下ノ蒙人居ヲ占メテ點點散在セシト雖モ地積ノ廣濶ニ比シテ人烟ノ稀薄ナル固ヨリ論ヲ待タス嘉慶年中（嘉慶ハ二十五年ニシテ改元ス即チ八十五年乃至百十年前）清帝則チ蒙王ト咨テ直隷山東及南滿洲方面ノ人民ヲ誘勸移植シ價ヲ賤フシテ土地ヲ賣與シ以テ開墾ニ從事セシム爾來漸ク人口稠密ヲ加ヘ村閭開ケ城市成リ商舗起リ官衙立ツ往年不毛ノ荒地ハ沃美肥腴ノ膏地ト變シ雜穀蔬菜產出頗ル豊饒居民亦日ヲ逐フテ殷富ニ商情亦月ヲ累テ旺盛ヲ極ム雖然附近一帶ノ地如上ノ生產物ヲ集散スルノ大市場アルナリ一タヒ市場ニ登シテ錢貨ニ換ヘント欲センカ遠ク輸送ノ勞ヲ執ラサルヘカラス若多クシテ利少シ此ニ於テ昌圖府及ヒ金家屯ノ商舗主トシテ人心ヲ誘導シ有志ヲ糾合シ以テ昌圖府衙門ニ建白シ則チ恰當ノ地域ヲ選擇シテ市場ヲ設立センコトヲ要請ス知府趙受璧民意ヲ嘉納シ直チニ當方面ヲ受領スル蒙古ノ博多勒噶臺（ボトロコダイ）親王ト面議妥協ヲ經テ盛京將軍ニ稟議シ遂ニ闕下ニ遞奏シテ即時勅允ヲ得茲ニ通江口ノ地ヲトシテ碼頭ヲ設ク實ニ光緒二年ナリ碼頭已ニ建ツ棧商（穀物問屋）續テ

起リ舟車亦湊ル翌三年初メテ裝船輸出ヲ試ミ輸入亦載運ノ便ヲ藉ル則チ物質集散ノ基礎定リ草莽塞陬リ僻地一變シテ宏大熱鬧ノ市場ト化ス商勢亦日進月熾年ヲ積テ益興隆繁盛ノ域ニ達ス越ヘテ光緒二十一二年ノ間棧商ノ數二十有三北金家屯、昌圖、懷德、農安、長春、奉化、八面城方面ノ顧客ヲ招聚シ年年冬季ニ於テ輻湊集積ノ穀類九十萬石ヲ逾ユ而シテ本地製出ノ豆餅十五萬片搾出ノ豆油七十萬斤夏時侶ニ共ニ銷散ス概シテ停滯スル事ナク河岸常ニ大小千餘隻ノ船ヲ繫留シ載運ノ途ニアルモノ亦二千有餘揚陸ノ貨物ハ山積シ裝載ノ穀粮ハ道ニ絕サルノ盛况ヲ呈ス且ツ毎年六八月朔日ニ於テ定期豆、定期銀ノ賣買ヲ講シテ以テ市場ノ商機ヲ融通シ商勢ヲ活潑ナラシム正ニ之レ通江口爾後寸進尺退二十六年拳匪擾亂ノ餘波ヲ受ケテヨリ商情頓ニ挫折シ又昔日ノ看ヲ止メス而シテ傷痍未タ癒ヘサルニ露人繼テ到リ火車亦開通シテ湊集ノ穀粮著シク其ノ數ヲ減シ加フルニ馬賊隙ニ乘シテ兇橫ヲ擅ニス憂患踵至シテ策ノ施スヘキナク商業上ノ被害實ニ枚擧ニ遑アラス爲ニ店舗益窮シ市場愈衰フ遂ニ期銀ノ賣買ヲ講スルヲ廢止シ期豆ノ賣買ヲ六月初一ノ一回ニ改ム是ヲ以テ利益愈不擧糜費漸ク多シ以テ近來ニ及フ倘夫レ客年以來ノ市况ヲ論センカ殆ント言フノ價値ナシ各舖通シテ堆積ノ穀類僅カニ二十萬石ヲ超ヘス盛衰ノ差眞ニ霄壤モ不啻刻下繼續維持スルノ棧商二十家アリ內代船店ト代油房トヲ兼ヌルモノ各五家又遠來洋行ノ代理店トシテハ廣增達、廣有福、廣增通、廣昌益ノ四店ニ過キス而シテ二十ノ棧商中將ニ倒產セントスルモノ大約四五アリト云フ



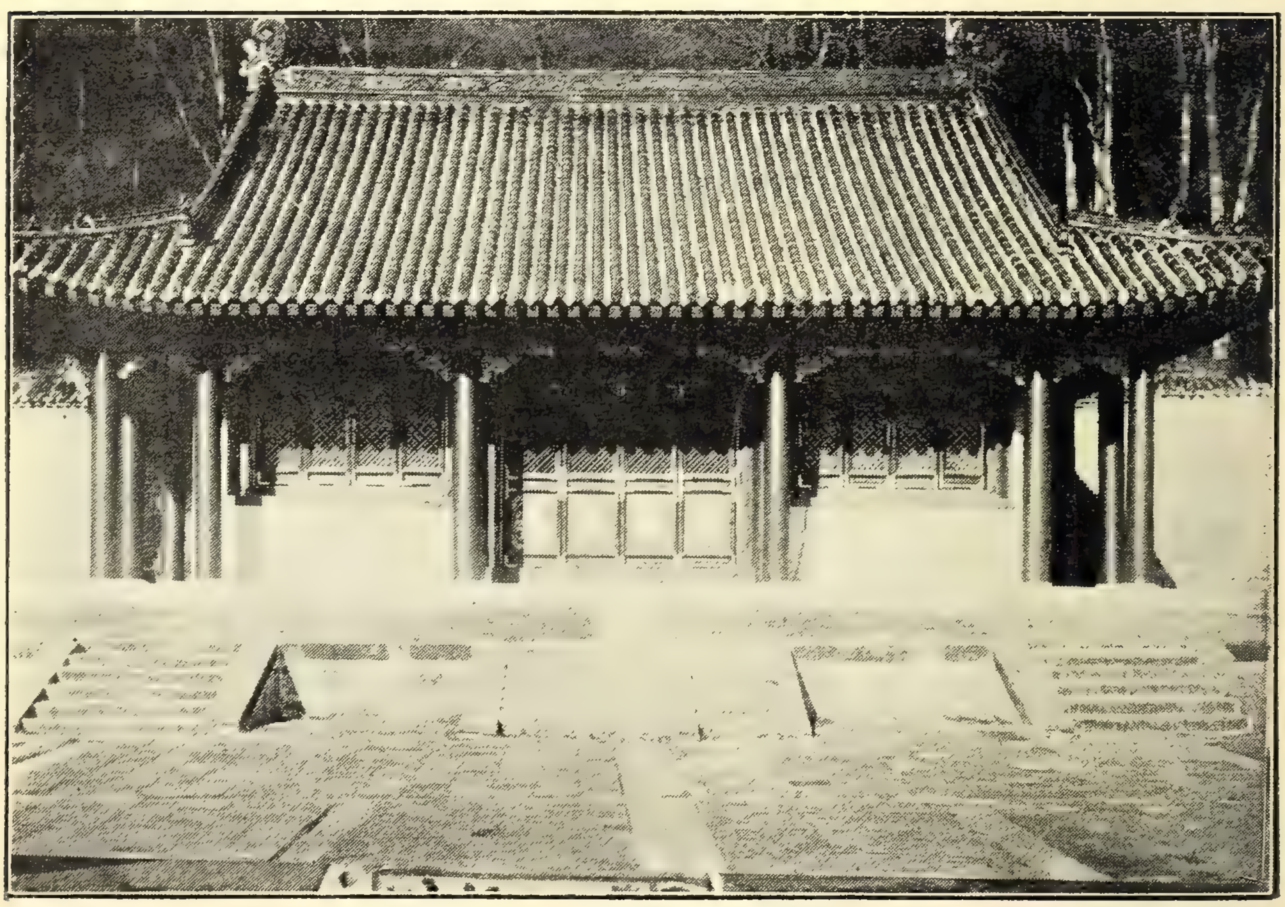
奉天北陵前ノ樹林



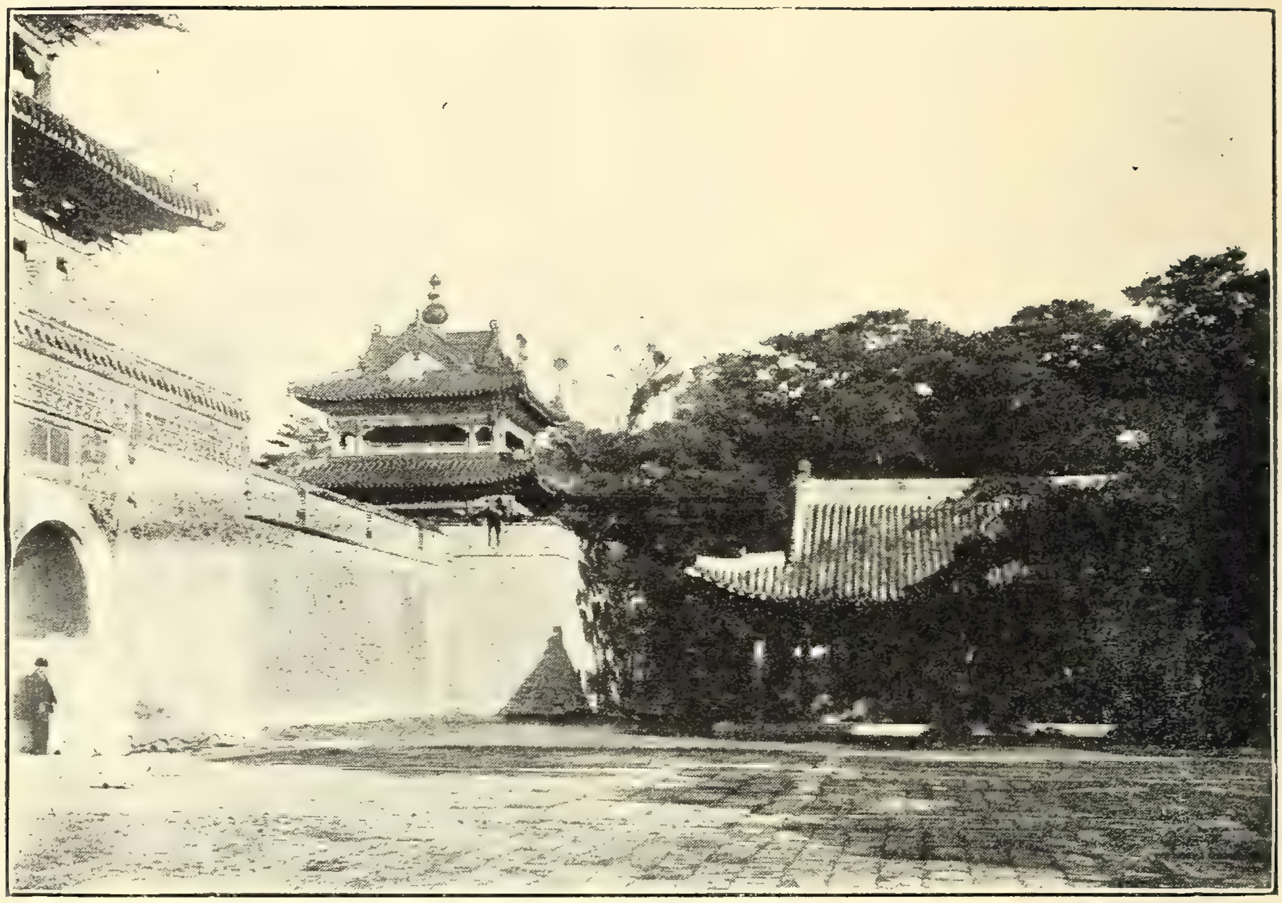
奉天北陵圍墻内ノ松樹林



奉天北陵内ノ松樹林



奉天北陵内ノ拜殿



奉天北陵內ノ松樹林



奉天東陵ノ松樹林



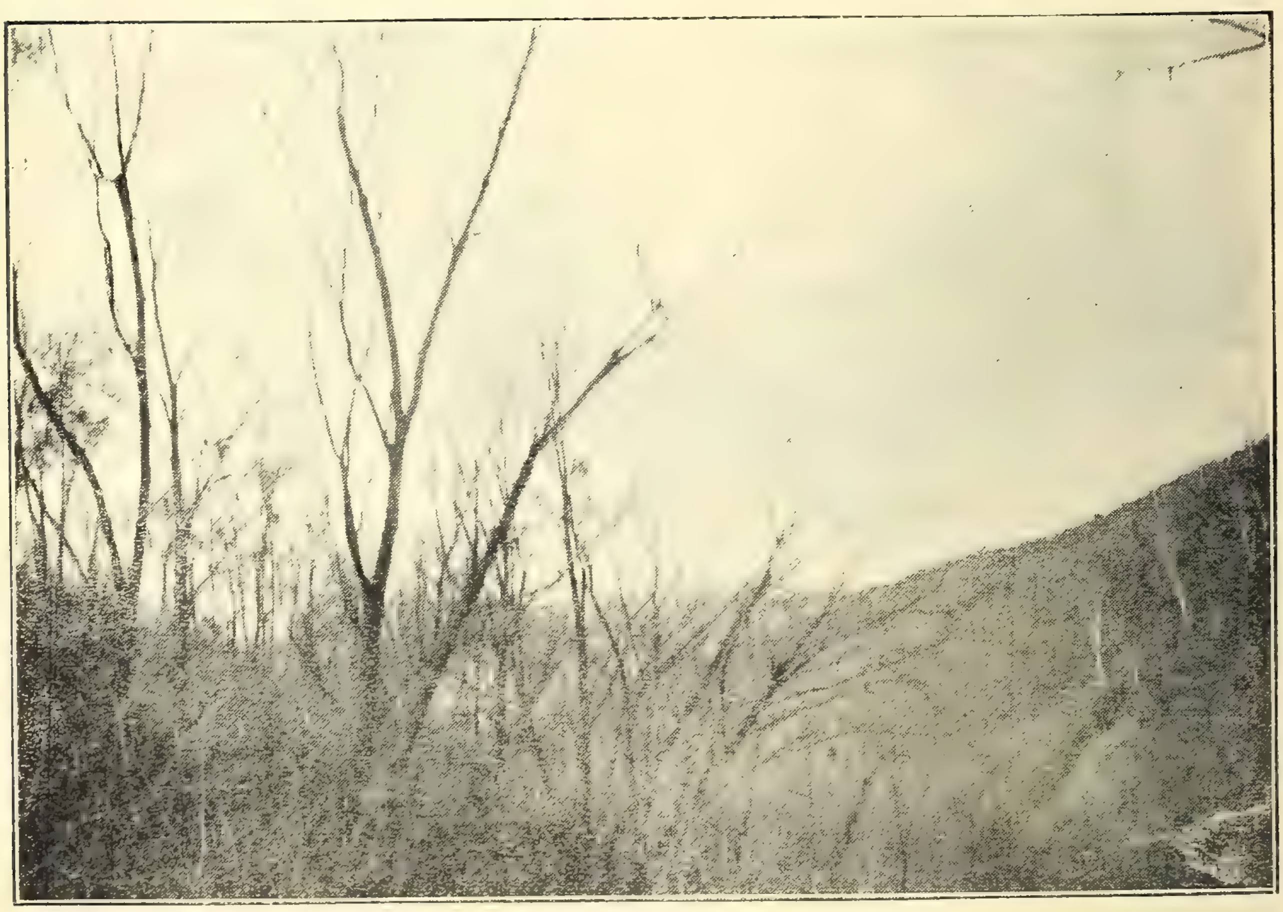
奉天東陵ノ森林ヲ望ム



東陵内ノ墳墓



孤家子附近ノ林況



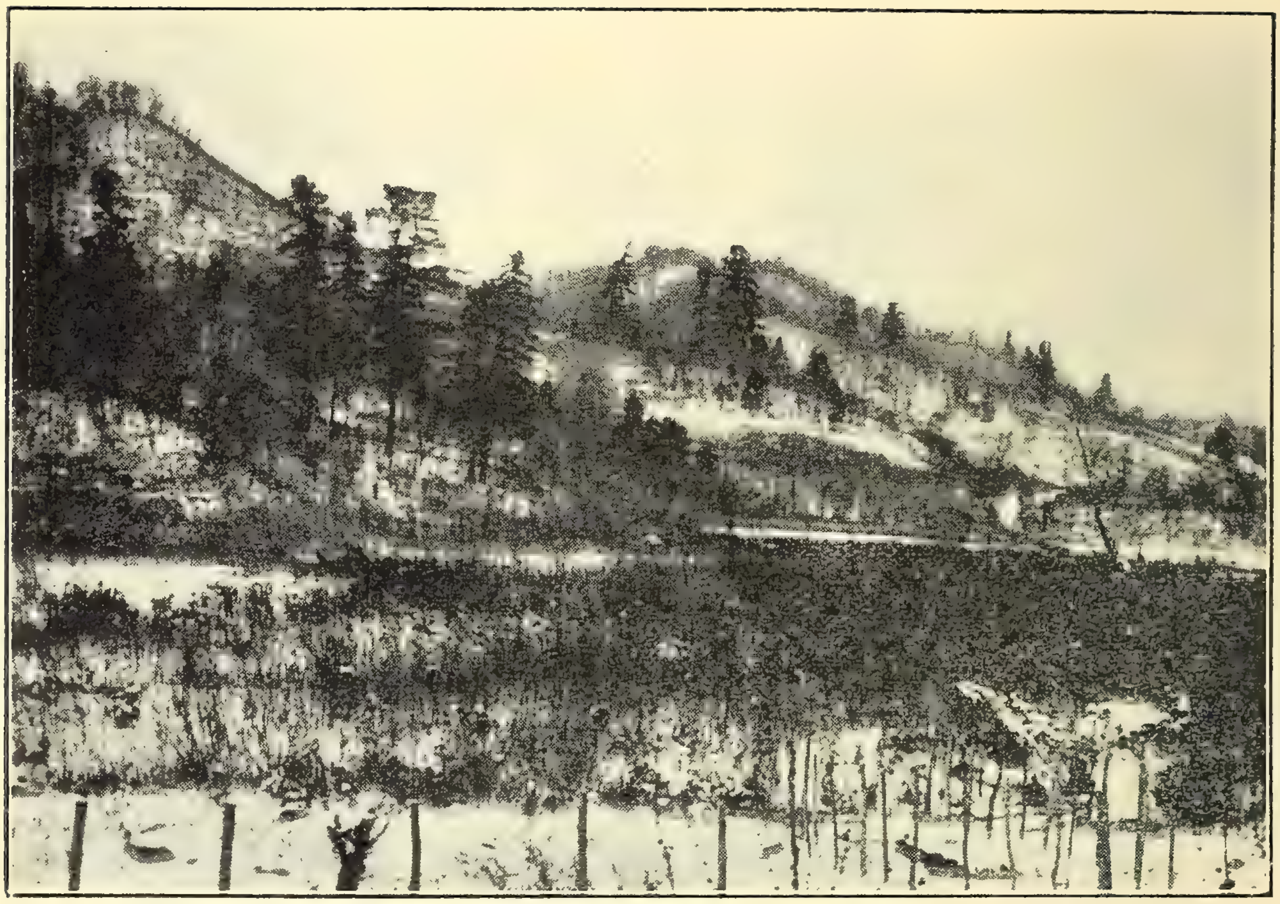
仝上



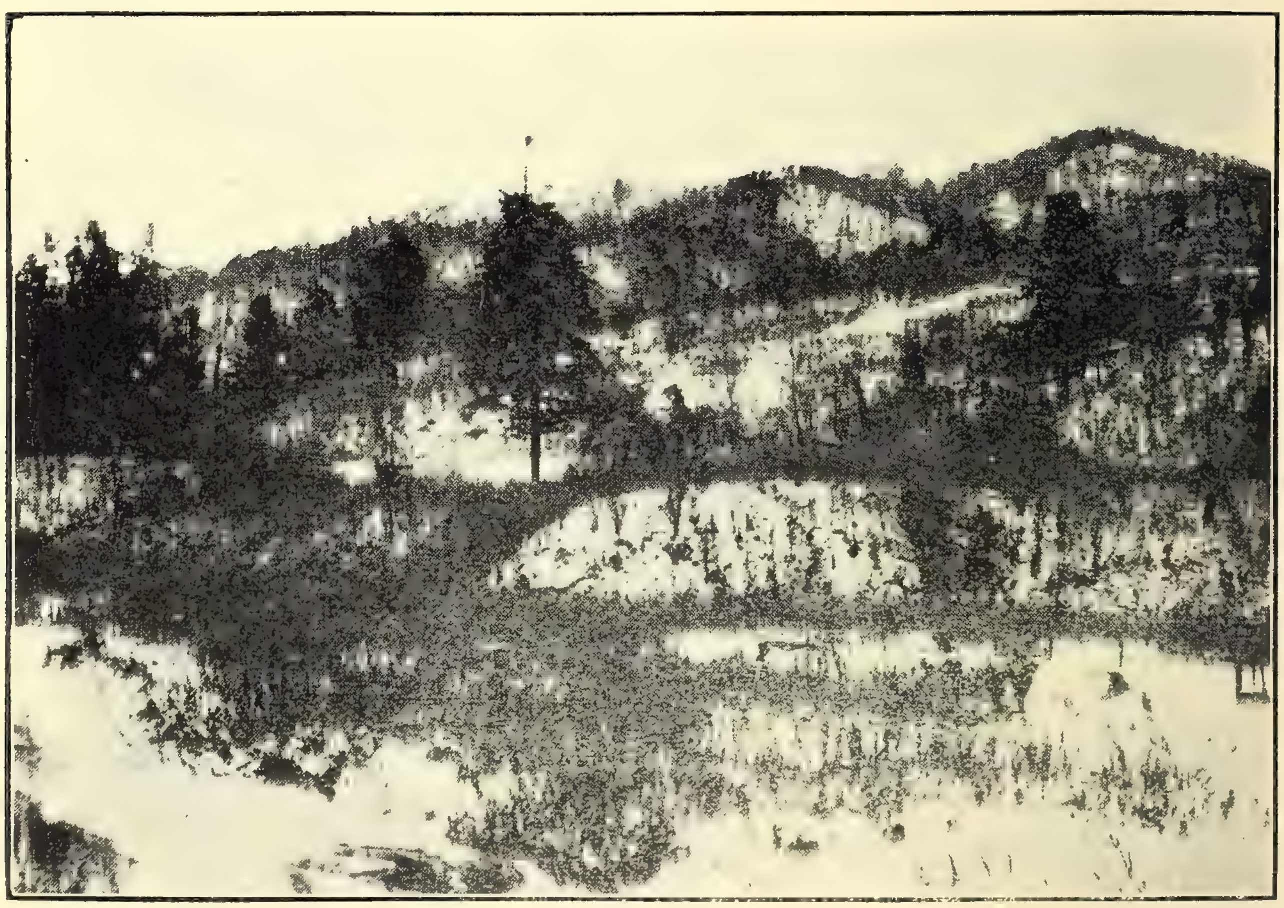
永陵ノ皇林



仝上



王家大堡附近ノ林況



仝上



八家子ニテ木材標本ノ採收



棺　　　　材



車輛材



護衛兵ト共ニ山中ヲ過ク



木齊兵站司令部門前



新兵堡ノ滿洲義軍兵士

滿洲產業調査資料（林業）（第二班）

山林局技師兼農商務省技師　石北捨作
林務官補　西山忠太

滿洲業產調査資料（林業）（第二班）

目次

滿洲產業調查資料（林業）（第二班）

緒言

明治三十八年九月二十四日ヲ以テ關東州民政署附ヲ命セラレ十月三日西山林務官補ト共ニ東京ヲ發シ九日清國大連着十二日林業第二班トシテ滿洲利源調查委員並ニ滿洲各地ヘノ出張ヲ命セラレ十四日出發十五日奉天着同地ニテ林業第二班ヘ編入セラレタル横山陸軍通譯及ヒ木村騎兵特務曹長等ト合シ共ニ總司令部並ニ總兵站監部ニ就キ調查上諸般ノ打合ヲ了シ最ラニ旅裝ヲ整ヘ二十一日撫順ニ向ヒ出發シ下章黨、營盤、尙家河、木齊、永陵附近ノ林況ヲ視察シ進ンテ興京ニ到リタレ共未タ目的ノ森林地帶ニ達スル能ハス然ルニ興京ノ北方汪清、五鳳樓附近ハ彼ノ長白山系中其南ニ流ルル背髓山脈タル所謂龍崗山脈ノ横斷スルヲ以テ分擔地域ヲ脫シ汪清ノ東北金厰嶺五鳳樓ノ西北方干河子嶺及滾馬嶺等ニ到リ漸ク目的トスル原生林ノ一部ヲ發見調查シ次テ南ニ逆行シ永陵ヲ經テ長虫嶺ヲ越ユ葦子峪ニ出テ金斗峪ヨリ三家子附近ノ林況ヲ調查シ城厰ニ到リ兵站線ニ合シ南孤山、分水嶺、寨馬集、石門子等ヲ經テ草河口ニ出テ同所ヨリ鐵路鳳凰城ニ到リ次テ安東縣（沙河鎭）及ヒ韓國龍岩浦ニ於ケル木材ノ集散及ヒ製材ノ情況ヲ查察シ再ヒ鐵路鳳凰城ヲ經テ下馬塘ニ到リ甜水店、狼山子、湯河沿ヲ經ヲ遼陽ニ出テ更ラニ奉天ニ北行シ本厰ヲ整ヘ營口ニ到リ市況ヲ窺ヒ旅順ニ出テ殖栽地ヲ覘ヒ以テ十二月廿二日大

連ニ歸着三十一日大連ヲ出發シ三十九年一月四日宇品上陸八日歸朝ス實ニ此行曩ニ東京出發以來百六日ヲ費シタリト雖モ十月十四日大連發程以來十二月廿二日同地ヘ歸着間即チ滿洲內地旅行日數ハ僅僅六十九日間ニシテ其最モ遺憾トスル處ハ調査着手時機ノ遲レタル爲メ最前線ハ既ニ撤退ヲ初メ隨テ軍ノ援助ヲ受クル能ハス森林地帶トシテ有望ナル地方ヲ踏査スルヲ得ス僅カニ目的森林ノ一局部ニ就キ其林況ヲ窺ヒタルニ過キスシテ唯タ調査ノ周到完全セサルヲ恐ル

本班ノ調査分擔地域及ヒ調査員官氏名左ノ如シ

林業第二班調査分擔地域　（遼陽方面）

滿洲本土
東　岫巖寨馬集ヲ經テ新兵堡ニ至ル
西　遼河
南　蓋平
北　奉天

調査員官氏名

山林局技師兼農務商技師　石北捨作

林務官補　西山忠太

以上東京出發

陸軍通譯　横山吏弓
陸軍騎兵特務曹長　木村三郎

以上關東洲民政署ニテ編入十月十六日清國奉天ニテ合ス

本班ノ分擔調査地域内ニ於ケル森林ハ永陵圓頂山並ニ南孤山、分水嶺ノ一帶ニ於テ濶葉天然林アルノミ敢テ良林ト云フニアラスシテ其面積僅僅數萬町歩ニ過キス森林ノ利源ト稱フル價値更ニナシ然ルニ通化縣ノ東北方帽兒山(臨江縣)附近ハ一帶ノ森林地ニシテ針濶混淆天然林ノ存在スルヲ確メタルヲ以テ實地踏査ノ必要ヲ認メタレ共其森林地帶ハ休戰當時ノ中立地帶若クハ露國ノ勢力範圍ニ屬シ興京廳到着ノ際ハ吾軍ノ最前線タリシ後備第一師團第三十六聯隊及同師團第六聯隊ハ既ニ撤退行動ヲ起シ其前線ノ撤退ト同時ニ馬賊ハ出沒掠奪ヲ逞フシ其事情森林地帶ニ入ルヲ許ササリシト一ハ本班ノ東方渾江及鴨綠江ニ到ル地域ハ第三班武田林務官ノ調査分擔地域ニシテ同班ノ北方ハ直接其森林地帶ニ接シタルニヨリ同班ニ於テ調査セラルル便宜多キヲ以テ本班ハ專ラ北方ニ進ミ帽兒山ヨリ分岐セル森林地帶(龍崗)ニ達スルヲ目的トシ滯在數日馬賊ノ動靜ヲ窺フニ其數日前ハ汪清ニ在ル兵站司令部撤退ト同時ニ未タ日本守備兵アルニ拘ラス二百有餘ノ馬賊現レ汪清ヲ襲撃シ支那官兵ト約二時間ニ渉ル戰鬪ヲナシ又一面南方汪清邊門附近ヨリハ避難ノ爲メ永陵ニ蒐合スル良民多ク就中本班ノ調査豫定地長虫嶺葦子谿方面ニハ有力ナル馬賊現レ掠奪ヲ擅イママニスルノ情報頻頻トシテ到リ殆ント底止スル處ナシ

仍テ鴨綠江軍兵站監部ニ出テ藤井參謀長ニ面會シ其實況ヲ問合セタレ共馬賊蜂起ノ地方ハ既ニ兵站線ヲ撤退シ隨テ正確ナル報告ナキヲ以テ其事實ヲ確答スル能ハストノコトナリシヲ以テ其情報ノ沈靜ヲ俟テ愈愈輕裝北進ニ決シ騎馬ニ依リ辛フシテ其目的地タル龍崗ノ森林地帶ニ達シ龍崗天然林ノ一部踏查ヲ遂ケ之ヲ材料トシ以テ渾江蛤密河及松花江流域ニ存在スル森地ノ位置及其林況ヲ滿洲義軍遠征隊及ヒ多年間伐木事業ニ經驗アリテ最モ信用セラルル大把頭（把頭ハ伐木造材運材事業ノ主宰者）婁永盛外數名及ヒ地方士民等ニ就キ聞知シ更ラニ木材集散地タル安東縣ニ出テ其出材ノ情況ヨリ當業者並ニ大把頭高增山外數名ト尙ホ渾江ノ下流秋皮溝ニ在ル材木公議會長馬芝芳及副長于兆盛等ニ就キ僅僅六十餘日間ニ於テ探究シ得タル材料等ヲ參酌推定シタルニ過キサルヲ以テ素ヨリ正確緻密ナリト云フヲ得サレ共極メテ其大綱ヲ失セサランコトニ勉メタリ本班ノ調査地域ハ淸國十八省中ノ一ナル盛京省ノ殆ント南半部ニ涉リ即チ滿洲本土ノ中央ニ位ス

沿革

淸ノ太祖ハ基ヲ興京ニ肇メ天命十年ニ瀋陽城ヲ修增シテ建テ盛京ト爲セリ大宗ハ杏山、松山ノ捷アルニ迨ヒ全遼ヲ撫有スルコトト爲レリ世祖ハ鼎ヲ燕京ニ定メ九夏ヲ奄有シテヨリ遂ニ盛京ヲ以テ留都ト爲セリ順治元年ニ悉ク諸衛ヲ裁シ內大臣副都統及ヒ各旗駐防ヲ設ケテ之ヲ鎭守ス十年遼陽ヲ以テ府ト

ナシ遼陽、海城ノ兩縣ヲ置ク十四年ニ遼陽府ヲ省キ瀋陽ヲ以テ奉天府トナシ府尹ヲ置ク康熙三年故ト廣寧衛ノ地ニ於テ廣寧府ヲ設ケ廣寧縣錦縣寧遠州ヲ領セシム四年廣寧府ヲ改メテ錦州府ト爲シ治ヲ錦縣ニ移ス是年奉天府ニ承德、蓋平、開原、鐵嶺ノ四縣ヲ添設シ遼陽縣ヲ改メテ州トナス十二年故ト復州衛ノ地ニ於テ復州ヲ設ケ故ト金州衛ノ地ニ於テ寧海縣ヲ設ク後チ金州ト復名ス（按スルニ今ノ金州ハ西シテ山東ノ芝罘ニ渡ルニ海程僅カニ數百淸里ナリ故ニ明ノ時代ニ在リテハ遼東ノ科擧ハ山東ニ附セラレ淸ノ初メニ在テモ山東、萊州府ニハ尙ホ復州金州二衛學ノ存シテ遼人ノ寄籍スルモノアリシ雍正五年撤去セラル）錦州府ニ於テ義州ヲ增設ス乾隆三十七年奉天府ニ於テ岫巖州ヲ增設シ嘉慶十二年新民廳ヲ增設シ十八年昌圖府ヲ增設ス光緒二年ニ鳳凰直隸廳ヲ置キ安東縣ヲ增設ス三年寬甸縣ヲ增設シ岫巖縣ヲ分ツ均シク鳳凰廳ニ隸ス是年興京理事通判ヲ昇格シテ撫民同知トナシ懷仁、通化ノ二縣ヲ增設シテ之レニ隸ス又昌圖ヲ昇格シテ府トナシ奉化、懷德ノ二縣ヲ增設シテ之レニ隸セシム現時ノ府廳州縣ハ即チ左ニ示スカ如シ

府	廳	州	縣
奉天	金州	遼陽	承德
錦州	新民	復州	海城
昌圖	興京	寧遠	鐵嶺

鳳凰												
義州	岫巖											
蓋平	開原	錦州	廣寧	奉化	懷德	通化	懷仁	安東	寬甸	康平	韓安	臨江

其奉天府尹ハ巡撫ノ事ヲ行ヒ盛京全省ノ府廳州縣皆ナ其統轄ニ屬スルモノトス

廳ハ又名分府トモ云フ府ニ知府廳ニ同知州ニ知州縣ニ知縣アリテ之ヲ統轄ス

又鳳凰城ニ東邊兵備道臺ナルモノアリテ其組織左ノ如シ

寬甸縣
安東縣

東邊兵備道臺
- 鳳凰廳
  - 鳳凰直轄廳
  - 岫巖縣
- 興京廳
  - 臨江縣
  - 通化縣
  - 興京直轄廳
  - 懷仁縣
  - 韓安縣

今爲參考鳳凰城ニ於ケル現時ノ役員ヲ列擧スレハ左ノ如シ

官	氏名
城守尉	端岳(宗室)
兵備道	張金波
統領	單瀛
同知	劉本源
庫大使兼經歷	莊殿傑

以上ハ本官ニシテ城守尉ハ親任、兵備道及統領ハ勅任、同知庫大使兼經歷ハ恰モ奏任ニ相當ス

此ノ外左ノ三局二隊アリ

斗秤局
苗税局
巡捕隊
巡警局
巡警隊
以上ハ何レモ委員ヲ以テ之ヲ組織ス
「附記」
鳳凰城ニ於ケル戸數人口左ノ如シ
（但シ明治三十八年十月末現在軍政署調査）
戸數　千六百八十八戸
人口　九千八百九十一人
内
男　六千六百四十一人
女　三千二百五十人
但シ一戸平均五人八分强

伐木ハ今ヲ去ル四十餘年前即チ同知年間清國政府ハ爰ニ觀ル處アリテ初メテ東滿洲（所謂邊外ノ地ニシテ永ク王化ニ露ハサリシモ森林ハ少ナクモ原始ノ狀態ノ幾部ヲ維持シタリシモノト想像ス）ノ經營ニ力ヲ注キ（其當時調査ヲ命セラレタルハ彼日清戰役ノ際戰死ヲ遂ケタル敵將左寶貴モ其一人ニシテ現ニ帽兒山（臨江縣）ノ北方ニ在ル腦子溝ハ同人ノ開拓シタル處ナリト云フ）自由開墾耕作ヲ許シ土地ノ丈量ヲナシ地劵ヲ發布シ是等經營ニ要スル財源ハ木稅、葦塘、糧貨ノ三稅ニ需メ又一面山東省ニ充溢シタル民族ハ同知年間ノ一大饑饉ニ遭遇シタルニ依リ移住策ヲ講シ任意開拓ヲ奬勵シ其木稅ノ如キハ主要ノ稅源ナリシト是等三稅ハ興京鳳凰ノ同知ニ於テ司トルコトトナリ益益其發達ヲ計リ爾來開拓ノ業日ニ月ニ進步シ欝蒼タル森林ハ擇伐亂採セラレ樹林地ハ燒キ拂ハレテ開拓セラルルニ隨ヒ森林ハ漸次僻陬ノ地方ニ退步シ彼ノ渾江ト鴨綠江トノ中間ニ蜿蜒スル老嶺山脈ノ如キハ十數年前迄ハ欝蒼タル林況ヲ呈シ盛ニ良材ヲ產出シタリト雖モ今ヤ殆ント伐リ盡シテ開墾餘ス處ナシ偶偶開墾不適ノ山地ニハ疎立木地ノ現在セサルニアラスト雖モ是等ハ何レモ良材擇伐亂採跡地ニシテ良材ヲ得サルト伐採運輸ノ困難ナルトニヨリ森林ノ利源トシテ觀ルヘキモノ更ラニナシ斯ル現象ハ人口ノ繁殖ニ伴ヒ間斷ナク反覆セラレタルノ結果今ヤ森林ハ漸次其壓迫ヲ受ケテ退步シ現時ニ在リテハ通化縣ノ北方約百清里ノ地點ニ退縮シ僅カニ原始ノ狀態ヲ維持スルニ至レリ

又光緖二十八二十九兩年間ニ於ケル露國ノ伐木事件ニ鑑ミ清國政府ハ光緖二十九年十二月ヲ以テ通化

懷仁ノ二縣ヲ割キ帽兒山ニ臨江縣通溝ニ輯安縣ヲ置キ同三十年事務開始ヲナシタルモ恰モ日露戰役ニ際會シ現今ニアリテハ有名無實ノ姿ナリ

一般ノ地勢

史ニ曰ク盛京ノ方域タル東ハ長白山ニ接シ南ハ海ニ竟リ西ハ山海關ニ至リ北ハ蒙古ナル達宜罕王ノ諸祺遊牧地ニ及ヒ東西一千七八百淸里南北一千三四百淸里アリ地ハ大ニシテ物ハ博ク泉ハ甘クシテ土ハ肥ユ所謂宇宙ノ奥區ニシテ靈秀ノ鐘毓スルトコロナリト

地勢上ヨリ之ヲ大別スレハ平野區ト山岳區トニ區別スルコトヲ得其平野區トハ即チ遼河ヲ中心トシテ渾河、太子河、沙河等ノ諸流ニ因テ導カレテ發達シ北ハ蒙古西ハ山海關ニ播布シ山岳區トハ長白山系ヲ中心トシテ南方ニ分岐セル諸脈ニ因テ構成セラレタル山岳地ノ總稱ニシテ鴨綠江ヲ經テ韓國ニ界シ其背髓山脈タル龍崗及其餘脈ハ西南ニ流レ遼河ト鴨綠江トノ分水界ヲ爲ス所謂分水嶺ト稱フルモノ是ニシテ南ハ遂ニ渤海ニ竟ル

鴨綠江ハ渾江口ニ於テ渾江ヲ合シ九連城ニテ靉河ヲ合シ安東縣大東溝ヲ經テ黃海ニ注ク

今地圖上ヨリ關ノ內外及ヒ邊ノ內外等ニ區別スレハ關トハ山海關一帶(萬里長城ノ一端)ヲ以テ關外、關內トシ即チ支那本土ト區別シタルモノ又邊トハ淸河門、白土砂門、彰武臺門、法庫門、威遠門、英

額門、汪清門、域廠門、靉陽門、高麗門等ヲ以テ邊內邊外トシ即チ滿洲本土ト區別シタルモノニシテ森林所在地ハ多ク此邊外ニ屬ス

地質ノ概況

滿洲ノ地質タル西ハ醫巫閭山(直隷盛京兩省ノ境ニアリ)脈ト東ハ朝鮮ノ境ナル長白山脈トヲ骨骼トシテ其間ニ發育シタル土地ナリトス此骨骼タル醫巫閭、長白兩山脈ハ極極古キ地球ノ最下部ヲ組織スル太古界(或ハ原始界)ノ雲母岩、片麻岩ノ岩石ヲ主トシ之ニ古生界ノ石英粘板岩、員岩等ノ岩石ヲ交ヘタル組織ニシテ是等ノ母岩カ霉爛シテ出來タル土壤カ遼河ヲ主トシ渾河、太子河、沙河等ノ諸流ニ因テ導カレテ發達シタル土地即チ滿洲ノ平野ナリトス

長白山脈一帶ノ基岩ハ前述ノ如ク地質構造上最古ノ岩石ナルヲ以テ能ク霉爛シ山頂ト雖モ母岩ノ露出セル箇處少ナク山形ハ多クハ崩レテ牢圓形ヲナシ(帽兒山ナル名稱ハ山ノ形ニ因テ名ケタル名稱ナリ)山麓ハ一帶ニ丘岡ヲナシテ數十里ニ連亘スル處多シトス特ニ長白山ノ西北方濛江附近ニ於テ然リトス濛江附近ハ數十里ニ渉ル平坦地ニシテ一ノ小丘ナク却テ沼澤地多ク汚土ニ富ミ森林地ト雖モ濕潤馬脚ヲ沒スル箇所少ナカラス由來松花江遼河流域ノ土壤ノ肥沃ナルハ長白山脈一帶ノ基岩カ太古界ノ岩石ニシテ能ク霉爛シタルニ因ル彼ノ有名ナル農學者まきす、ふゑすか氏ハ曰ク太古界ノ岩石ハ良質ノ土

壤ヲ產出シ古生界ノ岩石モ亦多量ノ養分ヲ含有シテ豊饒ナリト然ルニ是等ノ土壤ハ農耕地トシテハ水及空氣ノ透通惡キ缺點アレトモ林地ハ元來傾斜セル箇處多キヲ以テ乾燥セルモノナルニ加ヘ滿洲特有ノ寒風ニ因テ以テ林地ヲ乾燥ニ失セシムルモ水ノ透通惡シキ土壤即チ保水力强キ土壤ハ滿洲ノ氣候ト中和シ林地ノ濕氣ヲ保チ落葉ハ早ク汚土ニ化シ養分ノ補給ヲ充分ナラシメ且ツ種子ノ發芽ヲ促シ以テ稚樹ノ發生ヲ良クスルノ効アリ只雨季ニ際スレハ透水力弱キヲ以テ低濕地ハ沼澤地ト化シ樹根ヲ腐朽セシムルモ滿洲ノ雨季（雨季ハ我邦ニアツテハ霖雨數十日ニ渉リ陰欝ニ堪ヘサルコトアルモ滿洲ノ雨季ハ之ニ反シ恰モ我邦ニ於ケル夏ノ夕立ノ如ク俄然豪雨トナリ諸川ノ汎濫ヲ來スモ又直ニ晴天トナル即チ豪雨ト晴天交互ニ來ルモノナリ）ハ恰モ夏季ニシテ酷暑ナルトキナレハ樹木ノ生長旺盛ニシテ水分ヲ要スルコト多大ナレハ水分ノ過多ナル爲メ樹木ノ傷損スルコトナシトス故ニ此土壤ハ滿洲ノ氣候ト相俟テ林地トシテ最モ適當セリト云フモ敢テ過言ニアラス

森林概況

滿洲ニ於ケル森林分布ノ狀態

滿洲ノ地形タル前項ニ述ヘタル如ク長白山脈ヲ基トシテ發育シタルモノナレハ山岳ノ東北方ニ偏在スルヤ自然ノ趨勢ナリトス今假リニ滿洲ヲ地勢ニ因テ大別スレハ平野區ト山岳區トニ分ツヲ得平野區ハ

即チ遼河ヲ中心トシテ其流域ニ發達シタル第三紀層及第四紀層ノ總稱ニシテ農耕地トシテ滿洲ノ富源茲ニ存ス山岳區ハ長白山脈ヲ中心トシテ四方ニ分岐セル諸脈ニ因テ構成セラレタル山岳地總稱ニシテ森林トシテノ利源茲ニ存スト云フモ敢テ過言ニアラス左ニ森林分布ノ狀態ニ就テ少シク述ヘンニ山岳ノ成立前陳ノ如クナレハ森林分布ノ狀態モ亦同一轍ニ出テ長白山ヲ中心トシテ四方ニ播布シタル證據ハ長白山ヨリ分岐シタル老嶺山脈一帶ノ林相カ長白山系ノ林相ニ等シキヲ以テ見ルモ原始時代ヨリ長白山系ト連繋セルヲ想像スルニ難カラス是ニ反シ孤立ノ山岳地タル分水嶺、馬連頓峠、圓頂山等ノ森林ヲ視ルニ前者ハ針濶混淆林ナルモ是ハ濶葉樹林ニシテ針葉樹ノ存在ヲ見サルハ主トシテ氣候的關係ニ職由スト雖トモ一ハ長白山系ト觸接セサリシヲ以テ針葉樹ノ播布スル機會ヲ得サリシ結果ニ外ナラス抑モ滿洲ノ氣候タルヤ夏季ハ酷暑ニシテ濕氣多キモ冬季ハ西伯利亞大陸ヲ經テ吹キ來ル寒風ノ影響ヲ受ケ氣候寒烈ニシテ空氣乾燥セルカ爲メニ樹木ノ存在ニ就テモ氣候的ノ關係ニ支配セラルルヤ比較的大ナリトス故ニ寒冷ニシテ乾燥セル氣候ニ堪ユル落葉松、五葉松、樅、唐檜、白檜、アララギ等ノ針葉樹ハ北方ニ播布シ日陰ニ堪ユル落葉濶葉樹ト混淆シテ濛江、夾皮溝等ノ大森林ヲ形成スレトモ日陰ト寒氣ニ堪ヘサルこなら、おほなら、みずなら、くぬぎ、とねりこ、どろのき其他ノ雜木ハ南方ニ退キ以テ永陵以南ノ濶葉樹林ヲ形成セル所以ナリ

森林植物帶

前項ノ森林地域ハ地理學上ノ位置ハ北緯四十度半ヨリ四十三度半ノ間ニアリテ我邦ニアツテハ陸奥國ヨリ北海道ノ南半即津輕海峽ヲ中心トシタル地域ト緯度ヲ同クス地勢ハ大陸的ノ地勢ニ支配セラレ一般ニ緩傾斜ヲ以テ隆起シ山脈ヲナセルヲ以テ急峻ナル高山ナク長白山ヲ除ケハ龍崗ノ頂上ト雖モ海拔七百「メートル」ヲ出テス概括的ニ地勢ヲ述フレハ長白山ヨリ起レル龍崗山脈及老嶺ヲ以テ松花江ト鴨綠江ノ分水界ヲナシ龍崗ノ餘脈西南方ニ延長シテ遼河ト鴨綠江ノ分水界ヲナス所謂各地ニ散見スル分水嶺是レナリ今該地域ノ森林植物帶ヲ緯度及存在樹種ニ因リ判斷スルニ全部溫帶林ニ屬スルヤ疑ナシトス只長白山、龍崗、老嶺ノ頂上ハ一部寒帶林ニ屬スルモノノ如シ

今該地域ニ於ケル主要樹種ヲ擧クレハ次ノ如シ

針葉樹六種

朝鮮五葉松、樅、落葉松、唐松、白檜、アララギ

濶葉樹十六種

ハンノキ、シナノキ、ニレ、オホナラ、コナラ、ミヅナラ、シヲジ、ヱンジユ、カツラ、カヘデ、カシハ、クルミ、シラカンバ、ヲノヲレカンバ、ドロ、ヤナギ類

森林ノ成立タル悉ク天然生ニシテ松花江及鴨綠江流域ノ大部分ハ針葉樹二分濶葉樹八分ノ混淆原生林ニシテ幼ハ一年生ヨリ老ハ數百年ヲ超エ樹木生存限界ニ達セルモノアルヲ以テ林齡一定セスト雖モ概シテ高齡ナリトス地味ハ肥沃ニシテ濕氣ニ富メルヲ以テ（老嶺附近及ヒ濛江團地ノ如キハ殊ニ濕潤地多シ）稚樹ハ能ク發生シ下木ヲナセルカ故ニ林相極メテ不整ナリトス針葉樹ハ群生混淆ヲナセル箇處アレトモ多クハ濶葉樹中ニ散生混淆シ頭角ヲ現ハセルヲ以テ一見針葉樹ノ混淆部合多キカ如キモ林內ニ入リ細カニ觀察スルトキハ點生スルニ過キスサレトモ針葉樹中ニハ老大ナルモノ多ク目通直徑二尺全長十數間ノモノ少ナカラス濶葉樹中ニモにれ、しなのき、かしはノ如キハ老大ナルモノ少ナカラスト雖モ多クハ大小不同ナリトス一町歩ノ蓄積ハ廣大ナル森林ニアッテハ正確ニ知ルニ由ナシト雖モ跋渉シタル地域ニ於テ粗密ヲ平均シ全面積ニ通スル材積ヲ概測推定シタル針葉樹ニアッテハ平均八十尺〆（此本數十五本乃至三十本）濶葉樹平均三百二十尺〆即チ平均一町歩四百尺〆ヲ算スルヲ得タリ哈密河流域ハ由來林相密ニシテ有價樹種ニ富メルカ故ニ早クヨリ利用セラレ渾江ヲ流下スル筏材ハ重ニ哈密河流域ヨリ伐リ出シタルモノナリト故ニ本流域ノ中流以下ハ（通化ヨリ約百十清里）既ニ擇伐利用シタル殘存木ニ過キサレハ林相粗ナレトモ上流ニ位スル靑勾子ヨリ馬鹿勾ノ一帶ハ斧斤ノ曾テ入ラサル所謂原生林（ウルワルド）ニシテ鬱蒼タル密林ナレハ差當リ事業ヲ開始スルニ適當ナルハ此哈密河流域ナリトス渾江流域モ亦八道勾以下ハ擇伐利用シタル殘存木ニシテ各樹種共枝椏屈曲多キ惡木ニシテ用材トナルヘ

キ部分少ナケレハ利用ニ堪ヘサルモ上流ノ金廠、三岔子附近ニテ曾テ斧斤ノ入ラサル密林アリテ哈密河流域ニ亞キ良林ナリ哈密河流域ノ支流タル二密河大連河流域ニモ針濶混淆林アリテ前者ニ酷似スト雖モ林相稍劣レリ

濛江團地ハ丘岡林ニシテ低濕地多ク針葉樹ノ存在ヲ許ササル箇處アレトモ概シテ林相前者ニ酷似セル原生林ナリトス而シテ本團地ハ絶對的ノ林地ヨリモ相對的ノ林地多ケレハ人口增殖ノ曉ハ今日ノ原生林モ將來ハ農耕地トシテ開墾セラルルヤ必セリ況ンヤ華樹林子ニハ招墾局濛江ニ開墾事務所アリテ吉林省ヨリ本團地ノ開墾ヲ奬勵セルニ於テヲヤ

夾皮勾團地ノ森林モ亦前段ノ林相ト酷似シタル針濶混淆林ナレトモ本團地ノ北半部ハ氣候ノ關係上西伯利亞ノ森林ニ似タル所アリテ針葉樹中ニテモ寒氣ニ堪フル白檜ノ混淆部合前者ヨリモ多ク縦ハ之ニ反シ北半部ヨリ著シク混淆部合ヲ減シ殆ント生育ニ堪ヘサル處アリサレトモ本團地ノ樹種ハ重ニ白檜ナルヲ以テ林位ハ敢テ前者ニ讓ラス本團地モ亦濛江團地ニ等シク原生林ナルハ氣候寒冷ナル東北方ニ僻在シ附近ノ人口稀薄ナルカ爲メナリ

永陵圓頂山以西ノ團地ハ全ク落葉濶葉天然林ニシテ主木ハおほなら、みずなら、かしは、にれニテ樺類、楊柳類、楓類等ノ雜木之ニ混淆ス林齡ハ一定セス盖シ圓頂山附近ハ清朝發祥ノ舊跡地ト稱ヘ往古ヨリ禁伐林ナリシヲ以テ殆ント原生林ナレトモ其他ノ箇處ハ高齡ノモノヲ隨時擇伐シタル殘存木ナレ

ハ良木少ナク目通直徑一尺内外全長七、八間ヲ超ユルモノ少ナシトス分水嶺ノ團地モ亦おほなら、みづなら、かしは、にれ等落葉濶葉樹ヲ主木トセル濶葉天然林ニシテ林齡ハ一定セサレトモ概シテ圓頂山附近ノ禁伐林ニ近ク高齡ノモノ多キハ此團地ハ比較的大ナルヲ以テ未タ普ク擇伐利用セラレサルニ基因ス本團地ハ密ナル箇處ハ一町ノ蓄積五十棚ヲ算スレトモ平均ハ二十棚内外ナリトス

森林所在地及其林力大要

今森林所在地及ヒ其林力ヲ流域ニヨリ區別スレハ左ノ如シ

鴨綠江流域

渾江

哈密河

「註」蛤密河ハ水源ヲホイトウコウノ北方濛江方面ヨリ發シ西南ニ流レ通化ノ北方ニテ渾江ニ合ス其河幅平均約三四十「メートル」ノ間ニアリテ水身ノ深キハ數尺ニ達シ河底ハ岩石若クハ礫石ヨリ成リテ堅シ又處處ニ淺瀨ノ難處アリテ筏ノ流下スルニ當リ操業者ハ水中ニ入リテ其筏ヲ持チ揚ケ辛フシテ通過ヲ計ル部分アリト云フ

筏ハ通化ノ北方約百清里ノ地點ヨリ通スルコトヲ得其筏ハ俗ニ小筏ト稱シ一擸（筏ノ構造ノ項

參照）若シクハ數壠ヲ聯結シタルモノナリ

本流域ニ沿フ地勢ハ一般ニ緩傾斜ノ部分多ク鴨綠江本流域ノ地勢ニ比較スレハ山低ク土地平ラカニシテ運材ノ便多シト云フ沿道ハ人口稀薄ニシテ土民ハ一般ニ農業ヲ本位トシ伐木時季ニ至レハ臨時林業夫トシテ大把頭ニ雇上ケラレ一時的伐木苦力トシテ使用セラルルモノ多シ

運材用ニ供スル牛、馬、驢等ノ類ハ日露戰爭ノタメ其多クハ露兵若クハ露國ニ使用セラルル馬賊ニ掠奪セラレ爲メニ其數ヲ減シタルヲ以テ現時ニ在リテハ通常懷仁方面ヨリ雇入ルルヲ常トス

此地方ニ於テ伐木業者ノ必要ナル糧食及其他ノ物質ハ凡テ柳河縣地方ヨリ之ヲ仰キ五道勾、夾山子方面ヨリモ之ヲ求ムルコトアリテ同地方ヨリハ米ノ供給ヲモ得ラルヘク孤山子方面ニテハ衣服ノ調辨ニモ差支ヘナシト云フ

此流域一帶ノ森林延長十九里平均ノ幅員約五里此方里九十五方里ハ通化ヨリ三十里ト推定シタルモ南方約十一里間ハ既ニ有價樹種ノ擇伐亂採跡地ナルヲ以テ殘餘ノ十九里間ヲ針濶混淆天然林ノ延長ト推定ス

（一）概定見込面積十五萬町步

但シ四捨五入法ニ依ル

(二) 此見込材積六千萬尺〆

但シ一丁歩ノ材積平均四百尺〆ト推定ス

内

(イ) 針葉樹材積千二百萬尺〆

但シ總材積ニ對シ二割ト推定ス

(ロ) 濶葉樹材積四千八百萬尺〆

但シ針葉樹材積ヲ減シタル殘額

(三) 利用見込材積千三百二十萬尺〆

内

(イ) 針葉樹材積八百四十萬尺〆

但シ針葉樹總材積ノ七割ト推定ス

(ロ) 濶葉樹材積四百八十萬尺〆

但シ濶葉樹總材積ノ一割ト推定ス

(四) 未利用見込材積四千六百八十萬尺〆

(イ) 針葉樹材積三百六十萬尺〆

但シ針葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ
（ロ）　濶葉樹材積四千三百二十萬尺〆
但シ濶葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ
（五）　成材見込材積九百二十八萬尺〆
內
（イ）　針葉樹材積五百八十八萬尺〆
（ロ）　濶葉樹材積三百三十六萬尺〆
但シ造材減ヲ約三割ト概定ス

渾江

「註」渾江ハ源ヲ三岔子ノ北方ニ發シ道路ニ沿ヒテ流下シ八家子ニ於テ老嶺附近ヨリ來ル支流ト合シ本道ヲ左右ニ縫テ流ル水量多ク河幅約七十米突乃至百二三十米突河底ハ礫石ニシテ堅ク水深約一尺乃至三四尺トス

本道ヲ横斷スル箇處ニハ橋梁ノ設ケナク總テ丸木ノ小舟ニテ渡航ス小筏ハ八道江通常ノ筏ハ四道江ヨリ自由ニ通過セシムルコトヲ得

本流域ノ沿道ハ通化ヨリ帽兒山（臨江縣）ニ通スル街道ニシテ八道江ノ如キハ戶數一百ニ達シ巡

捕衙門アリテ木材ニ關スル司稅ヲナシ巡檢ノ王ナルモノ駐屯ス又三岔子ノ如キモ戶數一部集團シ巡捕隊アリ

老嶺山脈

「註」此老嶺山脈トハ帽兒山ノ北方北老嶺ヨリ渾江ノ上流ヲ南シ鴨綠江ト渾江ノ中央ヲ南下スル山脈ニシテ北老嶺附近ニテハ實際ノ林地ハ蛤密河森林ト合スルモノナリ

老嶺ノ森林延長約十五里幅員約一里此方里十五方里

（一）概定見積面積約二萬三千町步

但シ四捨五入法ニ依ル

（二）此見込材積九百二十萬尺〆

但シ一町步材積平均四百尺〆ト推定ス

內

（イ）針葉樹材積百八十四萬尺〆

但シ總材積ノ二割ト推定ス

（ロ）濶葉樹材積七百三十六萬尺〆

但シ針葉樹材積ヲ減シタル殘額

（三）利用見込材積二百三萬尺〆
内
（イ）針葉樹材積百二十九萬尺〆
但シ針葉樹總材積ノ七割ト推定ス
（ロ）濶葉樹材積七十四萬尺〆
但シ濶葉樹總材積ノ一割ト推定ス
（四）未利用見込材積七百十七萬尺〆
（イ）針葉樹材積五十五萬尺〆
但シ針葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ
（ロ）濶葉樹材積六百六十二萬尺〆
但シ濶葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ
（五）成材見込材積百四十二萬尺〆
内
（イ）針葉樹材積九十萬尺〆
（ロ）濶葉樹材積五十二萬尺〆

但シ造材減ヲ約三割ト推定ス

龍崗山脈

「註」此山脈ハ長白山ニ起リ帽兒山ノ北方ヲ通過シ西南ニ渉リ永陵、陵山ニ到ル脊髓山脈中帽兒山ヨリ永陵ニ至ル部分ノ名稱ナレトモ通化ノ東北方孤山子附近迄ヲ蛤密河流域トシテ別途ニ計上シタルヲ以テ玆ニ掲クル龍崗山脈ハ孤山子南方ヨリ永陵間ヲ指シタルモノナリ而シテ此見込延長約三十五里餘ナリ永陵ヨリ東北方ニ向ヒ汪清ノ北方迄ハ林相稀薄ニシテ針濶混淆セルヲ以テ延長ヲ約二十五里ト計上セリ龍崗山脈中最モ森林ノ集團シタル地方ハ向陽鎭ノ南方附近（面積約一萬五千町歩）孤山子南方（面積約五千町歩）三叉子附近（面積約一萬町歩）其著シキモノトス森林ノ延長二十五里幅員平均約一里ト推定ス此方里二十五方里

（一）概定見込面積三萬九千町歩

但シ四捨五入法ニ依ル

（二）此見込材積千五百六十萬尺〆

但シ一町歩材積平均四百尺〆ト推定ス

内

（イ）針葉樹材積三百十二萬尺〆

但シ總材積ノ二割ト推定ス

（ロ）濶葉樹材積千二百四十八萬尺〆

但シ針葉樹材積ヲ減シタル殘額

（三）利用見込材積三百四十三萬尺〆

内

（イ）針葉樹材積二百十八萬尺〆

但シ針葉樹材積ノ七割ト推定ス

（ロ）濶葉樹材積百二十五萬尺〆

（四）未利用見込材積

（イ）針葉樹總材積九十四萬尺〆

但シ針葉樹總材積ヨリ利用材積ヲ減シタルモノ

（ロ）濶葉樹材積千百二十三萬尺〆

但シ濶葉樹總材積ヨリ利用見込額ヲ減シタルモノ

（五）成材見込材積四百三十萬六千尺〆

内

（イ）針葉樹百五十二萬六千尺〆

（ロ）濶葉樹八十八萬尺〆

以上ハ渾江流域ニ於ケル森林ノ林力ニシテ今之ヲ總括スレハ左ノ如シ

番號	名稱	面積	材積			備考
			總	利用	成材	
1	蛤密河	150.000町	60,000.000	13,200.000	9,280.000	
2	老嶺	23.000	9,200.000	2,030.000	1,420.000	
3	龍崗	39.000	15,600.000	3,430.000	2,406.000	
計		212.000	84,800.000	18,660.000	13,106.000	

松花江流域

濛江園地

「註」本園地ハ東西ヲ幅員トシ南北ヲ延長トス其位置蛤密河森林ノ北方ニ位シ濛江ヲ中心トシタル大森林ニシテ其地勢丘岡狀ヲナシ僅カニ濛江ノ南方約一里程ニ稍高キ一山アルノミ森林ノ延長約二十里ニ渉リ幅員平均約七里此概定方里百四十方里

（一）概定面積約二十二萬町歩

但シ四捨五入法ニ依ル

(二) 此見込材積六千六百萬尺〆
但シ一町歩平均三百尺〆ト推定ス
内
(イ) 針葉樹材積千三百二十萬尺〆
但シ總材積ニ對シ二割ト推定ス
(ロ) 濶葉樹材積五千二百八十萬尺〆
但シ針葉樹ヲ減シタル殘額

(三) 利用見込材積千四百五十二萬尺〆
内
(イ) 針葉樹材積九百二十四萬尺〆
但シ針葉樹總材積ノ七割ト推定ス
(ロ) 濶葉樹材積五百二十八萬尺〆
但シ濶葉樹總材積ノ一割ト推定ス

(四) 未利用見込材積五千百四十八萬尺〆

内

（イ）針葉樹材積三百九十六萬尺〆

但シ針葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ

（ロ）濶葉樹材積四千七百五十二萬尺〆

但シ濶葉樹總材積ヨリ利用見込額ヲ減シタルモノ

（五）成材見込材積千〇十七萬尺〆

内

（イ）針葉樹材積六百四十七萬尺〆

（ロ）濶葉樹材積三百七十萬尺〆

但シ造材減ヲ約三割ト概定ス

夾皮溝團地

「註」本團地ハ東西ヲ幅員トシ南北ヲ延長トス本林ハ夾皮溝ノ東方ニアル大森林ニシテ附近著名ノ名稱ヲ襲用シ本名稱ヲ付ス

森林ノ延長約二十里幅員約十五里此概定方里約三百方里

（一）概定面積四十七萬町步

但シ四捨五入法ニ依ル

（二）此見積材積約一億四千百萬尺〆

但シ一町歩平均約三十尺〆ト推定ス

内

（イ）針葉樹材積二千八百二十萬尺〆

但シ總材積ノ二割ト推定ス

（ロ）濶葉樹材積一億千二百八十萬尺〆

但シ針葉樹材積ヲ減シタル殘額

（三）利用見込材積二千八百二十萬尺〆

内

（イ）針葉樹材積千六百九十二萬尺〆

但シ針葉樹總材積ノ六割ト推定ス

（ロ）濶葉樹材積千百二十八萬尺〆

但シ濶葉樹材積ノ一割ト推定ス

（四）未利用見込材積一億千二百八十萬尺〆

（イ）針葉樹材積千百二十八萬尺〆
但シ針葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ

（ロ）濶葉樹材積一億百五十二萬尺〆
但シ濶葉樹總材積ヨリ利用見込材積ヲ減シタルモノ

（五）成材見込材積千六百九十二萬尺〆
内
（イ）針葉樹材積千十五萬尺〆
（ロ）濶葉樹材積六百七十七萬尺〆
但シ造材減ヲ四割ト推定ス

以上ハ松花江流域ニ於ケル森林ノ林力ニシテ今之ヲ總括スレハ左ノ如シ

番號	名稱	面積	材積		
			總	利用	成材
1	濛江	2[illegible]0.000	66,000.000	14,520.000	10,170.000
2	夾皮溝	470.000	141,000.000	28,200.000	16,920.000
計		690.000	207,000.000	42,720.000	27,090.000

渾河

圓頂山團地

「註」馬連頓峠ヨリ圓頂山ニ至ル永陵街道ノ南北及邊外堡並ニ其西方ニ亘ル森林地帯ヲ云フ
東西ノ延長約六里南北ノ幅員平均約三里此方里約十八方里

(一) 概定面積約二萬八千町歩

内

(イ) 濶葉喬林千五百町歩
但シ濶葉喬林ハ圓頂山ヲ中心トシ約一里四方トス

(ロ) 濶葉薪炭林二萬六千五百町歩

イノ(一) 概定面積千五百町歩
但シ四捨五入法ニ依ル

イノ(二) 此見込材積四十五萬尺〆
但シ一町歩材積約三百尺〆ト推定ス

内

用材材積十五萬尺〆

但シ一町歩百尺〆ト推定ス

薪材材積五萬棚

但シ一町歩三十三棚ト推定ス

(イノ三) 利用見込材積

用材材積十萬五千尺〆

但シ總材積ノ七割ト推定ス

薪材材積三萬五千棚

但シ總材積ノ七割ト推定ス

(イノ四) 成材見込材積

用材材積七萬四千尺〆

但シ造材減ヲ三割ト推定ス

(ロノ一) 概定面積二萬六千五百町歩

(ロノ二) 此見込材積五十三萬棚

(ロノ三) 利用見込材積三十七萬棚

但シ總材積ノ七割ト推定ス

太子河

分水嶺團地

「註」南北ノ延長六里東西ノ幅員一里此方里約六方里

賽馬集ト南孤山ノ中間ニ位ス

ライトユイ河（土語）ニ依リ管流シ太子河口ニテ筏ニ組立テ遼陽ニ輸送ス

ライトユイ河ハ其幅平均約二十米突内外ニシテ太子河ノ支流ナリ

本林中運搬至便ナル部分ハ地方土人ノ有價樹種擇伐伐採跡地トス

（一）概定面積約九千町歩

但シ四捨五入法ニ依ル

（二）此見込材積百八萬尺〆

内

（イ）用材材積十一萬尺〆

但シ總材積ノ約一割ト推定ス

（ロ）薪材材積十六萬二千棚

但シ一町歩平均約十八棚

(三) 利用見込材積

(イ) 用材材積七萬七千棚

但シ總材積ノ約七割ト推定ス

(ロ) 薪材材積十一萬三千棚

但シ總材積ノ七割ト推定ス

(四) 成材見込材積

(イ) 用材材積五萬四千尺〆

但シ造材減ヲ三割ト推定ス

以上ヲ渾河及太子河兩流域ニ於ケル森林ノ林力ニシテ今之ヲ總括スレハ左ノ如シ

番號	名稱	面積	材積 總	材積 用材	材積 薪材
1	圓頂山團地	28.000町	150,000尺〆 580,000タナ	74.000尺〆	405.000タナ
2	分水嶺團地	9.000	100,000尺〆 162,000タナ	54.000	113.000
計		37.000	260,000尺〆 742,00)タナ	128.000	518.000

本表中用材材積欄ハ成材見込材積薪材材積欄ハ利用見込材積ヲ掲ク

以上列記シタル森林ヲ各河川ノ流域別ニ據リ總括スレハ左ノ如シ

番號	流域名	概定面積	總材積		備考
			用材	薪材	
1	渾江	212.000	13,106.000	—	
2	松花江	690.000	27,090.000	—	
3	渾河 太子河	37.000	128.000	518.000	
計		939.000	40,324.000	518.000	

前掲ノ森林林力算定ニ當リテ最モ困難ヲ感シタルハ面積ノ推定ニシテ其森林所在地方ニ於ケル正確ナル地圖（現今陸軍測圖班ニテ通化附近調査中）ナキヲ以テ隨テ確實ナル其方里ヲ算出スルコト能ハス止ムナク陸軍交通圖並ニ東亞輿地圖ヲ以テ基礎トシ今回調査ニ當リ得タル各種ノ材料ヲ參酌シ極メテ其大綱ヲ捕ヘタル果實ニ過キサルヲ以テ各森林所在地見込面積中ニモ其細部ニ渉レハ一一之ヲ知悉スルコト能ハス又其材積ノ如キモ斯ル森林全部ニ對スル其平均數ナルヲ以テ可及的之ヲ小ニ見積リ吾國ニ於テ其比較森林トシテ最モ近似ノモノト信スル紀伊國南北牟婁郡ニ在ル古利谷、大又兩國有林ヲ基トシ之ヲ斟酌シテ算出シタルモノナリ針葉樹ノ混淆部合ハ稍小ニ失スルノ觀アレ共其混淆ノ狀態多クハ散生ナルト全部ニ

對スル平均ナルヲ以テ紀伊國古利谷國有林ヲ標準トシテ之ヲ斟酌シタリ
濶葉樹ノ利用部合ヲ定メタルハ木材集散地タル安東縣、大東溝若クハ龍岩浦等ヘ從來流下シタル木材ノ情況ヲ斟酌シ針葉樹ニ對スル比較ヲ保チ約一割ト推定シタレ共元來濶葉樹材ハ市場ニ於ケル其相場針葉樹材ノ約半額ナルト且ツ流材ニ當リ針葉樹材ヨリ深ク水中ニ沈降スルノ不便アルヲ以テ之ヲ伐採スルヲ好マサルニ依リ比較的其步合小ナレ共漸次貴重樹種ノ缺乏スルニ隨ヒ濶葉樹ニ於ケル利用率ハ增加スルモノト思料ス
渾江、渾河、太子河ノ各流域ニ屬スル森林ニ付テハ各各其一部分實地踏査ヲ遂ケ之ヲ各方面ヨリ蒐集シタル各種ノ材料ニ參照シ更ラニ其木材ノ集散地タル安東縣、龍岩浦、大東溝(渾江木材集散地)奉天(渾河木材集散地)遼陽(太子河木材集散地)等ニ至リ木材集散ノ情勢ニ鑑ミ其林力ヲ推定シタリト雖トモ獨リ松花江流域ニ至リテハ全然露國ノ勢力範圍ニ屬シ一歩タモ進入スルコト能ハス仍テ滿洲義軍遠征隊ヨリ得タル唯一ノ材料ニヨリ之ヲ推定シタルニ過キス而シテ之レカ材料ハ軍事行動ニヨリ森林所在地ヲ單ニ通過シタル迄ナルヲ以テ林業ニ關スル材料ニ乏敷直ニ以テ事業計劃ノ資料ニ供シ難ク實地視察ノ爲メ相當ノ適任者御派遣ヲ望ム
森林所在地中帽兒山(臨江縣)ノ東南方鴨綠江ニ沿リ惠山方面及ヒ北方長白山麓ニ到ル一帶ノ地域ハ説明ノ材料ナク其狀況ヲ詳ニスルコト能ハサルヲ以テ調査上之ヲ除外セリ然レ共土人並ニ當業把頭ノ言

ニ徴スレハ帽兒山ヨリ惠山方面ニ進ム一帶ノ地域ハ山高ク土地狹ク（渾江蛤密河流域ニ比較ス）シテ運搬ニ不便ニシテ且ツ其二十四道溝中既ニ十八道溝ハ平均七八十清里間ハ擇伐亂採跡地ナリト云フ果シテ之ヲ事實トスレハ各道溝流域ノ短小ナルハ地理上其廣袤ノ狹小ナルヲ證明スルモノニシテ前記擇伐作業ハ既ニ分水嶺（鴨綠江、松花江）附近ニ進行セラレタルニアラサルカ凡ソ木材ノ利用ハ天然ノ地形ニ支配セラルルコト大ナルヲ以テ之ヲ帽兒山ノ北方吉林街道ニテ逢著スル分水嶺距離（八十清里）ヨリ按スルトキハ鴨綠江右岸ニ於テ利用セラルル森林面積ノ廣大ナラサルヲ立證スルコト敢テ難キニアラス仍テ其森林ハ惠山ノ北方長白山麓ニ於テ原始的狀態ヲ維持スルニ過キスト雖トモ此地域ハ地勢壓迫セラレ爲メニ其道溝ノ存在ヲ許サス清韓兩國中其境界ノ最モ不明ナル地點ニシテ滿領森林ノ廣袤ノ大ナラサルヲ證明スルニ餘リアリ

鴨綠江上流ノ伐木造材運材事業

伐木

鴨綠江上流ノ伐木事業ハ材木ノ主ナル原產地タル渾江流域ニ屬スル龍崗・老嶺山脈ヨリ立木ヲ伐採シ之ヲ筏ニ組立テ渾河口ヨリ鴨綠江本流ヲ流下シテ安東縣ニ搬出スル事業ニシテ其要項ヲ記述スレハ次ノ如シ

資材ノ獲得法

材木ノ原產地ハ鴨綠江上流ニ位シ淸領長白山ヨリ分岐セル龍崗及老嶺山脈一帶ニ在ル森林ニシテ凡テ官林ナルモ之カ伐採ヲナスニハ許可ヲ得ルニ及ハス通化縣ノ知縣(我國ノ郡長ノ如キモノ)ヨリ斧票ヲ受ケ一斧每ニ銀一兩ヲ納稅スレハ伐木勝手タルモノニシテ各人隨意ニ山林ニ入リ恣ニ伐木シ自己ノ刻印ヲ打込ミタルモノ卽チ其所有ニ歸スルモノナリ然ルニ近來ハ斧數(卽人員)ヲ詐稱シテ納稅ヲ免レントシ甚シキハ把頭共カ衆ヲ恃ミテ納稅ヲ拒ミ入山スルモノアルヲ以テ知縣ハ時時官兵ヲ伐木ノ個處ニ派遣シテ斧票ノ檢査ヲナサシムレトモ官兵モ亦腐敗ノ極一飯ノ食又ハ二三兩ノ賄賂ヲ己ノ囊中ニ入レ斧票ノ檢査ヲ遂クスシテ歸ルヲ常トス殊ニ昨年(三十七年)ノ如キハ日露開戰ノタメ行政機關ノ萎微セルニ乘シ敢テ納稅スルモノナシト云フ

伐木

鴨綠江上流ニ於テ年年伐木ニ從事スル苦力(木把)ハ每年二萬人內外ニ達シ多クハ山東省ヨリ出稼ニ來レル無資ノモノナレハ把頭ニ引率セラレテ入山スルモノナリ把頭(把頭ハ伐木造材運材ノ企業者)ハ多年伐木運材事業ニ主事シ經驗アルモノナレトモ是又資本金ヲ有スルモノ少ナク多クハ資本主ヨリ資本金ヲ借リ該事業ニ著手スルモノナリ每年淸曆八九月ノ頃ニ至レハ資本主ハ資本金ヲ與ヘ把頭ヲシテ苦力ヲ引率シテ入山伐木ニ從事セシム把頭ハ卽チ又柚頭ニシテ少ナキハ七八人多キハ百人內外ノ頭ノ名

稱ナリ把頭ノ若力ヲ引率スルノ多少ハ資本主ノ資本金ヲ貸與スル多寡ニ因ル故ニ資本主ニシテ一萬圓ノ資本金ヲ貸與セハ把頭ハ百人內外ノ頭トシテ入山スヘク五千圓ヲ與ヘシカ四十四、五人ノ頭タルヘシ今假リニ資本主一萬圓ヲ伐木ニ投資ストセハ資本主ハ把頭ト契約シ翌年七八月ノ頃安東縣ニ木材搬出ノ上ハ其期間ノ（普通安東縣ニ歸リ計算ノトキハ其期間即チ一ヶ年一萬圓ニ付キ五六千圓乃至七八千圓ノ利息(約年七割)ヲ拂フ割合ナリト之レヲ內地ニ比スレハ非常ノ相違ナルヲ以テ種々ノ方面ヨリ搜求セシモ皆同一ナリ、サレトモ之レハ資本主ニモ亦一理アリ即チ一度木材無事ニ安東縣ニ到着セハ五六千圓ノ利ヲアリト雖モ不幸ニシテ馬賊ノ掠奪又ハ出水ノタメ紛失スルトセンカ全ク資本ヲ失ヒ翌年更ニ一萬圓ノ資本金ヲ出シテ事業ヲ繼續シ以テ前年ノ不結果ヲ挽回セシムルノ策ヲ取ル故ニ幸福ナルトキハ年年五六千圓乃至七八千圓ノ利ナリト雖モ不幸ナルトキハ二三年引續キ資本金迄モ損亡ニ歸セシムルコトアリト云フ）金利其他ノ契約ヲナシ保證人ヲ設ケ資本金ヲ受取リ諸般ノ準備ヲ整ヘ出發スルモノナリ

把頭即企業者ト資本主トノ間ニ於テ資本金前借ノ場合ニ契約サルル證書ハ左ノ如シ

以備做木之用
收石北交到手錢若干圓　張文郁
光緒　年　月　日
保人　高陳山

玆ニ注目スヘキハ支那ノ借用證書ニハ利息及返濟期限ノナキコト是レナリ由來支那人ハ自尊自重ノ習

慣アリテ口頭契約シタルコトニテモ信用ヲ重シ履行スルヲ以テ尊重スルタメ掲ケサルモノナリト云フ
資本主ハ單ニ一期間ノ資金ヲ貸與スル迄ニテ把頭ハ事業一切ノ責任ヲ負ヒ苦力ノ備入其他衣食ノ調辨等ニ至ル迄引受クルモノニシテ資本主ノ關知スル所ニアラス把頭カ苦力ヲ使役スルニハ更ニ小把頭ヲ命シ六七八乃至八九人ノ苦力ヲ指揮シ伐木運材ヲ分掌セシム故ニ伐木苦力ハ終始伐木事業ニ從事セシムレトモ人員ノ多寡即チ資本金多少ニヨリ伐木シ運材ニ從事スルコトアリ伐木箇所ニハ幾多ノ伐木業者入リ込ミ各自任意ニ伐木ニ從事スルヲ以テ一見日本人ヨリ視レハ競爭ノ結果各其伐木箇所又ハ良木ノ選定競爭ノ爲メ喧嘩ヲ生スルヤノ感アレトモ決シテ然ラス一旦一把頭ノ選ヒシ場所ニハ假令如何ナル良木アリト雖モ其他ノ把頭ハ濫リニ手ヲ下スコトナシ又一團地ニシテ一把頭一方ヨリ伐木シ他ノ把頭他ノ一方ヨリ伐木シ計ラス邂逅ストモ決シテ爭ヲ生セス互ニ其望ノ木ヲ伐木シ各自ノ刻印ヲ押シテ別ルルノミニシテ後日其伐木セシ材木ニ就テモ爭論ヲ生スルコトナシト言フ把頭ハ七日分又ハ十日分ノ糧食（粟又ハ黍ノ類）ヲ渡シ小把頭ニ七八人ヲ附シ選定箇所ニ至ラシム小把頭ハ伐木箇處附近ニ小屋掛（小屋ニ大小アリテ小ナルハ十五人大ナルモノ三十人入ルヲ標準トス）ヲナシ然ル後伐木ニ從事ス把頭ハ時時小把頭ノ働振リヲ監視ノ爲メ巡廻スト雖モ大抵ハ人家ノ近傍ニアリテ杣夫ノ糧食其他牽出ニ要スル臨時苦力ノ傭入等事業全般ノ計劃ニ從事シ伐木運材等ノ勞役ニ從事スルコトナシ
蛤密河流域ニ入山スル有力ナル大把頭ハ左ノ如シ

裴永盛　張文玉　孫喜寛　戸秀春
高增山　崔玉成　山永山

伐木器具

伐木造材用ノ器具ハ極メテ單純ナルモノニシテ即チ次ノ如シ

斧	一挺	代金	大二圓　小一圓廿錢	立木伐倒ニ用フ
鋸	一挺	同	一圓前後	王切及筏組立ノ際用フ
鐇子(手斧)	一箇	同	一圓前後	造材ニ用フ
鑿子	同	同	七十錢	目斗穴ヲ穿ツニ用フ
鐵環釘	同	同	代價一定セス	牛馬ニ牽カシムルトキハ丸太材ニ打込ミ綱ヲ結ヒ付クルニ用フ
麻繩	百斤	同	代價四圓五十錢乃至五圓五十錢	牛馬ヲ牽出シ或ハ筏繫留用トス

造材及運材

伐木ハ淸曆十月ニ着手スルヲ普通トシ立木ハ斧ヲ以テ伐倒シ其樹木ノ長短、大小ニ應シテ造材ノ種類ヲ定メ其場所ニ於テ造材ノ寸法ニ適應スル長サニ多少ノ延尺ヲ附シ丸太材ニ挽キ切ルナリ丸太材ハ管流ヲ爲スニ適當ナル溪流ノ邊マテ牽出ス此牽出シハ積雪氷結ヲ利用スル爲メ十二月中旬ニ始メ翌年二三月ノ候ニ終ルヲ普通トス（四月以降ハ解雪スルヲ以テ搬出困難ナリトス）而シテ之ヲ牽出スニハ鐵

環釘ヲ打込ミ牛馬若クハ驢ニヨリ之ヲ河岸ニ挽カシムルモノナリ牽出シ來リタル丸太材ハ溪流ノ邊ニテ造材（押角）スルヲ普通トス然レトモ小ナル丸太材ハ造材セス丸太ノ儘ニテ川下スルコトアリ造材シタル角材ハ假リニ積立テ置キ水量ノ適當ナルトキヲ見計ヒ小谷狩ヲナシ筏ニ組ミ得ル本川迄狩リ出スモノナリ其時季ハ四月以降トス彼地ニアツテハ氣候酷寒ナルヲ以テ寒中ノ川下ハ辛苦多大ナリト云フ溪流ヲ管流シ來リタル木材ハ其本川ニ入ル河口ニ於テ筏ニ組ミ立ツルニ兩端ニ目斗穴ヲ穿チ連結ス然レトモ溪流ノ大小ニ因リ一旦小筏ヲ組ミ本川ニ至リテ更ニ大筏ニ組換フルコトアリ其筏ノ構造ハ別項ニ掲クル所ノ如シ筏ハ四月ヨリ組ミ立テ漸次流下ニ着手スト云フ

筏ノ構造

普通ノ造材ヲ幅一尺七八寸厚サ七八寸長サ八尺物（內地ノ一間物ト同樣）トスレトモ木取リ許ス限リ長ク取ルヲ以テ八尺物ハ僅少ニシテ少ナクトモ十六尺又ハ二十四尺或ハ三十二尺物トス而シテ其兩端ニハ必一尺宛ノ頭巾ヲ有ス是レ筏ニ組立ツルトキ目斗穴ヲ穿ツ所ナリ故ニ十八尺、二十六尺、三十四尺、四十二尺物トナルナリ此ノ兩端一尺ノ頭巾ハ安東縣ニ着ノ上ハ切リ取リ薪材トシテ賣買スルモノトス普通ノ筏ハ大抵十八尺物ナルカ如シ而シテ八尺材ハ主ニ筏ノ上部ニ積載又ハ長物ノ間ニ並列シテ流出ス以上ハ角物ニ造材シタルモノナレトモ安東縣ニ着スルモノハ必ス角物ニアラス丸太材ノ儘筏ニ組立テ流下スルモノアリテ一定セス今筏ノ構造ヲ分解シテ說明スレハ次ノ如シ

一幅一尺七八寸厚七八寸長八尺ノ角材一本ヲ一付或ハ一根（又塊）ト稱シ

一十一付ヲ一攏（聯）ト稱ス

一五攏ヲ一節吊ト稱シ

一五節吊ヲ一木排（一張又ハ一筏）ト稱ス

故ニ本數ヲ以テ云フトキハ幅一尺七八寸厚七八寸長八尺ノ角材一本カ一付ナルカ故ニ一攏ハ十一本一節吊ハ五十五本一木排即一筏ハ二百七十五本ナリトス

今假リニ一付ヲ幅一尺七寸厚サ七寸長八尺トシテ材積ヲ算出スレハ零尺〆七分九厘三毛トナルカ故ニ一攏ノ材積ハ八尺〆七分二厘三毛トナリ一節吊ハ四十三尺〆六分一厘五毛トナリ一木排即一筏ノ材積ハ二百十八尺〆零七厘五毛トナル

丸太材ハ大小ニ係ラス長八尺ノモノ十一本ヲ一攏ト稱シ五攏ヲ一節吊五節吊ヲ一筏ヲ稱フルモ角材ニ於ケルカ如ク一付ノ大サハ一定セサルモノノ如シ

筏ニ二種アリテ一ヲ本字號一ヲ雜字號ト云フ何レモ木種ノ區別アルニ非ス只本字號ハ一人ノ所有ニシテ木材皆同一ノ刻印アルモノノミヲ以テ筏ヲ組ミ立テタルモノヲ云ヒ雜字號トハ小資本ノモノ伐木セシモ一人一筏ヲ組ムニ足ラサルトキ數人聯合シテ一筏ヲ組ミ立ツルモノノミニシテ其木材ノ刻印ニ種種アルカ爲メ斯ク名ツクルモノトス或ハ言フ雜字號ノ筏ハ價格低廉ニシテ木材惡シ是レ掠奪又ハ拾得

ノ木材ナレハナリト是ハ誤リニシテ前述ノ如ク雜字號ハ刻印ニ種種アルモノヲ云フサレトモ中ニハ拾得又ハ掠奪ノ木材ナシトモ限ラサルヘシ且ツ價格モ前述ノ如ク小資本者ノモノナルヲ以テ賣買ニ際シテモ腰弱ク金錢ノ必要ニ迫リ自然投賣スルヲ以テ本字號ヨリハ幾分低廉ナリト云フ

筏ノ乘込人員ハ普通十攏ニ三人位ニテ一筏ニ七八人ヲ普通トス筏ノ中央ニハ小屋ヲ造リテ苦力ノ寢食用ニ供シ其前後ニハ三挺乃至四挺ノ楫ヲ付シテ操行スルナリ（鴨綠江ニハ所所淺瀨アルヲ以テ筏ヲ操行スルニハ水先案内ヲ雇入レ筏ヲ操縱セシム之ヲ卯子（モーツ）ト稱ヘ一回ノ苦力賃三十圓内外ナリト云フ）筏ハ七八日前後ニテ渾河流域ヲ流下シテ鴨綠江本流ニ出テ本流ニ入ルトキハ平水ナレハ四五日ヲ費シテ安東縣ニ着スト云フ

筏ニ對スル一種ノ通過税

渾江ヲ流下スル筏ニ對シテハ砂尖子（懷仁、通化ノ要路ニシテ水路ノ交叉點ナリ）ニ材木公議會長馬芝芳ナルモノアリテ一筏ニ對シ通過酒手一圓二十錢ヲ徴收ス是レ一種ノ支那的機關ニシテ時トシテ馬賊ノ討伐ヲナシ筏ノ掠奪ヲ防ク爲メニ備フト云フ

運材中危險ノ程度

山地ニ於テ伐採シタルモ未タ筏ニ組ミ立ツルニ至ラス溪邊ニ積ミ置キタル際往往出水ノ爲メ流出スルコトアリ是レ清曆四月頃ニ起ルモノニシテ已ニ筏ニ組立テタル後ハ殆ント是レナシト云フ

其流出木ハ後日發見スルトキ又ハ他人ノ之ヲ拾得シテ留メ置クモノアルトキハ之ヲ取戻スニ相當ノ報酬ヲ要ス近頃團聯長等心裡腐敗ノ極相當ノ報酬ニ滿足セス時價ヲ以テ賣買スル如キ報酬ヲ要求スルヲ以テ往往放棄スル場合アリト云フ偶偶返濟サルルモ（尤モ相當ノ報酬ヲ與ヘテ）必ス一割乃至二割位ノ材木ヲ隱匿シテ他ヲ返濟スルノ惡習慣アリ又筏ヲ竊取スルハ朝鮮人ノ專業ニシテ繫留中ニ水中ニ潛入シ巧ニ綱ヲ切斷シ筏ヲ流シ持チ去ルト云フ故ニ安東縣到着迄ニハ流失又ハ盜難ノ爲メニ約二割位ノ減少ヲ見ルト云フ

鴨綠江上流地方タル樞要ノ地ニハ多少ノ官兵ヲ置キ馬賊ノタメニ備フト雖モ未タ以テ治化ノ普及セサル運材途中ニ於テ惡徒ノ爲メニ掠奪ヲ恣ニセラルルコトアリト云フ

陸上運搬ニ當リテハ荷馬車ナルモノアリ其構造單純ニシテ外觀甚タ粗脆ナルカ如シト雖モ堅牢ニシテ操業行動ニ自在ナル道路ハ勿論山間ナルト河川ナルトヲ問ハス行路ノ難易積量ノ多寡ニ應シ牛馬驢數頭乃至七八頭（最モ多キハ十頭十一頭ヲ付シタルモノアリ）ヲ付シ皮紐（皮紐トハ細キ革三條ヲ三ツ綴シニナシタルモノ）ヲ付シタル長短二本ノ鞭（鞭ハ上部ハ細キ竹三本ヲ火力ニテ捻リ曲ケ一本トシ最モ彈力性ニ富マシム後部ハ木質ニテ之ヲ作リ長鞭ハ八尺短鞭ハ四尺前後トス）ヲ以テ巧ニ之レヲ操縱ス而シテ數頭ノ驢馬（往往牛ヲモ混スル處アリテ中ニハ牛ノミナルモノモアレ共極メテ少ナシ）ヲ一車ニ連結セシムルニハ轅馬ヲ俗ニ臺馬ト稱シ最モ體格良好ニシテ優駿ナルヲ撰ヒ前列中列後列及ヒ其左

右中馬等夫夫一定ニ之ヲ調敎シタルモノニシテ異種數頭ノ動物混交シ毫モ喧爭ノ狀ナク柔順ニシテ且ツ進止左右ノ語ヲ區別シ其働ク樣一種ノ奇觀ナリ

伐木苦力

淸國到ル處勞働ニ從事スル者ヲ呼テ苦力ト稱ス由來淸國人ハ杖ニ倚ル老輩事理ヲ解セサル小輩ニ至ルマテ各一業ヲ有シ粗衣粗食所謂困苦缺乏ニ堪ヘ柔順命ニ從ヒ勤勉倦ム所ヲ知ラス一意收利ニ餘念ナク遺利悉ク剩スナキハ淸人ノ特色ナルモノノ如シ殊ニ伐木事業ニ從事スルモノハ十八省中移住ト出稼ヲ以テ他省ヲ壓スル彼ノ山東民族ニシテ彼等生活ノ狀態ハ恰モ野獸ニ均シク居常一定ノ住所アルナク利ニ隨ヒ其居所ヲ轉スルコト波ニ漂フ浮草ノ如シ冬季嚴寒ノ候ト雖モ寐ヌルニ寢具アルナク炊上ニ橫臥睡眠ヲ貪リ高粱ニ腹皷ヲ打チテ平然タルモ伐木事業ニ至リテハ彼等ヲシテ辛辛苦苦辛苦多多的ナル言ヲ述懷セシムルニ至ルハ蓋シ故ナキニ非ス今其述懷スル二三ヲ擧クレハ幾多ノ困苦缺乏中其最モ主トスル處ハ寒氣ト睡眠トニアルカ如シ寒氣骨ニ徹シ朔風膚ヲ裂ク山中ニアリテ毛髮氷結シ手足ハ破レテ石ノ如ク堅ク其運材事業ノ如キ時トシテハ月夜ヲ利用シ終夜睡眠ノ餘暇ナク僅カニ牛馬ニ秣飼フ寸時ヲ以テ睡眠ヲ計ルカ如キハ最モ辛辛苦苦ニシテ其他水中ノ狩出シ濕潤地ノ伐木等アラユル困難ヲ甞メ而シテ衣食住ノ缺乏ヲ忍ヒ尙ホ世界無比ナル低廉賃金ニ甘ンスルカ如キハ到抵本邦勞働者ノ競爭ニ堪ヘサル處ニアラサル乎

渾河流域ニ於ケル木材輸送並ニ商業關係

渾河流域ニ於ケル木材ノ輸送並ニ商業關係ヲ示セハ左ノ如シ

新兵堡及八家子ト奉天トノ水路

抑モ通化附近ノ木材並ニ八家子山城子地方ノ木材カ奉天方面ニ輸送サルルハ此山間ノ谿谷中一流ノ渾河アルヲ以テナリ新兵堡及八家子ノ兩地ハ共ニ渾河ノ流域ニシテ奉天ヨリ之ヲ溯レハ營盤ニ到リテ分岐シ北行セハ八家子ニ到リ東行セハ新兵堡ニ到ル即チ奉天ヨリ三百餘清里ニシテ永陵ニ達シ尙ホ六十清里北行シテ新兵堡ニ達ス八家子ハ海龍城ノ管轄ニシテ水路本地ヲ離ルル二百四十清里ノ處ニ在リ

渾河流域ニ於ケル木材運輸法

龍崗老嶺山中ニ於テ伐採シタル木材ハ新兵堡迄蘇子河（渾河ノ上流ヲ云フ）ヲ管流シ來リ同處ニテ賣却スルモノト奉天迄輸送シテ賣却スルモノトアリ或ハ奉天其他ノ地方ニテ豫メ若干ノ材木ヲ注文セラルルモノアレトモ多クハ奉天木廠ニ直輸送スル者最モ多シ而シテ新兵堡ヨリ奉天ニ到ルモノハ新兵堡ニテ木商自ラ筏ニ組ミ春季ノ增水ヲ俟ッテ流下シ來ルモノトス八家子ヨリ流下スル筏モ亦同樣ノ方法ニシテ其筏ノ大サハ多少大小アレトモ十擺（即チ百十副）一筏ヲ普通トス筏ハ四月ヨリ流下シ始メ六七月ノ候ニ至リ最モ盛ニ流出シ來ルト云フ大概新兵堡ヨリ五六日間ヲ要シテ奉天ニ達ス一筏ヲ流ス水

脚（即運賃）ハ二百餘吊文（三十餘元）トス筏ノ構造ハ幅六寸厚六寸長八尺ノ角材一本ヲ一副ト稱シ十一副ヲ一壠ト稱ヘ十壠即百十副ヲ以テ一筏（即二十六尺〆四分）トナス其筏ノ所有者ハ即チ新兵堡ノ木商ナレハ其流筏ニ際シ必ス店員ヲ派シテ之ヲ監視スルタメ其上ニ乘リ込マシメ外ニ一筏ニ付二人ノ舟子アリテ之ヲ操縱ス日暮ニ至リ人家ナキ處ニテモ僅カニ河岸ニ雨覆ヲ急造シテ一睡シ翌朝再ヒ流下ス然シ日露戰爭以來河流ノ處處ニ軍橋ヲ架シアルヲ以テ筏ノ構造モ從テ細長クセサルヘカラスト若シ一筏（即十壠）ノ木材ヲ馬車ニ積載セントセハ道路佳良ナル時ハ五輛道路泥濘ノ時ハ十輛ヲ要シ約十日間ヲ費シテ奉天ニ達スト云フ馬車一輛ノ積載量ハ路面良好ナルトキハ約二十二副（重量約二百五十貫）ノ木材ヲ積載スルヲ得趕車的（御者）二名附隨シ十輛以上ニハ馬車頭一名隨行ス通常陸路ヲ運搬スルニ通化ヨリ奉天迄ハ其運賃一寸角長八尺ニ付テ一角錢（十錢）ノ割合ニシテ馬車一輛ニ付約四十圓ヲ要ス故ニ陸運ニ依ルヨリモ水運ニ依テ輸送スル方遙ニ利益ナリトス

木材ノ種類

新兵堡ヨリハ角材、板類、丸太ヲ出シ八家子ヨリハ丸太ヲ多ク出ス奉天ニテハ角材ヲ方貨ト云ヒ丸太類ヲ圓貨ト云フ而シテ新兵堡ヨリ杉松、菓松、楸木、椴木、櫟木、曲力木、色木ヲ出シ八家子ヨリハ楊、楡、櫟木、楸木、曲力木等ヲ出ス

奉天ニ於ケル日露戰爭前即チ平年ノ相場ヲ擧クレハ左ノ如シ

材木名	大サ	用途	單價（一寸角長八尺ニ對スル）
杉松	長八尺 角一尺乃至二尺	建築用材、板、家具	四百文
菓松	同上	同上	六百文
楸木	長一丈又ハ一丈五尺 角九寸乃至一尺三寸	建築用材、車轅	四百文（長七尺五寸）
椴木	同上	同上	四百文
曲力木	同上	同上	六百文
色木	長七尺 角二寸乃至三寸	馬車材料、楄担	五百文
櫟木	長一丈乃至一丈五尺 角一尺内外	同上	六百文

材木ニ對スル收税

數年前迄山中ニ於テ伐採スル時斧票ト稱シ各一人ニ付キ約一圓内外ノ伐採税ヲ地方官ニ收メシモ近來漸次廢止セラレ單ニ木税ノミヲ要スルコトトナレリ

新兵堡方面ヨリ渾河ヲ流下スル木材ハ新兵堡ニ於ケル東邊木税局並ニ奉天城外木税總局ノ二箇所ニ規定ノ税金ヲ支拂ハサルヘカラス今新兵堡税局ニ就テ調フルニ左ノ如シ

最初材木商カ山中ヨリ木材ヲ運搬シ來ルトキハ税務局委員ニ何何ノ木材若干ヲ何處ヨリ此地ニ運ヒ來リ之レヲ奉天ニ送ルヘキヲ以テ一應檢査ノ上通過ヲ願ヒタキ旨申出ツ然ルトキハ該局委員ハ其木材ノ寸法、員數、種類等ニ就キ商人ノ申出ト相違ナキヤ否ヤヲ査定シテ規定ノ税金ヲ徵收シ支那各地ニ用

フル三連單ト同シク執照ヲ商人ニ渡シ驗照ヲ税局ニ保存シ存根ヲ奉天營務處（目下ハ財務局ナルモノ奉天ニ設置セラレタレハ同局ノ管轄トナレリ）ニ每月末取纒メテ送附ス又税金モ每月送附シ每月徵收額ノ十分ノ一丈ケハ新兵堡税局ノ費用ニ充ツルタメ殘留シ置クト云フ

木税ハ一副（六寸角ノ長八尺物即二立方尺、八八）ニ付キ四百〇八厘ナリ

備考　支那銀一角錢ハ八百六成ニシテ丁度日本ノ五錢餘ニ相當ス、十六箇爲一百錢一百三十八錢爲一角錢

新兵堡税局委員ノ言ニヨレハ同局ニテ徵收スル木税ハ輸出少ナキ年ハ三四千兩ニシテ多キ年ハ七八千兩ニ上ルカ如シト雖トモ清國官衙ニ一定ノ統計ナク又此等ノ事情ヲ明ラカニ知ラシメサルヲ例トスルカ故ニ容易ニ是ヲ推斷シ能ハサルハ遺憾ナリトス

新兵堡税局ノ委員及官吏ハ左ノ如シ

税局委員　二（東邊税捐總局ヨリ特派セル者）

書　手　二（書記）

巡　查　四（諸處ヲ巡回シテ脫税ヲ防ク巡查）

護　局　勇　二（税局ノ門番兵）

永陵ニハ新兵堡税局ノ分局アリテ常ニ河岸ヲ看視シ専ラ脫税ヲ取締リ通行ノ木材ハ一切檢查シテ執照

ト相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ若シ脱税者ヲ發見セハ税額ノ十倍ヲ罰金トシテ徴シ居レリ

三連單ノ雛形

執照

辦理東邊各處税捐總局　爲
發給執照事今據木把某賣出木料等
件應納山價錢文均經照章如數交訖
計
一尺二寸松木寸板五十二塊寸六百二十四寸控
押箱十七時三料三分
應納山價錢　五吊八百九十
　　　　　　一吊一百八十
總局割印
光緒三十一年九月初一日

驗照

辦理東邊各處稅捐總局　爲

發給驗照，行事今據木把某賣出

木料等件應納山價錢文均經照章

如數交訖

計

一尺二寸松木寸板五十二塊寸六百二十四寸控押箱

十七時三料三分

應納山價錢　五吊八百九十

一吊一百八十

總局割印

光緒三十一年九月初一日

存根

辨理東邊各處稅損總局　爲

發給存根備查事今據木把某賣出

木料等件應納山價錢文均經照章

如數交訖

計

一尺二寸松木寸板五十二塊寸六百二十四寸控押

箱十七時三料三分

應納山價錢五吊八百九十

一吊一百八十

光緒三十一年九月初一日

總局割印

奉天ニ於ケル木材商習慣

奉天ニ來ル材木ハ主トシテ渾河ヲ流下シ來ルヲ以テ東邊門外約八清里ノ木廠ナル渾河右岸ノ地ヲ以テ貯木場トナス此ニ木局六軒アリ其名左ノ如シ

享通湧　　萬聚德　　廣吉慶
福生懋　　慶集森　　德泉湧

右ノ内享通湧ハ四十年ノ久シキ此業ニ從事スト云フ此等ノ木局ハ即チ代客發賣ヲナス問屋ニシテ城内ニハ更ニ二三十軒ノ木行アリ（城外ニ八軒アリテ城内ノ木行ニ比シ大ナリ）木行ハ木局ヨリ木材ヲ買入レ自家ニ貯ヘ木挽職人ヲ雇置キ時宜ニ應シ其材木ヲ削リ或ハ板トナシ是ヲ小賣スルナリ木局ハ常ニ外柜トテ注文取リ番頭ヲ城内ニ派シ得意先ノ木行ニ付キ或ハ注文ヲ取リ或ハ賣却濟代金ヲ徵收ス

新兵堡又ハ八家子ノ木材商ハ筏ヲ流シテ奉天木廠ニ到着シ取引木局ニ駐宿シ木局ニ依托シテ販賣ス木局ハ城内外ノ木局ノ需用者ヲ索メテ取引ス其手數料ハ推用ト稱シ其木材ノ良否賣値ノ高低ニ依テ定ム大約一筏ノ賣上推用ハ五六十吊文トス而シテ其負擔スル責任ハ委托販賣ヲ引受ケシ後ノ貨物ノ紛失ハ之ヲ賠償シ又其販賣代金ノ支拂ヲモ保證ス仕拂ハ凡テ現金ニシテ水脚（運賃）ハ客商ノ支拂フヘキモノナルモ若シ客商持合セナキ時ハ木局ヨリ支拂ヒ置キ後賣上代金ヨリ差引クモノトス木材ノ販路ハ奉天ノ地ニ消費セラルルモノ其大部分ヲ占メ近キハ新民屯遠キハ錦州地方ニ到ル一年間ノ木材大約一千數百筏ニシテ木廠ニ於テ一木局ノ販賣高多キ者ハ一年七八十萬兩少キ者ハ四五十萬兩ニシテ一家ノ木局收得ノ推用多キハ一萬八千兩內外少ナキハ五六千兩トス故ニ全賣買高ハ大約三百五十六十萬兩トス

奉天ノ通貨一吊（千文）ハ銅錢百六十四個、十二吊ハ一兩、一角ハ七百文ニシテ相場ハ時ニ依リ大ニ變動アルコトハ明白ナルカ太平ノ時ハ一寸角ノ價三百文ナリシカ現今ハ一寸角ハ角半昨三十七年ハ二角ナリシ

木局ノ組織

奉天ノ東八清里渾河右岸ノ木廠ニ在ル木局ハ六軒ナルカ個人ノ資本ノミヲ以テ營業セルモノト株式的投合資本ヨリナルモノトアリ何レモ皆ナ材木販賣ノ仲立問屋ヲ爲シテ其口錢ヲ取ルニ過キス木局ニハ大抵掌櫃的（番頭）五六名夥計（小僧）十六七名アリ渾河岸ニ材木流出シ來ル時ハ此等ノ番頭及小僧等其筏ヲ監視シテ紛失ヲ防キ悉皆木材ヲ預リ置キ其販賣濟トナル迄ノ地步錢（木材置場錢）ヲ客商ヨリ拂ハシム通常六ヶ月一筏ニ付キ大木材四圓小木材三圓内外トス

前述ノ如ク木局ハ仲立問屋ナルカ客商ハ其木材取引結了迄ハ其木局ニ宿泊スルノ習慣ニシテ安東縣大東溝ノ行棧船棧ト略ホ相同シク資本金ノ小ナルモノハ七八萬兩大ナル者ハ十四五萬兩内外トス

落地稅

奉天ニ於テハ賣價百圓ニ付キ銀八十錢ノ落地稅ヲ徵收ス今回新ニ財政局ヲ設立シ其下ニ軍糧府アリ此衙門内ニ木稅總局アリテ專ラ木稅ヲ徵ス是レ落地稅ニシテ新ニ財政局ヨリ三聯單ヲ發シ居レリ其雛形左ノ如シ

奉天財政總局　為存根事照得木商販運
各項木植自應按照時價以八分納稅後准
其出售除照章核收　激驗執照分別繳給
外所有此聯存根留有該局聽候隨時查核
須至存根者

計開

字號商人

木　料件

核價錢

計收稅錢

光緒　年　月　日

奉天財政總局　給執照事照得木商販運到口各項木植自應按照時價八分稅後准其出售除照章驗明抽收填明騎縫將存根繳驗分別存繳外所有此聯執照發給商人收執須至執照者

計開

字號商人

木　料件

核價錢

計收稅錢

光緒　年　月　日

省城木稅票　號捐錢

奉天財政總局　爲繳驗事照得木商販運
到口各項木植自應按照時價納人分稅後
准其出售除照章核收將存根執照分別給
外所有此聯繳驗按月裁解本總局以憑核
對須至繳驗者

計開

字號商人

木　料件

核價錢

計收稅錢

光緒　年　月　日

安東縣ニ於ケル木稅槪況

安東縣ニハ東邊道臺衙門管轄ノ下ニ一稅局アリ山貨ニ課スル總テノ稅金ヲ徵收スル處ニ於テ木稅ヲ徵收ス稅局ノ委員ハ奉天營務所ヨリ派遣シテ收稅ノ事務ヲ掌ラシム

其局內員左ノ如シ

委　員　四　名　　書　手　二十名

巡　查　六十名　　護局勇　六十名

巡邏船　六　艘

一艘每ニ一巡察官、外七八名ノ水夫

安東縣ノ稅局ハ安東縣ノ內沙河鎭ノ鴨綠江岸ニ設置サレ韓國義州ノ下流一里傺マスタイト云ヘル處ニ一檢查所ヲ置キ以テ上流ヨリ來ル木材ノ脫漏ヲ水陸ノ兩側ニ於テ之ヲ看視シ同時ニ其安東縣大東溝ノ何レニ至ルヤノ區別ヲモ明カニス例ヘハ安東縣ニ到ル筏ニ對シテハ安東縣行キノ通行票ヲ與ヘ大東溝行キニハ其一票ヲ與ヘ通行ヲ許可ス其通行票ヲ携帶シタル筏主ハ其通行票ヲ安東縣若シクハ大東溝稅局ニ持參納稅ヲ終リ初メテ陸揚ヲナシ得ルモノトス

安東縣ト大東溝トノ二箇所ニ於テ收稅スル木材ハ二種ニ別チ安東縣ニテ收稅シタルモノハ再ヒ大東溝

ニ於テ收稅スルモノニアラス即チ安東縣ノ市場ニ來ルモノハ決シテ大東溝ニ到ラズ又大東溝ニ到ルモノハ安東縣ニ止マラス其大東溝ニ到ルモノハ重ニ該地ヲ集散地トシ海南地方ニ輸出セラルルモノニ限ルト云フ若シ安東縣ニ指定セラレタル筏カ安東縣稅局ニテ納稅ノ上或ル事情ノタメ大東溝ニ到リ之ヲ芝罘天津等ヨリ來レル買主ニ賣却セントスルトキハ更ラニ大東溝所定ノ納稅ヲナスニ非レハ輸出セシメサルモノトス則チ此場合ニハ所謂二重ノ納稅ヲ要ス納稅ハ決シテ賣主ノ納ムルモノニアラスシテ必ス買主ノ負擔タルヘキモノニシテ商人カ稅局ヨリ受クル執照中ニモ買得零木トアルハ之レカ爲メナリ

安東縣ニ於ケル二連單雛形左ノ如シ

辦理東邊稅捐總局　爲給照事今據五合棧買
得零木姜元興(船名)下木小杆條價㣆應納木稅
錢
三吊二百五十文如數收訖
三百六十
光緒三十一年十月二十日

字第　號

辦理東邊稅捐總局　爲存查事今據五合棧買
得零木姜元興(船名)下木小杆條㣆應納木稅錢
三吊二百五十文如數收訖
三百六十
光緒三十一年十月二十五日

興京廳ニテハ三連單ヲ用フレ共安東縣ハ前記ノ如ク二連單ニシテ驗照ナシ元來驗照ナルモノハ稅局ニ留置スルモノニシテ若シ目的地ニ達シ執照ノ紛失又ハ又ハ間違ヒヲ生シタルトキハ再ヒ收稅シタル地ニ照會シ其實否ヲ正ス場合例之ハ興京ヨリ奉天ニ到ルトキハ再ヒ奉天城外ニ於テ納稅ヲ要スル時アルモ安東縣ニ於テハ一旦收稅シタル後ハ何レノ方面ニ輸出スルモ商人ノ隨意ナルヲ以テ收稅後商人ニ何等ノ拘束ナク何レノ地方ニテモ輸出スルコトヲ得收稅局ハ收稅後只其收稅高ヲ奉天營務所ニ報告スルニ止マル

大東溝安東縣ニ於ケル木材ニ對スル稅金ハ殆ント元木代價ニ相當スルモノト見テ可ナリ之レ山林ハ自由伐採ニシテ更ラニ元木代價ヲ要セサルヲ以テナリ

安東縣稅局ニ於ケル稅率左ノ如シ

木材ノ等級	數量	本稅	用銀	合計
上木	一料ニ付	三吊一百二十文	四百文	三吊五百二十文
中木	同	一吊六百八十文	二百文	一吊八百八十文
下木	同	一吊三百二十文	二百文	一吊五百二十文

木稅徵收上ノ單位ハ總テ料ヲ以テス

今其換算ヲ揭クレハ左ノ如シ

筏ノ構造	尺〆	料数
付（厚七・八寸巾二尺七寸長サ八尺）	〇、八〇	二、〇〇
壠（十一付）	八、八〇	二二、〇〇
節吊（五壠）	四四、〇〇	一一〇、〇〇
木排（五節吊）	二二〇、〇〇	五五〇、〇〇

本表ニ依リ中木本税ヲ標準トシテ計算スレハ一筏ニ對スル平均税額ハ約九十二兩餘トナル一兩ヲ假リニ一圓五十錢トシテ計算スレハ百三十八圓トナリ一尺〆相當ノ税額ヲ求ムレハ六十二錢七厘トナル之レニ手數料（用銀）輸出税（船捐）等ヲ加フレハ一尺〆約七十錢前後ト見テ大差ナカルヘシ

木材仲買取引大要

木材商店

安東縣ニテハ之レヲ行棧ト稱シ大東溝ニテハ船棧ト稱ヘ即チ木材仲買問屋ニシテ買主ハ此ノ行棧若クハ船棧ニ宿泊滯在シ仲買人ヲ經テ購買取引ヲナシ決シテ直接賣主ト取引スルコトナシト云フ今資本及信用ノ大小人員出入ノ多寡ニ依リ主タルモノヲ順位ニ列記スレハ左ノ如シ

(1) 中和棧　(2) 興盛棧　(3) 新豐棧　(4) 豊裕棧　(5) 中興棧

(6) 長隆盛 (7) 東益昌 (8) 永興福 (9) 寶盛棧 (01) 玉合棧

(11) 福隆祥 (12) 大興長 (13) 公義盛 (14) 福盛祥 (15) 謙德和

大東溝船棧

(1) 玉合姅 (2) 合盛棧 (3) 長買棧 (4) 合慶棧 (5) 中和德

(6) 同慶棧 (7) 長順合 (8) 同興棧 (9) 長順德 (10) 泰盛福

(11) 吉順棧 (12) 永和順 (13) 萬順棧 (14) 同成棧 (15) 永成棧

16) 義德棧

以上ノ如ク木材賣買仲買人ノ手ヲ經テ取引ヲナス其賣買契約書雛形左ノ如シ

(但シ賣買ハ總テ壠ヲ以テ單位トス)

立賣木料作合同人孫近會因無錢使用今 自己做的紅松料板二十八壠大糙在內字號乙工押號乙鑿鑿字五分自煩中人說允情愿賣與郭屛明崔慶福二人名下收執查驗同中言明每壠作價銀二十六元貳角合銀元柒百三十三元六角其錢筆下交足分文不缺此係兩客情愿各無返悔如有山廠木柞東伙返悔者不與買主相乾全在中保乞面承管恐口無憑立合同爲證

中保人

承事人

任萬昌

郭殿功

崔文會

郭屛英

鐘秀廷筆

立合同人孫近會

光緒三十二年十月初三日

結論

鴨綠江森林ノ産額

「註」茲ニ稱フル鴨綠江森林トハ廣義ノ鴨綠江ニシテ帽兒山ヲ中心トシタル一帶ノ森林ヲ云フ

木材ノ産額ニ付テ正確ナルモノヲ得ント欲スルモ到底不可能ニ屬シ清國官憲素ヨリ統計ノ整備スルナク僅カニ税局ニ就キ木材税額ノ大要ヲ窺フニ過キス其税額ト雖モ時時刻刻所所人人ニ依テ彼等答辯スル處區區ナルハ清國ノ特色ニシテ怪ムニ足ラス恰モ逐風捕雲ノ感アリトス況ヤ實際脫税者少カラスト言フニ於テオヤ

今各方面ヨリ調査ノ結果心證ヲ置クヘキ税額ノ中數ヲ求ムレハ安東縣ハ約一萬兩前後大東溝ハ約二十萬兩前後トス之レニ依テ其木材ヲ算出スレハ安東縣約二萬五千尺〆前後（此筏數約百二十筏）大東溝約四十四萬尺〆前後（此筏數約二千筏）トナル次ニ渾江一帶ノ森林ヨリ興京廳下ヲ經テ渾河流域ニ依リ奉天市場（木廠）ニ至ルモノ毎年ノ平均税額約七八千兩此材積約五萬尺〆アリ以上ハ税額ヨリ見

タル木材ノ材積ニシテ今之ヲ合計スルトキハ五十一萬五千尺〆トナル依テ其產額ハ前述シタル脫稅木材ノ相當額ヲ見込ムヲ以テ蓋シ清國國情ニ徵シ穩當ト思料ス然ラハ其脫稅木材額ヲ何ニ依リ起算スルカト云フニ毎年鴨綠江森林伐採ニ從事スル林業夫平均約二萬人ノ作業力ヲ該森林、林力ノ情勢ニ鑑ミテ推算シ之ヲ筏數ト對照スルノ外ナク如斯シテ脫稅額ハ其產額ノ三分ノ一ト推算シ毎年平均ノ鴨綠江森林生產額ヲ七十七萬二千五百尺〆（此筏數三千五百十一筏）ト推定ス

伐木事業ノ收支

伐木事業ノ支出即チ其生產費ハ森林ヨリ其木材ヲ市場（此市場ハ安東縣及大東溝ヲ指ス）ニ到着セシムル迄ニ要シタル一切ノ費用即チ伐木造材運材費及ヒ雜費（但シ雜費中ニハ賊管守料、寺納金、鄉邑會費、江水深淺計料、墓納金、乞食等ノ費用ヲ含ムモノトス）等ノ費用ヨリ成立ツモノトス是等費用ノ多寡ハ一ニ資本ノ大小事業主即チ大把頭ノ事業實行上ノ巧拙並ニ調辦物資ノ相場ノ如何ニ基クモノニシテ一定ノモノナキモ此標準如何ハ重大ナル關係アルヲ以テ適當ナル標準額ヲ求メサルヲ得ス然ルニ何レカ果シテ適當ナリヤ正確ナル材料ニ乏シク爲メニ其撰擇如何ハ往往誤謬ヲ招ク患アルヲ以テ最モ困難ナル要件トス仍テ現時安東縣中富街寶盛棧內ニ在ル日本人汪古謨ナル人大把頭高陳山ヲ使用シ渾江流域（蛤密河森林）ニ於テ伐木事業實行中ニ係ル其計劃標準ヲ根據トシ之ニ自己ノ意見ヲ加ヘ修正シタルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

第一表支出

資本金	生產數	此筏數	尺〆	一尺〆生產費	平均
一萬圓	七百壜	二八	六、一六〇	一、六二三	一、五二三
	八百壜	三二	一、四二〇	一、四二〇	

第二表收入ノ甲

一筏ノ壜數	針葉樹材	濶葉樹材	針葉樹價格	濶葉樹價格	合計	一尺〆平均單價
二五	一八壜	七壜	四五〇円	一〇五円	五五五円	二、五二三円

本表ハ針葉樹七分濶葉樹三分ト見タル計算ナリ

第三表收入ノ乙

一筏ノ壜數	針葉樹材	濶葉樹材	針葉樹價格	濶葉樹價格	合計	一尺〆平均單價
二五	一五壜	一〇壜	三七五円	一五〇円	五二五円	二、三八六円

本表ハ針葉樹六分濶葉樹四分ト見タル計算ナリ

以上ハ何レモ一壜ニ對スル時價針葉樹材ハ平均二十五圓濶葉樹材ハ平均十五圓ト見タル計算ナリ

之ニ因テ利益計算ヲナセハ左ノ如シ

第四表利益計算ノ甲

生産材積	支出(生産費)	收入(甲表)	利益	利益率
七七二、五五〇尺〆	一、一七五、七四五円	一、九四九、〇一八円	七七三、二七三円	六割五分

第五表利益計算ノ乙

生産材積	支出(生産費)	收入(乙表)	利益	利益率
七七二、五〇〇尺〆	一、一七五、七四五円	一、八八八、四八八円	七一二、七四三円	六割一分

以上ノ計算ヲ根據トシ鴨緑江伐木事業ハ時價暴落スルニアラサレハ資本ニ對シ六割以上ノ利益アルモノト斷定スルヲ憚ラス

前各項ニ依ルトキハ鴨緑江木材ノ市場(海南地方)商人ニ供給サルル一尺〆ノ平均單價ハ輸出稅(船捐)ヲ加ヘ約三圓二十錢前後ト推定ス

意見

世人往往滿洲富源ノ物資ヲ論スルモノ先ツ指ヲ鴨緑江ノ山林ニ屈セサルナシ該流域廣大ナル全土ハ殆

ント原始的森林ヲ以テ掩ハルルトノ定說ハ最早實際ニ符合セサルニアラサルナキ乎現在ニ於ケル森林分布ノ狀態ハ治外邊疆ノ移民獎勵政策ト人口ノ繁殖トニ伴ヒ漸次其壓迫ヲ受ケ今ヤ通化縣ノ北方ニ退步シ僅カニ帽兒山（臨江縣）ヲ中心トシタル一帶ニ其餘狀ヲ維持スルニ過キス鴨綠江畔伐木事業ノ隆盛ハ既ニ過去ニ屬シ世界列國ノ垂涎渴望スルカ如キ實質ヲ認ムル能ハス然リ而シテ戰後滿韓ニ於ケル各般ノ施設經營ハ頓ニ木材ノ需用ヲ促進シ之レカ供給ハ從來東洋ニ於ケル木材貿易市塲ノ趨勢ニ鑑ミ北米ヲ除キ他ニ勁敵アルナシ然ルニ一面本邦林業程度ハ着着整備ノ域ニ達セリ若シ尙ホ進ンテ之レカ經營ノ發展ヲ期センニハ戰勝ノ至大ナル援助ト相俟テ木材市塲ヲ獨占シ東洋ニ覇タランコト敢テ難キニアラスト信ス

牛莊港(營口)市場ノ調査

需用木材ノ種類及輸入高

今既往二箇年間ニ於ケル牛莊港輸入外國產木材ノ數量及價格ヲ示サンニ明治三十四年ニハ單ニ本邦北海道產枕木ノ輸入アリシノミニテ他ノ角材及板材ノ輸入ナカリシモ翌三十五年ニハ

堅木角材　三〇五八八(立方尺)
　　　　　一三九五　(海關兩)
軟木板材　八九一八八(平方尺)
　　　　　二七七〇　(海關兩)

但シ海關兩ハ一五五弗(メキシコ)

ノ輸入アリシノミニテ同年中ニハ本邦產枕木ノ輸入ナカリシ而シテ前記兩年度ニ於ケル內地產ノ木材ノ輸入ハ即チ左ノ如シ

三十四年

丸太及檣　五〇五二五本　一二三五六六(海關兩)

角材及板材	三〇七二六本	三六七七〇（海關兩）
三十五年		
丸太及檣	二五六一一本	二〇四六九（海關兩）
角材及板材	三四〇六五本	八六五三八（海關兩）

以上示ス所ニ依レハ三十四年度ニ於テハ本邦産枕木ヲ除ク外他ニ外國産ノ輸入ヲ見サルカ如シ然レトモ是ハ其輸人ノ總額一千兩ニ達セサルヲ以テ稅關報告ニ登載セサリシモノト云フ

材木供給先ノ國名地名及其種類別並ニ見積金額

牛莊港ニ於ケル材木供給先ハ外國産ニアリテハ本邦米國及英領加拿陀等ニシテ其種類ハ本邦北海道產ノ桂、栓、タモ、蝦夷松、トヾ松、米國及加拿陀產ノオレゴン、パインチーク等ニシテ其用途ニ到リテハ鐵道枕木ヲ除ク外ハ何レモ輸入額ノ餘リ多カラサルヨリ稅關其他ニ於テモ未タ十分ノ調査ヲ遂ケタルモノナケレハ隨テ其詳細ヲ知ルノ道ナシト雖トモ前者ハ多ク一般ノ建築材料ニ用ヒ後者ハ當港ノ沿岸ノ波止場修築及鐵道ノ材料等ニ用ヒラルルモノノ如シ而シテ其數量及見積金額ハ暫ク之ヲ算出スルコト能ハス

內國產ニヨリテハ大東溝大孤山及遼陽等ノ地方ニシテ今其主ナルモノニ對スルトキハ昨一箇年間ニ於ケル需用高及其見積金額ヲ示セハ大略左ノ如シ

種類	數量	金額
椰松(一名紅松)板材	一三、五〇〇料(但シ一料ハ長八尺幅一尺厚七寸トス)	五六、七三〇元
同上長材	三、七五〇〃	一八、五七〇
椽松板材	一四、〇〇〇〃	四四、九〇〇
同上長材	一、八七五〃	六、五六〇
莿楸丸太	一、〇〇〇〃	三、三三〇
核桃楸板材	五〇〇〃	一、六六〇
黄菠椋板材	一〇〇〃	三八三
柞木板材	五〇〇〃	二、三三〇
椴木(丸太板材)	一、二〇〇〃	四、四〇〇
赤栢松板材	一〇付(但シ一付ハ約九料トス)	六六〇
黄花松板材	二五〇料	一、二五〇
赤楡 楚楡 丸太	一、〇〇〇條(但シ一條ハ長五尺徑六寸トス)	三、三三〇
同上長材	一、〇〇〇片(但シ一片ハ長三尺巾三寸厚三寸トス)	二、四〇〇
色木板材	一〇〇料	二五〇
水曲・椋板材	二〇〇〃	七六〇
楡木板材	四〇〇〃	一、四五〇
樺木板材	一〇〇〃	三六六
雜木棒材	一、二〇〇〃	三七、四〇〇

同上小棒材	二、五〇〇〃	一四、七五〇
計	七四、四七五料 一〇付 一、〇〇〇條 一、〇〇〇片	二〇一、六六五

本邦ヨリ供給スル木材ノ種類數量及價格明治三十四年三十五年兩年間ニ於ケル本邦ヨリノ輸入ニ係ル者ハ枕木及板材ノ二種ニシテ其數量及價格ハ之ヲ確知スルニ由ナシト雖トモ當港ニ於ケル當業者ヨリ傳聞スル所ニ依レハ大略左ノ如シ

三十四年

種別	數量	價格
枕木	―	一七〇、〇〇〇(海關兩)
板材軟木	―	―

三十五年

種別	數量	價格
枕木	―	―
板材軟木	六四、四五〇(平方尺厚三寸以內)	二、四七五(海關兩)

以上示ス所ニ依レハ昨三十五年ニ於ケル總輸入高ニ對スル金額ハ需用高ニ對スル見積金額トハ符合セ

サレトモ這ハ內國產中ノ重ナル供給地タル遼陽地方ヨリ來ルモノハ何レモ遼河ノ上流ヨリ下リ稅關ヲ通過セサルヲ以テ其數ヲ知ル能ハサルニ因ルノ結果タリ

在留本邦材木商

牛莊港ニ於ケル本邦材木商ハ三井物產會社及汽船取扱業海仁洋行ノ兩店ニ於テ單ニ枕木ヲ輸入セシメシノミニテ其他本邦人ニシテ普通商ヲ營メル者一人モナシ

牛莊港ニ於ケル材木商（國別）住所氏名資力ノ程度

牛莊港ニ於ケル材木商ハ十數軒ノ淸商ノ外一米人本業ノ側ラ其仲買ヲ兼子居ルモノアルノミニシテ其他外國人ニテ同業ヲ營ムモノナシ今當港ニ於ケル主ナル淸商ノ店名及其資力ヲ示セハ大略左ノ如シ

店名	資本金	所在地
怡豐	一萬兩	東營子
永泰	一萬兩	同
豐利成	五千兩	同
和興	六千兩	同
益盛長	六千兩	同
興順隆	五千兩	同
永和公	八千兩	同

東盛公	四千兩	同
東福增德	四千兩	同
永泰興	三千五百兩	西營子
宏興順	四千兩	同
西福增德	五千兩	同
成記	四千兩	同
聚成厚	六千兩	同
義厚盛	四千兩	同
德孝順	五千五百兩	同

本邦材木前途ニ於ケル販路ノ見込

本邦産材木ハ前述ノ如ク昨三十五年以前ニアリテハ北海道産枕木輸入ノミナリシカ其後東清鐵道ノ略完成スルト同時ニ一時其輸入ヲ見サルニ至リタレトモ尚本年開河後ハ關外鐵道支線工事ノ漸次進捗セルヨリ其需用ニ供スル材料ヲ便宜上當港ニ陸揚ケスル事トナレルヲ以テ再輸入ヲ見ルニ至レリ而シテ板材ノ如キハ少額ナカラ建築材料ノ一部分トシテ客年始メテ北海道ヨリ輸入紹介セラレタレハ價格サヘ折合タランニハ今後漸次需用ノ增進ヲ見ルニ至ラン乎今左ニ當港ニ於ケル各種材木ノ用途及原料ノ寸法清尺並ニ目下ノ相場ヲ掲クレハ左ノ如シ

名稱	用途	直徑	長サ	價格		産地
杉松	家屋建築材料	一尺乃至二尺	角 八尺乃至二丈三四尺 丸 三丈五尺乃至四丈	料	角 三元五角 丸 二元五角	大孤山大東溝
赤栢松	富豪家ノ棺材	角 一尺內外 丸 ナシ	八尺內外	付	五十五元	同
黄花松	皇室ノ建築用又ハ富豪家ノ棺材	一尺乃至二尺	一丈乃至二丈四五尺	料	五元	同
核桃楸	上等家具用ナレトモ需用少ナシ	一尺乃至二尺	一丈六尺乃至二丈四尺	同	角 四元 丸 三元	同
椰松 一名紅松	家具建築材料ナレトモ杉松ニ比シ上等	一尺又ハ二尺	一丈六尺乃至三丈二尺	同	角 四元五角 丸 三元	同
檝木	彫刻ヲ要スル建築材料	一尺乃至二尺	一丈六尺乃至二丈四尺	同	角 四元五角 丸 三元	同
莿楸	卓子其他家具用	一尺乃至二尺	同	同	角 四元五角 丸 三元	同
柞木	小ナルモノハ木炭ヲ製シ大ナルモノハ船材又ハ車輪ニ用フ	一尺內外	一丈乃至二丈一二尺	同	角 四元三二角 丸 三元	各地ヨリ産出スレ共遼陽産最モ多シ
榆木	船材又ハ馬車及房子用	角 少ナシ 丸 一尺三四寸	同	同	同 四元二三角	同
色木	鐵道枕木又ハ櫂及油坊ノ搾油棒並ニ天秤棒	一尺內外	七尺乃至一丈七八尺	同	角 四元二三角 丸 三元	大東溝及遼陽
楚榆	車軸、船ノ舵ニ用フ	角 ナシ 丸 七寸乃至一尺	丸 七尺乃至一丈七八尺	本	徑七寸ニテ四元	同
杏木	富豪家ノ棺材及車輪	角 一尺一二寸 丸 八九寸乃至一尺餘	八尺內外	料	角 六元 丸 四元	同
黄榆	車轅及ヒ小舟ノ舵	角 五寸乃至九寸	一丈八尺ヨリ二丈	本	長一丈八尺徑五寸ノモノ五元五角	同
黄菠棣	各種ノ家具	角 一尺二三寸ヨリ二尺 丸 八九寸ヨリ一尺	角 八尺ヨリ一丈四尺 丸 八尺ヨリ二丈四尺	料	四元	同
水曲棣	大小船舶ノ船板船體修繕	角 一尺ヨリ一尺五寸 丸 一尺又ハ二尺	角 八尺ヨリ一丈 丸 一丈三尺ヨリ二丈四尺	同	四元五角	大東溝
栁木	下等社會ノ棺材車輪ノ一小部	角 ナシ 丸 八九寸ヨリ一尺三寸	丸 八尺ヨリ一丈	本	長一丈徑一尺ノモノ四元五角	大東溝、大孤山、遼陽
栶木	富豪家ノ棺材ボート上船板ノ材料	丸 八九寸ヨリ一尺三寸	丸 八尺ヨリ五六丈	同	長一丈六尺徑一尺一本ニ付廿二元	南淸、江南、江西
黄檀木	船舶附屬滑車用	角 三四寸ヨリ五六寸	丸 五六尺	斤	三分	同

廣枝
楊木
柳木一名
槐木
油松
樺木
南楸
南柞
赤楡
蘇木

棺材
鐵道枕木家屋建築材料
各種器具用
銃身掌用
家具建築材料
家屋建築材料ニテ專ラ棟梁ニ用フ
一般船材ナリ
舵幹舵柄用
各種ノ家具用
專ラ衣櫃ニ用フ
舵及舵幹等ニ用フ
車軸車輪及舵幹舵柄ニ用フ
綿布類ノ染料及雜衡ニ用フ

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同
二三寸
ナシ
ナシ
七寸ヨリ一尺三四寸
七寸ヨリ一尺二三寸
五寸ヨリ一尺四寸
ナシ
七八寸ヨリ
七寸ヨリ一尺二三寸
七寸
八九寸
幅一尺
厚七八寸
幅一尺二寸
厚二三寸
幅一尺
厚八九寸
ナシ
七八寸ヨリ一尺二寸
一寸ヨリ四寸

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同
六七尺
一丈ヨリ二丈二尺
一丈ヨリ一丈七尺
一丈ヨリ一丈五尺
一丈ヨリ二丈二尺
一丈ヨリ一丈七尺
一丈
一丈
八尺ヨリ二丈四寸
八尺
一丈
一丈
ナシ
二丈ヨリ三丈
五六尺

本
同
同
同
本
料
本
料
枚
料
本
斤

長七尺徑三寸ノモノ二元半
長七尺徑三寸二元半
長一丈六七尺徑一尺二三寸一本ニテ約十元
長一丈五尺徑一尺三寸一本七元
長一丈徑七八寸ニテ約一元
三元五角
四十元
四十五元
四元半
四元半
合一元
七元半
長三寸徑一尺二寸四十五元
八分

大東溝遼陽其他各地
大東溝
大東溝及遼陽
各地ノ產ナレトモ遼陽最モ多シ
各地ノ產地
遼陽
江南江西
同
同
同
大東溝
江南江西

營口材木商ノ材積

東永茂(廣東來)				
杉木房檀		11.600 根	杉丸太	
S/3.00	5.000 本	1.45 丈	〃	
2.50	600	1.35	〃	

2.00		1.000	1.45		〃
1.80		2.000	1.45		〃
1.50		2.000	1.45		〃
1.20		1.000	1.45		〃
		11.600			
德發順					
福建	杉房檀	456 (丈尺寸)	300 (根)		S¥3.50/4.50
大東溝羊角溝	紅松	{8 (300 料) / 1.6 (700)} 1000 (料)			〃 7.00
紅松板子	厚サ八分、長八尺、廣サ一尺二三寸		300 (塊)		〃 1.90(一塊ニ付)
福增德					
福建	杉木房檀	長1.3	6/7 (寸)	200 (本)	S¥3.50
同	同	1.5	5	400	〃 3.50
同	同	1.3	3/4	1500	50/60
同	同	9/8	2/3	1500	50
大東溝	紅松木			1000 (料)	S¥7.00(一料)

	同	杉松	3丈	1尺		10本	40（一本）
晋和祥							
	北海道	白木房子	1.2丈/4.0	2.900本		(8.000石)	S弗 6/7
		(獨逸人)					
	米國松	方木	1.2英寸	40尺/70尺		4000本	
	同	同	1.6	18/70		100本	
	同	同	8	18/20		100	
	同	樓板	廣4寸/6寸	厚1寸/1.2	1.2丈/2.4丈尺		70.000
	同	毛板	10寸/1.2	3寸	1.0丈/4.0 ｝		60.000
	同	同	12	2寸/1.5	1.0丈/3.2 ｝		
與慈長							
	上海	菓松板	厚1.5寸/20寸	廣10寸/12寸	11尺	450枚	S弗 250（一枚）
宏順成							
		菓松板	20寸/30寸	10寸/15寸	11尺	500	S弗 3.00
	福建	杉木檀	〃		8	1000	

昇和號 福建	樫檀	45/7寸	12	3000本	弗 2.40
福建	樫木丸太	85/10寸		200本	弗 20.00
萬德永 福建	樫木丸太(棺材ニ用フル上等品)	1/1.5尺	8尺	250本	弗 2.80
益盛長 福建	樫木房檀	5寸	16尺	1000本	S弗 2
同	同	6	16	1000	〃 2.30
同	同	7	16	500	〃 3.00
同	同	7	13	600	〃 2.70
同	同	6	13	500	〃 2.30
同	同	5	13	200	〃 1.70
同	同	5	14	300	〃 1.80
同	同	6/8	40	1.30	〃 1.20
同	同	3/4	14	500	〃 1.30

同	榁木料丸太材			16	400	1.00(一料)
大東溝	紅松木角材		16	50}	350料	700
同	同		8	100}		
奉天	柞木丸太		14/16	40本		6.00
同	同		20尺	10本		9.00
豐利成 福建	杉木房檀		5/6/7	長/2	500本	2/26
東森茂	紅白松木角材		8/16/24/32		100料	7
	紅松木角材		16		1.100料	7.
	同 同		8			
大東溝	紅松板	8分	1/15寸	8/85尺	1.000枚料	1.6
	紅松角材		16	170=900料		
永和公	同		8	200=400料		7.30

榮春興							
福建	樫木丸太	5/6/7寸		17/14尺		550	360
東溝	紅松角	8				500石	750
德記木號(同人荷物)							
日本	杉丸太	5寸		12尺		3,000本	280
同	松角	5		12尺		500本	420
同	松板	厚1寸	7/3		6	2500	4—坪150
同	松角	5寸		8尺		200本	2.80
同	杉丸太	5/7		2		500本	6—本
福建	樫木丸料			16		6本=30石	800
東溝	紅松			16		30=150石	8
				24		8=50石	8
續盛公							
東	紅松角			16		100=400	7/73
同	同			8		40=80	

南	樫木丸太	6/7	12/14	1.000本	22/5	
	樫木丸太料		16	250本=700料		
新紀州	杉丸太		1.5寸/3寸	13.5/14尺	2000	
同	同		2/35	10	20.000	
同	樅八分板				3.000坪	220
		末口(支那ト日本)				
秋田洋行						
八代	樅板	8分		4.000坪	210/250	
秋田	杉板	6分				
同		4				
	松普板	8				
	杉押角	3寸/6	2	5.000本	09—	
	同丸太	2/10寸	10/24尺	10.000	09—	
			長物ハ三割高			
	松丸太	6/10寸	12/15尺	500本	110	

	貫板大	(三間)	13.5寸	1.500枚	40	一枚	
	同 中	(〃)	13.5寸	3.000	35	〃	
	松垂木	二寸角	2間	5.000	二間物一本		26
					10	〃	18
					1間	〃	12
北海道	松大角	10/20寸	2間	800	10		
秋田	杉 板	八分	2	500坪	100坪		
宮崎洋行							
紀州	杉丸太	末口3.5	2間	800	110坪		
同	同	4	2	500	135		
同	同	4.5	2	500	170		
同	同	5	2	200	220		
同	同	2.5/3.0	10尺	800	45		
同	同	35/4.5	10	800	76		
同	檜角材	3.5	2	150	130		

	同	4	2	150	170
	同	4.5	2	150	230
	杉角	3.5/40	10尺	400	75
	同	35/40	2間	200	135
	杉四分板			250坪	160
	杉六分板			200	160
	松同			160	150
	縦四分板			200	270
日華洋行					
紀州	杉丸	35/30	2間	2,000本	
	杉角	3.5/40	2	350	
	杉挽角	3.7	2	50	
	杉押角	4	2	600	
	杉丸	4.5/5.5	3	240	
	杉押角	3.5/3.6	10尺	530	

杉丸太	2.5/4.5	10	2,700	
杉貫中		2	1,500	
同 大		2	2,000	
同 同	4/1	2	350	
杉額縁	19/90	2	300	
杉垂木大	1.5		600	38
同 中	1.3		200	32
同 普小	1.1		200	25
松普通一寸板			600	

鴨綠江畔製材所大要

安東縣大倉組製材工場概況

一馬力ハ七八馬力アリト云フモ試驗シタルコトナシ

一鋸器械ハ直徑五尺ノ丸鋸一臺同三尺ノ丸鋸一臺据付置キ二臺同時ニ運轉ス

一回轉數ハエンジンノ回轉一分間約二十回ナレハ丸鋸ノ回轉ハ三百五十乃至四百回ト思料スレトモ測

數器ナキヲ以テ正確ニ知ル能ハスト云フ

一歯距及歯數直徑五尺ノ丸鋸ハ歯距一寸五分乃至二寸ニシテ大歯六十枚小歯四十八枚ニシテ圓盤ノ厚ハ二分歯組三分五厘乃至四分ナリト云フ

一製材ノ種類及功程

製材ハ凡テ建築班ノ命令ニ因テナセルヲ以テ一定セスト雖モ試ニ十一月二十四日ノ出來ヲ示セハ次ノ如シ

種類	長	厚	數量	挽賃	
				單價	總額
五葉松板	八尺	四分	二、三九九枚	〇、〇七〇	一六七、九三〇
同	八尺	六分	一、〇六六	〇、〇七〇	七四、六二〇
計					二四二、五五〇

四分六分等ノ板類ノミ製材スルトキハ功程最モ多キモ丸鋸ニテ製板スルハ多キ損失アリト

一該鋸器械ハ天城工場ノ古器械ニテ丸鋸僅ニ二臺ヲ以テ製材スルノミニテ功程前表ノ如クナレハ始業以來晝夜運轉シ一ケ月僅カニ一日休業（始業當時ハ全ク無休暇ナリシモ往往器械ニ故障ヲ生スルタメニ數日間休業ヲナスコトアリテ却テ不利益ナレハ本年五月ヨリ一ケ月一日休業シ器械ノ手入ヲナ

スト云フ）スルノミナルモ尚ホ請負ヒタル數量ヲ豫定通リ製材スルコト能ハサルヲ以テ支那木挽ヲ雇入レ手挽ヲ以テ補ヒ居ル有樣ナリ左ニ支那木挽ニ付數言ヲ費サンニ

一日日使役スル支那木挽ハ百五十人乃至二百人ニテ内五十人内外ノ朝鮮人ヲ交ヘ外ニ日本木挽十人ヲ常備トシテ使役ス日本木挽ニハ重ニ墨打ヲナサシメ墨打シタルモノヲ支那木挽ニ渡シ挽カシムト云フ支那木挽ハ出來高拂ニテ出勤人員ノ増減ニ因リ功程一定セサレトモ十一月二十日ノ出來高ヲ擧クレハ次ノ如シ

種類	長	厚	數量	挽賃 單價	挽賃 總額
五葉松貫	十六尺	四寸一寸	一〇四枚	〇、二五〇円	二六、〇〇〇円
同角材	同	四寸角	一五七〃	〇、四〇〇	六二、八〇〇
同板	八尺	一寸五分	八三〃	〇、一〇〇	八、三〇〇
同角材	十六尺	三寸角	二八〇本	〇、三五〇	九八、〇〇〇
計					一九五、一〇〇

但シ出勤人員百六十五人

支那鋸ノ缺點ニ就テ

一支那鋸ハ良キ鋼鐵ヲ用ヒ作リタルモノ少ナク多クハ鐵板ニ齒ヲ刻ミタルモノナレハ鈍ナルヲ以テ齒ノ磨滅スルコト多ク隨テ勞力ヲ要スルヤ我邦ノ鋸ヨリモ大ナリト故ニ必ス二人ニテ上下ニ立テ挽クヲ要シ上ニ居ルモノハ熟練セルモノニテ不絶墨ヲ視テ挽キ下ニ居ルモノハ調子ヲ取リツツ挽クモノナリ

一支那鋸ハ板類ヲ挽クトキハ面粗造トナルコト丸鋸ニテ製板シタルモノニ劣ラスト又二尺角以上ノ大角ハ挽クコト能ハサルヲ以テ丸鋸又ハ日本鋸ニテ二ツ割ニシテ挽カシムル不便アリ且挽面ハ波狀ヲナセルヲ以テ大工ハ鉋削ニ困難ナレハ嫌フト云フ

一支那人ニテ露國ノ分捕鋸ヲ使用セルモノ二組アリ之ハ支那鋸ニ比シ功程五割乃至八割多シト云フ

一鋸器械運轉ニ要スル人員

火夫一人運轉手ニテ鋸ノ目立職ヲ兼子タルモノ一人手押鋸（直徑三尺ノ鋸ハ手押ナリトス）附ノモノ一人及直徑五尺ノ鋸ニテ支那人ヲ使役シ傍ラ工場内ノ世話役ヲナスモノ一人工場内ニハ支那人三四人ヲ使役スト該器械据付ノ技師ハ多年大倉組ニアツテ鋸器械ニ經驗アル小根村技師ナリト而シテ工場主任ハ高野邦太郎氏ナリ

一資材ノ種類及資材ニ對スル出來高ニ付制限ノ有無

資材ハ五葉松及樅ノ一連物（長八尺角）二連物（長十六尺）三連物（長二十四尺）ヲ建築班カ該工

場ノ周圍ニ集積シ置キ所用ノ建築材ヲ一定ノ期間ニ製材スルコトヲ命令スルノミナルヲ以テ大倉組ハ多クノ資材中ヨリ適宜ニ製材シ資材ニ對スル出來高ニ制限アルナシ

朝鮮國新義州大林製材工場概況

一公稱馬力ハ五十馬力ナレトモエンジンノ都合ニテ二十五乃至三十馬力ナリト製材器械ハ伊勢國大湊ノ吉川工場ノ製作ニ係リ現今運轉セル丸鋸ノ周圍ハ左ノ如シ

一、五四センチメートル	一臺
一、四八センチメートル	一臺
一、四二センチメートル	一臺
一、三六センチメートル	一臺
一、一八センチメートル	一臺

外ニ縱鋸一臺都合六臺運轉スル馬力アレトモ縱鋸一臺ニハ馬力ヲ要スルカ故ニ現今ハエンジンノ都合ニテ六臺同時ニ運轉スルコト能ハサルヲ以テ丸鋸ト縱鋸ヲ交互ニ運轉シ居レリ

一回轉數ハ丸鋸ハ三臺ノトキ測リタルニ一分間六百回ヲ示セリ

一齒距及齒數周圍五十四センチメートルノ丸鋸ハ齒距二寸乃至二寸五分ニシテ大齒六十枚小齒四十八枚圓盤ノ厚サ二分五厘齒組四分乃至四分五厘周圍四十八センチメートルノ丸鋸ハ齒距一寸五分乃至

二寸大歯六十枚小歯四十八枚ニテ圓盤ノ厚サ二分歯組三分五厘乃至四分ナリ故ニ此丸鋸ハ歯ノタメニ歩減五分ヲ生スト云フ

一製材ノ種類及功程

大林製材塲ハ鐵道班ニテ使用スル用材ノ製材ヲ請負タルモノニシテ製材ノ種類ハ重ニ停車塲ノ建築用材ニテ四寸五分ニ五寸角及欟一寸五分板長十六尺物最モ多シト云フ然レトモ鐵道班ヨリ時時製材ノ變更命令アルヲ以テ種類及功程ハ一定セサレトモ丸鋸三臺ニテ建坪二百坪ノ停車塲建築用材一切ヲ一晝夜間ニ挽キタルコトアリト云フ運轉中ナリシ四十八センチメートルノ丸鋸ノ功程ヲ試ニ測リタルニ一尺角長十六尺物一本ヲ一寸五分板ニ製スルニ十六分間ヲ要シ縦鋸ハ二尺角長二十四尺物ヲ十分間ニテ製板シ歯ノタメニ歩減ヲ生スルコト丸鋸ハ五分ナルニ縦鋸ハ一分五厘ナリキ而シテ縦鋸ハ鴨綠江岸ノ如キ地層ニテハ据付ニ多額ノ費用ヲ要スト云フ製材賃ハ一尺角長八尺物(即チ一連物)ヲ單位トシ一通シノ挽賃金八錢ノ請負ナリト(最初九錢五厘ノ請負ナリシモ中頃八錢ニ引下ラレタリ)云フ

一鋸器械運轉ニ要スル人員

一丸鋸一臺不絶運轉スルトキハ資材ノ撰ヒ出シ(資材集積塲ニテ注文ノ品ニ適スルモノヲ撰ヒ出シテ使用スルモノニシテ製材命令下ル毎ニ資材ノ撰出ニ困難スト云フ)ヨリ工塲ノ出シ入レ共ニテ支那

人夫及日本仲仕九人ヲ使用ス

工場ノ職員ハ

場長　笹田柾次郎氏ノ外ニ事務員四人

工場監視員	三人
機關運轉手	二人
火夫	二人
鍛冶工	三人
大工	三人
仲仕	三人
雜役夫	三人

燃料ハ背板ヲ用フルヲ以テ燃料ヲ割ルモノ三人

一資材ノ種類不資材ニ對スル出來高ニ付制限ノ有無

資材ハ五葉松及樅ノ一連物二連物三連物ヲ鐵道班ニテ工場ヲ去ル二町四方位ノ處ニ小山ノ如ク集積シ置キ鐵道班ニテハ一停車場ノ建築用材一切ヲ何日間ニ製材納入方ヲ命令スルノミニシテ一定ノ資材ヲ與ヘ出來高ヲ檢尺スル等ハ更ニ無ク山ノ如ク集積シタル資材中ヨリ適當ノモノヲ撰ヒ出シ歩減

ノ如何ヲ考慮スルノ暇ナク單ニ時日ヲ豫定通ニ命令ノ製材ヲ納付スレハ足ルヲ以テ自然功程ノミ急キ原料ヲ不經濟的ニ消費スルコトアリト云フ

韓國龍岩浦大倉製材工塲概況

安東縣大倉製材工塲ヨリハ其規模大ニシテ丸鋸三臺縱鋸二臺（何レモ本邦天城山ニテ使用シタル古鋸ヲ用フ）ヲ回轉シ一晝夜約五百連（但シ一連ハ厚サ六寸幅一尺長八尺此工錢十五錢）ノ製材ヲナスト雖モ調査當時主任不在ニシテ詳細ナル取調ヲナスコト能ハサリシハ遺憾ナリ

明治三十七八年日露戰爭中陸軍建築班ニテ鹵獲押收並ニ流下シタル木材左ノ如シ

一九萬〇八百六十三連

但シ龍岩浦ニ於テ鹵獲

一八千〇十三連半

但シ安東縣ニ於テ鹵獲

一八千九百八十連

但シ大東溝ニ於テ鹵獲

一六萬六千三百八十九連半

但シ安東縣ニ於テ押收

一五十五萬四千三百二十連
　但シ大東溝ニ於テ押收
一十九萬五千百四十二連半
　但シ三十八年六月以降第三建築班カ上流ヨリ流下ノ分
計九十二萬三千七百〇八連半
内
　鹵獲十萬七千八百五十六連半
　押收六十二萬七百〇九連半
　流下十九萬五千百四十二連半
此見積材積三十六萬九千四百八十三尺〆
但シ一連ノ厚サ六寸幅一尺長八尺ノ平均
以上鹵獲ト戰利、押收ハ拾收カ流下ハ建築班ニ於テ伐木流下シタリト云フモノナリ
森林所在地附近ノ地理
通化縣ヨリ東北方帽兒山ニ至ル里程約三十里ニシテ其順路左ノ如シ

地名	戸數

通化縣	
二道江	五〇
三道江	三〇
熱水河子	四〇
小羅圈沟	二〇
四道江	五〇
五道江	四〇
六道江	三〇
七道江	一〇
八道江	一〇〇

摘要

通化八道江間ハ漸次緩斜面ヲ以テ登行スル道路ニシテ車馬ヲ通ス此里程約十八里四道江ハ南方十四道勾ニ至ル分岐點十四道勾中十一道勾（此里程百淸里）以下十四道勾ハ約五淸里間ニ集合シ人家ナシ毎年伐木季節ニ至レハ伐木苦力小屋掛ヲナシテ之ニ住ス

五道江六道江ノ中間ニ五道勾嶺アリ六道江ト七道江トノ間ニ野鳩背嶺アリテ本嶺ヲ超ヘ野鳩沟ニ至ル

通路アリ

八道江ハ此沿道中最モ戸數多キ處ニシテ一部分市街ノ形ヲナシ玆ニ巡捕隊衙門アリテ木材ニ關スル司税ヲナシ巡檢ヲ王ト云フ

八道江ヨリ一ハ老爺嶺及老嶺ヲ超ヘ通スルモノト一ハ三岔子ヨリ小岔嶺ヲ越ヘテ達スルモノトノ二道アリテ沿道到ル處人家稀薄ニシテ老嶺ヲ超ヘテ進ム道路上ニハ嶺子頭ノ戸數二十戸ヲ除クノ外ハ三頭陽岔ニ出ルマテ部落皆無ナリ二頭三頭陽岔ノ兩村落ハ戸數約四十アリ

老嶺及ヒ黴木松嶺ハ最モ急峻ナル高嶺ナリ熱水河子四道江五道江ハ戸數稍集團村落ノ形ヲナスト雖モ其他ハ散在ス

八道江ヨリ三岔子ヲ經テ帽兒山ニ至ル里程約十三里其順路左ノ如シ

地名	戸數
上佃子	四
礁圈	二
三岔子	五〇
小岔子	未詳
小岔嶺	同

四平街	同	
三頭陽岔	同	
二頭陽岔	同	
帽兒山	三〇	

八道江ヨリ老爺嶺ヲ經テ帽兒山（臨江縣）ニ至ル里程約十三里順路左ノ如シ

地名	戸數	摘要
老爺嶺	未詳	
嶺子頭	同	
老嶺	同	
金廠	同	
椴木松嶺	同	
三頭陽岔	同	
二頭陽岔	同	
帽兒山	同	

三岔子ハ臨江縣(帽兒山)ノ管理ニ屬シ巡捕隊アリ戶數ハ一部集團ス

四平街小岔嶺間ニハ濕潤ノ地アリ

帽兒山ハ光緒二十八、二十九兩年度ニ於ケル露人ノ伐木事件ニ鑑ミ二十九年末通化縣ヲ割キテ臨江縣ヲ置キ三十年事務開始ト同時日露戰爭ニ當リ今ハ有名無實ノ姿ニアリ

嶺子頭ヨリ老嶺ヲ經テ金廠ニ至ル間及檄木松嶺三頭陽岔ノ間ニハ濕潤ノ地多シ

八道江ヨリ三岔子ニ到ル間ハ道幅狹クシテ駄馬ノ行進ニ足ル

通化縣ヨリ北方青勾子ヲ經テ老母猪園ヨリ東ニ向ヒ八道江ノ東方ニ達スル道路アリ里程約二十里其順路左ノ如シ

地名	戶數
通化	
青勾子門	三〇
古砬子	四
青勾子	二〇
老母猪園	二五
小黃泃	二〇

大黄溝	一〇
黑下溝	二〇
褲襠嶺	八
大板石勾	二〇

八道江（東方）

部落ハ凡テ散在ス

通化青勾子門間ニ官道嶺アリ

古砬子青勾子ノ間ニ青勾子嶺アリ

老母猪園ト大黄溝トノ間ニ小黄溝嶺大黄溝嶺アリ

大黄溝ト黑下溝トノ間ニ黑下子勾嶺アリ其延長三十五清里ノ長キニ亘リテ沿道人家ナシ

黑下溝ト褲襠溝トノ間ニ褲襠嶺アリ黑下溝ヨリ小黄溝ニ至ル間ハ最モ人家稀薄ニシテ八清里乃至十二清里毎ニ僅カニ一二軒點在スルノミ

小黄溝ヨリ青勾子門ニ至ル間ハ迂回屈折セル山道ニシテ其間處ニ泥濘ナル窪地沼地アリ

小黄勾ヨリ褲襠勾ニ至ル約十里ノ間ハ所深山ニシテ古松老樅鬱蒼トシテ晝尙ホ暗ク枯木道路ニ横ハリ樹根路面ニ蟠起シ道路最モ險惡ヲ極ム

帽兒山ヨリ夾皮勾寧苦塔ニ至ル里程約六十里百四十里ニシテ其順路左ノ如シ

地名	戸數
二道江	〇
油房	七
王家營	三
木家營	一六
上營	六
腦子溝	三
青勾子	一〇
上湯河	七
金杭	一五
湯河口	一五
湯河	一
馬鹿勾	四
南甸子	八

北甸子	一〇
萊監局	一六
萬里河	一二
砬子勾	一二
此間未詳	
頭道砬子勾	八
二道江	四
奶子勾	三
頭道流河嶺	三
流河	六
頭道流河	五
二道流河	五
二江勾	一五
夾皮勾	七〇
鏡子勾	未詳

大甸勾	七
大布池勾	八
寒葱沟	九
馬呼	五〇
大平山	三〇
黄泥河子	二〇〇
大石頭	三〇〇
敦化縣	三〇〇
馬家店	二〇
横道河子	二〇
哈密屯	五
黑石屯	八〇
額木蘇	

沿道ノ情況

黑石屯ヨリ、ウヒフ河ヲ渉リ額木蘇ニ至ルモノト三岔沟柳樹屯ヲ經テ額木蘇ニ至ルモノト二道アリ西

道ハ東道ヨリ稍近シ共ニ良道ナリ
三岐河、ウイフ河共ニ舟筏ヲ通シ額木蘇ヨリ右折セハ寧古塔左折セハ吉林ニ至ル
帽兒山ノ東北方約十里ニアル老嶺ハ二道江及松花江ノ分水嶺ニシテ二道江ハ南流シテ鴨綠江ニ入リ一ハ北流シテ松花江ニ入ル
二道江ハ平時ニアリテハ渡渉シ得ヘク從テ舟筏通シ難キモ降雨增水（解氷期又ハ雨期）ニ際シテハ木材ヲ管流シ又下流ニ於テハ小筏ヲ通スルコトヲ得ヘシ
松花江ハ源ヲ西老嶺ニ發シ北流シテ湯河ニ至リテ老斧崗ヨリ來ル松花江ヲ合シ水勢頓ニ增加ス
萬里河ヨリ砬子勾ニ至ル間ハ森林中ノ沼澤地ニシテ通行最モ困難馬腹ヲ沒ス
二道江（帽兒山附近ノ二道江ニアラス）ハ長白山ノ諸流ヲ合シ松花江ニ入ル水深ク流筏ノ便アリ
二道江ヨリ夾皮勾ニ至ル間ハ森林中ノ大沼澤地ヲ迂回屈折シ最モ險惡ナル部分ハ人馬ノ脚ヲ沒シ積年ノ古木道路上ニ横ハル
腦子勾ヨリ青勾子ニ至ル間ニ老嶺アリ
湯河ハ戸數一戸ナレ共頗ル大家ニシテ約三百ノ人員收容ニ足ル
湯河附近ニテ老嶺ヨリ出ツル松花江ト左折ス
南甸子ヨリ菜監勾ニ至ル間ハ一面ノ平野ニシテ南北三千米突東西八百米突位アリ大布池勾ヨリ木丹嶺

ヲ經テ寒葱溝ニ至ル間約九十淸里間一ノ煙屋ナク只木丹嶺ニ一ノ廟アルノミ

寒葱溝ヨリ北進スルニ從ヒ兩側ノ山脈左右ニ啓シテ一大平原ノ形ヲナセリ

木丹河ハ木丹嶺ヨリ發シ北流シテ殆ント通路ニ沿ヒ平行シ大石頭ニ於テ大石頭河ヲ合シ敦化縣ノ東ヲ流ル

大石頭ニアル人家ハ概ネ大廈ノミ

敦化縣ハ大抵ノ物資調辨シ得ヘシ

湯河馬鹿溝間ニ馬鹿溝嶺アリ

馬鹿溝南甸子間ニ南甸子嶺アリ

茱盤勾萬里河間ニ松花江子嶺アリ

萬里河砬子勾間ニ砬子勾嶺アリ

頭道砬子勾二道江間ニ頭道砬子勾嶺アリ

二道江奶子勾間ニ奶子勾嶺アリ

奶子勾頭道流河嶺間ニ頭道流河嶺アリ

頭道流河二道流河間ニ二道流河嶺アリ

二道勾夾皮勾間ニ夾皮勾嶺アリ

横道河子哈密屯間ニ横道河子嶺ノ險アリテ三岐河ノ流アリ
哈密屯黒石屯間ニ黒石屯嶺アリ



圓頂山園地落葉濶葉森林中吾軍製炭ノ景



馬連敦峠ニ於ケル濶葉樹林



最前線ニ在リタル倉庫ノ運河ノ上流蘇子河ニ依リ撫順ニ流下ノ景此筏ハ十月下旬途中ニテ結氷ス



鴨綠江材運河ニ依リ運材セラルル途中蘇子河岸ニ停材ノ景



満洲内地旅行ノ景



葦子塔ノ部落及ビ村有林



分水嶺杏林（世シ落葉濶葉樹林）



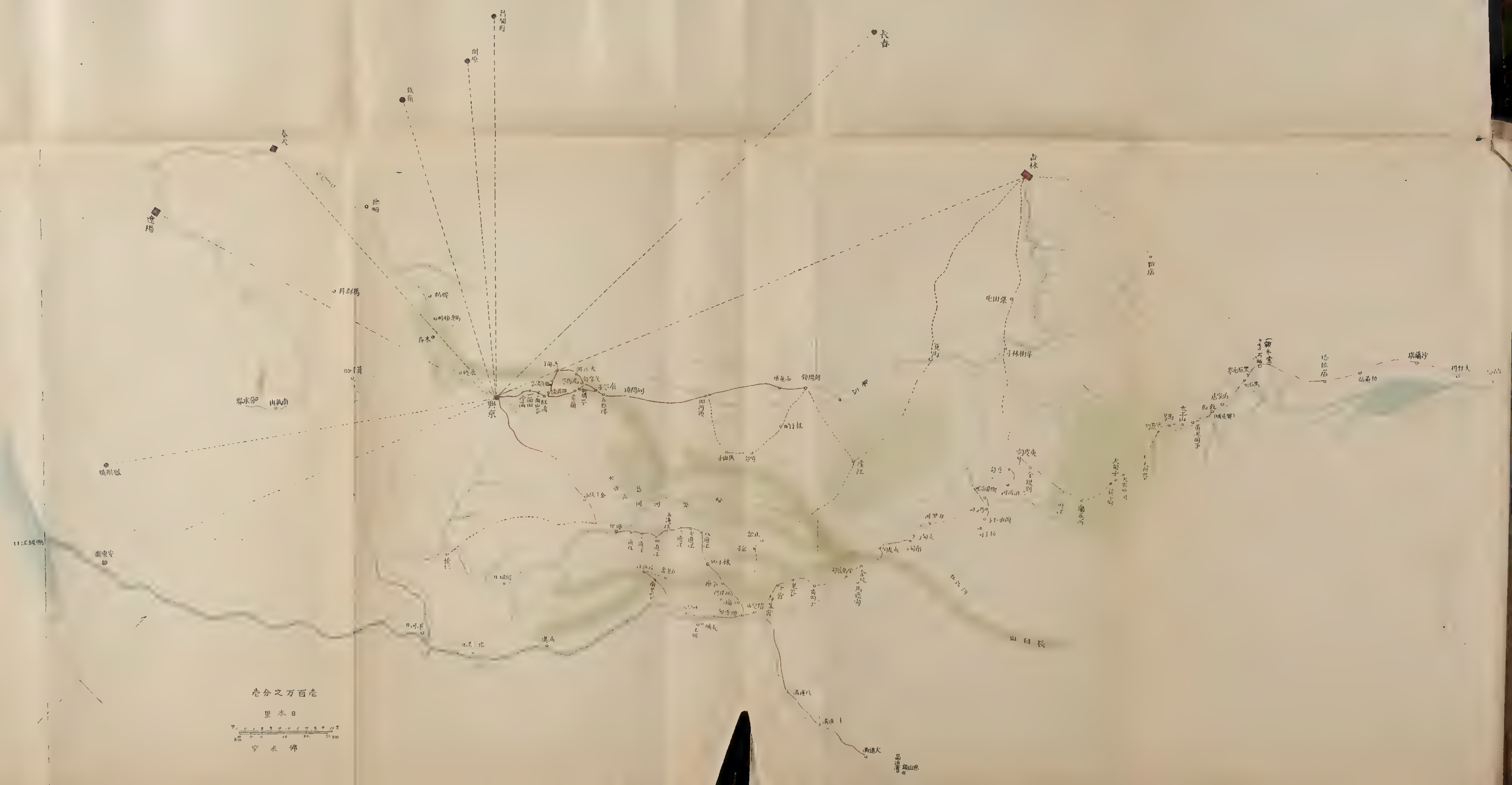
露國ノ經營ニ係ル龍岩浦木材貯木場ノ一



前葉ノ二

大東溝木材集積ノ景





長春
吉林
遼陽
興京
長白山



吉林省
奉天省
満洲
韓國
長春
吉林
奉天
開原
鐵嶺
撫順炭坑
興京
鴨綠江口
長白山
北
二百万分一之尺
道路
鉄道
河
省界
赤松林
闊葉樹林
針濶混合林
日本里
支那里

滿洲產業調査資料（林業）（第三班）

騎兵特務曹長　萩原守虎
山林局書記　中島忠毅
農商務技師　武井鈴男

滿洲產業調查資料（林業）（第三班）

目次

凡例

本班ノ擔當區域ハ鳳凰城方面ニシテ其踏査區域左ノ如シ

北永陵、興京廳（一ニ新兵堡ト稱ス）懷仁縣ヨリ渾河口ニ至ル

南岫巖ヨリ大孤山ニ至ル

東鴨綠江

西城厰、賽馬集、草河口、鳳凰城ヨリ岫巖ニ至ル

此廣袤千二百六里ニシテ面積約百九十萬町歩ナリ

滿洲ハ山少ク偶有レハ概シテ所謂坊主山ナレトモ此方面ハ實ニ山峰起伏而シテ森林亦頗廣大ナリ其用材ニ充ツヘキモノハ少シト雖薪炭材ニ至テハ蓋シ饒多ナリ

滿洲產業調查資料（林業）（第三班）

第一章 總說

本班ノ調査區ハ老嶺山脈ノ一部ニシテ白石砬子山系ニ屬ス白石砬子山系ハ概シテ東北ヨリ西南ニ走リ全區域ヲ鴨綠江及遼河ノ二流域ニ分ツ、其ノ遼河流域ニシテ東清鐵道ニ沿フ部分ハ一望千里渺漠タル平原ナルモ東進スルニ從ヒ起伏漸ク甚シク大小摩天嶺、分水嶺、新開嶺、小平嶺等ノ險アリ然レトモ地勢一般ニ險峻ナリトセス鴨綠江流域ハ靉河以北ニアリテハ崎嶇極マリナク山又山ニシテ遼河流域ニ比シ地勢一般ニ急斜海拔七八百「メーテル」高峯所所ニ屹立シ老嶺、黑溝嶺、牛拉嶺、鳳凰山、白石砬子、坎掾嶺、五道嶺、錯草嶺ノ險アルモ我カ四國、紀伊、飛驒、越中地方ノ如ク急峻ナラス靉河以南ノ地ハ地勢漸次緩漫ニ移リ遂ニ低丘ヲ爲スニ至ル地質ハ川流ニ沿フ部分ヲ除クノ外ハ古世層若ハ中生層ナルカ如シ遼河流域特ニ賽馬集及堿廠附近ハ石炭ニ富ミ間間鐵礦ヲ產シ渾江ノ流域ニ屬スル部分ニハ砂金ヲ產スト云フ

氣候ハ峻酷ニシテ冬季ニ於テハ萬水皆凍結シ風威劇烈十二月ノ候已ニ氷點下十數度ヲ下ルヲ常トスルモ夏季ニ於テハ炎熱熕金ノ感アルヘキハ懷仁方面ニ於テ藍、烟草、亞麻等ノ完全ニ耕作セラルルヲ以ラ推定スルニ難カラス森林帶上ヨリ云ヘハ溫帶乃至寒帶ニ屬スルモ夏季ニ於テハ溫度甚シク昇騰スル

ヲ以テ樹木ノ生長頗ル良好ナルヘキハ紅松ノ人造林其ノ齡五十五年ニシテ平均直徑九寸高八間杉松ノ人造林其ノ齡三十五年ニシテ平均直徑七寸高六間ニ及ヘルモノアルニ徴シテ知ルヘシ

本班ノ調査區ハ前述ノ如ク平野比較的少キヲ以テ傾斜甚シク急峻ナラサルノ地ハ山頂マテモ開墾セラルルコト我カ四國中國ニ於テ見ル所ノ如シ而シテ開墾ノ困難ナル急斜地若ハ岩石地ハ總テ森林ヲナス森林地ト森林外地トノ比較ハ局部ニヨリ一樣ナラサルモ全面積ノ凡二十「パーセント」ハ森林地ト見做シテ大差ナカルヘシ

森林ノ大部分ハ主トシテ柞木（クヌギ、ナラ、カシワ類）楡木（ニレ）色木（カヘデ）椴木（カツラ？）楸木（クルミ？）樺木（カバ）楊木（ドロ）柳木（ヤナギ）等ノ落葉濶葉樹ノ單純又ハ混淆天然林ナリ面積ハ一域トシテハ廣大ナルモノ稀ナリト雖各團地ヲ集計スルトキハ約三十八萬町歩ニ上ルヘシ從ツテ之ヨリ生産スル材量モ亦多大ノモノタルヤ知ルヘキナリ即チ每町歩平均三棚トスルモ百十萬棚ニ上ル其ノ林木ハ靉河以北ニアリテハ主トシテ薪炭材トシテ利用セラレ地方人民ハ全林ニ涉リテ伐採利用スルヲ以テ老大ナルモノ少ク稀ニハ數十本或ハ數百本ノ老齡木塊狀ニ殘存セルモノナキニアラサルモ之等ニ必要ニ應シ所有者又ハ地方人民ノ建築材、棺材、器具材トシテ供用スルニ過キス靉河以南ハ柞蠶（絹紬ノ原料）ヲ飼育スルヲ以テ林木ハ薪炭材トシテ恣ニ利用スルヲ得ス靉河以北ニ於テモ柞蠶ヲ飼育セサルニアラサルモ至テ微徴タルモノナリ

濶葉樹林中ノ最モ大ナルモノヲ分水嶺ノ森林トス又針葉樹林ト視做スヘキモノハ大恩堡、小恩堡、後牛毛溝、大青溝、小青溝、大冷溝、前牛毛溝、黑古洞、向水溝、三道溝、二道溝等ノ森林トス其ノ他到ル處墓地ニ杉松（ウラジロモミ？）紅松（チヨウセンゴヨウ）又ハ油松（アカマツ）ヲ造林セルアリ或ハ苗木ヲ養成シタル床地ニ其ノ儘放置セルモノ森林ヲナスアリ或ハ岩石地ニ天然生ノ油松ノ群生スルアリト雖此等ハ概シテ面積狹小樹齡幼若ニシテ材積僅少況ク需用ニ應スル能ハス僅カニ所有者又ハ地方ノ必要ニ應シ伐採利用スルニ過キス

第二章　著シキ森林

第一　分水嶺ノ森林

賽馬集ノ西北四十清里（十清里ハ我一里ニ當ル）南孤山ノ東南二十清里ニ分水嶺ノ森林アリ海面ヲ拔クコト四百五十「メーテル」地勢急峻ナラス道路中央ヲ貫通シテ車馬ヲ通ス太子河水源ノ一部ヲ爲シ運搬尤モ便ナリ太子河ハ遼陽ヲ經テ遼河ニ合スル水流ニシテ遼陽地方ニ出ス木材ハ概シテ太子河ヲ筏流セリ本林ハ柞木、椴木、楸木、色木、楊木等ノ落葉濶葉樹ノ混淆林ニシテ面積凡七八千町步老大木ハ數十年來連年伐採ノ結果漸次其ノ數ヲ減シ現ニ用材ニ適スヘキモノ甚タ少シト雖然レトモ全林ノ總用材材積約一萬尺〆薪炭材約七八萬棚ヲ得ヘシ地方人民ハ毎年數十人ノ合資ヲ以テ本林ノ伐木ニ從事シ冬季積雪

ヲ利用シテ北方約十淸里ナル將軍石ニ搬出シ該地ニ於テ筏ヲ組ミ春夏ノ候太子河ヲ流下シテ遼陽城外俄房ニ輸送ス毎年ノ出材高凡二三千本ナリ造材ハ主トシテ丸太ニシテ長十尺、十八尺、二十二尺ノ三種トシ元口直徑一尺内外ノモノハ九十本ヲ以テ元口直徑一尺五寸内外ノモノハ八十本ヲ以テ一筏ノ量トス

本林ヨリ伐木造材シ日露戰役ノ爲搬出ヲ了フル能ハスシテ山床及將軍石ニ藏置シアルモノ約二千本アリ俄房一箇年ノ出材高ニ伯仲スヘシ

地方人民ノ經營ニ係ル事業費ハ立木代大小平均百本ニ付三十圓此ノ伐木造材及山床ヨリ將軍石マテノ運搬賃百圓將軍石ヨリ俄房迄ノ筏流費一筏ニ付凡百五圓ニシテ經費合計一尺〆ニ付凡二圓前後ニ當ルト云フ

第二　大恩堡、小恩堡、後牛毛溝ノ森林

本林ハ平頂山ノ東方約六七十淸里懷仁縣ノ西方約三四十淸里ニ在ル一團地ニシテ白石砬子山脈ノ一部ニ屬ス海拔五百五十「メートル」地勢概シテ急斜地味肥沃谿間ノ延長凡三四十淸里面積凡三千町歩ニシテ元來紅松、杉松、楡木、樺木、色木等ノ針濶混淆原始林ナリシモ老大ニシテ用材ニ適スルモノハ既ニ伐採シ盡シ現存スルモノハ幼木ニアラサレハ用材ト爲スコトヲ得サル林木ナリトス本林及附近ノ地ニ搬出未了ノ角材及丸太材約四五千本ヲ堆積セルヲ見ル本林ハ所有者ナク立木代ヲ要セス山床ヨリ平

頂山マテハ道路難惡ナルモ馬車ヲ通ス故ニ木材ハ之ニ依リテ搬出シ平頂山ニ於テ筏ヲ組ミ太子河ヲ降下シテ遼陽ニ輸ス伐木造材費一付(一付ハ七百廿寸ニシテ長八尺、即チ四、八尺〆ニ當ル但一尺平方ヲ百寸トス)一圓五十錢(一尺〆三十一錢三厘)陸上運搬賃一付(馬車一車一付積)十圓(一尺〆二圓八錢三厘)筏流賃一付(一筏五付立)八圓(一尺〆一圓六十六錢六厘)一付ノ經費合計十九圓五十錢(一尺〆四圓六錢二厘)平頂山ヨリ遼陽マテノ筏流日數ハ十日乃至二十日ヲ要ス

第三　大靑溝、小靑溝、大冷溝、前牛毛溝ノ森林

本林モ亦白石砬子山脈ノ一部ニシテ懷仁縣ノ西南約六七十淸里ニ在リ前牛毛溝ハ後牛毛溝ト腹背ヲ爲シ面積凡四五百町歩ヲ有ス大靑溝、小靑溝、大冷溝ハ前牛毛溝ト川ト隔テテ相對スル一團地ニシテ面積凡二千町歩アリ地況林況略ホ大恩堡一團ノ森林ニ髣髴ス前牛毛溝ノ森林ニハ伐採跡地ニ杉松ノ稚樹所所ニ密生シ天然更新ノ絕對的ニ行ヒ得ヘカラサルモノニアラサルコトヲ證ス

本林ハ所有者ナク立木代ヲ要セス伐木造材運搬等ノ經費大體ニ於テ大恩堡一團ノ森林ニ同シ只馬車運搬賃ニ於テ參圓ノ多額ヲ要スヘシ

第四　黑古洞、向水溝、三道溝、二道溝ノ森林

本林モ亦白石砬子山脈ノ一部ニ屬シ黑古洞、向水溝ハ一團地ニシテ撼廠地方ニ於テ一大美林ト稱セラル寬甸縣ノ東北約百三四十里ニ在リ面積凡千二三百町歩ナリ三道溝及二道溝ハ前者ト腹背ヲ爲セル一團地ニシテ面積凡千町歩アリト黑古洞、向水溝及三道溝ハ地況林況大恩堡一團ノ森林ニ似タリ二道溝

ハ地勢急峻ニシテ所所ニ白色ノ大岩巨石屹立ス白石砬子山ノ稱蓋シ之ニ因ムモノナランカ海面ヲ拔クコト七百餘「メーテル」上天臺山觀安宮白石砬子ト稱スル寺院ノ所有ニ屬スル禁伐林ニシテ杉松及紅松ノ老大木比較的多數ナル針濶混淆林ナリ往往直徑三四尺ニ及フモノアルモ用材ニ適スルモノハ一萬尺〆内外ニ過キサルヘシ

向水溝ノ森林ハ五道河子ニ住スル王殿財ノ所有ナルモ木代ヲ拂ハスシテ伐採スルコトヲ得三道溝及黑古洞ノ森林ハ無所有ナルモ伐木スルトキハ一付ニ付五十錢ヲ地元ニ納付スルヲ要ス

木材ハ冬季牛馬ヲシテ積雪上ヲ牽引セシメ二百四十清里ニ在ル東營房ニ搬出シ該地ヨリ筏ヲ組ミ太子河ヲ流下シテ俄房ニ輸出ス伐木造材賃一付（一付ハ八十八寸ニシテ長八尺即チ一付ハ五尺〆弱ニ當ル但シ一平方尺ヲ十二寸トス）一圓五十錢（一尺〆三十錢）陸上運搬賃一付十圓乃至十五圓（一尺〆二圓乃至三圓）筏流賃一付八圓乃至十圓（一尺〆一圓六十錢乃至二圓）一筏ハ四付又ハ五付立トス一付ノ經費合計十九圓五十錢乃至二十六圓五十錢（一尺〆三圓九十錢乃至五圓三十錢）山床ヨリ東營房マテノ運搬日數ハ四五日東營房ヨリ遼陽マテノ筏流日數ハ七日乃至二十日間ヲ要ス

第三章　市場

第一　遼陽

遼陽ハ太子河ノ右岸ニアリ城外俄房ハ地方ニ於テ有名ノ木材市場ニシテ德增源外十八戸ノ木材商アリ

明治三十七八年ハ日露交戰ノ爲殆ント休業ノ狀態ニ在リシモ其ノ以前ニ於ケル毎年ノ取引ハ二十萬圓ヲ下ラスト云フ、現時木材ニ一定ノ相場ナク濫リニ暴騰ヲ告ケ尤モ需用ノ多大ナル紅松ノ如キハ平年一付(凡五尺〆)三十圓内外(一尺〆六圓内外)ナルニ現價九十九圓(一尺〆二十圓弱)乃チ三倍强ノ高直ヲ示スニ至レリトス他ノ木種モ亦之ニ比シ騰貴ノ狀ヲトスヘキナリ

本市場ニ於テハ木材商ハ仲買人ニ資本ヲ前貸シ仲買人ハ苦力ヲ使役シテ伐木造材ヲ爲サシメ又太子河ヲ筏流セシメテ其ノ木材ヲ資本主タル木材商ニ渡シ精算ヲ爲スノ慣習ニシテ木材商ハ專ラ仲買人ヲ信頼シ其ノモノノ手ニヨリテ木材ヲ得、業ヲ營ムモノニシテ自ラ進ンテ木材ノ產源地ヲ探險スルカ如キコトナク從ツテ何レノ地ニ如何ナル森林ノ在リヤ現ニ賣買取引ヲ爲セル木材ハ果シテ何レノ地方ヨリ出ツルヤヲ詳ニセス迂モ又極マレリト謂ツヘキナリ、如斯ニシテ本市場ニ於ケル主要ノ木材產源地タルヘキ森林ハ第二章ニ列記セルモノニシテ其ノ狀況ハ各其ノ項下ニ記述スルカ如クナレハ今後數年ナラスシテ木材ノ缺乏ヲ來タシ本市場ノ一大恐慌ヲ視ルヘキヤ炳然タルヘシ

日露開戰前本市場ニ於テ賣買取引ヲ爲シタル主要ノ樹種幷ニ其ノ用途左ノ如シ

樹種	用途
紅(ホーン)松(ソオン) チヨウセンゴヨウ	棺材、門材等
杉(サー)松(ソオン) ウラジロモミ	建築材、棺材等

柞木（ズオムー）	ナラ、クヌギ、カシワ類	柱材、車輛材等
楡木（ユエムー）	ニレ	同上
楊木（ヤンムー）	ドロ	梁材、家具材等
樺木（ホワームー）	カバ	同上
色木（スヱームー）	モミヂ類	同上
椴木（ドアンムー）	カツラ	門材、雜作材等
楸木（チユウムー）	クルミ	卓材、箱材等

第二　城廠及平頂山

城廠及平頂山ハ共ニ木材市場ニアラサルモ城廠ハ黒古洞、向水溝、三道溝方面ヨリ平頂山ハ大恩堡、小恩堡、前牛毛溝、後牛毛溝、大青溝、小青溝、大冷溝方面ヨリ遼陽ニ輸出スル木材ノ仲次場ニシテ且伐木運材事業家ノ在ル所ナリ該事業家ハ即チ遼陽ニ於ケル仲買人ニシテ木材商ヨリ資本ヲ前借シ苦力ヲシテ伐木造材幷ニ運材ノコトニ従ハシムルモノナリ城廠ニハ木材取扱ヲ専業トスルモノ永順季外二戸ニ過キスト雖木材事業ニ多少ノ關係ヲ有スルモノ極メテ多ク従ツテ地方ノ盛衰ハ木材事業ノ振否ニ伴隨スルモノノ如クニシテ従來木材事業ノ爲ニ運轉スル所ノ資本ハ三四萬圓乃至六七萬圓ニ及フト云フ

平頂山ハ嘗テ馬賊集團ノ爲之レカ討伐トシテ清兵六七百名駐屯警戒中ニ係リ市民ノ多クハ避難ノ爲他

ニ移住シ偶在住スルモノハ木材商以外ニシテ而モ門戸ヲ閉鎖シテ其ノ業ヲ休廢スルノ狀況ニシテ調査ヲ爲シ得サリシモ之レ亦蠍廠ノ如ク木材仲買人在住ノ地ニシテ木材事業ニ多少ノ關係ヲ有スルモノ尠カラスト云フ

第三　大東溝

大東溝ハ鴨緑江口ニ在リテ百貨輻湊シ鴨緑江并ニ渾江ノ上流輯安縣、臨江縣及通化縣ヨリ降下スル木材ノ一大市場タリ從來木材商トシテ其ノ名アルモノハ左ノ十戸ナリ

長豐棧　中和德　同慶棧　玉合升　合盛棧
吉順棧　德茂棧　全順棧　萬順棧　寶源棧

日露開戰ノ爲本市場ニ聚集スヘキ木材ハ悉ク徵發セラレ玆ニ木材業者ノ大恐慌ヲ來タシ遂ニ漸次其ノ業ヲ休廢スルノ止ムヲ得サルニ至リ現ニ僅カニ持續從業スルモノハ漸ク三四戸ニ過キス從ツテ賣買取引ハ甚タ少額ニシテ計上スルニ足ラス然レトモ開戰以前ニ於テハ年年五十餘萬本凡四萬付（一付ハ厚八寸巾一尺六寸長八尺ノ斜板十一本即チ九、四尺〆）約百十二三萬圓ノ賣買取引アリシト云フ如斯ニシテ大東溝ハ天津、芝罘、營口、上海、青島、威海衞等ノ木材供給地トシテ唯一ノ市場ニシテ全市民ハ直接ニ間接ニ殆ント木材業ニ關係ヲ有セサルモノナキノ狀況ナルヲ以テ日露開戰ノ爲多大ノ打擊ヲ蒙リ非常ノ不況ニ陷リ寂寞沈衰ノ悲觀ヲ呈シ商況ノ活氣更ニナシ

木材ノ運送ハ支那船（ジャンク）ニ依ルヲ例トス其ノ輸出先ハ芝罘、天津、營口、上海、滓河、大山、威海衞、蘆臺、俚島、石島等ニシテ其ノ主ナルモノヲ天津、芝罘トス、支那船一艘ノ積載量ハ百四五十付（千三四百尺〆）ニシテ之レカ積卸ニ要スル費用ハ百圓乃至百四五十圓ナルヲ以テ一付七十錢乃至一圓ニ當ル（一尺〆付ニ付七錢五厘乃至十錢六厘）天津、芝罘、營口、青島、威海衞マテノ運賃左ノ如シ

天津マテ　一付ニ付　十七八圓（一尺〆一圓八九十錢）

芝罘マテ　同上　七八圓乃至十圓（一尺〆七八十錢乃至一圓）

營口、青島、威海衞マテ　同上　十五六圓（一尺〆一圓六七十錢）

大東溝ニハ木稅局アリテ木材ノ賣買ニ付上木中木下木ノ區別ニヨリ課稅ス稅金ハ買受人ノ負擔トス稅率ハ料ヲ以テ單位トス一料ハ巾一尺厚六寸長八尺ニシテ〇、四尺〆ニ相當ス上木中木下木ノ區別及稅額左ノ如シ

上木（黃花松、赤柏松等）

一料ニ付五十四錢四厘（一尺〆一圓三十六錢）

中木（紅松、杉松、油松等）

同上三十錢（一尺〆七十五錢）

下木（柞木、楡木、楊木、樺木、色木、椴木、[illegible]木等）

同上二十二錢五厘（一尺〆五十六錢三厘）

日露開戰前本市場ニ於テ賣買取引ヲ爲シタル主要ノ樹種並ニ其ノ用途左ノ如シ

樹種	用途
黄花松（ホワンホワソオン） カラマツ	寺院、宮殿等ノ建築材
楸柏松（チーパイソオン） アララギ	棺材
紅松（ホーンソオン） チヨウセンゴヨウ	建築橋梁、机、椅子、船舶、棺等ノ用材
杉松（サーソオン） ウラジロモミ	棺材、建築材
楸木（チユウムー） クルミ	器具材
椴木（ドアンムー） カツラ	曲物、器具等ノ用材
柞木（ズオムー） カシワ類	車輛材
油松（ユーソオン） アカマツ	棺材、船舶材

明治三十六年ニ於ケル賣買取引額ヲ一尺〆ニ換價スルコト左ノ如シ

樹種	一尺〆價格	備考
黄花松	十六圓	長九尺巾一尺厚五寸ノモノ一連ニ付六圓
楸柏松	十四五圓	長八尺四五六寸角ノモノ一連ニ付二三圓
紅松	四圓五十錢	長八尺巾一尺三寸厚七寸ノモノ一千寸ニ付三十圓

杉松	三圓	長八尺巾一尺三寸厚七寸ノモノ 一千寸ニ付二十圓
楸木	四圓五十錢	一千平方寸長八尺ノモノ 三十圓
椴木	二圓三四十錢	同上ニ付 十五六圓
柞木	三圓七十五錢	同上ニ付 二十五圓
油松	三圓	同上ニ付 二十圓

本市場ニ於テ賣買取引ノ最モ多キモノヲ杉松及紅松トス而シテ最モ輸出ノ多キ地方ニ於ケル杉松一尺〆ノ原價左ノ如シ

輸出先	天津	芝罘	營口、青島、威海衛
木材價	三圓	三圓	三圓
積卸賃	八錢	八錢	八錢
支那船運賃	一圓八十錢	七十錢	一圓六十錢
木稅	七十五錢	七十五錢	七十五錢
計	五圓六十三錢	四圓五十三錢	五圓四十三錢

第四章　結論

本班ノ調査區ニ於ケル森林ノ狀況ハ第一章及第二章ニ敍述スルカ如ク喬林ハ既ニ大部分ヲ伐採シ今ヤ

殘存スル所一團地ノ材積多キモ三四千尺〆ヲ出テサルヘク二道溝ノ禁伐林モ一萬尺〆ヲ超エサルヘシ矮林ハ各團地ヲ通シテ其ノ總面積約三十八萬町歩材積約百十萬棚ノ多量ニ上ルト雖概シテ交通不便ノ地ニ僻在スルヲ以テ都市ノ需用ニ應スルコトヲ得ス又運搬便利ノ地方ニアルモノハ柞蠶ノ飼料トシテ利用セラルル故ニ本班ノ調査區ニ於テハ現ニ森林トシテ直接ノ利源ハ之レナシト斷言スルノ止ムヲ得サルナリ

滿洲ニ於ケル樞要ノ地方ハ鐵道又ハ船舶ノ便アルヲ以テ官廳用材ノ如キハ敢テ缺乏ヲ告クルコトナカルヘキモ内地ノ移民ノ如キハ現ニ建築材ヲ得ルニ困難シ交通頻繁輸入便利ノ大連ニ於テスラ未タ内地人ノ木材商ナキヲ以テ需用者ハ用材ヲ内地ニ仰キ之ヲ輸入シテ建築ヲナスノ狀况ナルカ故ニ之レ等民間ノ需用ヲ滿足スルカ爲木材輸入ノ途ヲ講スルハ實ニ刻下ノ急務ナルヘキヲ信ス

日清條約ノ結果滿洲ヲ開放シ關東洲ハ日本ノ租借トナリ營口又我カ勢力範圍ニ歸スルニ至レハ將來日本ヲ始メ各國人民ノ移住ト共ニ萬般ノ事業倍發展シ各種ノ建築愈頻繁ヲ加フルニ至ルヘキヤ必セリ是ニ於テカ内地木材ノ輸出及近キ將來ニ於テ成立スヘキ日清合同會社ノ鴨綠江流域伐木事業ハ共ニ有望ナルヘキヤ信シテ疑ハサル所ナリ

由來滿洲ハ未開ノ地ニシテ素ヨリ統計ノ依ルヘキモノナク從ツテ如何ナル材種ノ如何ニ消費セラルルヤヲ知ルコトヲ得サリシモ彼等ノ使用スル木材ノ最モ多量ナリト認ムルモノ大略左ノ如シ

一、建築用材　杉松、紅松、楡木、楊木、柳木及其ノ他ノ濶葉樹
二、棺材　同上
三、窓框、戸、障子類ノ用材　各種ノ針葉樹及濶葉樹
四、簞笥、櫃、卓子、椅子類ノ用材　檞木、楡木、色木及其ノ他濶葉樹
五、車輛用材　柞木、楡木等
六、造船用材　油松、紅松等
七、曲物用材　檞木

就中需用ノ最モ多量ナルハ建築用材、棺材ナリト雖窓框、戸、障子、簞笥、箱、卓子、椅子類ノ用材車輛用材及船舶用材ノ需用モ頗ル多量ノモノナルコトヲ知ルヘシ

各國風習ノ異ナルニ從ヒ建築其ノ他木材ノ使用一樣ナラスト雖特ニ滿洲ノ木材使用ハ一種獨特ノ慣習アリ故ニ彼等ノ需用ニ應セントスルニハ此ノ點ニ付尤モ注意ヲ要スヘキナリ今其ノ著シキモノヲ例示スレハ左ノ如シ

一、八尺ヲ以テ建築ノ單位トスルカ故ニ建築用材ハ總テ八尺ヲ單位トシテ製作スルコトヲ要ス
二、柱、梁等ハ主トシテ丸太材ヲ使用スルカ故ニ小徑ノ木材ハ寧ロ角取セサルコト
三、柱ハ直徑八九寸以上ノ大材ヲ用ユルヲ常トス

四、都市ノ商店ハ一戸數棟ヨリ成ルヲ以テ一棟ノ木材部分ハ少ナルモ一戸所要材積ハ大ナリ

五、建具、家具用材及建築用材ニモ各種ノ濶葉樹ヲ用ユルコト

六、滿洲人ノ木材商ハ板材ヲ取扱ハサルヲ常トス故ニ家屋修繕其ノ他少量ノ板材ヲ要スル場合ニ於テモ尙ホ角材ヲ買入シ木挽ヲシテ板材ヲ製作セシメサルヘカラス故ニ板材（長サ八尺）ノ賣買ハ蓋シ有望ナルヘシ尤モ近來滿洲人ハ天井及壁ヲ板張ニスルノ便利ナルコトヲ知ルニ至リタルモノアルカ如キヲ以テ將來板材ノ需用ハ倍增加スルニ至ルヘシ

七、支那川船（ジャンク）ハ日本船ニ比シ吃水深クシテ淺水ニ使用スルコトヲ得ス且又積載量モ比較的少キヲ以テ之レカ改良ヲ企劃セハ新ニ其ノ用材ノ需用ヲ增加スルニ至ルヘシ尤モ滿洲ニ於ケル支那船ハ極メテ多數ノモノナリトス

八、簞笥、櫃、椅子、卓子等ノ家具類ハ小板ヲ剝キ合シテ使用スルヲ常トシ中ニハ巾一二寸ノ而カモ相異ナレル樹種ヲ取集メテ一箇ノ器具ヲ作ルモノアリ尤モ之レ等ハ總テ一種ノ塗料ヲ施シテ使用スルコト

九、滿洲人ハ物品ノ取扱常ニ亂暴ナルヲ以テ建具、家具等ノ用材ハ可成堅固ナル樹種ヲ好ムコト

十、滿洲ニ於テハ釘ヲ用ユルコト少ナキヲ以テ日本ニ於テ箱ヲ用ユル場合ニ曲物ヲ用ユルコト多シ

上記ノ如クニシテ內地ヨリ滿洲ニ輸出スルニ適當ナルヘキ木材ノ種類ハ大略左ノ如クナルヘシ

一、建築用材　杉、落葉松、樅、栂「ヒバ」「トド松」「エゾ松」等ノ針葉樹並ニ「カシワ」「カツラ」「タブ」「ヤナギ」「ナラ」「カンバ」等ノ濶葉樹

二、棺　材　扁柏、杉、樅、「トド松」「エゾ松」等

三、窓框、戸、障子類ノ用材　各種ノ針葉樹「カツラ」「ニレ」「シヲジ」「ヤチダモ」等ノ濶葉樹

四、簞笥、箱、卓子、椅子類ノ用材　「ニレ」「ヱノキ」「ツキケヤキ」「シヲジ」「ヤチダモ」「クリ」「ナラ」「エンジユ」等ノ濶葉樹

五、車輛用材　「カシワ」「ナラ」「ニレ」等ノ濶葉樹

六、造船用材　杉

七、曲用用材　「トオヒ」

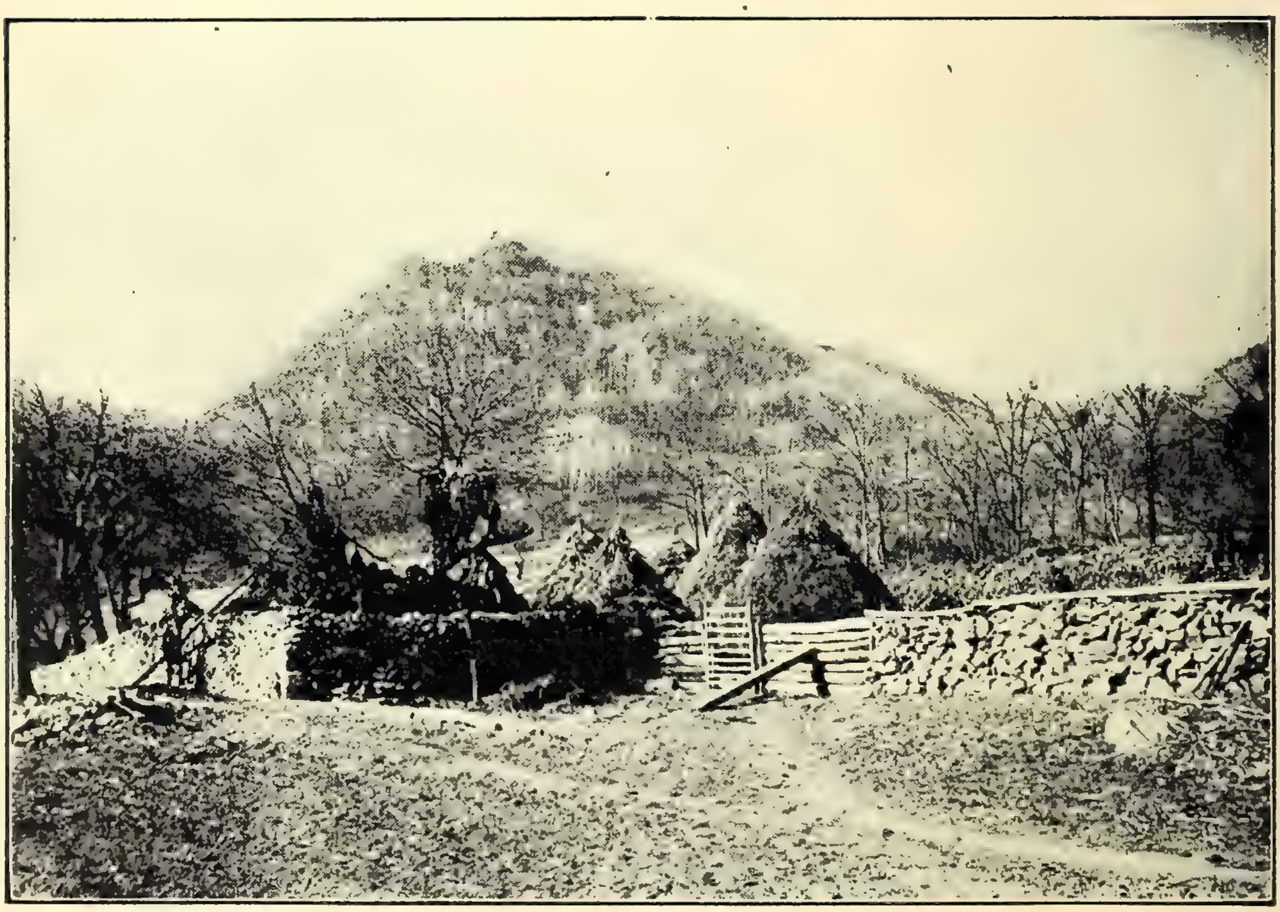
內地ニ於テハ所謂雜木ハ殆ント薪炭以外ニ用途ナキモノノ如クナルモ滿洲ニ於テハ諸般ノ用材ニ利用セラルルナリ飜テ內地森林ノ狀況ヲ案スルニ國有林面積四百萬町歩ノ內約四分ノ一ハ所謂雜木ト稱スル濶葉樹ニシテ而カモ其ノ大部分ハ老大ニ過キ薪炭材トシテモ未タ利用セラレサルモノナルカ如シ而シテ御料林、公有林、私有林ニモ亦此ノ種ノモノナシトセス然ルニ北海道又ハ鹿兒島地方ノ如キ瀕海

航運ノ便開始セラルル地方ニ在リテハ未タ利用セラレサル老大ノ濶葉樹林ハ宜ク斧斤ヲ入レ以テ之ヲ滿洲ニ輸出スルハ最モ有望ナルヘク又針葉樹ニ在リテハ扁柏ノ如キハ上等ノ棺材トシテハ多少ノ需用アルヘキモ寧ロ杉以下ノ樹種ヲ輸出スルハ得策ナルヘシ就中北海道ノ針葉樹ハ概シテ大材ナルト海運ノ便アルトニヨリ滿洲輸出ニハ極メテ適當ナルモノナルコトヲ認ム

政府ニ於テ若シ内地ノ木材輸出ヲ奬勵セントセハ相當ノ保護ヲ與フルコトヲ要ス實ニ木材ノ如ク輸送費ヲ其ノ生産費ノ大部分トスルモノニアリテハ鐵道又ハ船舶ノ運賃ヲ低減セシムルコト尤モ必要ノコトナリトス内地ニ於ケル鐵道輸送費ハ實ニ多額ヲ要スルカ爲木材ノ需用供給權衡ヲ得サルモノアリ今内地ノ木材ヲ海外ノ遠隔ニ輸送セントスル豈ニ鑑ル所ナカルヘケンヤ又薪炭ニ至リテハ滿洲ハ原料頗ル豐富ナルモ森林ノ位置僻在スルヲ以テ南部及西部ニ於テハ大ニ缺乏ヲ感シ特ニ内地人民ノ移住スル都市ニ於テ尤モ甚シトス故ニ此等ノ地方ニ向テハ大ニ輸入ヲ計ルヲ要ス而シテ滿洲ノ矮林ヲシテ之レカ原料ニ當テンカ交通不便ノ地域ニ在ルヲ以テ運搬費ニ頗ル多額ヲ要スヘキハ馬車一輛（薪一棚半炭百五十貫内外積）一里ノ賃銀一圓以上ヲ普通トスルノ事實ニ徵シテ明瞭ナリ故ニ寧ロ内地ノ四國九州ノ如キ海運ノ便ナル地方ヨリ輸送スルヲ得策ナリト信ス

分水岺附近ノ森林





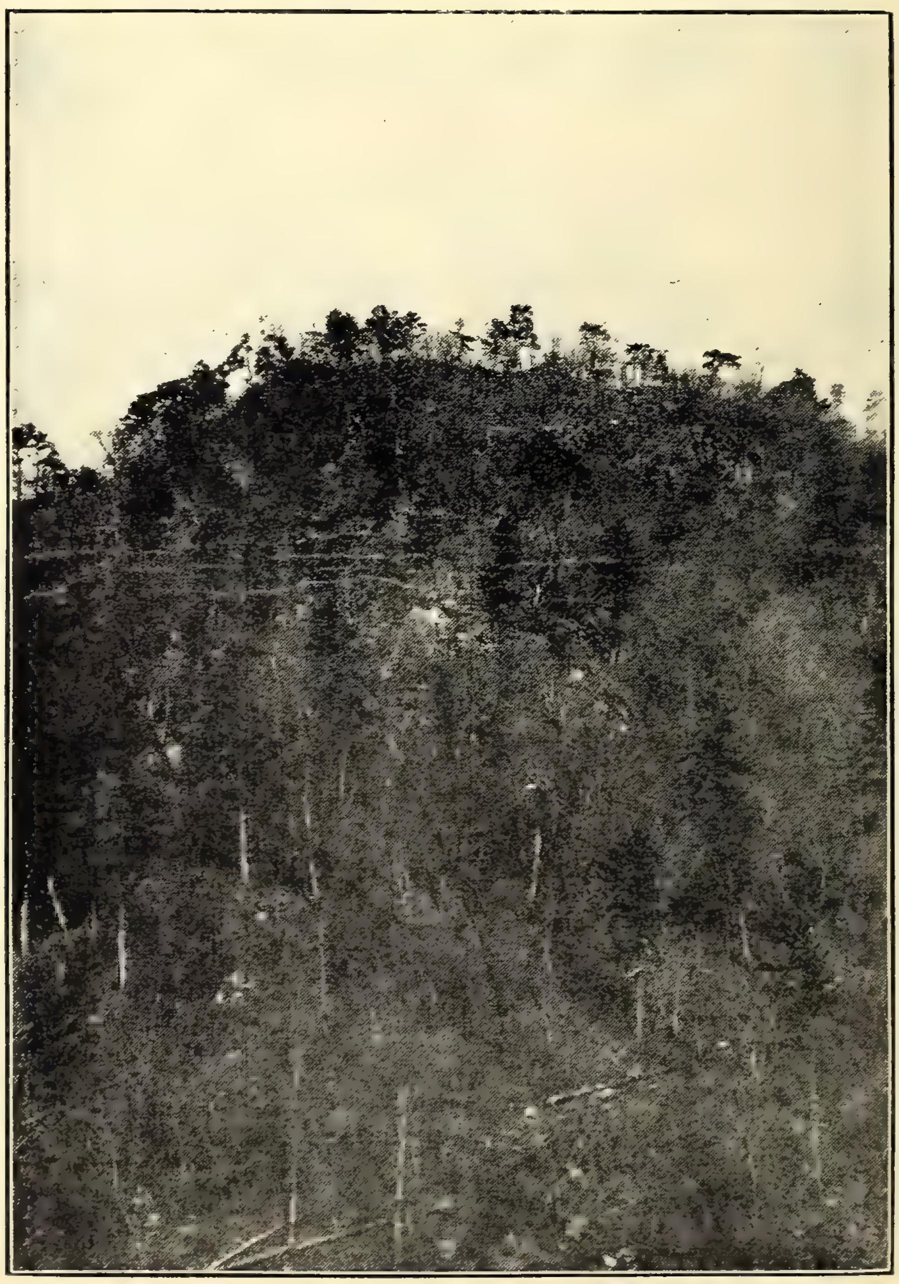
前牛毛溝ニ於ケル森林





前牛毛溝ニ於ケル森林





大青溝ニ於ケル森林

大青溝ニ於ケル森林





二道溝ニ於ケル森林



仝上



摩天嶺附近ニ於ケル森林



仝　上



摩天嶺附近ニ於ケル森林



賽馬集附近ニ於ケル森林及炭燒

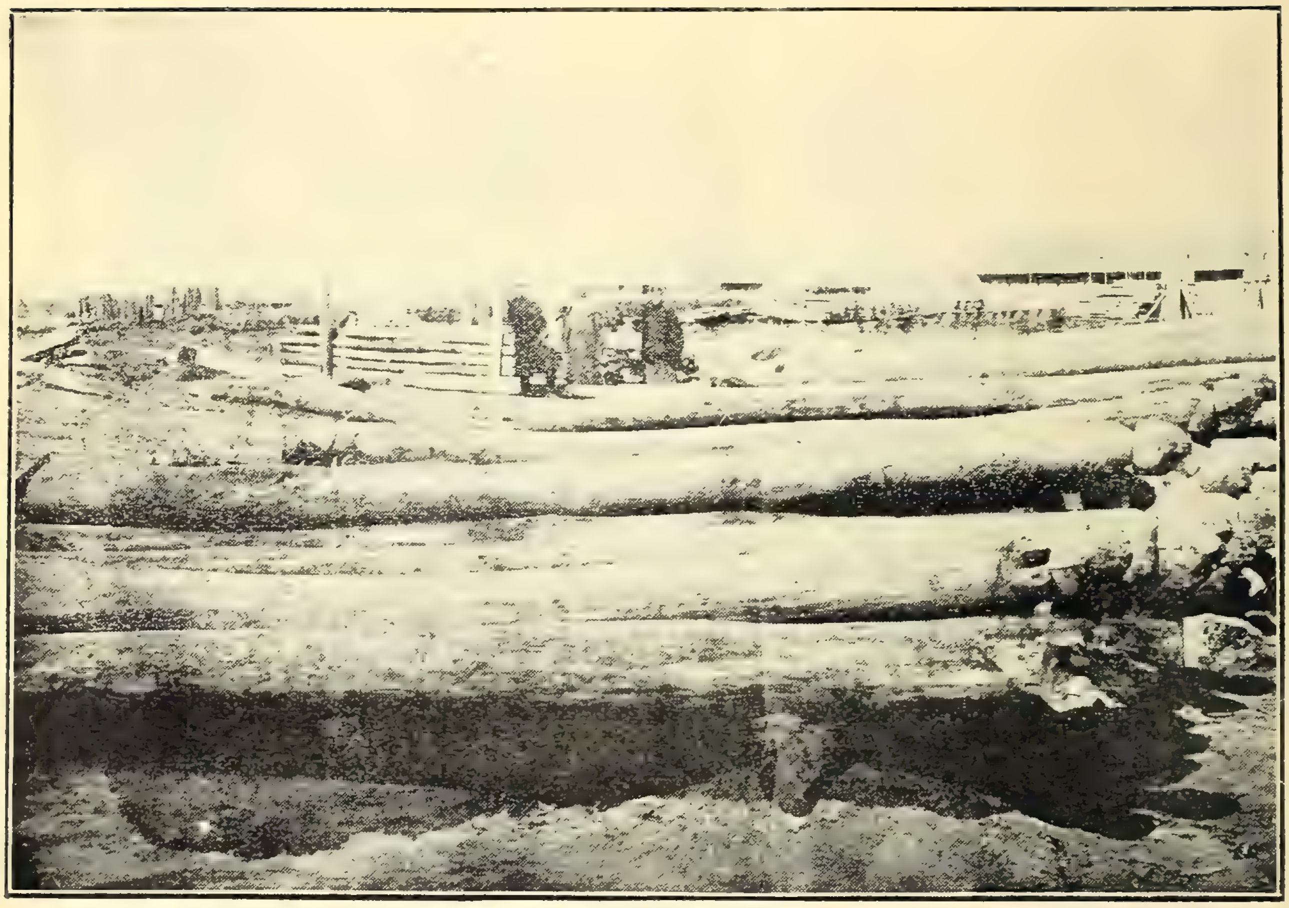


新開嶺附近ニ於ケル森林





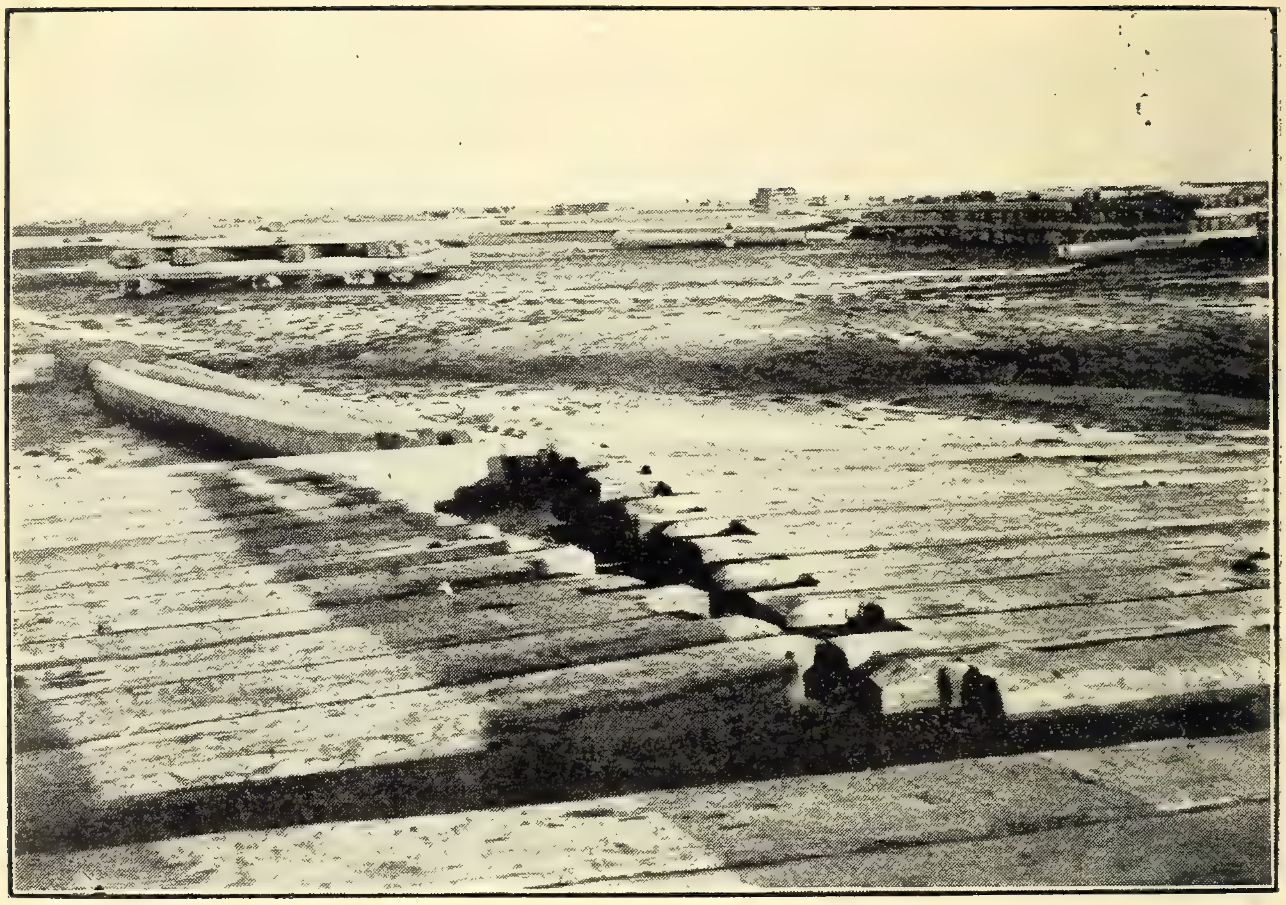
俄房木材市場ノ狀況



安東縣鴨綠江河畔ノ木材



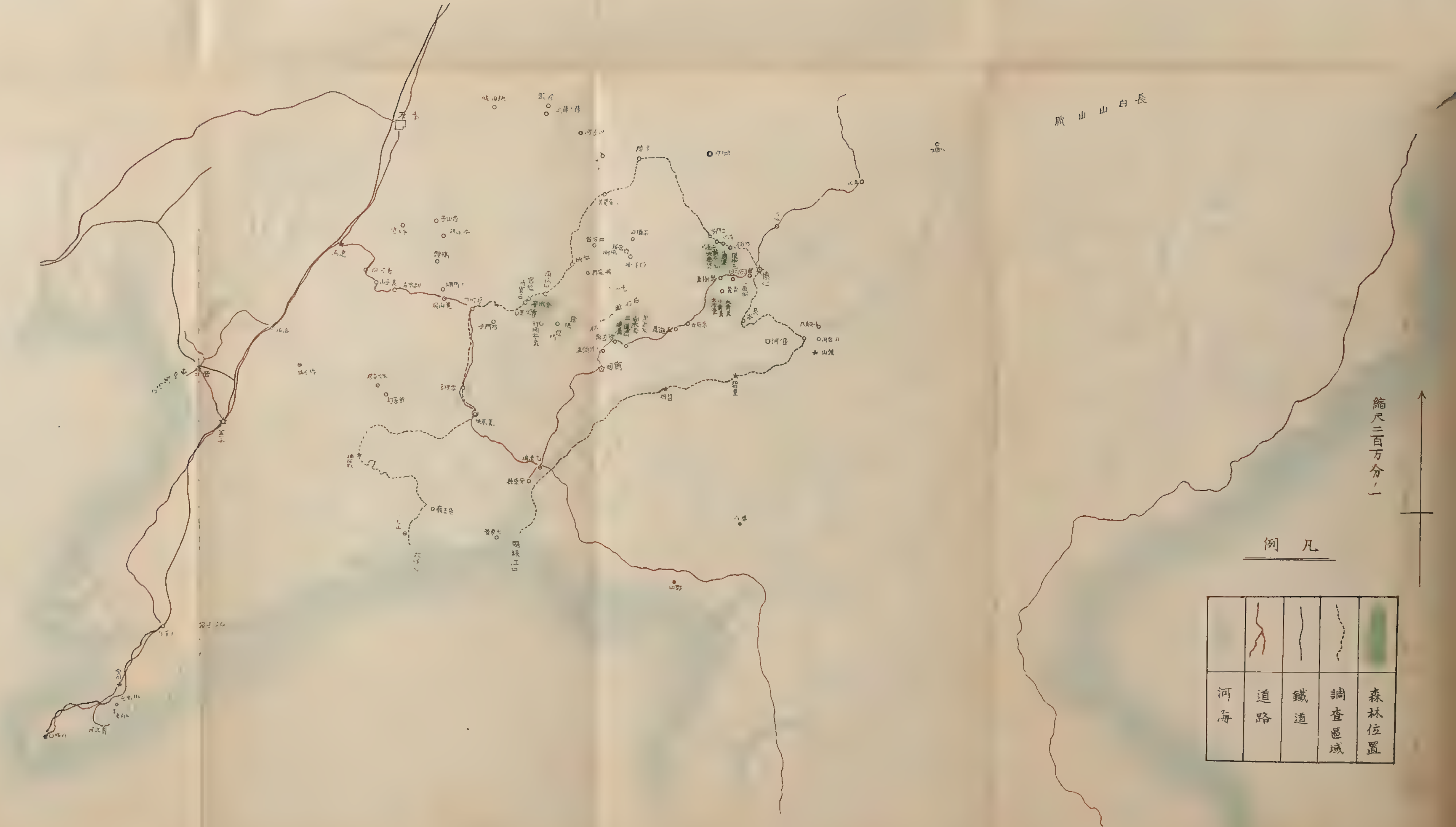
大東溝ニ於ケル貯木場







南邊哈噠ニ於ケル筏



長白山脈
縮尺二百万分ノ一
凡例
河海
道路
鐵道
調査區域
森林位置

滿洲產業調査資料

（林業）（第四班）

林務官　武田正次郎

林務官補　原田覺二

滿洲產業調査資料（林業）（第四班）

目次

滿洲產業調査資料（林業）（第四班）

第一章　緒言

第一節　旅程

本班ハ林業第四班ト名ケラレ左ノ人員ヲ以テ組織セラル

東京出發當時

林務官　武田正次郎

林務官補　原田覺二

民政署ニテ附加

陸軍通譯　岩永瀍電

民政署臨時雇員　奥田種彦

三十八年十月三日林業各班ト共ニ東京出發同九日在大連關東洲民政署ニ到着ノ上各種ノ受命及準備ヲ整ヘ同十四日大連出發奉天ニ至リ更ニ旅裝ヲ整ヘ同二十二日受命調査地域ニ向テ出發シ通化、輯安、懷仁、臨江ノ四縣内ヲ巡回シテ奉天ニ出テ大進民政署ニ歸着セシハ十二月二十四日ニシテ爾來復命書整理ニ從事シ三十九年一月十日御用船吉林丸ニ便乘シ東京ニ歸着セシハ同月二十日ナリシ

東京ヲ基點トスル發着日數ハ百十日ニシテ内大連ヘノ發着日數即チ準備日數ヲ除キタル調査日數ハ七十日ニシテ此延里程ハ二千十六淸里ナリ

第六節ニ記述スル通リ同行者陸軍通譯安永東之助氏横死事實アリシ外班員一同微恙タモ無カリシハ班ニ取リテ幸ナリシ

第二節　本班ノ調査地域

各班合議ノ上民政長官ニ上申シタル本班ノ擔當調査地域ハ左ノ如シ

東　鴨綠江ヲ以テ界トスル滿漢境界線

西　興京廳ヨリ懷仁縣ニ至ル滿洲交通圖上ノ通路

右ノ西方ハ第一班ニ南方ハ第三班ニ隣ス

南　懷仁縣ヨリ渾江ヲ以テ第三班ニ隣ス

北　興京廳ヨリ通化縣ニ至ル線

右ノ西北方ハ第一班ニ隣ス

經緯度ヲ以テ再言スレハ左ノ如シ

東經　一五度一五分ヨリ一二七度一五分迄

北緯　四〇度四五分ヨリ四一度四五分迄

然ルニ日露兩軍休戰條約ノ間隔地帶ハ本邦軍ニアリテハ英額城ヨリ韓國慈城口ニ至ルノ直線露軍ニアリテハ奉化ヨリ臨江縣即チ帽兒山ヘノ直線ナルヲ以テ林業班トシテ最モ有望ト稱セラルル渾江ノ四道江以北並ニ鴨綠本江上流ナル帽兒山即チ長白山ニ肉迫的前進スル能ハサリシハ本班ノ最モ遺憾トスル所ナリ

擔當調査地域ト軍情ハ已ニ然リ大ナル利源地ト目セラルル地區ニ入ラスシテ確實ニ利源ヲ發見シ得サル寧ロ當然ナリトス

第三節　調査時期

豫定日數ハ大連出發以來七十日ニシテ十月中旬ヨリノ泥濘季ナルト林業班トシテノ最東北隅端ナルハ以テ右ノ豫定日數ヲ長シトセス

鴨綠江軍ノ奉天ニ向テノ集中運動ハ十月下旬ニ終リ通化縣ヲ根據トセル義軍亦十月末ニ於テ解散セラル從テ兵站線、野戰郵便線等既ニ撤去セラレ何等我軍ノ援助ヲ得ル能ハサリシハ本班初期ノ成果ヲ得ル能ハサリシ最大原因ナリトス

本班ノ根據地タルヘキ通化縣ニハ本班到達當時本邦人ノ在リシハ臨時測圖班及其附屬輸卒九名並ニ長崎縣伊萬里ノ商人松村秀雄ノ一行四名ト合計十三人ノミ

調査地域ハ已述ノ如シ時季亦前陳ノ如ク好適ナラサルニ加ヘ次節ニ述フル如ク本班特有ノ困難アルア

リ切ニ諒察ヲ請ハサルヘカラス

第四節　本班特有ノ困難

我軍ノ撤去ト共ニ馬賊ノ出沒ハ他班ニモアリシヤニ聞クモ危險度ハ恐ラク本班ノ調査區域ノモノヲ最トスヘシ陳某ノ率フル五六百名ヨリ成ル馬賊ノ根據地ハ渾江流域八道江ヨリ東北方五六里ナル龍崗ノ林中ニシテ五道江邊迄出沒セリト云フ

通化知縣秋永孚ノ直談ニヨレハ渾江流域四道江以北ハ馬賊ノ危險アル故保護ノ保證ヲ爲シ難シ少數ノ官兵護衞ハ退守力ダニ無シ當縣市街ヘノ侵入モヤト危ミツツアル際ニモアレハ多數ノ官兵ヲシテ護衞セシムルハ困難ナリト

秋知縣ヨリ市民ヘノ諭告ニヨレハ日沒後ハ相誡メテ街衢ニ出ツヘカラスト而シテ夜中官兵ノ往來人ヲ誰何シテ警戒シ居ルノ事實アリ必シモ隊ヲ爲セル馬賊ニアラサルヘキモ所謂辻斬然タル二件ノ事實ハ本班ノ同地滯在中ニ發生セリ其他通化市ヲ距ル遠カラサル富有ノ農商ヲ掠奪セル悲慘ノ事實ヲ傳聞セルコト二三ニ止ラス

渾江流域ノ木商、筏流連對臨時建築班ノ一昨年ヨリ昨夏ニ掛ケテノ衝突事件ハ當時未タ解結セス爲メニ武裝ナキ本班ハ林業班タルコトヲ秘密トスルノ止ムヲ得サルアリ假令ハ木商末輩連ニ對スル注意トシテ赤筋軍帽ヲ陰蔽セサルヘカラサル如キ

建築班ハ赤筋軍帽ナリシヲ以テ凡テノ赤筋軍帽者ニ敵對スヘシトハ衝突當時彼等ノ申合ナリシト聞ク

筏ノ撮影、檢寸等ハ土民ノ視線ヲ避クル如キ注意ヲ要ス又他班ニハ參謀本部ノ五萬分一圖アリシモ本班ノ調査地域ニハ凡テ百萬分一ヨリ大ナル比例圖ナシ(現今臨時測圖班ニテ測圖中)已ニ大比例ノ地圖ナシ加フルニ最モ密接ノ關係アル木商、木把頭連ニ對シ林業班タルコトヲ外形ニ於テ秘セサルヘカラス豫期ノ調査成果ヲ得サルヲ咎ムル如キハ寧ロ咎ムルモノノ酷タルヲ失ハス

第五節　調査方針

本班ノ調査地域、時季乃至ハ困難事情ノ特有ハ豫期ノ如ク實地ノ視察ヲ充分ニスル能ハス從テ調査方針ハ種種ノ方面ヨリ聞キ且ツ蒐集シ得タル材料ヲ根據トシ豫定日數ノ許ス範圍内ニ於テ實地ノ視察ヲ行ヒ以テ類推スルノ外ナキハ又多言ヲ要セス

利源トスヘキ價値若クハ其大小ハ視察後ノ判定ニ讓リ本班ノ調査地域ニ於ケル森林利源トシテハ渾江流域ニ於ケル實在ノ有要樹種(敢テ少數ノ貴重樹種ト云ハス)即チ針葉樹ニアリテハ紅松(五葉松)杉松(ウラジロ樅又ハ鴨綠江樅)濶葉樹ニアリテハ段木(カツラ)楸木(ナラ)蕀楸木(クルミ)等ノ用材タルヘキ(薪炭材タルヘキ雜木林以外)樹種ノ占領セル面積ヨリシテ其現時直ニ利用シ得ヘキ現蓄積ヲ推知スルヲ以テ最要ノ方針トセリ

通化縣幷ニ懷仁縣市衢ハ渾江流域ニ於ケル安東縣ヘノ木材通過地ナルモ取引市場ニアラス從テ價格ノ

調査、木材商習慣等ハ調査スルニ由ナシ特ニ日露事件以來伐木ノ減少ニ伴ヒ伐木當業者所謂木把頭ノ離散セル爲メ調査ノ手掛リ極メテ少シ今ハ只全業トシテ二三ノ調査ヲ爲スニ止ムルヲ以テ方針トセリ清國官衙特ニ地方ノ知縣等ハ自己管内ノ殖産的知識ニ乏キハ勿論據ルベキ地圖、統計等ノ絶無ナルハ詮方ナシトスルモ所謂利源調査員ナルモノ(本班ハ利源調査員ナル文字ヲ使用セス)各別ニ相前後シテ知縣ヲ訪問スルアリ多少ノ猜疑心ナキ能ハス會話ニ際シ力メテ他ヲ云ヒ或ハ實ヲ避クルノ風アリシハ又止ムヲ得ス從テ知縣等ノ言ヲ調査上ノ重要資料ト爲ス能ハス寧ロ各方面ニ於ケル多數ノ個人ニ就テ聞知セル事實ニ重キヲ置クヲ以テ方針トセリ

假令專門家ナラストハ云ヘ多數人ヨリ聞知セル處ニヨレハ通化縣市以南ニハ利源トスルニ足ル森林ナキハ殆ント明瞭ナリシ然ルニ拘ラス輯安縣、懷仁縣内ヲ旅行シテ豫定日數ヲ斯カル方面ニ割クノ止ムヲ得サリシハ這回ノ調査ハ箇處ノ指定ニアラスシテ一定地域全部ヲ調査スヘキ指命ナレハナリ他ノ言ヲ以テスレハ懷仁縣内ニハ殆ント利源トスルニ足ルヘキ森林無キヲ專門的ニ證明セン爲ナリト言フモ妨ケナシ

第六節　同行者ノ横死顛末

本班ノ通化縣市ニ到達セルハ十一月一日ニシテ花田中佐ノ統率セル特科隊一名義軍(以下義軍ト稱ス)ハ已ニ十月末ニテ解散セラレ當時本邦人ノ在留セルハ輸卒附加ノ臨時測圖班九名ト長崎縣伊萬里ノ商人松村秀

雄ノ一行三名幷ニ病氣ノ故ヲ以テ殘留セル元義軍ノ通譯安永東之助ノ十三名ノミ知縣ヲ訪問シテ通化以北ノ民情ヲ探クルニ渾江本流四道江以北ハ馬賊ノ橫行スルアリ安全ヲ保シ難シト是ヲ測圖班ニ聞クモ四道江ハ本邦軍ノ中立地帶線ナルノミナラス馬賊ノ危險アル故測圖ハ以南ニ止ムト(一ケ月後懷仁守備隊ヲ割キテ通化ニ駐屯セシメ帽兒山迄測圖事業ヲ前進スルコトトナレリ)其他清人間ニ遭難風評喧シ

本班ノ希望スル針葉樹林ヲ視察センニハ少クモ中立地帶ナル八道江迄遡江セサルヘカラス然ルニ危險度前陳ノ如シ如何セント苦心中ノ處ヘ杉本工學士ノ鑛業第四班モ來リ合セ同樣ノ歎聲ヲ洩セリ老崗(龍崗)ニ根據地ヲ有スル數百名一團ノ大馬賊長陳福停ナルモノハ嘗テ義軍ノ哨長タリシ緣故ニヨリ前記安永氏ト相識レリ加之安永氏ハ義軍ニアリテ十數回ノ實戰ヲ經タルノミナラス遠ク吉林附近迄强行偵察ニ從事シタルコトアル爲メ地理ニ明ナリ若シ同氏ニシテ本班ト同行セン乎危險度少カラント聞ク依テ兩班協議ノ上同行ヲ懇談セリ同氏快諾十一月十一日兩班員並ニ安永氏ノ訓練セル清人ノ壯丁七名ト共ニ通化縣市ヲ出發シ遠ク臨江縣林子頭以奥ノ針葉樹林ヲ視察シ同十四日夕刻歸途八道江ニ至リ飛報アリ曰ク陳馬賊長ハ二百名ヲ率ヒ四道江、鐵𢿱間ニアリテ吾人ノ歸路ヲ扼セリト安永氏憂色面ニ溢レテ曰ク事爰ニ至ル萬一ヲ警戒セサルヘカラス明日ハ曉色ヲ俟タスシテ出發ヲ要スルニ付充分ニ馬糧ヲ與ヘヨ或ハ間道ヲ馳驅スルノ要モアルヘシト同行者一同警戒シテ將ニ就寢セントスルトキ第二

ノ飛報アリ曰ク陳馬賊ノ現ハレタルハ吾人ノ歸路ヲ扼スルニアラスシテ豫テノ交涉ニヨル安永氏ニ歸服セン爲メ面會ヲ求ムルニアリト多少憂色ヲ解キシモ警戒ヲ解カスシテ前遣使者王某ト間隔ヲ保チツツ夕刻四道江ノ燒酎屋ニ至リテ投宿セリ間モナク陳馬賊長ハ手下十名ヲ從ヒ吾人ノ宿舍ヲ訪ヒ來リ班員一同ト名刺ノ交換ヲ爲セリ其態度ニヨリ果シテ歸服ニアルヲ知リ得タリ

是ヨリ先キ前記松村秀雄ト共ニ安永氏ニハ該馬賊ニ勸告シテ良民タラシメ部下ノ壯丁ヲ使役シテ鑛山事業ヲ起サンノ計畫アリ横死時日ノ十數日前安永氏ハ訓練ノ壯丁數名ヲ從ヒ陳ト會見セン爲メ登山シ先ツ使者ニ双眼鏡、劔等ヲ齎ラシ歸服ヲ勸告セリ

相前後シテ海龍城ヨリモ該馬賊ノ招徠ノ意アルヲ吹聽セリ然ルニ反間者アリ安永氏ハ日本兵ヲ率テ馬賊ヲ討ン內心ナリトノ蜚語ヲ放チシ爲メ陳馬賊長ハ前記安永氏ノ使者四名ヲ拘留シテ招徠ニ應スヘク海龍城ニ赴キタルニ却テ同地官兵ヨリ不意擊ニ遭ヒ始テ安永氏曩日ノ來意ハ眞實ナリト晤リ海龍城附近ニテ得タル人質五名ヲ引連レ歸路安永氏ノ八道江ニ行キシヲ聞キ會見セン爲メ四道江ニ待合セタルナリト

通化知縣ニハ安永氏ノ斯カル計劃ヲ頭上ノ瘤ト考ヘ苦肉策トシテ前記反間者ヲ放チタルナリトノ評アリ

安永氏ハ歸服條件ヲ議スル爲メ滯在ノ要アリ鑛業班ハ鐵㪘鑛山ヲ調査スルノ要アリ本班ハ鐵㪘ヲ經テ

歸ラント十六日朝相諸共ニ鐵廠附近ニ至リシニ五連發銃ヲ有スル(露軍ヨリノ分捕品)百數十名ノ屈竟ノ馬賊ハ捧銃ノ禮ヲ以テ吾人ヲ迎ヘリ爰ニ於テ本班ハ他ニ暇ヲ告ケ通化市ニ歸リ十七日ハ滯在十八日朝輯安縣ニ向テ出發セントスル際鑛業班長ヨリノ特使アリ曰ク安永氏ハ昨日午後四時頃海龍城ノ官兵ノ爲ニ狙擊セラレ即死セリ死骸ハ本日護送シ歸ラントト同行者ノ横死ヲ聞キ出發ヲ見合セタリ」陳馬賊ハ渾江ヲ渡リテ通化市ニ入ルノ風評アリ知縣ハ巡捕隊ヲ非常招集シテ江左ニ陣セシメ渡江ヲ遮ラントト用意怠リナク市民耳ヨリ耳ニ傳ヘテ相戒メ事態ノ成行ヲ氣遣ヘリ斯クテ午後六時鑛業班ニハ本邦國旗ノ下ニ死骸ヲ護送シ來レリ

横死現况ヲ鑛業班其他當日ノ現塲同行者ニ聞クニ

十六日海龍城巡捕隊長劉某ナルモノ約二百名ノ官兵ヲ率ヒ陳馬賊追擊ノ爲メ四道江ニ來リ前夜一行ノ宿泊セシ燒酎屋ニ泊セリ爰ニ於テ安永氏ハ書ヲ劉隊長ニ與ヘテ陳馬賊ハ已ニ歸服セリ尙日本政府ヨリ派遣ノ調査員アリ敢テ發砲スル勿レト然ルニ翌十七日午後ニ至リ官兵ヨリ發銃セリ安永氏陳馬賊ヲ戒メ堅ク應砲ヲ禁シ更ニ告白セン爲メ帽ヲ振リ發銃ノ中止ヲ連呼シツツ官兵ノ處在地ニ向テ前進セリ時ニ午後四時頃官兵ヨリノ一丸右耳上約一寸ノ處ニ的リ後頭部ニ貫通創ヲ以テ即死セリ死骸ヲ故人ノ住宅ニ迎ヘ關係者一同通夜ノ上納棺シ翌十九日正午出棺通化公園側ニ佛式ヲ以テ火葬シ二十日朝重ナル遺骨ヲ遺族ニ送ルベク他ハ同處ニ埋骨シテ墓標ヲ建設セリ陳馬賊長亦手下三名ヲ從ヒ

葬式ニ列セリ（少人數ノ渡江ハ敢テ阻スト知縣ノ默許ニヨリ渡江シ來レリ）其態度ヨリ察スルニ安永氏ノ横死ハ自身ニ代リタルモノトノ感想ヲ有スルモノノ如ク是迄ニ得タル人質二十六名ヲ（内八歳ヨリ十四五歳迄ノ小兒五人アリ又金策ヲ迫ル爲メ耳朶ヲ切斷セラレタルモノヲ目擊セリ）前記松村秀雄ニ渡シ松村ヨリ知縣ニ交付シ更ニ知縣ヨリ劉巡捕隊長ニ引渡シテ追擊ヲ止メ知縣ニハ右條件ニヨリ馬賊タリシ罪跡ヲ不問ニ附シ松村ノ監視ノ下ニ陳ノ一隊ヲ三道江及四道江ニ良民トシテ駐留セシムルコトニ落着セリ

事態誠ニ滑稽ヲ極ムト雖モ清國ニハ往往ニ存在スル事實ナリト清國治世ノ要道推シテ知ルヘキノミ

前記事實ノ大要ヲ兩班長ヨリ連署上申シ本班ハ豫定ノ調査ヲ續クヘク二十一日朝輯安縣ニ向テ發途セリ

十二月六日興京府四道溝ノ宿舍ニ於テ偶然ニモ右横死事件實地調査トシテ奉天軍政署ヨリ派遣セラレタル憲兵曹長原田正太郎一行（一行中ニハ立會トシテ清國官吏モアリシ）ニ遭ヒ式ニヨリ事實ノ證言ヲ徵セラレタリ

奉天ニ至リ小山軍政官ニ面會シ本文ノ顚末ヲ口頭ニテ陳述シ置キタリ聞ク處ニヨレハ總司令部ヨリノ命ニヨリ目下同官ニ於テ清國當該官衙ニ嚴談中ナリト

臨江縣林子頭ノ山中（渾江上流ニシテ海面高七五〇メートル）六ト四ナル針濶混淆林ニ於テ採取セル樹種的標本ニ付テノ記事ハ左ノ如シ

採取標本

番號	樹種 清名	樹種 本邦名	平均直徑	市場價格	用途	備考
1	尺白松（チーパースン）赤柏松トモ書ス	アララギ	尺二三寸	一棺分ヲ一付トセルモノ三百圓	貴重棺材	懷仁縣迄筏流不頂川ヲ馬車ニテ越シ太子河ニヨリ遼陽ニ供給セラル
2	崩松（ホアンスン）	ヒノキ	尺二三寸	一付吾圓貴重樹ノ故ヲ以テ一定セス	簞笥長持等ノ衣裳入トシテ貴重セラル	同上
3	黄花松（ホアンホアースン）	落葉松（カラマツ）	四尺八寸以下	千八百寸ヲ一付トスルモノ安東縣ニ於テ三百圓	皇室等ノ上等建築材	
4	紅松（ホンスン）	朝鮮五葉松	五尺以下	千五百寸ヲ一付トスルモノ八十圓	一般建築材	安東縣ニ筏流ス
5	杉松（サースン）沙松トモ書ス	ウラジロモミ	五尺以下尺二寸最多	同上六十圓	同上	同上
6	藤秋木（チアルチユームー）茨楸トモ書ス	クルミ	尺五寸	遼陽ニテ長持一個分三圓	箱類	八尺モノ三本乃至五本取 谿筋ニ多ク山腹以上ニ少シ
7	栁木（リユームー）	ヤナキ	最大三尺	杉松ニ同シ	器具材	安東縣ヘ筏流ス
8	楡林松（ユリンスン）油松トモ書ス	アカマツ	二尺最多	五百寸一付五十圓	一般建築材	同上
9	段木（タンムー）椴木トモ書ス	カツラ	二尺五寸最大二尺最多	二千寸一付百圓	椅子、窓等	彫物ニ重用セラル

10	元柏木（ポアンポーローム）黄柏露トモ書ス	キワダ	尺二三寸最多 尺五寸最大	紅松ニ同シ	椅子、机等器具材	
11	秋木（チユームー）核桃楸トモ書ス	ナラ平	同上	紅松ニ同シ	同上 門、欄ニ使用セラル	
12	水曲象木（シユイチユリー）水曲律トモ書ス		尺五六寸最多 二尺五寸最大	槲ニ同シ	船具用材	
13	色木（サームー）	カヘデ	一尺最多	一本一圓位	擔棒用 天秤棒	
14	杏木（シンムー）		尺二三寸最多	一付三百圓	砧臺用、櫛材 車軸用	出材極メテ少シ
15	牛近木（ニユーチンムー）		一寸最大	不詳 徑一尺長二丈モノ四十圓	舵用 車輛ノ心棒	七清里位落スニアラサレハ谷間ニ下ラサル程高所ニアリ
16	楊木（ヤンムー）	ドロ	八寸	他ニ代用品ナキ故一定セス	器具材	燒跡ニアリ
17	狗馬子（ポーマーズ）		五六寸	一棺二三百圓	棺材	水蝕ニ堪ユ アララギニ同シ
18	柞木（ツオームー）	カシワ	二尺最大		器具材・炭材	多ク一丈二尺ニ作ル
19	槐（ホアイムー）	エンジユ	八九寸最多 二尺最大	厚二寸幅六寸長八尺三、四圓	櫓	カウクミンツト云フ「ホアイ」ハ破壞ヲ意味スル故山子ノ忌ム所ノ
20	楡木（ユームー）	ニレ	二尺最多 四尺最大	カシワニ同シ	船ノ底ニ使用ス	

以上ハ本班調査地域内ニ於ケル全樹種ヲ盡セルトニハアラサルモ重ナルモノハ殆ント網羅セリト云ヒ得ヘシ

斯カル原生林ニハ多樣ノ樹種アリト雖モ起業上ヨリ視テノ有要樹種ハ

紅松　即チ五葉松

杉松　即チ樅

ニ過キス亞ヲ

崩松　即チ扁柏　量少シ

黃花松　即チ落葉松　局部ニ存在ス

段木　即チカツラ　量稍多シ

トス尺白松即チ「アララギ」ノ如キ貴重樹ナキニアラサルモ其量極メテ少ク他ノ濶葉樹ハ林中ニ於テ工藝的細工物ニ利用スル外當分ノ內立木的價値ナシト云フヘシ

現在支那人ノ需用ヨリセハ濶葉樹ハ或ハ針葉樹ニ勝ルモノアルヘシト雖モ針葉樹林下ノ滔滔タル濶葉樹ハ利用材積ト搬出費ニ於テ不經濟タリ他ノ純濶葉樹林ヨリ供給スルヲ得策トス

前表中價格ハ敢テ現市場價ニアラス只相互ノ樹種的比價ヲ現シテ淸人ノ需要ヲ考フルニ供スルノミ平均直徑亦採取セル立木ニ付テニアラス平均、最大、若クハ最多ヲ現シテ現林相ノ概略ヲ示スニ過キス

第八節　林相圖ニ付テ

第四節ニ述ヘタル如ク本班調査地域ニハ百萬分一ノ外「ヨリ精ナル」地圖ナシ地圖ナキハ啻ニ巡回中不便ト云フノミニアラスシテ寧ロ調査上ノ基礎ナシト云ツヘキナリ

廣大ナル地域ニ於ケル短時日ノ調査特ニ區域ヲ基礎トスル森林蓄積ヲ量ルニハ幾何學的地圖ナカルヘ

カラス現ニ受ケ居ル處ノ參謀本部假製百萬分一圖ノ如キハ殆ント援用スルニ足ラス若シ他班ノ如ク五萬分一圖アラハ斯カル繰言ハ無用ナリ

然レトモ地圖ナシトシテ現蓄積ヲ量ラサルニ於テハ殆ント調査ノ主目的ヲ失フ依テ現今臨時測圖班ニテ測圖中ノモノ幾部(懷仁縣全部・輯安縣及通化縣ノ幾部)當該知縣衙門備付ノ支那的地圖(勿論幾何學的ニアラス)幷ニ假製百萬分一圖ヲ應用シ巡回中聞見セル處ニヨリ卷末添フル處ノ二十萬分一圖ヲ作リ以テ林相圖トセリ

名ケテ林相圖ト云フ必シモ精細ナル學術上ノ意義ヲ有セルニアラス只如何ナル林種カ如何ニ分布シ居ルヤヲ概示セントスルニアルノミ

本圖ノ所謂林種ヲ別テ左記三種トス

甲　針濶混淆林

紅松、杉松ヲ主木トシテ他ノ濶葉樹ヲ混淆セル原生林

乙　濶葉喬林

原生的濶葉喬林ニアラス十數年前迄ハ前記ノ如ク針濶混淆林ナリシモ生長狀態ノ良好ナリシ林木ヲ擇伐セル第二林ニシテ二割以下特ニ目通直徑尺以下ノ針葉樹ノ伐リ殘リアルモ林トシテハ濶葉樹ノ占領ニ歸セシモノ其針濶混淆林ト區別セルハ後節記述スル所ノ事業的蓄積計算上ノ便宜ニヨ

ル尚又次ノ矮林トハ樹種及林ノ成立ニ於テ異ナル故喬林ナル文字ヲ附セシモ本邦内地ノ所謂濶葉純林トシテ成立セルモノト異ナレリ特ニ説明シ置ク所以ナリ

丙　矮林

槲ヲ主木トスル長サ一丈内外ノ矮林ニシテ開墾後ノ成立ニ係リ自家用薪材ノ外輪作地ニ供セラルヘキ林ヲ云フ

此矮林區域廣大ニシテ内ニハ散點的ニ數町歩ノ白樺純林或ハ前記ノ如キ濶葉喬林ノ包含セラルルハ勿論ナリト雖モ斯カル些々タル事迄細査スルノ暇ヲ有セス又今回ノ受命方針ヨリシテ調査スルノ必要ヲ認メス

第九節　針濶混淆林ノ分布

本班擔當地域ナル懷仁以北ニ於ケル渾江各支流中少數トハ云ヘ紅松、杉松ヲ現存スル區域ヲ流域名ニヨツテ叙列スレハ

一　渾江ノ本流
二　哈泥河
三　大羅圈溝　頭道溝ヨリ十六道溝ニ至ル
四　大平溝

五　新開河

ナリト雖モ起業眼ヨリ視テノ紅松、杉松ハ左ノ三流域ニ過キス

一　渾江ノ本流

比較的運搬ニ便ナルノ故ヲ以テ通化縣内ハ伐リ盡サレタルモ臨江縣内ニ入リタル運搬不便ノ地ニハ尙廣キ區域ヲ有シテ出材額最多ナリ

二　哈泥河

北ハ所謂長白山系ナル老嶺ヲ以テ松花江上流トノ分水嶺ニ及フ地域ニシテ假令豫期ホトノ林相ナラサルモ本流ニ亞クノ出材額ナルハ松花江上流大森林ノ餘勢ヲ受ケタルト運搬不便ノ爲メ今日迄保持セラレタルニヨル

三　大羅圈溝

是亦本流ニ近キ運搬便ナル地點ハ伐リ盡サレ現存セルハ六道溝以奥ノミ

四　大平溝

五　新開河

老嶺ノ支脈ナル老爺嶺即チ東面鴨緑江ニ直注スル小支流ト西面渾江ニ注入スル前記大平溝、新開河トノ分水嶺上南北ニ亘ル帶狀ノ樹林内ニ混在ス其帶狀ト雖モ西、渾江ニ面スル地點ノミニシテ東、鴨緑

江向キハ傾斜急ナルニ不拘本流ニ直注ノ便アルノ故ヲ以テ殆ント伐リ盡サレタリ此外倒木溝上流ニ禁伐林アリ

第十節　濶葉林ノ分布

濶葉喬林ノ分布ハ林相圖ニ於テ見得ル如ク老嶺附近、老爺嶺左右ニ存在ス其成立ハ第八節ニ述ヘタル如シ

從來市場ニ搬出サルル濶葉樹ノ用材ハ前記混淆林中ヨリ紅松、杉松ト同時ニ出ルモノニシテ本邦内地ニ於テ見ル如ク用材的原生濶葉純林ハ發見スル能ハサリシ

本林中ニ於テ尚伐ルヘキ用材的濶葉樹アルヘキモ散點セル狀況ヨリシテ起業上ノ價値ナキ見込ナリ

混淆林、濶葉喬林及農耕地ヲ除キタル大面積ハ實ニ矮林ノ占領トス

矮林ノ重ナル樹種ハ耐火性ノ槲ニシテ楡ノ點生、白樺ノ群生アリト雖モ全體ヨリ見レハ九牛ノ一毛ニ過キス

斯カル大面積ノ槲林ニ變シタル時代如何ハ斷言スルニ躊躇スト雖モ其邊外移民ノ速度ヨリ考フルトキハ決シテ數十年ノ古キニアラス八道江以奥ハ目今槲林ニ變化シツツアル時代ナリト考フ

白樺ノ群生狀態ニ察スルニ開墾數年後天然肥料ノ減少シタル爲メ抛棄セル跡ニ第一樹林トシテ局部ノ純林ヲ爲セリ小宮ノ見タル處ニヨレハ平均直徑五六寸長サ三間内外ナリ故ヲ以テ市場ニ上ス用材ニ適

セス地元需用薪、柵用等ニ過キス若シ夫レ野火ニ遇ハンカ槲林ニ變スルハ疑ヲ容レス散點ノ楡亦平均直徑尺未滿ニシテ時時孤立ノ大木アリト雖モ屈節多ク市場ノ用材トスルニ足ラス

第十一節　林種ノ變化及林地ノ減少

聞説東方長柵以外ハ所謂邊外トシテ永ク清國政府ノ顧ル處トナラス山野ニ樹木多ク化外ノ人烟稀少ナリシニ距今五十有餘年前支那本部關内人烟充溢ノ地ヨリ移民ヲ策シタルニ始リ同治年間山東地方非常ノ凶作ニ遇ヒ俄然トシテ移住者多ク從テ政府ノ奬勵ヲ俟タスシテ處在ニ部落ヲ爲スニ至レリ啻ニ本部關内人ノ移住ノミナラス苛政收歛ニ苦ミタル對岸韓國人ノ移住者ヲモ增スニ至レリ政府爰ニ觀ル處アリ光緒ノ初年東方邊外ニ通化、懷仁、寛甸、安東ノ諸縣ヲ置キ稍治民ノ術ヲ始メタリト云フ

光緒二十九年通化、懷仁ヨリ割キテ輯安縣ヲ鴨綠江岸ノ洞溝ニ置ケリ

移民ノ經路ハ海路ニヨリ先ツ安東縣ニ來リ競爭ト土地ノ瘠惡ヲ增スニ從ヒ漸次遡江セルモノノ如シ旅行中ノ實見ニヨレハ滿洲邊内興京府迄ハ滿人多ク一歩長柵ヲ超フレハ漢人多シ恰モ滿漢人ハ長柵ニヨリテ對峙スルモノノ如シ其如何ニ山東人ノ移住ノ速カナリシカ又移民前如何ニ寂寞タリシカヲ推想スルニ餘アリ

光緒ノ初年頃ニハ懷仁、通化附近ニ尚鬱蒼タル樹林アリシト殘存セル伐根ニ徵スルモ事實ナリ僅僅三

十年ニシテ山野ノ狀態今日ノ如クナルハ移民ノ速度ト云フヨリモ寧ロ開墾ノ疎放ナルニ驚カサルヘカラス

現今行ハレツヽアル林中ノ開墾方ヲ見ルニ先ツ谿間便宜ノ地點ヲ相シ矮屋ヲ建テ周圍ニ火ヲ放テ樹林ヲ燒キ多少燒枯木ノ間ニ玉蜀黍、大小豆ヲ播種ス(敢テ耕作ト云ハス)而シテ冬季農閑ノ際紅松、杉松等ノ料板ヲ造リ木把頭ニ賣渡スモノヽ如シ

斯クシテ兩三年間播種シ天然肥料ノ減少スル頃更ニ他ノ樹林ヲ燒キ開墾スルコト前記ノ如シ勿論傾斜ノ如何等ハ問フ處ニアラス邦人ヨリ見テ斯カル處ニ斯カル山頂迄播種スルノ耕作上如何ナルヤヲ疑ハシム

拋棄セラレタル開墾跡地ニハ白樺ノ第一樹林ヲ成生セシメ便宜ノ地ハ數年後更ニ燒畑トスルモノヽ如シ如此シテ後ハ耐火性ノ第二槲林ヲ成生ス

開墾法ト林種ノ變化ハ已ニ然リ前節ノ針濶混淆林ハ濶葉喬林ニ濶葉喬林ハ矮林ニ變化スル決シテ長年月ニアラサルコト已往ノ事蹟之ヲ證シテ餘アリ

通化以南耕地畑(燒畑的ノ)面積ニ比シ人口ノ少キハ一見尙新來移住者ヲ容ルル餘地アル如キモ事實ハ決シテ然ラス其廣キハ輪作法ノ爲ナリ恐クハ地方衰耗ノ輪作地ヲ捨テヽ更ニ前進シ林地ヲ荒スナランハ清政府ニシテ農事ノ改良、林內移住ノ制限ヲ施設スルナクンハ十數年ヲ俟タスシテ渾江上流ノ山野ハ

赤裸裸ト迄ニ至ラサルヘキモ亦事業的林地ノ形質ヲ失フヤ明ナリ
慣例ニヨル紅松、杉松ノ自由擇伐ハ林値ヲ下落セシムル勿論ナリト雖モ林地ヲ減少セシムルコトナシ
自由開墾ニ伴フ野火ノ延燒ハ却テ日日ニ固有林地ヲ蠶食シツツアリ

第十二節　本邦内地森林トノ比較

擔當區域内ノ林地分配及林況ノ概略ハ已述ノ如シ尙試ニ小官ノ嘗テ在勤セシ舊青森大林區署管内ニ比シテ言ヒ現サン乎

林野ノ簿面面積ハ所有別ノ如何ヲ問ハス青森縣内百三萬町步アリト雖モ實積ハ約四十萬町步位ニ過キサルヘク調査地域内ハ六十六萬町步アリ斯カル差ハ暫ク措キ長柵ヲ界トセル邊ノ内外ハ舊津輕領ト南部領ニ於ケルカ如シ津輕ハ土着人多ク南部ハ移住者多シ（會津藩遷封ノ爲メ）爾後三十有餘年ヲ經過セル點亦相似タリ

舊南部領ノ槲林ハ懷仁方面ノ夫ニ比スヘク只彼レハ平原ト山岳ヲ自然ニ區分スルモ是レハ起伏セル岳岡ニシテ大ナル平原ナシ從テ風力ノ故ヲ以テ耕作ヲ避クルハ彼ニ多ク是レハ山頂迄燒畑ニ供セラル春季野火ノ槲林ヲ襲フノ狀亦相似タリト云フ

南部、津輕ノ領界タル八甲田、十和田連山ニ見ル如キ原生的濶葉樹林ノ以テ世ノ用材需用ヲ御ツ如キモノナシト雖モ老爺嶺一帶及老嶺界ノ伐リ殘リ濶葉林ハ利用度ニ於テ聊カ比スヘキ乎

津輕領タリシ中山通リ一帶ノ「ヒバ」美林ナキハ勿論ナリト雖モ是ニ連亘セル見繼山ハ以テ通化方面ノ矮林ニ比スヘシ

入道江以奥ノ紅松、杉松ハ津輕領一隅ノ碇ケ關杉林ト位置ノ點ニ於テ相似タリ其反面ニ白澤、長木澤ノ杉美林アルハ恰モ松花江上流ニ紅松、杉松ノ純林アル如シ假ニ青森港ヲ木材輸出港トシテ大東溝ニ比スヘクハ碇ケ關ノ殘リ少キ林分ト共ニ特種ノ設備ヲ爲シ相共ニ利用スルノ得策タルニ似タリ

長木澤ノ森林ヲ自然ニ從ヒ利用セハ秋田縣能代港ニ出材シ更ニ鐵道ニヨリ青森ニ輸送スルハ啻ニ多費ナルノミナラス鐵道輸送力ノ妨ケトナルヘシ但シ能代港ハ他國ノ勢力範圍内ト假定シテノ比喩ナリ

河川ニ至テハ比喩スヘキモノナシ河床ノ隆キ幅員ノ高キ渾江ハ岩木川ノ水心深クシテ世ニ裨益スルノ多キニ比スヘクモアラス

以上聊カ類似ノ點ヲ擧ケ説明ノ不足ヲ補ヒシモ其異ナル點ノ多ク且ツ雲泥ノ差アルハ勿論ナリトス

第三章　蓄積計算

第十三節　林種別地積

臨時測圖班測圖未濟ノ今日幾何學的面積ヲ得ンニハ第八節ニ記述セル方法ニヨリタル二十萬分一圖ニ

ヨルノ外ナシ勿論絶體的精且ツ正ナリト云ヒ難キモ現在ノ程度ニ於テハ機宜ノ推算法ナリト信ス

此圖ニヨリ擔當區域內ヲ林種別地積ニ別テハ左表ノ如シ

林種別地積表

縣名＼區別	總地積	針濶混淆林	濶葉喬林	矮林	耕地其他
懷仁	一〇二平方里	〇平方里	〇平方里	四八平方里	五四平方里
通化	四〇二	四五	一六七	六四	一二六
輯安	一八八	九	〇	八三	九六
臨江	九三	五六	一〇	一〇	一七
計	七八五	一一〇	一七七	二〇五	二九三
百分率	一〇〇	一四%	二三%	二六%	三七%

備考　單位ハ林相圖ノ一方眼ニシテ臨時測圖班ノ用ユル四千「メートル」平方ナリ本邦一平方里ヨリ多キコト五十八町一反（此差率ハ一〇〇ト九六ノ比）ナリト雖モ概察ニ於テハ一方眼ヲ一平方里ト見做スモ差支ナシ

以下單ニ平方里ト稱スルコトアルヘシ

第二節ニ述フル如ク本班擔當調査地域ハ懐仁縣ノ幾部通化、輯安二縣ノ全部幷ニ臨江縣（在帽兒山）ノ幾分ナリトス他ノ言ヲ以テスレハ懐仁以北ノ渾江流域幷ニ輯安、臨江二縣ノ鴨緑本江ニ直注スル區域ナリ從テ前表ノ地積ハ通化、輯安ノ二縣ヲ除ク外當該縣地積ノ幾分ナリトス

前表林地積中ニハ小面積トハ云ヘ班點的ニ幾多ノ開墾中ノモノアリ又散點セル已墾二三戸ノ部落附近ニハ林地ヨリ除外スヘキモノアリ到底精細ニ計上スル能ハス是等除算スヘキヲ約一割乃至二割トシテ左ノ如ク推算ス

針濶混淆林	一〇〇方里
濶葉喬林	一五〇〃
矮林	一六〇〃
計	四一〇〃

第十四節　林種別蓄積

前節ニ於テ林種別地積ヲ推算セリ進テ總蓄積ヲ計上スル爲メ目測ニ係ル毎町蓄積ヲ示サンニ

甲、針濶混淆林

擔當地域内ニ於テ針葉樹ノ純林若クハ純林ト見做スヘキ八割以上ノ混淆林ナキハ已述ノ如シ其混淆狀態ヲ叙列スレハ

一、針葉樹　六以上　濶葉樹　四以下　上等
二、同　四以上　同　六以下　中等
三、同　四未滿　同　六以上　下等

ニシテ二割以下ノ混淆ハ濶葉喬林中ニ見込タリ

視察時季ハ落葉後ニ係リ混淆部分ノ胸算ニハ好都合ナリシモ聊カ遠見ニ渉ルトキハ針葉樹ハ多ク見ヘ更ニ同一地點ノ林中ニ至レハ豫期ニ達セサルアリ此邊ノ注意ヲ加ヘテ前記ノ割合ヲ臆算セリ廣大ノ面積ニ向テ一二ノ器械的測樹ヲ爲シ（多數ノ標準測樹ヲ爲ス能ハサルハ勿論ナリ）數字的計算スルヨリハ寧ロ從來ノ經驗ヲ實地ニ應用スルノ却テ適實ナルヲ信セリ此見地ヨリシテノ毎町蓄積ハ左表ノ如シ

針濶混淆林毎町蓄積表

樹種	目通直徑級	本數	材積	備考
紅松	尺五寸以上	二〇本	一六〇尺〆	徑尺七寸長十五間毎本八尺〆
同	尺五寸未滿	四〇	六〇	徑尺長八間毎本一尺〆五
杉松	尺五寸以上	二五	一五〇	徑尺六寸長十二間毎本六尺〆
同	尺五寸未滿	三五	二五	徑八寸長六間毎本七分
雜木	尺五寸以上	二〇	一二〇	徑尺八寸長十間毎本六尺〆

同	計
尺五寸未滿	
三〇〇	四四〇
一五〇	六六五
徑八寸長四間毎本〇、五尺〆	

備考　樹種固有ノ性質ニヨルモノカ樹齢ニ於テ大差ナキニ拘ラス紅松ハ毎ニ杉松ヨリ抽出シ居レリ又備考欄ノ長サハ短ニ過クルカノ感アルモ混淆林トシテハ本邦内地ノ例ニ似サルハ寧ロ當然ナルヘシ尚又尺五寸ヲ以テ徑級ヲ別テルハ現慣行ノ利用度ニ鑑ミテナリ

右ハ前記ノ中等林ニシテ上等林及下等林ハ多少針葉樹ト濶葉樹ヲ加減スヘキノミ依テ煩ヲ避クル爲メ是ヲ總平均毎町歩現蓄積トス

更ニ前節ノ百平方里ニ前表ヲ乘シ總蓄積ヲ求メシニ左表ノ結果ヲ得タリ

針濶混淆林總蓄積表

樹種／區別	目通平均直徑級	總蓄積	備考
紅松	尺五寸以上	二五、八一三、二八〇尺〆	現在ノ利用額
同	尺五寸未滿	九、六七九、九八〇	未來ノ利用額
杉松	尺五寸以上	二四、一九九、九五〇	現在ノ利用額
同	尺五寸未滿	四、〇三三、三二五	未來ノ利用額
雜木	尺五寸以上	一九、三五九、九六〇	二割位ハ現在ノ利用額

同	尺五寸未滿	二四、一九九、九五〇	未來ノ利用額
計		一〇七、三八六、四四五	

無慮一億七百三十八萬尺〆餘アリト雖モ是レハ森林トシテノ現蓄積ヲ有スルト云フニ過キス現實的利用額ニ至テハ甚タ少キコト後節ニ論スル如シ

乙、濶葉喬林

第八節ニ於テ述ヘタル如ク原生的濶葉喬林ニアラス嘗テハ前項ノ如ク針濶ノ混淆林ナリシモ生長狀態ノ良好ナリシ有要樹ハ伐採セラレ跡ニ殘リタル第二ノ林ナリトス」蓄積計算ニ至テハ區域ノ廣濶ト林分狀態ノ區區ナル爲メ到底短時日調查ノ能クシ得ヘキニアラスト雖モ本林ノ如キハ素ヨリ利源調查ノ主目的トスル價値アルモノニアラサル故五六ノ實見ヨリシテ毎町蓄積ノ平均額ヲ臆算スルコト左表ノ如シ

濶葉喬林毎町蓄積表

樹種／區別	平均目通直徑	本數	材積
伐リ殘リ針葉樹	尺五寸未滿	一五本	一五尺〆
雜木	尺五寸以上	五	五タナ

同	尺五寸未満	二〇〇	一一六尺〆
計		二三〇	二一五タナ

是ヲ前節記述ノ百五十平方里ニ乘シ總額ヲ計上スレハ左ノ如シ

總面積　二四二、〇〇〇町歩

總蓄積ハ

針葉樹　三、六三〇、〇〇〇尺〆

濶葉樹　五、〇八二、〇〇〇タナ

是亦森林トシテノ現蓄積ヲ示スニ過キスシテ利用ノ點ニ至テハ附近部落民自家用薪炭材支那家屋ノ園柵若クハ修繕用或ハ田舍ノ燒酎屋薪用ニ供セラルルノミ

丙、矮林

長サ一丈内外ノ檞林素ト蓄積ヲ計算スル價値ナシト雖モ如何ナル林況ナルヤヲ數字的ニ説明セン爲メ左ニ計算スヘシ勿論箇處ニヨリ林形ヲ異ニスルモ大體大小ノ二樣ニ區別シ得ヘシ且ツ其面積モ略相半スヘシ

矮林蓄積表

摘要	平均直徑	平均長サ	毎町本數	毎町棚數	總面積	總蓄積
大ナル分	二寸	二間	六〇〇本	二、〇タナ	一二九、〇六六、五町	二五八、一三三タナ
小ナル分	一寸	一間	一、〇〇〇	〇、五	一二九、〇六六、五	六四、五三三
計					二五八、一三三、〇	三二二、六六六

即チ三十二萬二千棚餘ノ蓄積アリト雖モ部落民ノ薪炭材ニ供セラルル外第二輪作地若クハ柞蠶地ニ變セラルル部分モ多カルヘシ以テ林業上ノ利源トスルニ足ラス

第四章　起業上ノ概見

第十五節　起業眼ヨリ觀タル蓄積

前節ニ於テ針濶混淆林、濶葉喬林及矮林ノ三種ニ別テ現在セル總蓄積ヲ記述セリ然ルニ現下ニ於ケル實行的起業上ヨリ觀察セン乎蓋シ思半ニ過クルモノアラン

濶葉喬林及矮林ニ付テハ起業上ヨリ顧慮スルノ價値ナキコトハ已述ノ如シ爰ニハ只多少見込アル針濶混淆林ニ付テ聊カ述フル所アラン

針濶混淆林ノ地積ヲ百平方里ト推算セルコト第十三節ノ如シ然ルニ此内ヨリ輯安縣内老爺嶺帶狀ノモノ(新開河、大平溝ノ上流)臨江縣内鴨綠本流ニ直注スル區域並ニ倒木溝上流ノ禁伐林ヲ除カサルヘカラス斯クスル

トキハ殘餘ハ八道江以奥ト大羅圏溝ナル渾江上流ノ一團地トナリテ此總地積ハ

七十平方里

ニ過キサルヘシ

此一團地内未來ノ利用ニ供セラルヘキ直徑尺五寸未滿ノ針濶葉樹竝ニ尺五寸以上ト雖モ現下ニ利用サルヘキ雜木ノ二割以内ヲ除キテ利用蓄積ヲ再算スルニ左ノ如シ

針濶混淆林中現下ノ利用蓄積表

樹種＼區別	平均直徑級	毎町蓄積	總面積	總蓄積
紅松	尺五寸以上	一六〇 尺〆	一一二、九三三 町歩	一八、〇六九、二八〇 尺〆
杉松	同	一五〇	同	一六、九三九、九五〇
雜木	同	二四	同	二、七一〇、三九二
計		三三四	一一二、九三三	三七、七一九、六二二

立木ノ現下利用蓄積ハ實ニ三千七百七十一萬九千尺〆餘アリト雖モ現慣行ノ造材法ニヨルトキハ安東縣若クハ大東溝ヘノ到達木材材積ハ立木ノ五割即チ千八百八十五萬九千尺〆餘ニ過キス是ヲ伐期ヨリシテ

木材尺〆	百年トセハ	年額	一八八、五九八尺〆
	五十年トセハ	同	三七七、一九六同
	二十年トセハ	同	九四二、九九〇同

ニシテ年伐額ヨリ一巡年限ヲ算セハ

木材尺〆	年額	二十萬尺〆トセハ	九十四年餘
	同	五十萬尺〆トセハ	三十七年餘
	同	百萬尺〆トセハ	十八年餘

ノ計算トナル勿論數年ノ間ニ伐リ盡シ得ヘキニアラサル故其間ニ第二ノ林即チ現在ノ直徑尺五寸未滿ノモノノ生長スルアリト雖モ未來ニ屬シ且ツ內輪ニ見積ル爲メ斯カル生長量ヲ算外トス

前記ノ利用額等ヲ小官ノ日夕親炙シツツアル現任地秋田大林區署管內米代川流域ノ杉林利用額等ニ比スルニ

一、林　　力　渾江流域ハ米代川流域ノ約半額タリ

二、林面積　渾江流域ハ米代川流域ノ約二倍タリ

三、採取面積　渾江流域ハ米代川流域ノ約二倍タリ

、運材距離　渾江流域ハ米代川流域ノ約八倍タリ

五、伐木運材期間　渾江流域ハ米代川流域ノ約三倍タリ
前者ニ在テハ伐木ヨリ市場ヘノ運材迄ハ一箇年ヲ要スルモ後者ニ在テハ春夏秋冬何レモ可ナリ近來急搬ヲ要スル場合ニハ二箇月間ニテ一事業ヲ終了ス
六、毎木ノ利用　渾江流域ハ〇、五ナルモ米代川流域ハ〇、八ニシテ三割ノ差アリ
七、伐木運材費　渾江流域ハ米代川流域ノ約三倍半ナリ
採取面積ノ二倍ナルニ加ヘ林力ノ半額假令流材距離ノ八倍アリトハ云ヘ事業期間ノ三倍ヲ要スルハ、世ニ支那ノ勞銀低廉ナリト稱セラルルニ拘ラス生産費ニ三倍半ヲ要スル等數ヘ來レハ優劣懸隔ノ甚敷知ルヘキノミ
以上ハ重ニ市場以外天然的ノ比較ナリトス若シ夫レ渾江流域ノ東洋唯一ト稱セラルル木材大市場タル大東溝ヲ控ル點ニ至テハ米代川流域ノ遠ク及ハサル處トス
大東溝ノ木材呑吐力ハ中牟田林務官ノ調査ニヨレハ
年額　百二十萬乃至百五十萬尺〆　邦貨三百七十八萬圓乃至四百七十二萬五千圓
是ヲ米代川流域口能代市場ノ呑吐力年額三十萬尺〆價格五十萬圓ナルニ比セハ市場ノ大ナル驚歎ノ外ナシ
能代市場ノ杉丸太一尺〆平均一圓七十錢ナルニ大東溝ノ紅松杉松平均一尺〆三圓七十五錢ト聞クニ至

テハ需用度ノ大ナル推想スルニ餘アリ大東溝市場ノ消費先ハ北清及南滿洲ノ全部ヲ有シ地理上殆ト競爭者ヲ有セサル故將來ノ發展ハアリトモ退縮ハ無カルヘク能代港ノ殆ト極東ニ達セルニ比スヘクモアラス

渾江流域ノ大市場ヲ有スル一點ハ前記ノ諸缺點ヲ補ヒ餘アリト云フヘシ但シ市場ノ關係ト立木無代價ナルヨリシテ渾江流域伐木事業ノ有益ヲ說クハ恕スベキモ林力ノ無盡藏ヲ誇說スルニ至テハ杜撰亦甚シト云フヘシ

第十六節　所謂利源ノ價値

爰ニ所謂利源ノ價値トハ前節起業上ヨリ觀タル蓄積ニ對シ金錢的價格ノ如何程ナルヤヲ言ヒ現サントスルニアリ他ノ濶葉喬林及矮林ノ如キハ獲得スル値否ナ必要ナキヲ以テ省ク

蓄積價ヲ得ンニハ立木價ヲ知ラサルヘカラス然ルニ清國ノ林政トシテ立木拂下若クハ入林稅ノ如キモノナシ只東邊道臺ニ於テ些少ノ徵稅ヲ爲シ木材ノ所有權ヲ確認スルニ過キサル故立木價ノ計算ヲ爲スニ由ナシ依テ市場ニ於ケル賣買價格ハ生産費ヨリ推算セサルヘカラス

渾江流域木材ノ唯一市場タル安東縣（沙河市）大東溝ノ市場調査ハ本班擔當以外ナリ幸ニ明治三十七年秋季農商務省ヨリ特派セラレタル林學士林務官中牟田五郎氏ノ調査ニ係ル公刊「鴨綠江流域森林作業調査復命書」アリ是ニヨレハ

安東縣、大東溝ノ市場ニ於ケル平均ノ我一尺〆當（一圓四十錢、兩ヲ本邦貨ニ換算シタル額）

生產費	一、七五〇円
賣捌價格	三、一五〇
差	一、四〇〇

ニシテ賣上價格ヨリ筏主ノ負擔タルヘキ木植公司ノ用銀商店ノ口錢、及諸係金ヲ控除セサルヘカラス中牟田林務官ハ別ニ說アリトシテ斯カル費用ハ事業其物ニ對シ絕體的入用ニアラスト云ヘリ小官ハ暫ク慣例ニ從ヒ此費用ヲ算入ス

同調査書ニヨレハ

一、木植公司ノ用銀	賣上高ノ百分ノ一、五	
二、商店ノ口錢	同	百分ノ二（大東溝）
三、諸係金	同	百分ノ一、五
計		百分ノ五

ニシテ金利トシテ尙生產費ノ三割ヲ控除セサルヘカラス已ニ稅金（百分ノ一、五ナル故立木價ニアラスシテ事業稅ト見做ス）口錢、諸係金及金利ヲ控除セハ當然見積ルヘキ起業利益ハ賣上高ノ一割ニテ可ナルヘク是等凡テノ差引額並ニ造材減ニ對スル換算額ハ立木單價ナリト云ヒ得ヘシ即チ

金利　生産費ノ三割	〇、五二五円
口錢其他前記ノ合計	〇、一五八
起業利益	〇、三一五
計	〇、九九八
直接生産費賣上高ノ差	一、四〇〇
差引木材トシテノ單價	〇、四〇二

木材トシテノ單價四十錢ニ造材減五割ヲ乘スルトキハ二十錢ノ立木原價ヲ得ヘシ

更ニ前節記述ノ現下利用總蓄積

三七、七一九、六二二尺〆

ニ原價二十錢ヲ乘スレハ

七、五四三、九二六、四〇〇円

トナル他ノ言ヲ以テ以テスレハ今般調査シ得タル利源ノ最低金錢價格ハ七百五十四萬四千圓ナリト言ヒ得ヘシ但シ起業上ノ利益ニ至テハ後節ニ譲ラン

第十七節　伐木運材ニ付テ

伐木運材ノ主體タル木把頭ハ數名ノ苦力ヲ從ヘ毎年十月安東縣附近ヲ出發十一月ヨリ伐木ニ着手シ一

二月ノ頃氷雪ヲ利用シ牛ニテ管流シ得ヘキ地點迄引出シ四五月融雪増水ノ候管流シ六七月ノ雨期増水ニ至リテ安東縣若クハ大東溝ヘ筏流シ山東、天津、奉天等ヨリ來集セル商人ニ賣渡シ一箇年ノ事業終了期トスルコト及ヒ其他ノ商習慣等ハ「鴨綠江流域森林作業調査復命書」ニ記述スル處ト差異ナキヲ以テ參照アランコトヲ希望ス只爰ニハ渾江流域ニ於ケル前記復命書ニ無キ二三ノ所聞ト所見ヲ述ヘン

伐木運材費ノ重ナルハ橇出費ナリ橇出費ハ全ク距離ニ關係ス通化以奧ニ於ケル距離ヲ實驗アル木把頭ニ聞クニ近キモ十五淸里遠キハ三四十淸里ニ及フト云フ

筏組ニ付テハ本邦ニ行ハルル如キ矢來若クハ綱場然タルモノヲ設備スルヤトノ問ニ對シ一切斯カル設備ナシ只組ムヘキ地點ニ於テ數十名ノ臨時苦力ヲ雇入レ管流材ヲ淺瀨ニ牽キ付ケ組ムノミナリ從テ往往切角ノ木材ヲ流放スルコトアルモ詮方ナシト云フ元來淸國ノ河川ハ本邦ノ夫レト異リ淺クシテ廣シ故ヲ以テ矢來若クハ綱場ノ設備ヲ爲スニハ莫大ノ費用ヲ要スヘシ姑息的ニシテ且ツ區區ナル木把頭ニヨリテ伐木セラルルコトトナレリ斯カル設備ナキハ怪ムニ足ラス

木把頭ニヨリ執ルヘキ方法ヲ異ニスルモ本流ニ在テハ八道江ニテ單筏ヲ組ミ四道江ニ至リ大羅圈溝ノ合流ヲ受ケ複筏（二枚若クハ四枚）トスルモノ多シ

下店子ヨリ渾江口（鴨綠本流ニ合流點）迄ノ間ニ三十四個所ノ淺瀨、急湍、暗礁等アリテ筏ヲ乘上ケ又ハ破壞スルコトアリト云フ

邦人ニテ起業スルトセハ東北地方ニ行ハルル如ク細流ヲ集ン爲メ堰堤ヲ作ラサルヘカラス是レ橇出距離ヲ短縮シテ勞費ヲ省ク所以ナリ又八道江邊ニ筏組ノ爲メ矢來若クハ綱場ノ設備ヲ要ス大東溝邊ニ鋸器械ヲ置クトセハ現行ノ料板造材ヲ止メ柮角若クハ丸太材トナササルヘカラス造材減ヲ少クスル所以ナリ伐木夫ト筏乘トハ分業ニスルヲ要ス是レ只ニ熟練ヲ積シムル所以ナルノミナラス同一事業期間ニ「ヨリ多ク」出材セシムル所以ナリ

伐木運材ノ責任ハ全ク木把頭以下ニアリテ着材ノ上賣上高ニヨリ利益ヲ分配スル慣例ハ支那苦力使用上ノ好例トナササルヘカラス伐木ト運材ヲ分業ニスル以上ハ日雇法ニヨルヨリ成功拂トスル方得策タリ聞ク通化ニアリシ露國木材會社出張所ハ各木把頭ノ伐木セシモノヲ買入ルル法ヲ執レリト

其他細目ニ於テ改良スヘキモノ多カルヘキヲ信ス

第十八節　遼陽及奉天ヘノ出材ニ付テ

渾江流域材ハ殆ント凡テ流ニ從ヒ鴨綠江ニヨリ安東縣、大東溝ヘ供給セラルルモノナリト雖モ樹種ト市場景氣ノ如何ニヨリ少數ナカラ遼陽ニ供給セラルルト云フ

「アララギ」ノ如キ貴重棺材ニシテ遼陽市場ニ拂底ノ場合ニハ懷仁附近ニテ揚陸シ平頂山ヲ牛馬ニテ越ヘ太子河ニヨリ水運シテ遼陽ニ送ラル此數量ハ統計的ニ知リ難シト雖モ些少ノ額タルヤ勿論トス

富爾江流域ニシテ興京ニ最モ近キ東江道、三棵樹邊ヨリ長柵ノ分水嶺ヲ超ヘ（渾江ト渾江）興京ニ至

リ支流ノ蘇子河ニヨリテ渾河ヲ筏流シ奉天市場ニ供給セラレタリト云フ從來ノ年額ハ例ニヨリテ知ル能ハスト雖モ近來ハ殆ント伐リ盡シタル故富爾江流域トシテハ今後此方法ノ出材ナカルヘシ又出材スルモ收支償ハサルヘキヲ信ス

太子河及渾河ノ上流ニハ最早伐木スヘキモノ殘リ少クナリタリト云フ遼陽、奉天ノ材價昂キ知ルヘキノミ今後ノ供給ハ幸ニ安東縣奉天間ノ輕便鐵道成功セル故是ニヨリ供給シ得ヘシ但シ聞ク處ニヨレハ該鐵道ハ軍事的急造ニ係リ板類ノ外輸送困難ナリト又聞ク早晩本式鐵道ニ改造セラルト木材ノ爲メ竣成ノ速ナランコト及遼陽ヘノ支線布設ヲ希望セサルヘカラス

第五章　松花江上流ノ林況

松花江上流ニ嘗ニ本班ノ擔當調査地域外ナルノミナラス第一章記述ノ如ク露軍ノ前線内ナルヲ以テ實地ノ視察ヲ爲ス能ハサルリシヲ遺憾トス然レトモ渾江上流ト項背相接スルノミナラス渾江上流ノ森林利用ト密接相離ルヘカラサル關係アルヲ以テ種種ノ方面ヨリ蒐集シタル材料ト連續セル林地視察ノ結果ニヨリ概況ヲ知リ得タリ

確實ナル材料ノ二三ニ付其經過ヲ述フレハ左ノ如シ

三十七年春露國伐木會社ノ森林伐採方偵察ノ爲メ旅行セル外務省囑托法學士鶴岡永太郎（今回亦利源調査ノ一員タリシ）

氏ノ直話ニヨレハ氏ハ興京ヨリ柳河縣ヲ經テ海龍城ニ至リ三通河ヲ南下シテ通化ニ出テ更ニ帽兒山ニ出テントシテ八道江ニ至リ露國有司ノ爲メ妨ケラレ通化ニ護送セラレタリ當時旅行ノ結果ニヨレハ松花江上流一通河及ヒ三通河ノ西方支流域內ニハ殆ント針葉樹ヲ見ス散點セル雜木ノ造材セラレ渾江ニ向テ運材シツツアリシヲ見シノミ針葉樹林ノ西方起點ハ三通河東方支流涼水河ナリト

第六節記述ノ同行者故安永陸軍通譯カ八道江ニテ林地ヲ指シナカラ談セル所ニヨルモ亦渾江上流反面ノ針葉樹林ハ八道江正北ノ兩岔頭ヨリ始マリ東方長白山ニ連續シ林況ハ渾江上流ノ夫レニ比シ林木ノ直徑大ニシテ且ツ雜木ノ混淆部合甚タ少シト

義軍ノ指揮官陸軍步兵大尉松田虎次郎ノ畫ケル林況略圖ニ見ルモ亦前記ニ同シ

其他木把頭ニ付キ安永氏ノ所持セル强行偵察圖ニヨリ別紙第三號吉林東南方森林位置圖ヲ作レリ

該位置圖ニ於テ見得ル如ク利用方面ハ大體左記三團地トナル

(一)松花江左岸　約二百方里

濛江ヲ中心トシ南ハ渾江ト分水ヲ爲ス個所

(二)松花江右岸　數百方里

混同江ヲ中心トシ鴨綠本江ト分水ヲ爲ス個所

(三)牡丹河上流　數百方里

右(二、)及(三)ハ大森林ニ相違ナキモ渾江上流ト共ニ一伐木事業區ト爲スノ意見ヲ立ルニハ地形ノ再査ヲ要ス(一)松花江ノ左岸ニ至テハ渾江上流ノ伐木ト相俟テ離ルヘカラサル關係ヲ有ス其老崗(又龍崗トモ書ス)ノ分水嶺ヲ超ヘ渾江ヘ出材スルノ困難ナラサルハ小官ノ遠望セル地形ニ見ルモ將タ又露國伐木會社實行ノ跡ニ徵スルモ明ナリ設備ノ如何ニヨレハ或ハ全部ヲ利用シ得ヘシ

該團地ノ蓄積如何亦精確ナル計算ヲ爲スニ躊躇スト雖モ在通化ノ木把頭并ニ故安永氏ニ就キ渾江上流ノ現林地ト對比シテ聞得タル處ニヨリ推算スルトキハ毎町蓄積ハ少クモ左ノ如ク考フル必シモ事實ニ遠カラサルヲ信ス

樹種／區別	目通直徑級	本數	材積	備考
紅松	尺五寸以上	三〇本	二四〇	毎本平均 八尺〆
同	尺五寸未滿	三五	七〇	同 二尺〆
杉松	尺五寸以上	二五	一七五	同 七尺〆
同	尺五寸未滿	三五	三五	同 一尺〆
雜木	尺五寸以上	一〇	六〇	同 六尺〆
同	尺五寸未滿	二五〇	二五〇	同 一尺〆
計		三八五	八三〇	

然ルニ右平均ノ蓄積ヲ有スル林地積幾何ナルヤト考フルニ別紙四十萬分一ニヨル方眼計算

一九六　平方里　三一六、二〇七町歩

ナルモ部落附近等除地トスヘキ分約二割位アルヘシ然ルトキハ

一五七　平方里　二五三、〇〇〇町歩

ナリ是ヲ第十五節ノ例ニヨリ針葉樹ハ尺五寸以上ノモノ全部、濶葉樹ハ尺五寸以上モノノ二割丈ケヲ現下ノ利用材トシテ總利用蓄積ヲ計上スルニ

樹種／區別	毎町蓄積	總面積	總蓄積
紅松	二四〇尺〆	二五三、〇〇〇町歩	六〇、七二〇、〇〇〇尺〆
杉松	一七七五	同	四四、二七五、〇〇〇
雜木	一二	同	三、〇三六、〇〇〇
計	四二七	二五三、〇〇〇	一〇八、〇三一、〇〇〇

即チ現下直ニ利用シ得ヘキ總蓄積ハ一億八百三萬千尺〆ヲ下ラサルヘシ是ヲ第十五節ノ渾江上流ニ比スルニ約三倍ナリトス

第十六節ノ例ニヨリ金錢價格ヲ見積ルトキハ立木尺〆二十錢トシテ

二一、六〇六、二〇〇圓

造材減ヲ五割トシ安東縣若クハ大東溝ヘノ着材材積ハ

五四、〇一五、六〇〇尺〆

是ヲ伐期ヨリセハ

	年額	
百年トシテ	年額	五四〇、〇〇〇尺〆
五十年トシテ	同	一、〇八〇、〇〇〇尺〆
二十年トシテ	同	二、七〇〇、〇〇〇尺〆

（右三項）木材材積

トナル若シ年伐額ニヨリ一巡年限ヲ算セハ

出材年額ヲ　五十萬尺〆トセハ　百八年
同　百萬尺〆トセハ　五十四年

トナルヘシ

只小官ノ斷言スルニ躊躇スル所ハ何等ノ設備ナシニ全部ヲ渾江上流ト共ニ利用シ得ルヤ否ヤニアリ假リニ全部ヲ利用スヘク森林鐵道ヲ布設スルトセハ少クモ幹枝線共百哩以上トナルヘシ（勿論一時ニ布設ヲ要セサルモ）斯カル長距離ノ維持費年額ヲ考ヘ尚又鴨綠本江ヨリノ出材モアルヘキニ付大東溝市場ノ呑吐力ト市價ノ維持ニ疑ナキ能ハス

依テ渾江上流ニ最近ノ林分三割丈ケヲ大ナル設備ナシニ利用スルノ計算ヲ立ルヲ穩當ナリト信ス勿論十數哩ノ移動的輕便鐵道ヲ布設セハ充分ナリ此見地ヨリシテ五十年ヲ伐期トセハ

出材年額　　木材材積　　三二四、〇〇〇尺〆

トナルヘシ

第六章　起業上ノ方針及利益概算

起業上ノ方針トシテ第一ニ決セサルヘカラサルハ

一、伐採權ヲ獲テ政府自ラ起業スル乎

二、後援ノ下ニ會社組織ヲ爲シ私人ニ於テ起業スル乎

ニアリ社會ノ實例ニ徵スレハ後者ニアルモノノ如シ

第二ニ決セサルヘカラサルハ事業ノ規模ニアリ

一、渾江流域ト鴨綠本江ノミニ甘スル乎

二、前章記述ノ松花江上流域ヲモ併セテ一事業區トスル乎

ニアリ鴨綠本江ハ別ニ調査員ノアルヲ以テ暫ク措キ渾江流域ニ至テハ第十五節記述ノ通リ現下ノ利用蓄積僅ニ千八百八十六萬尺〆ヲ有スルニ過キサル故五十年伐期トシテ市場到着木材材積年額三十七萬七千尺〆餘ニ過キス小規模ニ於テ甘セハ止ム然ラサルニ於テハ少ンモ項背相接スル松花江上流左岸ノ森森ヲモ併セテ一事業區トスルニ利アルヤ勿論ナリトス

第三ニ決セサルヘカラサルハ搬出ノ方向ニアリ

一、松花江上流材ヲ吉林、長春鐵道ヲ經テ東清鐵道ニヨリ南下セシムヘキ乎

二、前記鐵道輸送力ノ關係ヨリシテ寧ロ短距離ノ輕便森林鐵道ヲ布設シ出材ノ大部分ヲ渾江ヲ經テ鴨綠本江ノ水運ニ依ラシムヘキ乎

ニアリ

軍事上、鑛業上、（石炭鐵等ノ重量品）將タ一般貨物ノ關係ヨリシテ單線ナル東清鐵道ノ輸送力ヲ臆測スルハ小官ノ能クシ得ル處ニアラサルモ自信ニヨレハ積ト量トニ於テ大ナル木材ヲ一般鐵道ニ依ラシメテ輸送力ヲ妨クルヨリ寧ロ比重ノ輕キヲ利用シテ水運スルノ便且ツ速ナルニ若カス

鶴岡法學士ノ調査ニヨレハ露國木材會社ハ鴨綠江出材ヲ鐵嶺附近ニ輸送セン爲メ東清鐵道ノアルニ拘ラス大東溝ヨリ營口ヲ經テ遼河ヲ遡ラシムヘク計劃ヲ立テ特ニ木材牽船汽船ヲ作リ三十七年四月遡河ノ試航ヲ行ヘリト（一航四十餘日ヲ費セリ）其眞意ノ或ハ復航ノ利ニアリシヤモ料リ難シト雖モ大東溝、大連間ニ已ニ引船ヲ要スルトセハ寧ロ其儘遼河ヲ遡ラシムルノ利ナシトモ斷シ難シ況ンヤ單線ナル東清鐵道ノ一般輸送力ヲ妨ケサルノ利アルニ於テオヤ逆行已ニ項背相接スル松花江上流ト渾江上流間ナル短距離ヲ專門鐵道ニヨラシメ長距離ヲ筏的ニ順行セシムルノ却テ利ナルヲ信セサルヘカラス

第四ニ決セサルヘカラサルハ事業ノ繼續年限他ノ言ヲ以テスレハ會社ノ存續年限ニアリ

一、十年、二十年ノ如ク短期間ニスヘキ乎

二、五十年以上ノ長期間ニスヘキ乎

ニアリ森林事業ノ性質トシテ短期間ニスヘカラサルハ勿論ナリト雖モ又異邦ニ起業シ百年ノ長キハ實情ノ許ササルモノアルヘシ暫ク五十年ト考定ス

以上ノ問題固ト大ニ失ス淺學乏識ノ小官輩能ク解決シ得ヘキニアラスト雖モ少クモ斯カル問題ヲ假定スルニアラサレハ起業上ノ利益概算ヲ爲ス能ハス是レ前説セシ所以ナリ

總蓄積ヲ基礎トスル起業利益額ヲ概算スルニハ是非共出材年額ヲ定メサルヘカラス出材年額ヲ定ムルニハ伐期若クハ事業ノ繼續年限ヲ決セサルヘカラス

現在ノ林分ニ向テ伐期ヲ五十年トスル必スシモ保續主義ト撞着セス前來說述ノ利用蓄積ナルモノハ第二ノ林トナルヘキ尺五寸未滿ノ立木ハ除算シアレハナリ術語ヲ以テスレハ五十年ノ整理期トスルモ可ナリ又五十年ヲ一回歸年トシテ二回歸年ヲ執ル擇伐法ト言フモ可ナリ事業繼續年限ヲ五十年ト考定セル關係等ヨリシテ爰ニハ五十年ヲ以テ計算ノ基礎トシテ起業利益ヲ概算スル左ノ如シ

イ、渾江上流	出材年額	三七七、一九六尺〆	第十五節
ロ、松花江上流左岸ノ分	同	三二四、〇〇〇同	第五章末尾
計		七〇一、一九六同	

ナリ但計算ノ便ヲ得ン爲メ小數ヲ切捨テ

市場到着材年額ヲ　七〇〇、〇〇〇尺〆トス

已述ノ如ク安東縣若クハ大東溝ノ市價ト生產費ハ中牟田林務官ノ調查成蹟ニヨラサルヘカラス是ニヨレハ着材一尺〆當本邦貨ノ換算額ハ

生產費　一、七五〇圓　鴨綠本江ト渾江ノ總平均

賣上高　三、七五〇　光緒二十五年ヨリ二十九年ニ至ル五箇年平均

差引利益　一、四〇〇　金利、販賣費等ヲ除キタル額　生產費ニ對シ八割ニ相當ス

一尺〆當　〇、八五〇　利益年額　五九五、〇〇〇圓

ナリト雖モ爾後伐木地ノ退進アルニ加ヘ松花江左岸ヲモ出材年額ニ入レタル故生產費ニ於テ一割增並ニ中牟田林務官ノ除算セシ販賣費ヲ爰ニハ賣上高ノ一割ト見倣シテ改算シ前記出材年額ニ乘スレハ即チ運轉資本ニ對スル金利ヲ含有セシメタリ起業利益年額ハ五十九萬五千圓ナリト云フヘシ

如斯計算ヲ爲シ違算ヲ避ケンニハ可成收入ヲ最低ニ支出ヲ最大ニ見積ルノ安全ナルヲ信ス以上ハ此邊ノ注意ヲ以テセル故起業利益ハ最低タリ若シ夫レ實行ニ際シテハ可成支出ヲ節セハ一割ハ得ヘク伐木法ノ改良ニヨリ更ニ一割位ノ增加アルヘク「前記ヨリ以上ノ」起業利益ヲ得ルニ庶幾ラン乎

第七章　補遺

第十九節　渾江岸ノ現存木材

三十八年冬季ハ日露事件ノ爲メ入林伐木スルモノナシ三十七年冬季ノモノハ翌年ノ夏ニ於テ運材セルモ大東溝ニテ我軍ノ爲メ押收セラレタル事實ノ喧傳セルヤ運材ヲ見合セ其後陸軍建築班トノ葛藤トナリ三十八年夏其眞意ヲ解セル爲メ大部分出材セシモ尚危懼中減水トナリ三十九年夏季ニアラサレハ下江スル能ハサル木材ノ江岸處處ニアルアリ十一月小官巡回ノ際目撃セルモノノミニテ左ノ如シ

位置	種類	尺〆ノ概數	備考
通化ヨリ一里下流	料板	二、〇〇〇尺〆	添付寫眞ノ通リ
二道江、三道江間	同	三〇〇〃	樹種ハ紅松六、杉松四
四道江	同	五〇〇〃	八尺十六尺モノ混淆
五道江	同	五〇〇〃	
六道江	丸太	二〇〇〃	長六間末口平均尺五寸 此地ニテ江艚ヲ作リ大豆、粟等ヲ積ミ安東縣ニ下リ舟共賣却スト云フ江艚ノ大サ八十反ナリト
計		三、五〇〇尺〆	

其他哈泥河流域ニハ尚料板、丸太、取交セ約一萬本現存スト聞ク

第二十節　通化、懷仁方面ノ需用材

支那家屋ノ建築ニハ木材ノ用途甚タ少キハ世人ノ知ル所ナリト雖モ奉天附近ノ平原且ツ木材價ノ貴キ處ト通化懷仁方面ノ聊カ低廉ナル處トハ其間趣ヲ異ニシ後者ノ木材使用額ハ殆ト前者ニ倍セリ東邊ノ長柵ヲ境トシ家屋ノ園柵ハ内ニ在テハ磚石ナラサレハ轉石ノ積上ケナルモ外ニ在テハ殆ント凡テ雜木ノ丸太若クハ割物ヲ使用セリ

世人ノ所謂棺材ニ付テ一言セン乎邊外地方ニテハ之ヲ奉天地方ニ比較スレハ甚タ質素ナリ前者ハ棺一個ニ付約一尺〆ヲ費スノミナルモ後者ニ在テハ平均約二尺〆ヲ要スル如シ奉天、遼陽ヲ見テ支那棺材需用ノ多大ナルヲ云フ如キハ早計タルナカラスヤ

通化、懷仁方面ノ新築、修繕若クハ棺用材ノ需用年額幾何ナルヤハ人口統計ノ無キヲ以テ推算ニ苦ムモ現ニ通化、懷仁ニ地方向木材商然タルモノ殆ント無キニ徵スレハ需用額ノ少キヲ推知シ得ヘシ中産以上ニシテ木材ヲ要スルトキハ江岸ヲ下ル筏ニ就キ小賣ヲ依賴スト云フ

平原地方ノ薪材ニハ高粱、稈、黍殼、大豆殼ヲ用ヒルコト世人ノ知ル處ナリ東邊外ニ至テモ同樣ナリト雖モ周圍ノ檞林亦使用セラル通化市ニテハ以奧ヨリ雜木ヲ持來リテ市ヲ爲スカ故ニ中產以上ノ家ニ需用セラル

炊烟ヲ利用シテ坑ニ用ヒラルルハ事實ナリト雖モ是中產以下ノコトニシテ中流以上ニ至テハ寢室ノ坑

ハ特ニ薪材ヲ使用ス

多額ノ薪材需用者ハ燒酎製造家ナリ二三ノ大燒酎屋ヲ見シニ二尺五寸長ノ槲其他ノ雜木ヲ山積セリ一日ノ消費高一家ニシテ二千斤ニ及フト但シ數里內ニ一戶位ノ割合ナルヲ以テ大觀上ヨリシテ重キヲ置クニ足ラス薪材ノ需用年額亦推算ニ苦ムコト前陳ノ如シ

巡回中二三ノ炭竈ヲ見タリ式ニ白炭、黑炭アルコト本邦ニ同シ標本トシテ黑炭ヲ添付ス永陵ニ於ケル十月末ノ相場ハ

白炭	一〇〇斤ニ付	二、五〇〇円
黑炭	同	一、三〇〇

ニシテ比差ノ大ナル本邦ニ聞カサル所ナリ但シ白炭ノ需用極テ少シト云フ

三十七年秋頃ハ露軍ノ買收アリ黑炭百斤二圓五十錢迄ニ騰レリ日本軍ハ自ラ炭燒スル故吾吾ハ閉口セリト炭燒苦力ノ嘆聲ヲ聞ケリ

炭竈ハ高サ三尺長サ六尺幅五尺ニシテ二日燒上ケヲ普通トセリ築竈法ノ不完全ナル勿論ナリ

木炭ノ使用者ハ中產以上ニシテ邦人ノ如ク炊事ニ迄使用セス手焙ニ過キサル故消費額知ルヘキノミ

第二十一節　駐屯軍用薪炭材

守備軍ハ如何ナル地點ニ如何ナル隊數ヲ配置セラルルヤ軍事眼ナキ小官ノ得テ知ルヘキニアラス假ニ

本班調査地域内懷仁、通化等ニ小數ヲ配備セラルルモノトシテ是カ需用薪炭材ニ付キ觀察セン乎林相圖ニ於テ見得ル如ク約一里四方内ノ近距離ニ求メ得難シト雖モ又奉天附近ノ如ク遠ク十數里外ヨリ搬入スルヲ要セスシテ數年ヲ支ヘ得ヘシ但懷仁地方ハ數里外ヨリ求ムルノ覺悟ナカルヘカラス

若シ夫レ數年以上ノ駐軍トセハ炭材ハ可成近距離ニ求ムル爲メ薪材ハ寧ロ渾江上流ノ雜木林ヲ川流ニヨリ求ムルノ計ヲ始メヨリ立テサルヘカラス

本班調査地域内ヨリ地域外ノ守備軍ニ薪炭材ヲ供給スルノ餘裕アリヤト云ハンカ寧ロ無シト云ハンノミ懷仁以南ハ距離甚タ遠ク興京以西ハ長柵ノ分水嶺ヲ超ヘサルヘカラサレハナリ

第二十二節　工業用原料ニ付テ

以テ利源トスルニ足ラサルヘキモ殆ント無價値ノ林木利用上氣付タル二三ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、經木眞田ノ原料

擔當地域内各沿道人家附近ニ散點セル「ドロ」アリ數名ノ職工ヲ引連レタル小規模ノ起業家アリテ鉋削器數臺ニテ經木眞田（編マサルモノ）原料ヲ作リ得タルヲ後送シツツ前進セハ優ニ兩三年ヲ支ヘ得ヘシ

二、丹寧原料

第十四節ニ述ヘタル如ク殆ント無盡藏ノ槲林アリ現在ニテハ部落民ノ薪炭材（柞蠶ヲ奬勵スルモ可ナ

リ」ニ過キサルヲ以テ該樹ノ皮ヲ買入レ適當ノ地點ニ於テ丹寧越幾斯ヲ製セハ或ハ相當ノ收利アルヘシ但シ製造法、及收支ノ詳細ハ別ニ專門ノ調査ヲ要ス爰ニハ只原料ノ無盡藏ナルヲ示スノミ

三、醋酸石灰

醋酸石灰ノ利ハ世人ノ知ル處ナルモ奈何セン原料木ノ廉ナル處ハ多ク運搬不便ノ地ニアリ且ツ石灰ノ供給ハ常ニ附屬困難問題タル爲メ本邦ニテハ盛ナル能ハス然ルニ通化以北ノ濶葉喬林ニ入リ木炭ヲ副トスル「タール」ヲ製シ一方ニハ殆ント其土地ノ基岩タル石灰岩ニヨリ石灰ヲ燒キテ醋酸石灰ト成シ江艚ニヨリ大東溝ヘ下シテ他ヨリ供給ノモノト共ニ精製スヘシ副タル木炭亦江艚ニヨリ安東縣ニ下シ輕便鐵道ニヨリ奉天守備軍ニ供給セン乎相當收利ノ事業タルヲ信ス

四、轆轤細工及農具

支那人ノ無器用ナル通化、懷仁方面ニテ絶テ轆轤細工ヲ見ス邦人ニヨリ通化以北ノ濶葉喬林ニ入リ支那苦力ヲ使役シ低廉ナル轆轤細工及農具ヲ作リ江艚ニヨリ大東溝ニ下シテ對岸ニ輸出セン乎是亦相當收利アルヘシ但シ最初ハ賣行良カラサルヘキモ自然ニ嗜好ヲ惹起スヘシ

右三及四ハ渾江ノ江艚アル爲メ相當收利アリト見込ミシ所以ナリ六道江以下ハ夏季八十反積ノ江艚ヲ下シ得レハナリ冬季結氷ノ頃ハ馬橇ニテ搬下シ得ヘシ

其他支那人ノ嗜好ナル椎茸製造亦可ナリ

第二十三節　農業上ノ關係

奉天以東水田ヲ見シハ興京廳附近ノ約二町歩ヲ始トシ東漸スルニ從ヒ數反歩ツツ所所ニ散在セリ小作者ハ殆ント移住ノ韓人ニ限ラル其地主トノ關係ハ七、三ヨリ五、五ニ至ル分收ナリト云フ

用水ハ側背ノ谿水ヲ引クニ過キスシテ本邦ノ如キ用水上ノ設備ヲ見ス平坦地ナルニモ不拘數町歩以上一團ノ水田ナキハ是ニ因ラン乎

農業班ノ詳細ナル調査アルヘキモ小官ノ見ル處ニヨレハ側背ノ丘岡ニ多少ノ造林ヲ爲シ處在ニ用水地ヲ作ラハ水田面積ヲ擴張シ得ル多大ナルヘシ氣候上ヨリ見テ成功スヘキハ實例ノアルアリ清人ニ耕技ノ缺クルアルヘキモ韓及邦人ニシテ「ヨリ多ク」移住セハ傳播ノ速ナル意外ナルモノアラン

水田擴張其事ハ規模ニヨルヘキモ敢テ新開墾ヲ要セス平坦ナル畑ヲ變更セハ可ナリ又造林ト云フモ必シモ新植ヲ要セス一定地區ノ雜木伐採ヲ禁セハ可ナリ斯カル消極法ニヨルモ不少面積ヲ得ヘク更ニ積極ニセハ益益大ナルヲ得ン

安東縣、寛甸縣内ニハ楢、槲ニテ柞蠶業盛ナリト聞ク邦人ノ技ヲ以テセハ懷仁、通化縣内ニモ作リ得ヘキ乎槲林ハ林業トシテ利用スルヨリ寧ロ斯カル方面ニ供スル方得策ナルヘシ

第八章　結　論

學淺ク識乏キノ小官誤テ滿洲利源調査ノ一員ニ加ヘラル光榮ハ喜フヘシ只其任ニ堪ヘサルヲ恐ルト雖モ受命ノ上ハ復セサルヲ得ス小官素ト文ニ嫺ハス上來記述ノ各章節其體ヲ得サル諒恕ヲ乞フヤ切ナルモノアリ

第一章ニ於テ說述スル如ク七十日ノ行程ハ交通不便ノ滿洲內地八百方里(本邦里)ノ巡回ニ周密ナル能ハス加フルニ本班特有ノ困難ト同行者橫死事實アリシ程ノ危險アリ森林技術ノ細目ニ至リ缺クルアルハ自ラ遺憾トスル處ナリト雖モ第二章ノ概況、第三章ノ蓄積計算、並ニ第四章起業上ノ概見ニ至テハ相當ノ信ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス林學卒業以來爰ニ十有七年身ハ絕ヘス林界ニアリテ斯カル調査ニ聊カ習熟セルヲ信スレハナリ第六章起業上ノ方針及利益概算ニ至テハ問題固ト大ニ失ス或ハ記述セサルノ非難少キヲ知ルト雖モ若シ各班ノ所見取捨統一ノ中ニ加ヘラルルヲ得ハ幸甚ナリ

利源調査ノ結論トシテハ第六章以外ニ述フヘキコトナシ渾江上流ノミニテハ獨立伐木事業區ト爲スニ不足ノ感アルヲ以テ反面ノ松花江流域ト共ニ作業セサルヘカラス只小官ノ遺憾トスルハ前陳ノ如ク情由ノアルアリ松花江上流ノ調査ニ精ヲ缺キ從テ立言スル處漠然タルニアリ幸ニ第二回ノ調査員ヲ派遣セラレ「ヨリ精細ナル」技術上ノ再調査アランコト希望ノ至ニ堪ヘス

終ニ臨テ今回調査シ得タル利源ノ價値ヲ再言シ以テ本論ヲ結ントス

一、林木價値

イ、渾江上流ノ針濶混淆林中現下直ニ利用シ得ヘキ林面積及總蓄積

林面積　一一三、〇〇〇町步　三七、七一九、六三二尺〆　此價　七、五四三、九二六圓餘

ロ、松花江流域ノ同上　但渾江上流ノ分ト共ニ作業シ得ヘキモノハ左記ノ三割ニ過キス

林面積　二五三、〇〇〇町步　一〇八、〇三一、〇〇〇尺〆　此價　二一、六〇六、二〇〇圓餘

計　三六六、〇〇〇町步　一四五、七五〇、六三二尺〆　此價　二九、一五〇、一二六圓

二、右林木價値ヲ基トスル起業利益

五十年間每年得ヘキ起業利益　五九五、〇〇〇圓

巡回中ノ寫眞ヲ添付ス

以上



通化ヨリ一里下流ノ渾江岸ニ於ケル筏ヲ撮ス　筏上ノ人夫ハ運搬作業ナリ背後ノ森林ハ雜木林ナリ



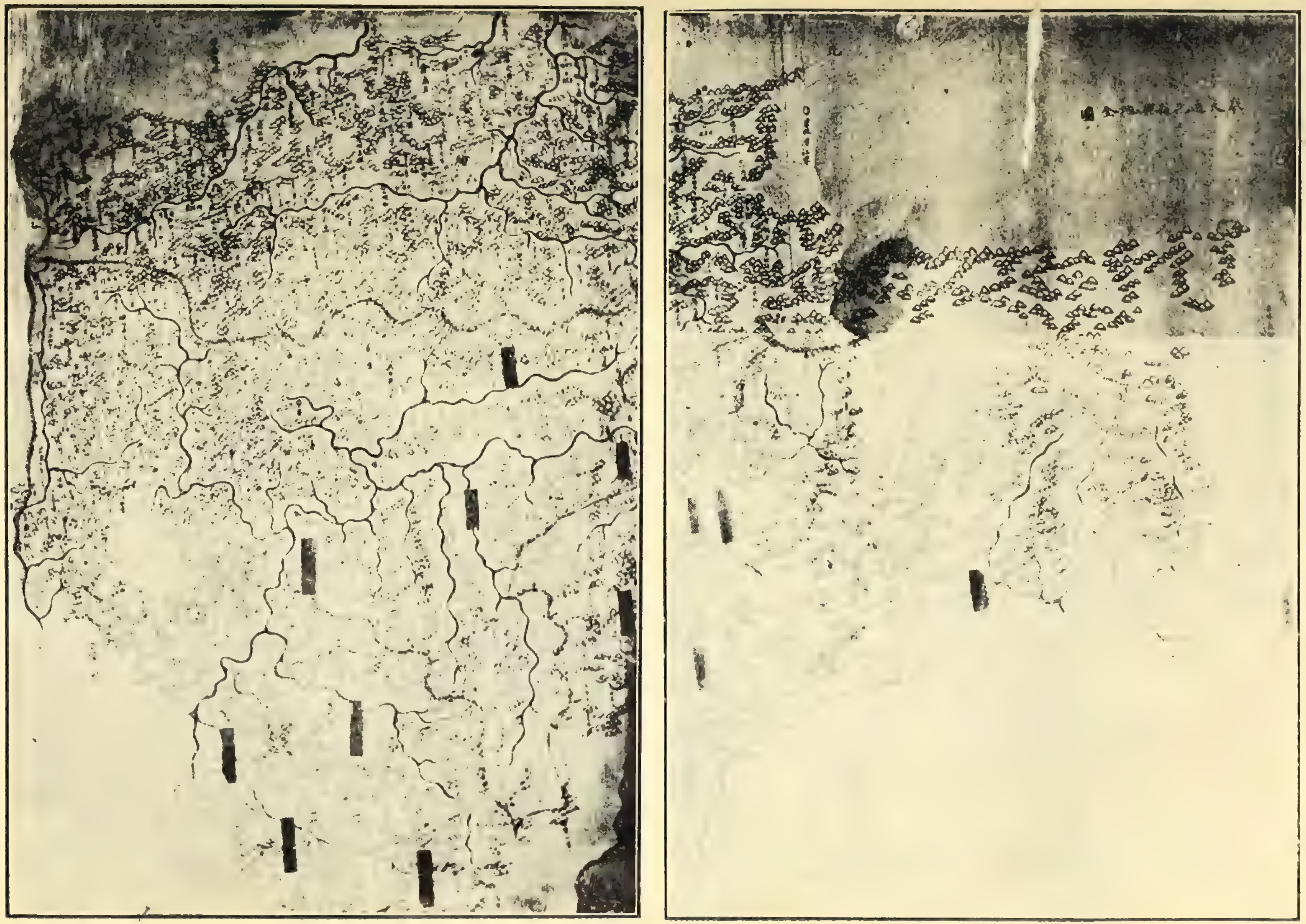
蒲江上流老嶺頂上ニ於テ森林ノ全般ナ瞰ス　背後ノ山ハ老嶺ナリ



津江ノ上流[illegible]頭内新ヤ森ノ開墾地後カノ混[illegible]ノ撮ス　前方白色ニ寫リタルハ白樺ナリ



通化縣ヨリ高カ墓子上臺ヲ經テ楡樹林子ニ至ル間ノ老嶺山頂ノ林況ニシテ山中人家アリ林木ノ疎ナルハ擇伐セラレタル跡ナリ　畫中ノ家屋ハ寺院ナリ



通化縣知縣ノ藏スル管内圖ニシテ立体畫ナリ

19